Osaka University Knowledge Archive

Title	タイ語を母語とする日本語学習者にみる行為の結果を表す表現の研究 : 実現可能場面における自動詞・他動詞とその可能形
Author(s)	Sae-Lim, Pannee
Citation	大阪大学, 2016, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/55718
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

博 士 論 文

タイ語を母語とする日本語学習者にみる
行為の結果を表す表現の研究

―実現可能場面における自動詞・他動詞とその可能形―

提出年月： 2015 年 12 月

大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻

氏名： PANNEE SAE-LIM （パンニー・セーリム）

要旨

【研究の目的】

日本語教育において、自動詞と他動詞は重要な文法項目の一つとして初級の段階で導入される。しかし、自動詞と他動詞には使い分けがあり、外国人学習者にとって難しい文法項目の一つだと言われている。筆者も含めてタイ語を母語とする日本語学習者が悩まされる使い方の一つが、日常生活でよく遭遇する実現可能場面（実現可能の場合と実現不可能の場合）における行為の結果を表す表現である。例えば、

(1) 黒板の字がなかなか｛ 消えない自／消せない他可 ｝。
(2) 新しい黒板消しを使ったら、｛ 消えた自／消せた他可 ｝。
(3) コンタクトがなかなか｛ 入らない自／入れられない他可 ｝。
(4) 目を大きく開けたら、｛ 入った自／入れられた他可 ｝。

(1)(2)のような実現可能の場合と実現不可能の場合では、自動詞と他動詞の可能形のいずれかを使用する。しかし、(3)(4)のように、他動詞の可能形より自動詞を使用する方が多くの日本人に自然に感じられる場合もある。実際の場面に遭遇したときには、日本語では場面に応じた表現の使い分けをする必要があると考えられる。

しかし、タイ語では、日本語ほど自動詞・他動詞の概念を意識しないため、日本語の自動詞と他動詞はタイ語を母語とする日本語学習者の混乱を招くと予想される。例えば、上級レベルになっても(5)にみられる自動詞の可能形のような不適切な表現の使用がしばしば見られる。筆者も、(6)のように日常生活のトラブルに遭って、誰かに助けを求めたい時に、日本語で自動詞と他動詞のどちらを使用したらいいのか、可能形にすべきかどうか、迷った末に誤用してしまうことがある。

(5) *かばんに荷物を入れようとしたけど、なかなか 入れない(はい)自可。
(6) ロッカーのキーが｛ 回らない自／回せない他可／*回れない自可 ｝。

このように、タイ語を母語とする日本語学習者にとって、自動詞と他動詞を適切に使い分けることは困難なことである。しかし、このような問題について、タイ語母語話者、あるいはタイ語を母語とする日本語学習者を対象とした研究は、管見の限り見当たらない。

そこで、本研究では、日常生活で遭遇する実現可能場面における、行為の結果を表現す

る際の、タイ語を母語とする日本語学習者の自動詞と他動詞の使用実態および使用理由を調査することを目的とする。調査結果の分析・考察を行うために、本研究では日本語とタイ語両言語における行為の結果を表す表現の特徴や異同も明確にし、以下の 4 点を明らかにすることを目的とする。

① 日本語母語話者が日本語でどのような表現を使用するのか。

② タイ語母語話者がタイ語でどのような表現を使用するのか。

③ タイ語を母語とする日本語学習者が日本語でどのような表現を使用するのか。
どんな誤用を犯すのか。その理由は何か。

④ タイ語を母語とする日本語学習者にとって何が難しいのか。難しさの理由は何か。
どのように指導すればいいのか。

【研究方法】

これまで、行為の結果を表す表現について、日本語母語話者および外国人日本語学習者を対象とした研究がなされてきた。しかし、いずれの研究においても調査方法や分析の仕方に関する問題があり、適切な調査がなされているとは言えない。

本研究では、行為の結果を表す表現に関して、これまでの先行研究の問題点を踏まえた上で、日常生活で頻繁に遭遇すると思われる実現可能場面を設定し、日本母語話者（JNS、50 人）が用いる日本語、タイ語母語話者（TNS、50 人）が用いるタイ語、そしてタイ語を母語とする日本語学習者（TJL、50 人）が用いる日本語の使用実態を文完成テスト（実現不可能と実現可能の各 10 場面、全 20 問）により調査した。また、各調査で調査協力者が使用した表現の選択理由などを調査するためにフォローアップインタビューを実施した。

また、得られた調査結果を、日本語教育現場での実現可能場面における行為の結果を表す表現の指導に活かすために、タイ語を母語とする日本語学習者に対する指導方法や現状に対する改善点などを提案した。

【研究結果】

前述した 3 つの調査の結果を以下にまとめる。

1. 日本語母語話者にみる日本語の行為の結果を表す表現

JNS には、日本語で行為の結果を表現する際に、自動詞（開かない―開いた など）、他動詞の可能形(開けられない―開けられた など)を用いた回答の二通りの表現が見られた。

実現可能場面全体を見ても、場面別に見ても、実現したか否かに関わらず、自動詞の使用が 80%以上と他動詞の可能形より高い傾向にある。また、JNS 別に見た結果、50 人中 49 人（98%）が他動詞の可能形より自動詞をより多く使用している。それぞれの動詞を選択した理由には、Ⅰグループ動詞（五段活用の動詞）とⅡグループ動詞（下一段活用の動詞）の可能形の形態の違いや、結果の状態や物の変化に注目するという日本語母語話者の視点の置き方の特徴が関係していると考えられる。

これらの結果から、実現可能場面における行為の結果を表す際に、JNS は行為を受けた結果の状態や物の変化に注目しており、日本語では実現可能場面における行為の結果を表す表現として自動詞が使用される傾向にあることが明らかになった。

2. タイ語母語話者にみるタイ語の行為の結果を表す表現

タイ語で行為の結果を表現する際には、行為を表す前項動詞（動詞 $_1$）と結果や可能を表す結果補語（ʔɔ̀ɔk 出る、khaŵ 入る など）、可能補語（daây 得る）などの後項動詞（動詞 $_2$）を組み合わせた動詞連続構文（動詞 $_1$ + 動詞 $_2$）を用いるため、TNS には、複数の表現による回答が見られた。

行為を表す動詞に後続する結果の状態を表す結果補語を用いた表現を結果表現、可能を表す可能補語を用いた表現を可能表現とし、この二通りの表現に分けてタイ語の使用実態を見た。その結果、実現可能場面全体を見ると、結果表現の使用（59.6%）が可能表現（40.4%）よりやや高い傾向にあるが、場面によっては結果表現の回答が高い場合もあれば低い場合もあるため、場面別で傾向が異なることが分かった。

また、TNS 別に見た結果、TNS によって結果表現を多く使用する人もいれば、可能表現を多く使用する人もいるため、TNS 間で表現使用に差があると言える。それぞれの動詞を選択した理由には、TNS それぞれがどのように事態を叙述しようと考えているかが関係していると考えられる。

これらの結果から、実現可能場面における行為の結果を表す際に、TNS は行為の結果や物が変化した状態を具体的に表したい場合、結果補語といった結果表現で表す。それに対し、人の能力、可能、その事態が実現したことを叙述したい場合、可能表現を使用する。このように、TNS それぞれが、どのように事態を叙述したいと思うかによって、使用する表現も変わってくることが明らかになった。

3. 日本語とタイ語の行為の結果を表す表現の対照

JNSとTNSの両者の実現可能場面における行為の結果を表す表現の使用傾向や使用理由を見たところ、両言語それぞれの表現の特徴や使用傾向、使用理由などが異なるということが明らかになった。

JNS はどの場面においても動作を受けた物の変化や結果などに注目しており、自動詞を使用するというパターンが確立している。それに対し、TNS は、TNS 自身がその動詞や場面に普段遭遇する頻度が高いか否か、または、どのように事態を叙述したいと思うかが表現の使用に影響する。そのため、場面および TNS によって使用傾向が異なっており、実現可能場面における行為の結果を表す表現を日本語のようにパターン化できない。

4. タイ語を母語とする日本語学習者にみる日本語の行為の結果を表す表現

TJL のうち、日本語の授業で行為の結果を表す表現を教わったのは 8 人（既習者）、教わっていないのは 42 人（未習者）であり、既習者の人数は未習者に比べて圧倒的に少ない。

実現可能場面全体の回答を見ると、既習者の表現の使用は JNS と近似しており、自動詞の使用が 80.6%と高い。それに対し、未習者は自動詞と他動詞の可能形の使用がそれぞれ 33.7%、32.9%と、ほぼ同じ傾向を示している。また、自動詞、他動詞の可能形以外、他動詞、自動詞の可能形、自動詞のテイル形、他動詞のテイル形、他動詞の受身形などの様々な形式が未習者に見られる。とりわけ、誤用の中で他動詞および自動詞の可能形の誤用が他の形式より多い。また、TJL に対して行ったフォローアップインタビューの結果から、TJL が使用する表現の選択理由は、物と人どちらに視点を置くかということ、母語の影響、TJL 自身の経験（学習経験や日本語母語話者との接触経験など）の三つが大きく関係していることが分かった。

さらに、場面別、TJL 別に見ると、既習者の回答は場面や TJL によって若干差異はあるものの、いずれの場面においても自動詞の回答が多かった。一方、未習者の場合、自動詞の使用が多い場面もあれば他動詞の可能形の使用が多い場面もあり、多様な表現を使用していることが分かった。

これらの結果から、既習者は実現可能場面における行為の結果を表す表現を明示的な形で学習したことにより、JNS と同じ観点で事態を捉えているのに対し、未習者は TNS と同じく、さまざまな観点で事態を捉えており、それが多様な言語表現の選択につながったものと考えられる。また、TJL の正用・誤用の回答に影響する主な要因として、学習環境や

学習内容が大きく関わるということも明らかになった。実際の日本語使用の場面に関連づけて自動詞と他動詞の概念の指導を受けた既習者は、行為の結果を表す際に、日本語母語話者が用いる表現と同じような表現を選択できるのである。

5. 日本語教育現場への提案

日本語教育現場でタイ語を母語とする日本語学習者に対して、行為の結果を表す表現を指導する際の文法上の注意事項として、タイ語は日本語ほど自動詞・他動詞の概念を意識しないこと、行為の結果の表し方や事態の捉え方が異なることが挙げられる。したがって、学習者に日本語の自動詞・他動詞の概念を理解させ、可能形の脱落や過剰使用に注意を払いながら、各表現の用法について指導することが重要である。

しかし、タイでよく使われている教科書や教材に載っている自動詞・他動詞の導入の課は、自動詞と他動詞の語彙や意味、助詞だけを重視することが多く、実際の場面に応じた自動詞と他動詞の使い分けに関する解説がなされていない。また、可能形が導入される課では、動詞の活用の規則を中心に導入し、主体の有情性や意志性などの使用条件に関する説明や行為の結果を表す表現（実現可能文）に関する説明がどの教科書にも見られない。そのため、教師は学習者の理解を促し、自動詞と他動詞の概念を意識するように働きかけるために、本教材以外に補足資料を用意し、指導内容を工夫すべきである。

したがって、日本語教育現場では、まず教師自身が行為の結果を表す表現が重要な指導項目であると認識し、その上で、日本語とタイ語の両言語間の異同を踏まえ、実際の日本語使用に即した場面を取り上げながら説明し、学習者が十分理解できるように指導することが重要である。

本研究では、調査結果の分析・考察を日本語教育における行為の結果を表す表現の学習・指導に役立てるため、TJL の実現可能場面における行為の結果を表す表現の使用実態や問題点を明らかにした。本論文が今後の日本語研究と日本語教育研究の発展に資することを切に願うものである。

タイ語要旨

บทคัดย่อดุษฎีนิพนธ์

รูปคำภาษาญี่ปุ่นที่แสดงผลการกระทำของผู้เรียนภาษาญี่ปุ่นที่ใช้ภาษาไทยเป็นภาษาแม่

- ศึกษาการใช้อกรรมกริยา สกรรมกริยา และกริยารูปสามารถ -

พรรณี แซ่ลิ้ม

วัตถุประสงค์

ในการศึกษาภาษาญี่ปุ่น อกรรมกริยาและสกรรมกริยานับเป็นหนึ่งในหัวข้อไวยากรณ์ที่นิยมบรรจุไว้ในบทเรียนตั้งแต่ขั้นต้น แต่เนื่องด้วยกริยาทั้ง 2 ประเภทนี้มีวิธีใช้ต่างกัน จึงเป็นเรื่องยากสำหรับผู้เรียนภาษาญี่ปุ่นชาวต่างชาติที่จะเข้าใจอย่างถ่องแท้ อย่างไรก็ตามไวยากรณ์อกรรมกริยาและสกรรมกริยามักพบได้บ่อยในชีวิตประจำวัน เมื่อต้องการกล่าวถึงผลของการกระทำในกรณีที่ได้กระทำบางสิ่งบางอย่าง ตัวอย่างเช่น

(1) 黒板の字がなかなか｛ 消えない ／ 消せない ｝。

Kokuban no ji ga nakanaka { kienai / kesenai }.

(2) 新しい黒板消しを使ったら、｛ 消えた ／ 消せた ｝。

Atarashii kokuban-keshi o tsukattara, { kieta / keseta }.

(3) コンタクトがなかなか｛ 入らない ／ 入れられない ｝。

Kontakuto ga nakanaka { hairanai / irerarenai }.

(4) 目を大きく開けたら、｛ 入った ／ 入れられた ｝。

Me o ookiku aketara, { haitta / irerareta }.

จากตัวอย่างข้อ (1), (2) พบว่าสามารถใช้อกรรมกริยาหรือสกรรมกริยารูปสามารถเพื่อบอกผลการกระทำได้ทั้งกรณีทำสำเร็จและไม่สำเร็จ แต่ในข้อ (3), (4) แสดงให้เห็นว่า สำหรับบางสถานการณ์ ชาวญี่ปุ่นส่วนใหญ่รู้สึกเป็นธรรมชาติมากกว่าเมื่ออธิบายผลลัพธ์ด้วยรูปอกรรมกริยา ดังนั้นจึงอาจสันนิษฐานได้ว่า ความจริงแล้วจำเป็นต้องจำแนกรูปคำกริยาในภาษาญี่ปุ่นเมื่อต้องการอธิบายผลการกระทำในสถานการณ์ใดสถานการณ์หนึ่งด้วย

ทว่าอกรรมกริยาและสกรรมกริยาไม่ใช่เรื่องที่เน้นหนักในไวยากรณ์ภาษาไทย จึงมีความเป็นไปได้ว่า ผู้เรียนภาษาญี่ปุ่นที่ใช้ภาษาไทยเป็นภาษาแม่ (“Thai Japanese Learner” ย่อว่า

TJL) จะสับสนเกี่ยวกับหลักไวยากรณ์ของกริยาทั้ง 2 ประเภท แม้กระทั่งในกลุ่มผู้เรียนขั้นสูงก็ยังพบว่า มีการใช้รูปคำอกรรมกริยารูปสามารถตามตัวอย่างข้อ (5) อยู่มากซึ่งเป็นวิธีใช้ที่ไม่เหมาะสม สำหรับผู้วิจัยเองที่ใช้ภาษาไทยเป็นภาษาแม่ เมื่อประสบปัญหาในชีวิตประจำวันและต้องการขอความช่วยเหลือ ก็ยังไม่อาจสามารถเลือกได้ทันทีว่าจะใช้อกรรมกริยา สกรรมกริยา หรือกริยารูปสามารถ ตามตัวอย่างข้อ (6) จนใช้ผิดรูปคำในท้ายที่สุด

(5) *かばんに荷物を入れようとしたけど、なかなか 入れない。

*Kaban ni nimotsu o ireyou to shita kedo, nakanaka hairenai.

(6) ロッカーのキーが｛ 回らない ／ 回せない ／ *回れない ｝。

Rokkaa no kii ga { mawaranai / mawasenai / *mawarenai }.

ด้วยเหตุนี้การใช้อกรรมและสกรรมกริยาจึงเป็นเรื่องยากสำหรับ TJL แต่เท่าที่ทราบกลับไม่พบงานวิจัยที่มีผู้ใช้ภาษาไทยเป็นภาษาแม่ (“Thai Native Speaker” ย่อว่า TNS) หรือ TJL เป็นกลุ่มเป้าหมาย ดังนั้นงานวิจัยชิ้นนี้จึงมีวัตถุประสงค์เพื่อสำรวจกลวิธีและเหตุผลในการเลือกใช้อกรรมและสกรรมกริยาในกลุ่ม TJL นอกจากนี้เพื่อให้สามารถวิเคราะห์ผลสำรวจได้อย่างมีประสิทธิภาพยิ่งขึ้น จึงใคร่ศึกษาลักษณะเฉพาะและจำแนกความเหมือนความต่างของรูปคำแสดงผลการกระทำในภาษาไทยและภาษาญี่ปุ่นด้วย โดยเลือกศึกษาใน 4 ประเด็น ดังต่อไปนี้

1) ผู้ใช้ภาษาญี่ปุ่นเป็นภาษาแม่ (“Japanese Native Speaker” ย่อว่า JNS) ใช้สำนวนภาษาญี่ปุ่นว่าอย่างไรเมื่อต้องการแสดงผลการกระทำ
2) ผู้ใช้ภาษาไทยเป็นภาษาแม่ (“Thai Native Speaker” ย่อว่า TNS) ใช้สำนวนภาษาไทยว่าอย่างไรเมื่อต้องการแสดงผลการกระทำ
3) ผู้เรียนภาษาญี่ปุ่นที่ใช้ภาษาไทยเป็นภาษาแม่ (“Thai Japanese Learner” ย่อว่า TJL) ใช้สำนวนภาษาญี่ปุ่นว่าอย่างไรเมื่อต้องการแสดงผลการกระทำ มีการใช้ที่ไม่ถูกต้องอย่างไรเพราะเหตุใด
4) จุดใดเป็นเรื่องยากสำหรับ TJL เพราะเหตุใด รวมถึงควรใช้หลักการสอนเช่นไรจึงจะเกิดผลสัมฤทธิ์สูงสุด

วิธีดำเนินการวิจัย

ผู้วิจัยพบว่า มีงานวิจัยเรื่องรูปคำแสดงผลการกระทำของผู้ใช้ภาษาญี่ปุ่นเป็นภาษาแม่และของผู้เรียนภาษาญี่ปุ่นชาวต่างชาติ แต่งานวิจัยทุกชิ้นพบว่ามีปัญหาเกี่ยวกับวิธีเก็บข้อมูลหรือวิธี

วิเคราะห์ จึงไม่อาจกล่าวได้ว่า ในปัจจุบันการสำรวจเกี่ยวกับเรื่องนี้มีประสิทธิภาพเพียงพอ

สำหรับวิธีวิจัยของงานชิ้นนี้ เริ่มแรก เมื่อตรวจสอบปัญหาที่พบในงานวิจัยต่าง ๆ เกี่ยวกับรูปคำแสดงผลการกระทำแล้ว ผู้วิจัยจึงสมมติสถานการณ์ที่น่าจะพบได้บ่อยในชีวิตประจำวัน หลังจากนั้นดำเนินการสำรวจโดยใช้แบบทดสอบเติมคำในช่องว่าง เพื่อศึกษากลวิธีการใช้รูปคำภาษาญี่ปุ่นในกลุ่ม JNS, ภาษาไทยในกลุ่ม TNS, และภาษาญี่ปุ่นในกลุ่ม TJL จำนวนกลุ่มละ 50 ราย ในสถานการณ์ที่กระทำได้สำเร็จและไม่สำเร็จ อย่างละ 10 สถานการณ์ รวม 20 ข้อ และสัมภาษณ์ผู้ให้ความร่วมมือทุกกลุ่มหลังการทดสอบ เพื่อถามสาเหตุที่เลือกใช้แต่ละรูปคำด้วย

นอกจากนี้ยังได้เสนอแนะกลวิธีและข้อควรปรับปรุงเกี่ยวกับการสอนไวยากรณ์ดังกล่าวสำหรับ TJL เพื่อให้สามารถนำผลวิจัยไปใช้ให้เกิดประโยชน์ต่อการเรียนการสอนภาษาญี่ปุ่นเรื่องรูปคำแสดงผลการกระทำด้วย

<u>ผลการวิจัย</u>

ผลการสำรวจทั้ง 3 กลุ่ม สรุปได้ดังนี้

1. การใช้รูปคำภาษาญี่ปุ่นเพื่อแสดงผลการกระทำในกลุ่ม JNS

จากการสำรวจกลุ่ม JNS พบว่า เมื่อผู้พูดต้องการแสดงผลการกระทำเป็นภาษาญี่ปุ่นจะเลือกใช้รูปคำ 2 ประเภท แบ่งเป็นรูปคำอกรรมกริยา (เช่น 開かない—開いた akanai – aita) และรูปคำสกรรมกริยารูปสามารถ (開けられない—開けられた akerarenai – akerareta) อย่างไรก็ตามไม่ว่าจะพิจารณาจากภาพรวมหรือจำแนกสถานการณ์ที่ได้กระทำสำเร็จและไม่สำเร็จ JNS เลือกใช้อกรรมกริยาสูงกว่าสกรรมกริยารูปสามารถถึง 80% นอกจากนี้เมื่อพิจารณาเป็นรายบุคคล พบว่า JNS 49 ราย (98%) จากทั้งหมด 50 ราย นิยมใช้รูปคำอกรรมกริยามากกว่าสกรรมกริยารูปสามารถอีกด้วย ส่วนสาเหตุที่เลือกใช้อกรรมกริยานั้น น่าจะมาจากข้อแตกต่างในการผันรูปสามารถของกริยากลุ่ม 1 และกลุ่ม 2 อีกทั้งลักษณะเฉพาะของ JNS ที่ให้ความสำคัญกับสภาพผลการกระทำหรือการเปลี่ยนแปลงของสิ่งนั้น ๆ

จากผลการสำรวจจึงกล่าวได้ว่า ในการแสดงผลการกระทำ JNS จะคำนึงถึงสภาพผลจากการกระทำหรือการเปลี่ยนแปลงของสิ่งนั้น ๆ เป็นสำคัญ จึงเลือกใช้อกรรมกริยาเพื่อแสดงผลจากการกระทำในสถานการณ์ต่าง ๆ มากกว่า

2. การใช้รูปคำภาษาไทยเพื่อแสดงผลการกระทำในกลุ่ม TNS

จากการทดสอบกลุ่ม TNS พบว่า TNS มีการใช้รูปคำหลากหลายประเภทเพื่อแสดงผลการกระทำ ทั้งนี้สืบเนื่องจากรูปคำแสดงผลการกระทำในภาษาไทยนิยมใช้ประโยคซึ่งมีหน่วยสร้างกริยา

เรียง (Serial Verb Constructions) ประกอบด้วยกริยาตัวที่ 1 ซึ่งแสดงการกระทำ ตามด้วยกริยาตัวที่ 2 ซึ่งมีทั้งกริยาบอกทิศทางที่แสดงผลหรือสภาพ (เช่น ออก เข้า) และกริยาแสดงความสามารถหรือผลสำเร็จ (เช่น ได้)

งานวิจัยนี้จะขอแบ่งรูปคำแสดงผลการกระทำในภาษาไทยออกเป็น 2 ประเภทใหญ่ ๆ คือ

1) รูปคำแสดงผลหรือสภาพ อันประกอบด้วยกริยาแสดงการกระทำตามด้วยกริยาบอกทิศทางแสดงผลหรือกริยาแสดงสภาพ เช่น เปิดออก จุดติด
2) รูปคำแสดงความสามารถหรือผลสำเร็จ ซึ่งใช้กริยาแสดงการกระทำตามด้วยกริยาแสดงความสามารถ เช่น เปิดได้ จุดได้

จากการสำรวจพบว่าเมื่อพิจารณาจากภาพรวมทุกสถานการณ์ มีผู้ใช้รูปคำแสดงผลหรือสภาพ (59.6%) มากกว่าผู้ใช้รูปคำแสดงความสามารถหรือผลสำเร็จ (40.4%) เล็กน้อย แต่เมื่อพิจารณาแยกเป็นกรณีสังเกตได้ว่ามีการใช้รูปคำทั้งสองแตกต่างกันไปตามสถานการณ์

นอกจากนี้เมื่อวิเคราะห์ผลเป็นรายบุคคลปรากฏว่า TNS บางรายใช้รูปคำแสดงผลหรือสภาพบ่อย ขณะที่บางรายใช้รูปคำแสดงความสามารถหรือผลสำเร็จเป็นหลัก จึงอาจสรุปได้ว่าในกลุ่ม TNS เองก็เลือกใช้รูปคำต่างกัน ซึ่งอาจจะมาจากสาเหตุที่ว่า TNS แต่ละรายมองเหตุการณ์และต้องการสื่อสถานการณ์ที่กำหนดนั้นไม่เหมือนกัน

จากผลข้างต้นกล่าวได้ว่า หากจะแสดงผลการกระทำ TNS มักเลือกใช้รูปคำแสดงผลหรือสภาพซึ่งใช้กริยาบอกทิศทางหรือกริยาแสดงสภาพ แต่หากต้องการบ่งบอกความสามารถหรือความสำเร็จจะใช้รูปคำแสดงความสามารถแทน จึงเห็นได้ว่า วิธีการเลือกใช้รูปคำแสดงผลการกระทำของ TNS แตกต่างกันไปตามผู้พูดว่าต้องการอธิบายสถานการณ์โดยเน้นจุดใด

3. เปรียบเทียบการใช้รูปคำเพื่อแสดงผลการกระทำในภาษาญี่ปุ่นและภาษาไทย

จากแนวโน้มรวมถึงเหตุผลการใช้รูปคำแสดงผลการกระทำของทั้ง JNS และ TNS เห็นได้ชัดเจนว่าลักษณะเด่น แนวโน้มและสาเหตุการเลือกใช้รูปคำดังกล่าวของทั้ง 2 ภาษามีความแตกต่างกัน

ไม่ว่าในกรณีใด ๆ JNS จะให้ความสำคัญกับการเปลี่ยนแปลงและสภาพหลังการกระทำของสิ่งนั้น จึงนิยมใช้รูปคำอกรรมกริยาเสียมาก ขณะที่ฝ่าย TNS เลือกใช้รูปคำโดยขึ้นอยู่กับว่าพบสถานการณ์เช่นนั้นหรือใช้กริยาคำนั้นบ่อยมากน้อยเพียงไร หรือต้องการอธิบายสถานการณ์โดยกล่าวถึงจุดใดเป็นพิเศษ เพราะฉะนั้นรูปคำแสดงผลการกระทำที่เลือกใช้จึงต่างไปตามสถานการณ์และ TNS แต่ละบุคคล จนไม่อาจสรุปได้ว่ามีลักษณะการใช้ในรูปแบบใดรูปแบบหนึ่งเป็นพิเศษอย่าง JNS

4. การใช้รูปคำภาษาญี่ปุ่นเพื่อแสดงผลการกระทำในกลุ่ม TJL

ในกลุ่ม TJL มีผู้เคยเรียนเกี่ยวกับรูปคำแสดงผลการกระทำในรายวิชาภาษาญี่ปุ่นจำนวน 8 คน (กลุ่มผู้เคยเรียน) ไม่เคยเรียนเกี่ยวกับเรื่องนี้จำนวน 42 คน (กลุ่มผู้ไม่เคยเรียน) กล่าวได้ว่ามีกลุ่มผู้เคยเรียนน้อยกว่าโดยสิ้นเชิง

ผลการทดสอบทุกสถานการณ์แสดงให้เห็นว่ากลุ่มผู้เคยเรียนใช้รูปคำคล้ายกับ JNS คือเลือกรูปคำอกรรมกริยามากถึง 80.6% ขณะที่กลุ่มผู้ไม่เคยเรียนใช้ทั้งอกรรมกริยาและสกรรมกริยารูปสามารถในอัตราใกล้เคียงกัน คิดเป็น 33.7% และ 32.9% ตามลำดับ นอกจากนี้ยังพบว่าผู้ไม่เคยเรียนเลือกใช้รูปคำอื่นด้วย เช่น สกรรมกริยา, อกรรมกริยารูปสามารถ, อกรรมกริยารูป テイル –teiru, สกรรมกริยารูป テイル –teiru, สกรรมกริยารูปถูกกระทำ เป็นต้น อย่างไรก็ตามเมื่อเปรียบเทียบสัดส่วนการใช้รูปคำที่ผิดหลักไวยากรณ์ดังกล่าว พบว่ามีการใช้รูปคำสกรรมกริยาและอกรรมกริยารูปสามารถมากที่สุด นอกจากนี้การสัมภาษณ์ TJL หลังการทดสอบช่วยให้ทราบว่ามีปัจจัย 3 ประการที่ส่งอิทธิพลต่อการเลือกใช้รูปคำแสดงผลการกระทำของ TJL อย่างมาก คือ ความต้องการเน้นที่ตัวสิ่งของหรือบุคคล อิทธิพลจากภาษาแม่ และประสบการณ์ของ TJL รายนั้น ๆ (เช่น ประสบการณ์การเรียนภาษาญี่ปุ่น ความคุ้นเคยกับเจ้าของภาษา)

ยิ่งไปกว่านั้นเมื่อพิจารณาเป็นรายบุคคล โดยแบ่งตามสถานการณ์จะสังเกตได้ว่า ถึงแม้จะมีความแตกต่างกันบ้างเล็กน้อยในผลการทดสอบตามสถานการณ์และตัวผู้ใช้ แต่กลุ่มผู้เคยเรียนก็เลือกตอบรูปคำอกรรมกริยามากกว่าเสมอ ในขณะที่กลุ่มผู้ไม่เคยเรียนใช้รูปคำหลากหลายกว่า บ้างใช้อกรรมกริยา บ้างใช้สกรรมกริยาเป็นหลัก

จากผลการสำรวจดังกล่าวสรุปได้ว่า กลุ่มผู้เคยเรียนรับรู้สถานการณ์ในมุมมองใกล้เคียงกับ JNS เนื่องจากเคยเรียนการใช้รูปคำแสดงผลการกระทำมาก่อน ขณะที่กลุ่มผู้ไม่เคยเรียนเลือกใช้รูปคำตามความเข้าใจและมุมมองที่ตนมีต่อสถานการณ์นั้น ๆ เช่นเดียวกับ TNS คาดว่าจุดนี้น่าจะเป็นเหตุสำคัญที่มีอิทธิพลต่อการเลือกใช้รูปคำแสดงผลการกระทำอันหลากหลายในกลุ่ม TJL

ด้วยเหตุนี้จึงกล่าวได้ว่าปัจจัยหลักที่ส่งผลอย่างยิ่งยวดต่อการเลือกรูปคำที่ถูกต้องและไม่ถูกต้องของ TJL คือสภาพแวดล้อมและเนื้อหาในบทเรียน เช่นเดียวกับกลุ่มผู้ที่เคยเรียนหลักการใช้อกรรมและสกรรมกริยาในภาษาญี่ปุ่นเมื่อพูดถึงผลการกระทำที่มักเลือกรูปคำแบบเดียวกับ JNS นั่นเอง

5. ข้อเสนอแนะในการเรียนการสอนภาษาญี่ปุ่น

จากผลวิจัยสามารถสรุปข้อควรระวังสำหรับ TJL ในการเรียนการสอนภาษาญี่ปุ่นเกี่ยวกับไวยากรณ์รูปคำแสดงผลการกระทำได้ทั้งหมด 2 ข้อ ได้แก่ หนึ่ง แนวคิดเรื่องอกรรมและสกรรมกริยา

ในภาษาไทยที่ไม่ได้เน้นมากเท่าภาษาญี่ปุ่น สอง มุมมองต่อสถานการณ์และวิธีแสดงผลที่แตกต่างกัน ดังนั้นในการเรียนการสอนจึงควรเน้นให้ผู้เรียนเข้าใจหลักอกรรมและสกรรมกริยา ระมัดระวังเรื่องการใช้รูปสามารถ รวมถึงสอนวิธีใช้รูปคำต่าง ๆ ด้วย

ทว่าเมื่อตรวจสอบเนื้อหาแบบเรียนหรือสื่อการสอนที่ใช้มากในประเทศไทยกลับพบว่า ในบทที่กล่าวถึงอกรรมและสกรรมกริยามักเน้นหนักที่ตัวคำศัพท์ ความหมายของอกรรมและสกรรมกริยาและวิธีใช้คำช่วยเสียมาก แต่ไม่ได้อธิบายกลวิธีเลือกใช้อกรรมและสกรรมกริยาตามสถานการณ์จริง นอกจากนี้ในบทที่กล่าวถึงรูปสามารถก็มุ่งอธิบายเพียงหลักการผันกริยา โดยไม่ได้ชี้แจงเรื่องรูปคำแสดงผลการกระทำหรือข้อแม้ในการใช้ เช่น ประธานเป็นสิ่งมีชีวิตหรือไม่ กริยาตัวนั้นแสดงความตั้งใจได้หรือไม่ ดังนั้นเพื่อส่งเสริมให้ผู้เรียนมีความเข้าใจ เห็นความสำคัญเรื่องแนวคิดการใช้อกรรมและสกรรมกริยายิ่งขึ้น ผู้สอนจึงควรเตรียมสื่อช่วยสอนนอกเหนือจากแบบเรียน อีกทั้งควรปรับเนื้อหาให้เหมาะสมด้วย

ยิ่งไปกว่านั้นผู้วิจัยยังมีความเห็นว่า ในการเรียนการสอนภาษาญี่ปุ่น เริ่มแรกตัวผู้สอนควรตระหนักว่าเรื่องรูปคำแสดงผลการกระทำเป็นหัวข้อหนึ่งที่มีความสำคัญ เมื่อทราบแล้วควรตระหนักถึงความแตกต่างระหว่างภาษาไทยและภาษาญี่ปุ่น เพื่อสามารถเสริมตัวอย่างสถานการณ์จริงให้ผู้เรียนเข้าใจชัดเจนยิ่งขึ้น

ผู้วิจัยหวังเป็นอย่างยิ่งว่าผลจากการวิจัยครั้งนี้จะสามารถนำไปประยุกต์ใช้ในงานวิจัยสายภาษาศาสตร์และการเรียนการสอนภาษาญี่ปุ่นต่อไป

目次

要旨 i
タイ語要旨 vi
目次 xii
図表目次 xv
第１章 はじめに 1
１.１ 研究動機 1
１.２ 研究目的 2
１.３ 本論文で用いる用語の定義 3
１.４ 本論文の構成 3
第２章 行為の結果を表す表現の使用に関する先行研究 6
２.１ 日本語における行為の結果を表す表現の使用 6
２.２ タイ語における行為の結果を表す表現の使用 14
２.３ 先行研究における問題の所在 14
第３章 研究方法 16
３.１ 調査目的 16
３.２ 調査期間 17
３.３ 調査協力者 17
３.３.１ 日本語母語話者の調査協力者 17
３.３.２ タイ語母語話者の調査協力者 20
３.３.３ タイ語を母語とする日本語学習者の調査協力者 22
３.４ 調査内容 24
３.４.１ 文完成テスト 25
３.４.２ フォローアップインタビュー 29
３.５ 分析方法 30
第４章 日本語母語話者にみる日本語の行為の結果を表す表現の使用傾向 32
４.１ 日本語の行為の結果を表す表現に関する先行研究 32

４.１.１　自動詞と他動詞の可能形 32
４.１.２　日本語母語話者の使用傾向 34
４.２　JNS の調査結果の分析と考察 36
４.２.１　JNS の実現可能場面全体にみる使用傾向 36
４.２.２　JNS の実現不可能と実現可能の場合にみる使用傾向 37
４.２.３　JNS の場面別にみる使用傾向 38
４.２.４　JNS 別にみる使用傾向 40
４.２.５　JNS の動詞選択の理由 42
４.３　本章のまとめ 44
第５章　タイ語母語話者にみるタイ語の行為の結果を表す表現の使用傾向 45
５.１　タイ語の行為の結果を表す表現に関する先行研究 45
５.１.１　タイ語の文法的な特徴 45
５.１.２　タイ語の動詞述語の構造 47
５.２　TNS の調査結果の分析と考察 52
５.２.１　TNS の実現可能場面全体にみる使用傾向 52
５.２.２　TNS の実現不可能と実現可能の場合にみる使用傾向 53
５.２.３　TNS の場面別にみる使用傾向 54
５.２.４　TNS 別にみる使用傾向 60
５.２.５　TNS の動詞選択の理由 60
５.３　日本語とタイ語の対照 61
５.４　本章のまとめ 63
第６章　タイ語を母語とする日本語学習者の日本語の行為の結果を表す表現の使用傾向 64
６.１　日本語学習者の日本語の行為の結果を表す表現に関する先行研究 64
６.１.１　日本語学習者の使用傾向 64
６.１.２　タイ語を母語とする日本語学習者の使用傾向 68
６.２　TJL の調査結果の正誤判定基準 71
６.３　TJL の調査結果の分析と考察 71
６.３.１　TJL 全体の結果および JNS との比較 71
６.３.２　TJL の既習者と未習者の結果 79
６.３.３　TJL 別にみる使用傾向 85

６.３.４ TJL の動詞選択の理由 89
６.４ TJL の行為の結果を表す表現のテストの正用誤用に関わる要因 95
６.５ 本章のまとめ 97
第７章 教材や指導方法に関する問題および提案 98
７.１ 行為の結果を表す表現の特徴および指導のポイント 98
７.１.１ 自動詞と他動詞の基本的な概念 98
７.１.２ 可能表現の概念 99
７.１.３ 行為の結果を表す自動詞と他動詞の可能形および事態の捉え方の概念 100
７.２ 教材における行為の結果を表す表現 101
７.２.１ 初級の教材における内容 102
７.２.２ 中級の教材における内容 110
７.３ 行為の結果を表す表現の指導に関する問題と日本語教育への提案 120
７.３.１ 指導時期 120
７.３.２ 指導内容 121
７.３.３ 指導方法 122
７.４ 本章のまとめ 123
第８章 おわりに 124
８.１ 本研究のまとめ 124
８.２ 本研究の限界と今後の課題 127
謝辞 129
参考文献 130
付録資料 138
付録１ テスト用紙（JNS 用） 139
付録２ テスト用紙（TNS 用） 143
付録３ テスト用紙（TJL 用） 147
付録４ JNS の回答（動詞） 157
付録５ TNS の回答（動詞） 162
付録６ TJL の回答（動詞） 167

図表目次

図１-１　本論文の構成 5
図４-１　JNS の実現可能場面全体にみる回答の割合 37
図４-２　JNS の実現不可能と実現可能の場合にみる回答の割合 38
図４-３　JNS の場面別にみる回答の割合 39
図４-４　JNS の実現不可能と実現可能の場合にみる回答の割合 39
図４-５　JNS 別にみる動詞の回答数 40
図５-１　TNS の実現可能場面全体にみる回答の割合 53
図５-２　TNS の実現不可能と実現可能の場合にみる回答の割合 53
図５-３　TNS の場面別にみる回答の割合 54
図５-４　TNS の実現不可能と実現可能の場合の回答の割合 55
図５-５　TNS 別にみる動詞の回答数 60
図６-１　TJL と JNS の実現可能場面全体にみる回答の割合 73
図６-２　TJL と JNS の実現不可能と実現可能の場合にみる回答の割合 75
図６-３　TJL と JNS の場面別にみる回答の割合 77
図６-４　TJL と JNS の実現不可能と実現可能の場合にみる回答の割合 78
図６-５　TJL の既習者と未習者の実現可能場面全体にみる回答の割合 80
図６-６　TJL の既習者と未習者の実現不可能と実現可能の場合にみる回答の割合 82
図６-７　TJL の既習者の場面別にみる回答の割合 83
図６-８　TJL の未習者の場面別にみる回答の割合 84
図６-９　TJL 別にみる動詞の回答数 85

表２-１　日本語における各先行研究の調査概要 6
表３-１　JNS 調査協力者の属性（年齢順） 18
表３-２　TNS 調査協力者の属性（年齢順） 20
表３-３　TJL 調査協力者の属性（日本語学習歴順） 22
表４-１　日本語母語話者の使用に関する各先行研究の調査の例文と結果 35
表４-２　JNS の実現可能場面全体にみる回答数と割合 37
表４-３　JNS の実現不可能と実現可能の場合にみる回答数と割合 38

表４-４　JNS の動詞の使用パターン 41
表４-５　自動詞と他動詞の可能形の使い分け別にみた JNS の人数と割合 41
表５-１　TNS の場面別にみる結果補語および可能補語の回答数 56
表５-２　実現可能場面での行為の結果を表す表現における日本語とタイ語の相違点 62
表６-１　日本語学習者の使用に関する各先行研究の調査の例文と結果 65
表６-２　タイ語を母語とする日本語学習者の自動詞・他動詞の誤用の要因と例文 69
表６-３　TJL と JNS の実現可能場面全体にみる回答数と割合 73
表６-４　TJL と JNS の実現不可能と実現可能の場合にみる回答数と割合 74
表６-５　TJL の場面別にみる回答数 76
表６-６　TJL の既習者と未習者の実現可能場面全体にみる回答数と割合 80
表６-７　TJL の既習者と未習者の実現不可能と実現可能の場合にみる回答数と割合 81
表６-８　TJL の既習者と未習者の動詞の使用パターンおよび JNS との比較 87
表６-９　TJL の既習者と未習者の動詞の使用人数と割合および JNS との比較 88
表６-１０ TJL 全体にみる自動詞と他動詞の可能形の選択理由 91
表６-１１ TJL 全体にみる自動詞の可能形と他動詞の選択理由 92
表７-１　TJL の使用した初級の教科書に関する情報 102
表７-２　各教科書での導入の順序と例文 103
表７-３　各教科書における自動詞・他動詞に関する指導内容 105
表７-４　各教科書における可能形に関する指導内容 106

第１章 はじめに

本章では、本研究の動機、目的、本論文で用いる用語の定義、および本論文の構成について説明する。

１.１ 研究動機

日本語には、「泳ぐ」「書く」などのように自動詞と他動詞が対をなさない動詞（無対動詞）および「閉まる」「閉める」などのように自動詞と他動詞が対をなす動詞（有対動詞）が存在する[1]。日本語教育においても、自動詞と他動詞は重要な文法項目の一つとして初級の段階で導入される。しかし、自動詞と他動詞には使い分けがあり、外国人学習者にとって難しい文法項目の一つだと言われている[2]。筆者も含めてタイ語を母語とする日本語学習者が悩まされる使い方の一つが、日常生活でよく遭遇する、ある行為が実現したか否かを表す場面における行為の結果を表す表現である。

無対動詞の場合であれば、行為の結果、それが実現したか否かについて言及するとき、他動詞の可能形を使用する[3]。

(1) レポートを書こうとしたけど、なかなか書けない他可。
(2) レポート、やっと書けた他可。

一方、有対動詞では、行為の結果を表す際に、自動詞と他動詞の可能形のいずれも使用できる。

(3) 黒板の字がなかなか｛ 消えない自／消せない他可 ｝。
(4) 新しい黒板消しを使ったら、｛ 消えた自／消せた他可 ｝。

実現可能の場合と実現不可能の場合（例（3）（4））においては、自動詞と他動詞の可能形のいずれを使用しても、多くの日本人には不自然に感じられないであろう。しかし、

---

[1] 無対動詞、有対動詞に関しては、早津（1989・1995）、須賀（1995）、奥津（1995）などを参照。
[2] 日本語の自動詞、他動詞の使い分けは多くの学習者にとって習得が難しいと言われている（小林・直井 1996、小林 2001、中石 2002・2005、横田 2011 など）。
[3] 無対動詞の場合（実現可能文）に関しては、奥田（1986）、井島（1991）、尾上（1998ab）、林（2007）などで研究がなされている。

次の(5)(6)のように、他動詞の可能形より自動詞を使用する方が自然に感じられる場合もある。

(5) コンタクトがなかなか｛ 入らない自／入れられない他可 ｝。
(6) 目を大きく開けたら、｛ 入った自／入れられた他可 ｝。

日本語には、有対動詞が数多くあるため、実際に実現可能場面と実現不可能場面に遭遇したときには、場面に応じた使い分けをする必要があると考えられる。

しかし、タイ語では、日本語ほど自動詞・他動詞の概念を意識しないため、タイ語を母語とする日本語学習者にとって、どのような場面にどちらの表現を使用するのが正しいのか、あるいは自然であるのかを考え、二者のいずれかを選択することは非常に難しい。そのため、タイ語を母語とする日本語学習者には、上級レベルになっても(7)にみられる自動詞の可能形のような不適切な表現の使用がしばしば見られる。筆者も、(8)のように日常生活のトラブルに遭って、誰かに助けを求めたい時に、日本語で自動詞と他動詞のどちらを使用したらいいのか、可能形にすべきかどうか、迷った末に誤用してしまうことがある。

(7) かばんに荷物を入れようとしたけど、なかなか *入れない自可[4]。
(8) ロッカーのキーが｛ 回らない自／回せない他可／*回れない自可 ｝。

これらの事例からも、日本語の自動詞と他動詞はタイ語を母語とする日本語学習者の混乱を招くと予想される。しかし、このような問題について、タイ語母語話者を対象とした研究は、管見の限りあまり見当たらない。

そこで、本研究では、意図的な行為により、その行為が実現したか否かを示す場面（以下、「実現可能場面」とする）における、タイ語を母語とする日本語学習者の行為の結果の表現（自動詞と他動詞の可能形）について研究したい。また、日本語母語話者の自動詞と他動詞の使用傾向を調べ、日本語指導のための指針を得たいと考える。

1.2 研究目的

本研究では、日常生活で遭遇する実現可能場面における、行為の結果を表現する際の、

[4]「*」をつけた文は、その文が「不適格文（または、「非文」「非文法的文」などとも言う）」であることを表している。

タイ語を母語とする日本語学習者の自動詞と他動詞の使用実態や使用理由を調査し、また調査結果から指導上の問題点を明確にし、教育上の指導法を提案することを目的とする。

なお、調査を行う上で、日本語とタイ語両言語における行為の結果を表す表現の特徴をそれぞれ明確にすることにも重きを置きたい。まず両言語の表現の特徴及び両言語間の異同を知っておくことは、タイ語を母語とする日本語学習者を対象として研究を進める上で重要だと思われる。このような考えに基づき、本研究では以下の 4 点を明らかにすることを目的とする。

① 日本語母語話者が日本語でどのような表現を使用するのか。

② タイ語母語話者がタイ語でどのような表現を使用するのか。

③ タイ語を母語とする日本語学習者が日本語でどのような表現を使用するのか。
どんな誤用を犯すのか。その理由は何か。

④ タイ語を母語とする日本語学習者にとって何が難しいのか。難しさの理由は何か。
どのように指導すればいいのか。

1.3 本論文で用いる用語の定義

本研究では実現可能場面における行為の結果を表す表現について論じるが、その前にまず、本論文における「実現可能場面」、「行為の結果を表す表現」という用語の定義を行いたい。

・「実現可能場面」
意図的な行為により、その行為が実現したか否かを示す場面

・「行為の結果を表す表現」
行為を行った結果を表す表現である日本語の自動詞および他動詞の可能形

1.4 本論文の構成

本論文は本章を含めて全部で 8 章から成る。

第 1 章（本章）では、本研究の動機や目的、および本論文で用いる用語の定義について説明する。

第 2 章では、第 3 章の研究方法を設定するために、行為の結果を表す表現の使用に関す

る既存の研究内容を概観し、調査方法・調査内容の問題点および改善点をまとめる。

第３章では、これまでの先行研究の問題点を踏まえ、本研究で設定した調査目的、調査期間、調査協力者、調査内容、分析方法について述べる。

本研究では、まず第４章で、日本語母語話者にみる日本語の行為の結果を表す表現の使用に関する調査、次に第５章で、タイ語母語話者にみるタイ語の行為の結果を表す表現の使用に関する調査、最後に第６章で、タイ語を母語とする日本語学習者にみる日本語の行為の結果を表す表現の使用に関する調査について、調査結果を分析・考察する。

なお、第４章、第５章、第６章のそれぞれの章では調査の結果に入る前に、行為の結果を表す表現の使用に関する従来の先行研究を概観する。これは、先行研究を踏まえることで、より明確に調査結果を分析・考察できると考えるからである。

また、得られた調査結果を、日本語教育現場での実現可能場面における行為の結果を表す表現の指導に活かすために、第７章で、タイ語を母語とする日本語学習者に対する教材や指導方法、現状に対する改善点などを提案する。

最後に、本研究のまとめ、本研究の限界、および今後の課題に関して第８章で述べる。

本論文の構成は次頁の図の通りである（図１-１）。

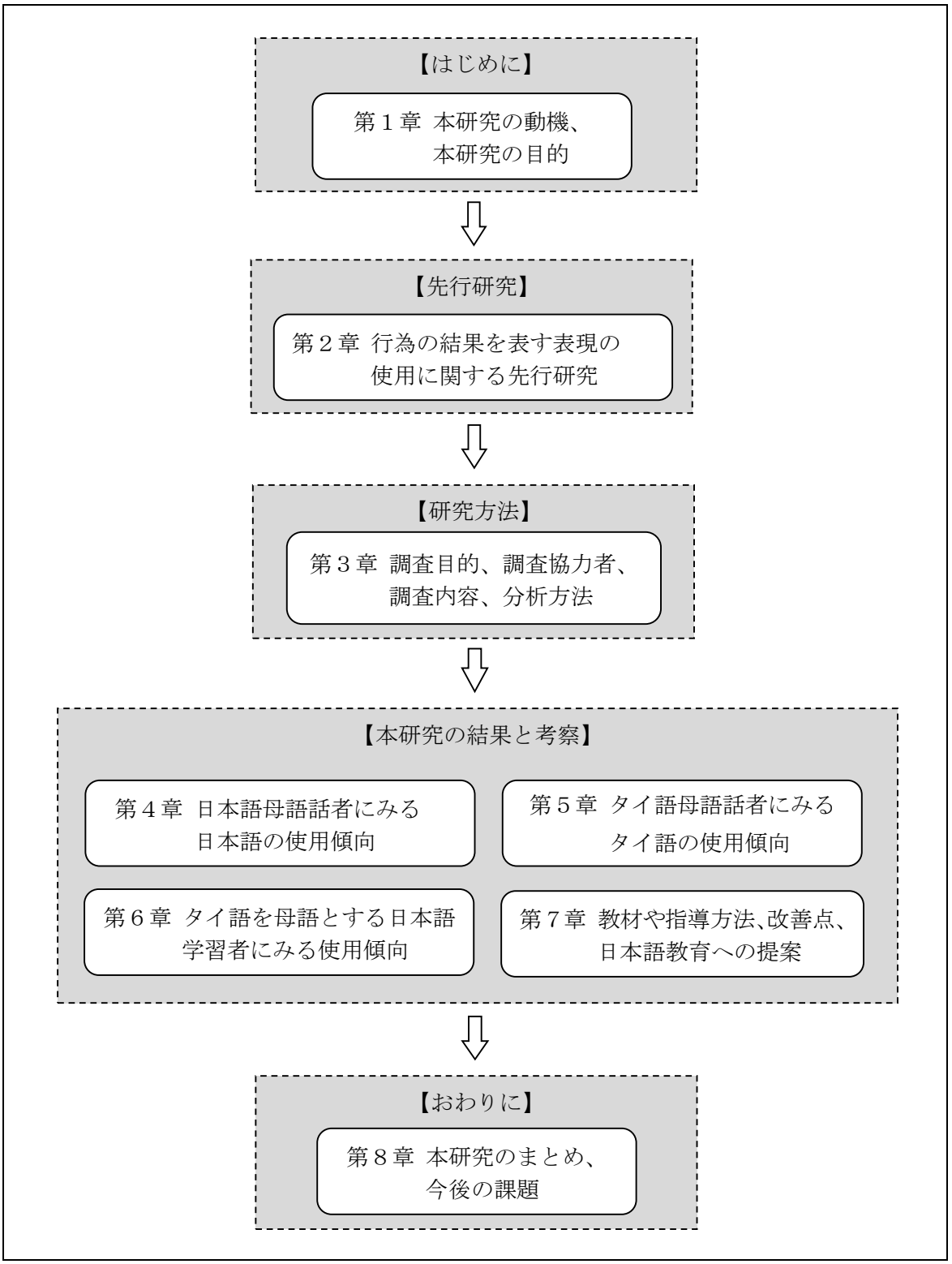

【はじめに】
第１章 本研究の動機、本研究の目的
【先行研究】
第２章 行為の結果を表す表現の使用に関する先行研究
【研究方法】
第３章 調査目的、調査協力者、調査内容、分析方法
【本研究の結果と考察】
第４章 日本語母語話者にみる日本語の使用傾向
第５章 タイ語母語話者にみるタイ語の使用傾向
第６章 タイ語を母語とする日本語学習者にみる使用傾向
第７章 教材や指導方法、改善点、日本語教育への提案
【おわりに】
第８章 本研究のまとめ、今後の課題

図１-１　本論文の構成

第２章 行為の結果を表す表現の使用に関する先行研究

本章では、これまでの日本語およびタイ語の行為の結果を表す表現の使用に関する先行研究を概観し、調査方法・調査内容の問題点および改善点をまとめる。

２.１ 日本語における行為の結果を表す表現の使用

本節では、日本語母語話者と日本語学習者による日本語の行為の結果を表す表現（自動詞と他動詞の可能形）の使用に関する先行研究について概観する。

これまでの日本語による行為の結果を表す表現の使用に関する調査は小林（1996）、楊（2007）、王（2012）、関（2012）、セーリム（2012・2013）などがあるが、調査目的はいずれの研究においても、日本語学習者の使用傾向を日本語母語話者と比較することであり、日本語母語話者のみを対象としたものは管見の限り見当たらない。以下の表は各先行研究の調査概要をまとめたものである。なお、本章では先行研究における調査方法について検討するため、各研究の調査結果に関しては、第４章、第６章で述べる。

表２-１　日本語における各先行研究の調査概要

先行研究	調査目的	調査対象者		調査方法
		日本語 母語話者	日本語 学習者	
小林 （1996）	学習者の自動詞、他動詞、他動詞の可能形・受身形の選択を把握するため	15 人	多国籍 （中上級） 68 人	・方式：空欄補充問題（日本語話者） 選択問題（日本語学習者） ・形式：会話 ・内容：行為の結果の状態 ・動詞：1 組（開く／開ける） ・設問数：4 問
楊 （2007）	学習者の自動詞の可能表現に関する誤用の要因を探るため	20 人	中国語話者 韓国語話者 （上級） 40 人	・方式：空欄補充問題（穴埋め問題） ・形式：一文+イラスト ・内容：可能の意味を持つ自動詞 ・動詞：12 組以上（自由記入） ・設問数：12 問

王 （2012）	学習者の無標識可能表現の使用実態を把握するため	78 人	中国語話者 （上級） 139 人	・方式：選択問題（6 肢） ・形式：一文 ・内容：能力 2 問・属性 3 問・ 結果 5 問・条件 10 問 ・動詞：19 組 ・設問数：20 問
関 （2012）	学習者の自動詞否定形と他動詞否定形の使用傾向と誤用の原因を明らかにするため	20 人	中国語話者 （3, 4 年生） 73 人	・方式：選択問題（4 肢） ・形式：一文 ・内容：可能表現否定形 ・動詞：1 組（開く／開ける） ・設問数：6 問
セーリム （2012b） （2013ab）	自動詞の可能形の使用傾向と誤用の要因を明らかにするため	20 人	タイ語話者 （中上級） 20 人	・方式：空欄補充問題 ・形式：一文 ・内容：行為の結果の状態 （可能の意味を持つ自動詞） ・動詞：8 組 ・設問数：10 問

以下、各研究について詳しく見ていく。

1）小林（1996）「相対自動詞[5]による結果・状態の表現」

小林（1996）は、自動詞・他動詞による結果・状態の日本語学習者の習得に関する研究として、600～700 時間以上の日本語学習歴がある多国籍の学習者 68 人を対象に、自動詞「アク系」（あかない／あいた）、他動詞「アケル系」（あけない／あけた）、他動詞の可能形・受身形「アケラレル系」（あけられない／あけられた）を用いた三種類の表現から適切な回答を選ぶ多肢選択テストを 4 問実施している。この調査では、日本語母語話者 15 人を対象としたテストも行い、母語話者の使用傾向についても調査している。テストを以下に紹介する。

[5] 西尾（1982）、寺村（1982）の用語

【問題内容】

あなただったら、何と言いますか。一番自然な言い方を選んでください。

1. 部屋に入ろうと思ったのですが、部屋の鍵が見つかりません。鍵をなくしてしまったようです。
「困ったなあ、　1）ドアがあかない。
2）ドアをあけない。
3）ドアがあけられない。」

2. そこで、針金を鍵穴に入れて、開けようとしたのですが、なかなか
1）あきません。
2）あけません。
3）あけられません。

3. それを見た隣の人が「どうしんですか」と聞きました。それで、答えました。
「実は、鍵をなくしたので、　1）ドアがあかないんです。
2）ドアをあけないんです。
3）ドアがあけられないんです。」

4. 隣の人が「鍵ならありますよ。ここに落ちていました。これですか」と鍵を見せました。
「ええ、そうです。」（ガチャガチャと鍵を鍵穴に入れる）
「ああ、　1）あけた。
2）あいた。
3）あけられた。」

（小林 1996：48）

小林（1996）の調査は、場面が会話形式となっており、状況が思い浮かびやすい。設定されている場面も実際の日常生活で役に立つ場面である。また、実現不可能の場面（問 1、問 2、問 3）と実現可能の場面（問 4）があるので、使い方の違いについても見ることができる。

しかし、行為の結果を表す場面の設定は明確であっても、動詞数、問題数、調査協力者数が少ないため、結果を一般化しがたいように思う。扱う動詞は一つだけ（あく／あける）なので、得られた結果から傾向を明らかにできるとは言い難く、信頼性が高いとは言えない。そのため、他の場面や他の動詞の場合にどのような傾向が見られるのかを予測することも難しいと考えられる。また、日本語学習者向けの問題は選択肢となっているので、他の表現を用いた回答が見られない。この研究の調査協力者は多国籍（中国語母語話者 25 人、韓国語母語話者 20 人、スペイン語母語話者 5 人、英語母語話者 4 人、ポルトガル語母語話者 3 人、その他 11 人）であり、学習者間で母語が違うので、動詞の使用傾向、特徴的な問

題、動詞選択の理由を一括して把握することができない。また、学習者へインタビューをしていないため、学習者の回答理由や判断基準も分からない。さらに、「あけられない」、「あけられた」の選択肢は他動詞の可能形なのか、他動詞の受身形なのか、学習者にとって分かりにくいという設問設定上の問題もある。

したがって、データの信頼性を高めるために、扱う動詞や問題数や場面数を増やすべきである。学習者の母語を限定して調査を行い、母語の影響があるかないかも含めて、同じ母語の学習者の傾向を見極めるとともに、誤用や不適切な使用の要因を探るために、使用理由や使用意図についてのインタビューも行う必要があると考える。

2）楊（2007）「可能の意味を持つ日本語自動詞の習得」

楊（2007）は、可能の意味を持つ自動詞の習得について、日本語母語話者および中国語母語話者、韓国語母語話者の日本語学習者（上級）それぞれ 20 人を対象に、穴埋め形式の問題（全 12 問）を用い、調査を行った。楊（2007）での問題用紙は以下の通りである。

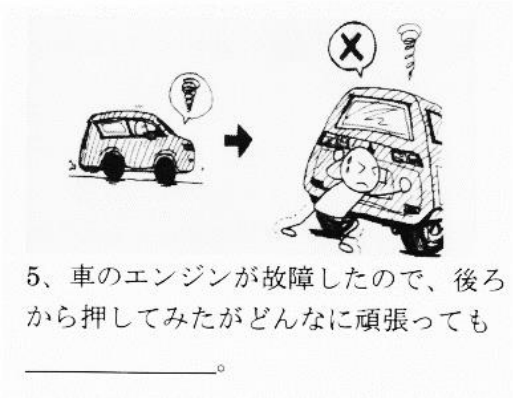
【問題内容】

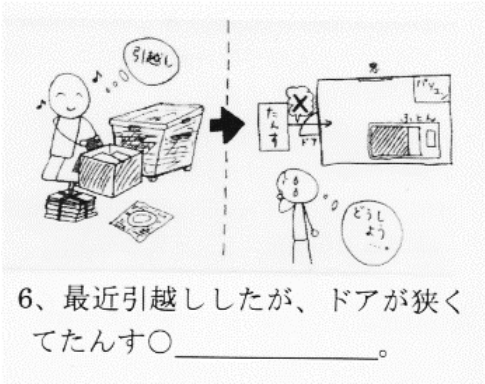
絵を見て、下記の文の○に助詞、下線部に適切な語を入れてください。

1. データ不足のため、なかなか研究○____。
2. プールは思ったより深く、足○____。
3. 去年は怠けていて落ちてしまったが、今年の入試にはきっと____はずだ。
4. 探していた本○やっと____。
5. 車のエンジンが故障したので、後ろから押してみたがどんなに頑張っても_____。
6. 最近引越ししたが、ドアが狭くてたんす○____。
7. 物を入れすぎて、かばんのチャック○____。
8. このビンの蓋はきつかったけれども、熱を加えたら____。
9. この網では魚○____。
10. 体が硬くて足○____。
11. クリスマスパーティーはどのレストランですればいいのか、みんなの意見○なかなか____。
12. バターナイフでは肉○____。

（楊 2007：70-71）

また、文の理解を促し、誤解を避けるために、以下のようにすべての設問にイラストをつけている。





（楊 2007：70）

楊（2007）の調査方法は穴埋め式であるが、助詞が提示されておらず、品詞も限定されていないため、回答の自由度が高く、動詞だけでなく形容詞で回答する可能性もある。そうなると、分析時に学習者の回答を分析しにくくなると思われる。また、実現可能と実現不可能を表す場面以外に、物の属性を表す場面（問 9、12 など）が含まれていることも、使用傾向の分析の一貫性を損なうことになるのではないかと思われる。

したがって、調査の妥当性を高めるために、回答範囲および場面をある程度限定した方が良いと思われる。

3）王（2012）「日本語無標可能表現の習得」

王（2012）は、中国語を母語とする上級日本語学習者 139 人を対象とし、無標可能表現[6]の使用実態を調査し、日本語母語話者との使用傾向を比較している。設定した 20 問は、可能の意味的タイプ四通りに分類でき[7]、能力可能 2 問、属性可能 3 問、結果可能 5 問、条件可能 10 問となっている[8]。各設問について、「～ことができる」「～（ら）れる」「無標可

[6] 王（2012）で使われている「無標可能表現」とは、可能の意味を表す自動詞である。この定義は、張（1998）などを参考にしたもので、中国語では可能表現で表すものが、日本語では自動詞で表すため、標識を用いていないとう特徴から、このタイプの可能表現は無標識の可能表現とされている。

[7] 王（2012）は、可能表現の意味的タイプを、張（2001）を参考にし、「能力可能・属性可能・条件可能・結果可能」の四つに分類している。

[8] 王（2012）では、どの設問がどのタイプかが明記されていない。

能表現」の三つの可能表現形式が自動詞と他動詞の両方の形式で選択肢として提示されており、必然的に誤用の形式も含まれる。選択肢の例と問題内容を以下に示す。

【選択肢の例】

10. 車のエンジンは寒いところで＿＿＿＿＿＿＿。

① かけることができない　② かかることができない
③ かけない　④ かからない
⑤ かけられない　⑥ かかれない

（王 2012：4）

【問題内容[9]】

1. 水と油はよく＿＿＿＿。（まざる―まぜる）
2. 一般的に男性は女性のような高い声は＿＿＿＿。（でる―だす）
3. この窓、なかなか＿＿＿＿ね。多分錆びているかもしれないよね。（しまる―しめる）
4. ちゃんと病院に行かないと、あなたの病気＿＿＿＿＿よ。（なおる―なおす）
5. この会社では社員に発言や提案の自由がなく、下の声はなかなか社長の耳に＿＿＿。（とどく―とどける）
6. 今度の同窓会なかなか人は＿＿＿＿ね。仕事でみんな忙しいからね。（あつまる―あつめる）
7. この役はあの新人俳優には＿＿＿。（つとまる―つとめる）
8. 筋肉痛で腕はなかなか＿＿＿＿。（あがる―あげる）
9. ブレーキをかけても車は＿＿＿＿＿。（とまる―とめる）
10. 車のエンジンは寒いところで＿＿＿＿。（かかる―かける）
11. 30 分も経ったけど、タクシー、なかなか＿＿＿から、焦り始めた。（つかまる―つかむ）
12. 朝から何も食べていないので、力少しも＿＿＿＿＿よ。（でる―だす）
13. 昨日寝てないので、授業中眠くて目はなかなか＿＿＿＿。（あく―あける）
14. このパソコンたぶん壊れているかもしれない。スイッチを何回押しても、なかなか＿＿＿＿のよ。（つく―つける）
15. 渋滞で車がぜんぜん＿＿＿＿＿。（すすむ―すすめる）
16. この棒は細かすぎて＿＿＿＿＿。（たつ―たてる）
17. ＜医者の話＞奇跡でも起こらない限り、この重傷者はもう＿＿＿＿。（たすかる―たすける）
18. 彼のくれた指輪、家中を探してもなかなか＿＿＿＿。（みつかる―みつける）
19. 両方とも可愛くて、どれを買うかはなかなか＿＿＿＿。（きまる―きめる）
20. 一生懸命勉強しないと一流大学を受験しても＿＿＿＿よ。（うかる―うける）

（王 2012：13-14）

[9] 各設問の後ろに書いてある動詞は、王（2012）の問題ではどんな動詞を扱っているかが分かるように、筆者が記したものである。

王（2012）の問題設定には、前述の通り四つのタイプが混在している。タイプの種類が多いのであれば、設問数自体を増やし、タイプごとに設問数を均等にすべきである。しかし王の調査では設問数にばらつきがあり、設問のタイプも明確ではない。多様なタイプの問題を扱うより、設問のタイプを一つに絞って設問数を増やした方が調査結果の信頼性が高くなると考えられる。ただし、問題数が多ければ多いほど学習者に負担をかけてしまうため、学習者の回答の集中力を削ぐこととなるかもしれない。

4）関（2012）「可能表現否定形の正用と誤用」

関（2012）は、中国語を母語とする日本語学習者が「開かない」のような自動詞否定形と「開けられない」のような他動詞否定形をどのように理解しているのかを明らかにするという目的で、中国のA大学外国語学院日本語学部3年生の73人を対象に以下の調査を行った。

【問題内容】

1. カギを持っていないので、_____。（没有带钥匙，所以……。）
   A. ドアが開かない　B. ドアが開けられない
   C. AとBは両方可能　D. AとBは両方不可

2. カギがかかっているので、_____。（门上着锁，所以……。）
   A. ドアが開かない　B. ドアが開けられない
   C. AとBは両方可能　D. AとBは両方不可

3. 両手で荷物を持っているので、_____。（双手拿着行李，所以……。）
   A. ドアが開かない　B. ドアが開けられない
   C. AとBは両方可能　D. AとBは両方不可

4. カギが壊れているので、_____。（锁坏了，所以……。）
   A. ドアが開かない　B. ドアが開けられない
   C. AとBは両方可能　D. AとBは両方不可

5. カギの調子が悪いので、_____。（钥匙不好使，所以……。）
   A. ドアが開かない　B. ドアが開けられない
   C. AとBは両方可能　D. AとBは両方不可

6. 手を怪我したので、_____。（手受伤了，所以……。）
   A. ドアが開かない　B. ドアが開けられない
   C. AとBは両方可能　D. AとBは両方不可

（関 2012：92）

関（2012）では設問の横に中国語で状況説明が記載されているため、学習者の負担を減らすことができる。しかし、母語の説明の仕方によっては、母語に引きずられて回答に影響が生じる可能性があるため、母語による説明を入れる際には、回答に影響を及ぼさないような仕方を考える必要があるだろう。また、関（2012）の調査は、小林（1996）と同じように、「開く―開ける」一組の動詞しか扱っておらず、選択問題なので、想定外の回答が見られず、学習者の使用傾向を明らかにすることはできそうにない。したがって、扱う動詞や問題数を増やし、回答をより自由に記入できるように設定すべきである。

5）セーリム（2012・2013）「自動詞の可能形の誤用」

セーリム（2012b・2013ab）では、タイ語を母語とする日本語学習者による行為の結果の状態の表現（可能の意味を持つ自動詞）に注目し、「自動詞の可能形」の使用傾向と誤用の要因を明らかにするため、タイ語を母語とする中上級レベルの学習者 20 人を対象にタイ語から日本語への翻訳テスト 10 問とフォローアップインタビューを行った。また、日本語母語話者の動詞の使用傾向を見るために、日本語母語話者 20 人を対象に設問を使った空欄補充テストを実施した。テストの内容は以下の通りである[10]。

【問題内容】

下線部に適当な動詞を補って文を完成してください。

1. กระเป๋าใส่ของเต็ม ปิดไม่ลง
   かばんは荷物がいっぱいで 閉（し）　　ない。
2. (หมอบอกผู้ปวดหลัง) ปวดหลังหายได้ด้วยธรรมชาติบำบัด
   （背中の痛みに苦しんでいる人に医者が）背中の痛みは、自然療法で 治　　ます。
3. ขนมนี้อร่อยจนหยุดไม่ได้
   このお菓子は美味しくて 止　　ない。
4. (ถามหมอ) โรคเอดส์รักษาหายไหมครับ
   （医者に質問する）エイズは 治　　ますか。
5. รองเท้าคู่นี้เล็กมากใส่ไม่เข้าเลย
   このくつはとても小さくて、入　　ない。
6. (ฉันเคยใช้กุญแจดอกนี้เปิดประตูนี้มาก่อน) เป็นไปไม่ได้ที่จะเปิดไม่ได้
   （私はこの鍵でこのドアを開けたことがあるので）開（あ）　　ない はずがない。

[10] 調査問題は、上行（タイ語）がタイ語を母語とする日本語学習者向けで、下行（日本語）が日本語母語話者向けのテストである。

7. ผมพยายามติดต่อเขาแล้ว แต่ติดต่อไม่ได้เลย
私は彼に連絡を取ろうとしたけど、連絡が＿＿＿ない。

8. เพราะว่าเศรษฐกิจไม่ดี จึงรวบรวมเงินบริจาคไม่ได้
不況で、募金が 集＿＿ない。

9. (ดูขนาดกระโปรง) เธอว่ากระโปรงตัวนี้ ฉันจะใส่ได้ไหม
（スカートのサイズを見て）このスカート、私に 入＿＿る と思う？

10. (กำลังใส่ของลงในกล่อง) เธอว่าของนี้จะใส่ลงในกล่องหมดไหม
（荷物を箱に入れようとしているとき）この荷物は全部箱に 入＿＿＿＿ と思う？

セーリム（2013a：23-24）

セーリムの調査では、学習者の産出能力を見るために、母語で考えた際にどのような表現を使っているかに注目して問題を設定している。また、フォローアップインタビューを行っているため、回答の判断基準や問題点を探ることができる。

しかし、セーリムの調査では、設問が一文で示されており、タイ語から日本語への翻訳という方法をとっているため、タイ語に引きずられる可能性も大きい。

２.２ タイ語における行為の結果を表す表現の使用

本節では、本研究のタイ語を母語とする日本語学習者を対象調査するために、タイ語の行為の結果の表現の使用に関する先行研究を踏まえることが重要であると考える。しかし、タイ語母語話者の使用傾向に関する先行研究は、管見の限り見当たらない。

したがって、本研究の調査では、日本語の行為の結果を表す表現の使用に関する先行研究を手がかりにし、調査内容を設定することとする。タイ語については、日本語の内容に合わせてタイ語版を作成する。

２.３ 先行研究における問題の所在

以上の先行研究から行為の結果を表す表現に関する調査の問題点が明らかになった。楊（2007）、王（2012）、関（2012）、セーリム（2012・2013）の調査では、日本語学習者の可能の意味を持つ自動詞文（無標識可能文）の使用や誤用を分析するために、可能の意味を持つ自動詞文（無標識可能文）を中心に調査を行っている。しかし、それぞれの調査では、行為の結果を表す表現の使用傾向を把握することを目的としておらず、学習者の

誤用を見るために意図的に自動詞の回答が出やすい文を設定している。また、楊（2007）、王（2012）、関（2012）、セーリム（2012・2013）の調査では、設問が一文で示されており、コミュニケーション上の場面、発話時が限定されておらず、結果可能文や属性可能文なども混在している。そのため、複数の意味解釈ができる場合があり、実際の使用傾向が明らかにされているとは言えない。普段遭遇する実現可能場面は、話者（行為者）だけではなく、二人以上の会話場面で起こることが多いため、テスト調査で設ける場面は、話者（行為者）と相手との会話形式にし、より状況が分かりやすくなるように設定するべきであると考えられる。

一方、小林（1996）では、可能の意味を持つ自動詞文（無標可能文）ではなく、行為の結果を表す場面における自動詞と他動詞の習得を見るために、調査を実施している。行為の結果を表わす場面の設定は明確であるが、動詞数、問題数、調査協力者が少ないため、結果を一般化しがたい。

以上の先行研究の問題点を踏まえ、本調査では、行為を行った結果、それが実現したか、あるいは実現しなかったか、という場面に絞り、採用する動詞、状況設定、調査協力者数を増やし、タイ語を母語とする日本語学習者の自動詞と他動詞の可能形の使用実態を調査することとする。

さらに、従来の研究で行われている調査は、学習者の誤用を見ることに重きが置かれており、日本語母語話者自体の使用傾向の把握が目的とされておらず、日本語母語話者の結果の分析が十分になされていないことも問題の一つである。また、タイ語の行為の結果の表現に関する研究もまだなされておらず、タイ語母語話者による行為の結果を表す表現の調査も必要であると考えられる。

したがって、本研究では、日本語母語話者にみる日本語の行為の結果を表す表現の調査結果の分析を第４章で行い、タイ語母語話者にみるタイ語の行為の結果を表す表現を第５章で考察し、タイ語を母語とする日本語学習者の行為の結果を表す表現の調査結果を第６章で考察することとする。

第３章 研究方法

本研究では、まず日本語母語話者にみる日本語の行為の結果を表す表現の使用に関する調査、次にタイ語母語話者にみるタイ語の行為の結果を表す表現の使用に関する調査、最後にタイ語を母語とする日本語学習者にみる日本語の行為の結果を表す表現の使用に関する調査を三つに分けて行う。調査にあたって、本章では、それぞれの調査目的、調査期間、調査協力者、調査内容および分析方法について述べる。なお、それぞれの調査結果は第４章、第５章、第６章で順に分析・考察を行う。

３.１ 調査目的

本研究では、タイ語を母語とする日本語学習者が行為の結果を表現する際、どのような動詞（自動詞と他動詞の可能形）を用い、どのような誤用を犯すのかを明らかにし、誤用の要因を探り、日本語教育現場で実現可能場面における行為の結果を表す表現をどのように指導すればよいのか、指導方法や改善点などを提案することを第一目的とする。ただし、それにあたり、両言語の表現の特徴および両言語間の異同を知っておくことは、タイ語を母語とする日本語学習者を対象として研究を進める上で重要だと思われる。そのため、本研究では、三つの調査を行い、以下の３点を明らかにすることを目的とする。

① 日本語母語話者が普段遭遇する実現可能場面において、行為の結果を表す際に日本語でどのような表現（自動詞、他動詞の可能形）を使用しているかを明らかにする。また、各場面における実現可能文使用の傾向を探り、日本語母語話者が動詞を選択して使用する際の視点の置き方や考え方を考察する。

② タイ語母語話者が普段遭遇する実現可能場面において、行為の結果を表す際にタイ語でどのような表現（結果補語、可能補語）を使用しているかを明らかにする。また、各場面における実現可能文使用の傾向を探り、タイ語母語話者が動詞を選択する際の理由や考え方を考察する。

さらに、タイ語の行為の結果の表現の使用傾向を考察するために、日本語の行為の結果を表す表現と対照し、タイ語と日本語両言語間の異同およびその特徴を明確にすることも目的とする。

③ タイ語を母語とする日本語学習者が、普段遭遇する実現可能場面において、行為の結果を表す際に日本語でどのような表現を使用しているか、どのような誤用を犯すかを明らかにする。また、各場面における実現可能文使用の傾向を探り、タイ語を母語とする日本語学習者が動詞を選択する際の視点の置き方や考え方など、動詞選択の理由や誤用の要因を考察する。

3.2 調査期間

本研究では、日本語母語話者、タイ語母語話者、タイ語を母語とする日本語学習者を対象とした調査を以下の三つの期間に実施した。

・日本語母語話者の調査期間：2014 年 7 月～8 月

・タイ語母語話者の調査期間：2014 年 7 月～9 月

・タイ語を母語とする日本語学習者の調査期間：2014 年 8 月～2015 年 3 月

3.3 調査協力者

本節では、本研究の調査協力者である日本語母語話者（以下、JNS）、タイ語母語話者（以下、TNS）、タイ語を母語とする日本語学習者（以下、TJL）の人数やそれぞれの属性などを述べる。

3.3.1 日本語母語話者の調査協力者

日本語の行為の結果を表す表現の使用傾向を調査するにあたり、JNS 50 人を対象に調査を実施した。JNS は関西の大学に通う大学生・大学院生であり、男性 19 人、女性 31 人である。年齢は 10 代後半～30 代前半、平均年齢は 21.6 歳である。JNS の年齢、性別、出身地を表 3-1 に示す。

表３-１　JNS 調査協力者の属性（年齢順）

日本語母語話者	年齢	性別	出身地
JNS-1	18 歳	女	京都府
JNS-2	18 歳	女	香川県
JNS-3	18 歳	女	山口県
JNS-4	18 歳	女	福岡県
JNS-5	19 歳	男	静岡県
JNS-6	19 歳	男	京都府
JNS-7	19 歳	男	京都府
JNS-8	19 歳	男	大阪府
JNS-9	19 歳	男	兵庫県
JNS-10	19 歳	男	兵庫県
JNS-11	19 歳	男	福岡県
JNS-12	19 歳	女	栃木県
JNS-13	19 歳	女	石川県
JNS-14	19 歳	女	兵庫県
JNS-15	19 歳	女	兵庫県
JNS-16	19 歳	女	徳島県
JNS-17	20 歳	男	大阪府
JNS-18	20 歳	男	大阪府
JNS-19	20 歳	男	大阪府
JNS-20	20 歳	男	大阪府
JNS-21	20 歳	女	長野県
JNS-22	20 歳	女	大阪府
JNS-23	20 歳	女	兵庫県
JNS-24	20 歳	女	岡山県
JNS-25	21 歳	男	大阪府
JNS-26	21 歳	男	兵庫県

JNS-27	21 歳	男	奈良県
JNS-28	21 歳	男	鹿児島
JNS-29	21 歳	女	石川県
JNS-30	21 歳	女	大阪府
JNS-31	21 歳	女	大阪府
JNS-32	21 歳	女	大阪府
JNS-33	21 歳	女	奈良県
JNS-34	22 歳	男	大阪府
JNS-35	22 歳	女	愛知県
JNS-36	22 歳	女	滋賀県
JNS-37	22 歳	女	大阪府
JNS-38	22 歳	女	高知県
JNS-39	23 歳	女	大阪府
JNS-40	23 歳	女	岡山県
JNS-41	24 歳	女	大阪府
JNS-42	24 歳	女	大阪府
JNS-43	24 歳	女	大阪府
JNS-44	24 歳	女	大分県
JNS-45	27 歳	男	大阪府
JNS-46	29 歳	男	愛知県
JNS-47	30 歳	女	三重県
JNS-48	31 歳	女	長崎県
JNS-49	32 歳	男	千葉県
JNS-50	32 歳	女	大阪府

３.３.２　タイ語母語話者の調査協力者

タイ語の行為の結果を表す表現の使用に関しては、TNS 50 人[11]を対象に調査を実施した。TNS はバンコクの大学に通う大学生・大学院生であり、男性 20 人、女性 30 人である。年齢は 10 代後半～30 代前半、平均年齢は 21.5 歳である。TNS の年齢、性別、出身地を表３-２に示す。

表３-２　TNS 調査協力者の属性（年齢順）

タイ語母語話者	年齢	性別	出身地
TNS-1	18 歳	男性	中部
TNS-2	18 歳	男性	北部
TNS-3	18 歳	女性	北部
TNS-4	19 歳	男性	中部
TNS-5	19 歳	男性	東北部
TNS-6	19 歳	男性	南部
TNS-7	19 歳	男性	中部
TNS-8	19 歳	男性	南部
TNS-9	19 歳	男性	中部
TNS-10	19 歳	女性	東北部
TNS-11	19 歳	女性	中部
TNS-12	19 歳	女性	中部
TNS-13	19 歳	女性	中部
TNS-14	19 歳	女性	南部
TNS-15	19 歳	女性	中部
TNS-16	19 歳	女性	東北部
TNS-17	19 歳	女性	中部
TNS-18	20 歳	女性	南部
TNS-19	20 歳	女性	中部

[11] TNS は、調査の結果に日本語の知識が影響しないよう、日本語を学んだことのない人を対象とした。

TNS-20	20 歳	女性	中部
TNS-21	20 歳	女性	東北部
TNS-22	20 歳	女性	中部
TNS-23	21 歳	男性	中部
TNS-24	21 歳	男性	中部
TNS-25	21 歳	女性	北部
TNS-26	21 歳	女性	中部
TNS-27	21 歳	女性	東北部
TNS-28	21 歳	女性	中部
TNS-29	21 歳	女性	南部
TNS-30	22 歳	男性	中部
TNS-31	22 歳	男性	東部
TNS-32	22 歳	男性	東北部
TNS-33	22 歳	女性	南部
TNS-34	22 歳	女性	中部
TNS-35	22 歳	女性	中部
TNS-36	22 歳	女性	中部
TNS-37	22 歳	女性	東北部
TNS-38	22 歳	女性	中部
TNS-39	22 歳	女性	中部
TNS-40	23 歳	男性	中部
TNS-41	23 歳	男性	中部
TNS-42	23 歳	女性	中部
TNS-43	24 歳	男性	中部
TNS-44	24 歳	男性	中部
TNS-45	25 歳	男性	中部
TNS-46	25 歳	女性	北部
TNS-47	28 歳	男性	中部
TNS-48	29 歳	女性	中部

TNS-49	32 歳	男性	東北部
TNS-50	32 歳	女性	中部

3.3.3 タイ語を母語とする日本語学習者の調査協力者

三つ目の調査は、タイ語を母語とする日本語学習者への調査である。タイ語を母語とする日本語中上級レベル[12]の TJL 50 人を対象に調査を実施した。TJL は全員タイの大学[13]で日本語を専攻し、調査時に日本に滞在していた大学生・大学院生であり、男性 13 人、女性 37 人である。年齢は 20 代前半～30 代前半、平均年齢は 23.5 歳であり、日本語能力は N3 取得者が 17 人、2 級・N2 取得者が 17 人、1 級・N1 取得者が 16 人である。各 TJL の日本語学習歴[14]、日本語能力[15]、年齢、性別を表３-３に示す。

表３-３　TJL 調査協力者の属性（日本語学習歴順）

日本語学習者	日本語学習歴（日本滞在期間[16]）	日本語能力（取得年）	年齢	性別
TJL-1	2 年 9 ヶ月　（4 ヶ月）	N3　（2013）	20 代前半	男
TJL-2	3 年 3 ヶ月　（4 ヶ月）	N3　（2014）	20 代前半	女
TJL-3	3 年 4 ヶ月　（4 ヶ月）	N3　（2013）	20 代前半	男
TJL-4	3 年 4 ヶ月　（4 ヶ月）	N3　（2013）	20 代前半	女
TJL-5	3 年 4 ヶ月　（8 ヶ月）	N3　（2014）	20 代前半	女

[12] 日本語能力試験（JLPT）で、旧 3 級、もしくは N3 以上を取得した者。なお、自動詞・他動詞、可能形は既習。

[13] 調査協力者が在籍している大学は、カセサート大学、コンケン大学、シラパコーン大学、タイ商工会議所大学、タマサート大学、チェンマイ大学、チュラーロンコーン大学、ナコンラチャシーマー・ラチャパット大学、ブラパー大学、ランシット大学である。
また、タイにおける日本語教育事情は日本国際交流基金のホームページ「日本語教育 国・地域別情報」https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2014/thailand.html、俵（2013）などを参照。

[14] 日本語学習歴は日本語の学習を始めてから調査の時点までの年数とする。高校・大学等での学習、日本への留学、日本語学校、日系企業等での就労など、全てを「日本語学習歴」とみなす。

[15] 本調査では日本語能力を測る基準として日本語能力試験（JLPT）のレベルを参考にする。また、2010 年から新しい「日本語能力試験」が実施されているが、該当する級・レベルを最初に取得した年で示す。日本語能力試験（JLPT）の詳細は http://www.jlpt.jp/index.html を参照。

[16] 日本滞在期間は日本語学習歴に含まれる。

TJL-6	3 年 10 ヶ月	（4 ヶ月）	N3 （2013）	20 代前半	女
TJL-7	4 年	（1 年）	N3 （2012）	20 代前半	女
TJL-8	4 年	（1 年）	N3 （2013）	20 代前半	女
TJL-9	4 年 3 ヶ月	（1 ヶ月）	N3 （2013）	20 代前半	女
TJL-10	4 年 5 ヶ月	（5 ヶ月）	N2 （2013）	20 代前半	女
TJL-11	4 年 6 ヶ月	（1 年）	N2 （2012）	20 代前半	男
TJL-12	4 年 10 ヶ月	（1 年 3 ヶ月）	N3 （2014）	20 代前半	女
TJL-13	5 年 4 ヶ月	（4 ヶ月）	N1 （2014）	20 代前半	女
TJL-14	5 年 4 ヶ月	（4 ヶ月）	N1 （2014）	20 代前半	女
TJL-15	6 年	（4 ヶ月）	N3 （2014）	20 代前半	女
TJL-16	6 年	（4 ヶ月）	N3 （2013）	20 代前半	男
TJL-17	6 年 4 ヶ月	（4 ヶ月）	N3 （2013）	20 代前半	女
TJL-18	6 年 4 ヶ月	（4 ヶ月）	N3 （2010）	20 代前半	女
TJL-19	6 年 4 ヶ月	（4 ヶ月）	N2 （2014）	20 代前半	女
TJL-20	6 年 5 ヶ月	（5 ヶ月）	N3 （2010）	20 代前半	男
TJL-21	6 年 5 ヶ月	（5 ヶ月）	N2 （2014）	20 代前半	女
TJL-22	6 年 6 ヶ月	（1 ヶ月）	2 級 （2008）	20 代前半	女
TJL-23	6 年 6 ヶ月	（1 ヶ月）	2 級 （2008）	20 代前半	男
TJL-24	6 年 6 ヶ月	（10 ヶ月）	N2 （2011）	20 代前半	女
TJL-25	6 年 6 ヶ月	（10 ヶ月）	N2 （2012）	20 代前半	女
TJL-26	6 年 10 ヶ月	（10 ヶ月）	N3 （2012）	20 代前半	女
TJL-27	6 年 10 ヶ月	（10 ヶ月）	N3 （2012）	20 代前半	男
TJL-28	7 年	（1 年）	N2 （2012）	20 代前半	女
TJL-29	7 年	（3 年）	N1 （2012）	20 代前半	女
TJL-30	7 年 6 ヶ月	（6 ヶ月）	N2 （2013）	20 代前半	男
TJL-31	7 年 6 ヶ月	（6 ヶ月）	N2 （2010）	20 代前半	女
TJL-32	7 年 6 ヶ月	（6 ヶ月）	2 級 （2007）	20 代前半	女
TJL-33	8 年	（1 年）	N2 （2012）	20 代前半	女
TJL-34	8 年	（1 年）	N1 （2012）	20 代前半	男

TJL-35	8 年 3 ヶ月	（1 ヶ月）	N2	（2013）	20 代後半	男
TJL-36	8 年 6 ヶ月	（1 ヶ月）	2 級	（2008）	20 代前半	女
TJL-37	8 年 10 ヶ月	（1 年 10 ヶ月）	N1	（2012）	20 代前半	女
TJL-38	9 年 9 ヶ月	（4 年 6 ヶ月）	1 級	（2009）	20 代後半	男
TJL-39	10 年	（2 年 8 ヶ月）	N1	（2011）	20 代前半	女
TJL-40	10 年	（5 年 6 ヶ月）	1 級	（2009）	20 代後半	女
TJL-41	11 年	（4 年）	N1	（2010）	20 代後半	女
TJL-42	11 年 3 ヶ月	（2 年 3 ヶ月）	N1	（2011）	20 代後半	男
TJL-43	12 年	（1 ヶ月）	2 級	（2008）	20 代後半	女
TJL-44	12 年	（3 年）	N1	（2010）	20 代前半	女
TJL-45	12 年	（4 年 6 ヶ月）	N1	（2010）	20 代後半	女
TJL-46	12 年	（2 年）	N1	（2010）	20 代後半	女
TJL-47	13 年 9 ヶ月	（4 年 6 ヶ月）	N1	（2012）	20 代後半	女
TJL-48	14 年	（5 年 6 ヶ月）	1 級	（2004）	20 代後半	女
TJL-49	14 年 3 ヶ月	（1 ヶ月）	N2	（2014）	30 代前半	女
TJL-50	15 年 4 ヶ月	（3 年 4 ヶ月）	N1	（2010）	30 代前半	男

3.4 調査内容

本研究では、文完成テスト及びフォローアップインタビューを実施した。調査に先立って、調査内容や各項目の設問内容、回答の傾向等においての問題点などを精査するために、予備調査[17]を実施し、その結果をもとに調査の内容・方法等について検討を加え、回答者の意見をもとに設問内容や調査内容の見直しを行った。調査内容は以下の通りである。

[17] 本調査を実施する前に、2014 年 5 月に、日本語母語話者、タイ語母語話者、タイ語を母語とする日本語学習者それぞれ 10 人ずつ（計 30 人）を対象に、文完成テスト及びフォローアップインタビューを行った。主な変更点は各場面での会話の中に出てくる疑問文の内容であり、例えば、「開かないの？」→「どうしたの？」、「開いた？」→「どう？」である。

3.4.1 文完成テスト

本研究では、日本語とタイ語両言語の文完成テストを作成し、調査の際に使用した。

1）日本語の行為の結果を表す表現のテスト

本テストは、JNS と TJL が実現可能場面で行為の結果を表現する際に、どのような表現を用いる傾向にあるかを調べるために、行為を実現しようとしている場面を 10 場面取り上げる[18]。各場面を行為者と相手との会話形式とし、行為者が意図的に行為をしようとしたが実現できない場面と、相手からのアドバイスで再度試みた結果、行為が実現したという場面という二つの場面を設けているため、設問は全部で 20 問となる。

テスト用紙で取り扱う動詞は有対動詞 10 組であり、形態的にも意味的にも自動詞と他動詞が対になっている動詞である[19]。動詞は初級の語彙[20]を採用したが、落とすー落ちる、壊すー壊れるなどの、本来意図的にその行為を実現することはない、あるいは実現する頻度が少ないと思われる動詞は除いた。解答欄には動詞の語幹を、その後ろに、実現できない場合は「～ない」、実現できた場合は「～た」を提示し、TJL には以下のような自動詞・他動詞リストを与え[21]、リスト内の動詞から動詞を選んでもらい、選んだ動詞の形を自由に書き込んでもらうこととした[22]。また、使用可能な表現が二つ以上ある場合は、最も頻繁に使用する表現を書いてもらった。さらに、場面を想像しやすくし、日本語を母語としない TJL の回答時の負担を減らすために、回答に影響を与えない範囲で、テスト用紙に場面の状況説明とアドバイスの内容のタイ語訳、及びイラストを載せた。

なお、このテスト形式を採用する理由は、主要な回答がある程度明確に現れ、回答への負担が比較的少ないと考えられるためである[23]。

---

[18] 日常生活でよく遭遇すると思われるトラブル場面を Google で検索し、多くヒットした場面の解決方法を参考に、設問場面を設定した。

[19] 本研究では、無対動詞を対象にせず、有対動詞のみ対象とする。

[20] 初級の語彙は、『日本語能力試験出題基準（改定版）』3・4 級の語彙（2002：21-32）、『日本語単語スピードマスター』日本語能力試験 N3・N4・N5 の語彙（2010）を参考にした。

[21] 自動詞・他動詞の語彙を覚えていない、あるいは分からないことが回答に影響を及ぼす可能性がある。自動詞・他動詞リストはテストの妥当性を高めるためのリストである。

[22] ただし調査用紙では、「を」と「が」を省略してある。これは自動詞か他動詞のどちらかを選ぶ際の答えのヒントにならないようにするためである。

[23] 本テストではダミー問題を設定しないが、そもそも回答が複数考えられるため、ダミー問題を入れる必要性がないと判断した。

以下に、調査で設定した場面と動詞、設問例、自動詞・他動詞リストを示す[24]。

【JNS と TJL 用の場面と動詞一覧】

場面	場面の内容	問	実現不可能・可能	自動詞	他動詞の可能形
場面 1	ジャムの蓋を開けようとしている	問 1	実現不可能	開かない	開けられない
		問 2	実現可能	開いた	開けられた
場面 2	キーを回そうとしている	問 3	実現不可能	回らない	回せない
		問 4	実現可能	回った	回せた
場面 3	コンタクトを入れようとしている	問 5	実現不可能	入らない	入れられない
		問 6	実現可能	入った	入れられた
場面 4	字を消そうとしている	問 7	実現不可能	消えない	消せない
		問 8	実現可能	消えた	消せた
場面 5	車の後ろの扉を閉めようとしている	問 9	実現不可能	閉まらない	閉められない
		問 10	実現可能	閉まった	閉められた
場面 6	歯磨き粉を出そうとしている	問 11	実現不可能	出ない	出せない
		問 12	実現可能	出た	出せた
場面 7	ブラインドを上げようとしている	問 13	実現不可能	上がらない	上げられない
		問 14	実現可能	上がった	上げられた
場面 8	指輪を外そうとしている	問 15	実現不可能	外れない	外せない
		問 16	実現可能	外れた	外せた
場面 9	マッチをつけようとしている	問 17	実現不可能	つかない	つけられない
		問 18	実現可能	ついた	つけられた
場面 10	糸を通そうとしている	問 19	実現不可能	通らない	通せない
		問 20	実現可能	通った	通せた

[24] 実際に調査に用いたテスト用紙は付録を参照。

【JNS 用の設問例】

【場面１】田中さんは、ジャムの瓶の蓋を開けようとしています。

田中：ウッ！

木村：どうしたの？

田中：ジャムの蓋、開（あ）　　ない。

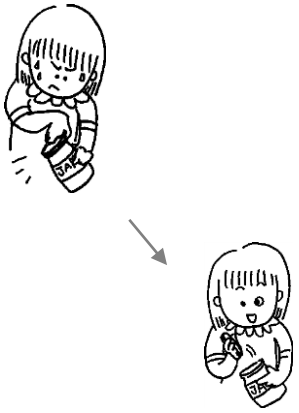
木村：蓋に輪ゴムをはめてみたら？

田中：そうだね。やってみる。

・・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、開（あ）　　た。ありがとう。



【TJL 用の設問例】

【場面１】田中さんは、ジャムの瓶の蓋を開けようとしています。

สถานการณ์ที่ 1 ทะนะกะกำลังเปิดขวดแยมอยู่

田中：ウッ！

木村：どうしたの？

田中：ジャムの蓋、開（あ）　　ない。

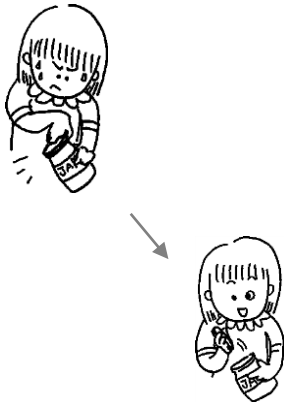
木村：蓋に輪ゴムをはめてみたら？ลองใช้หนังยางรัดฝาดูสิ

田中：そうだね。やってみる。

・・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、開（あ）　　た。ありがとう。



【TJL 用の自動詞・他動詞リスト】

場面 1	蓋を 開ける	蓋が 開く
場面 2	キーを 回す	キーが 回る
場面 3	コンタクトを 入れる	コンタクトが 入る
場面 4	字を 消す	字が 消える
場面 5	ドアを 閉める	ドアが 閉まる
場面 6	歯磨き粉を 出す	歯磨き粉が 出る
場面 7	ブラインドを 上げる	ブラインドが 上がる
場面 8	指輪を 外す	指輪が 外れる
場面 9	マッチを つける	マッチが つく
場面 10	糸を 通す	糸が 通る

2）タイ語の行為の結果を表す表現のテスト

本テストは、TNS がタイ語で実現可能場面での行為の結果を表現する際に、どのような表現を用いる傾向にあるのか、日本語と対照した際にどういった違いが見られるかを調べるために、JNS と TJL に行った日本語の行為の結果を表す表現のテストと同様、日本語の内容に合わせてタイ語版を作成する

まず、解答欄には前項動詞を提示する。実現できない場合は前項動詞の後に mây（否定詞：～ない）を置き、実現できた場合は解答欄に lɛ́ɛw（完了詞：～た）を後続させる。そして、TNS に後項動詞を自由に書き込んでもらうこととする。また、使用可能な表現が二つ以上ある場合は、最も頻繁に使用する表現を書いてもらう。

以下に、調査で使用した設問例を示す[25]。

【TNS 用の設問例】

<u>สถานการณ์ที่ 1</u> เอกำลังเปิดขวดแยมอยู่

เอ : โอ้ย

บี : เป็นไร

เอ : <u>เปิดไม่ _____</u>อะ

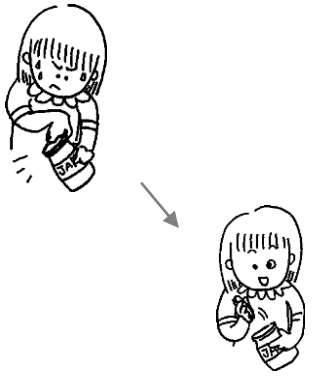
บี : ลองใช้หนังยางรัดฝาดูสิ

เอ : จริงด้วย เดี๋ยวลองดู

/////////////////

บี : เป็นไง

เอ : <u>เปิด _____ แล้ว</u> ขอบใจ



3.4.2 フォローアップインタビュー

テストの後、JNS 30 人、TNS 30 人、TJL 全員にフォローアップインタビューを実施した[26]。また、行為の結果を表す表現の文完成テストの実施にあたって、JNS、TNS、TJL の回答した表現の使用傾向のみならず、使用意図や判断理由も把握することが重要であると考え、フォローアップインタビュー（以下、インタビュー）を行った。

インタビューは、テストの結果に基づき、それぞれがテストで回答した日本語の表現の使用意図や判断理由などを話してもらい、IC レコーダーで録音した。JNS 一人につき 10 分程度日本語で、TNS 一人につき 10 分程度タイ語で、TJL 一人につき 30 分程度タイ語でインタビューを行った[27]。本論文での TNS と TJL のインタビュー結果は、タイ語から日本語に翻訳したものを用いている。

---

[25] 実際に調査に用いたテスト用紙は付録を参照。

[26] 本調査では JNS、TNS 全員にフォローアップインタビューする予定だったが、50 人のうち協力を得られたのは 30 人であった。

[27] JNS と TNS へのインタビュー時間が 10 分であるのに対して TJL へのインタビューに 30 分を要したのは、日本語学習者にとって日本語が母語ではないことと、日本語学習者への調査が本研究における主要な目的であるからである。

JNS、TNS へのインタビューは、母語による調査のため、回答した動詞選択の理由と判断基準に関して行った。TJL へのインタビューは、目標言語による調査のため、以下の 4 点に関して行った。

① 設問を再度読んで、書き間違いやミスがないか確認してもらい、回答の訂正を行いたい場合は、訂正してもらう。（例：「活用の間違い」など）

② 回答に使用した動詞の種類（自動詞・他動詞）や、活用の種類（可能形・受身形等）を理解しているかを確認する。（例：「開(あ)ける」は他動詞か自動詞の可能形か、「閉められない」は他動詞の可能形か他動詞の受身形か）

③ 漢字表記の際には、漢字の読み方を確認する。（例：「入れる」は「はいれる」か「いれる」か）

④ 回答に用いた表現の使用理由と使用意図を質問する。

行為の結果の表現を調査するには､テストの結果から得られた回答数だけを見るよりも、どのような思考を経て回答に至ったのかを調査することが重要であると考え、調査ではインタビューを重視した。とくに、今回の調査対象である中上級の学習者の場合、既有知識や経験が多いため、回答に至るまでに、学習した内容や母語であるタイ語の表現、自身で作り上げた規則など、さまざまな情報に照らし合わせ、誤用を犯さないように様々なストラテジーを駆使して回答していることが予測できる。回答に至るまでの思考および判断の内容を導き出された回答と照らし合わせて分析する中で、TJL に見られる表現の使用傾向とその要因を探りたい。

3.5 分析方法

本調査のテストの分析対象としては、各設問において JNS、TNS、TJL が使用した動詞の回答部分のみを扱い、以下の 3 点について分析する。

① JNS が使用した動詞を、「自動詞」、「他動詞の可能形」の二種類に分類し、それぞれの動詞の種類の回答の割合や、設問ごとの割合をみる。

② TNS が使用した動詞を、「結果表現」、「可能表現」の二種類に分類し、それぞれの動詞の種類の回答の割合や、設問ごとの割合をみる。

③ TJL が使用した動詞を、「自動詞」と「他動詞」の大きく二つ分けて、さらに、それぞれの分類で動詞の種類に細分類する。「自動詞」のグループは、自動詞（以下、

自）、自動詞の可能形（以下、自可）、自動詞のテイル形（以下、自テイル）、自動詞の活用の間違い（どの活用にも当てはまらない、あるいは使用したい意図と異なる形。以下、自活用）の 4 種類に分類する。一方、「他動詞」のグループは、他動詞（以下、他）、他動詞の可能形（以下、他可）、他動詞の受身形（以下、他受）、他動詞のテイル形（以下、他テイル）、他動詞の活用の間違い（どの活用にも当てはまらない、あるいは使用したい意図と異なる形。以下、他活用）の 5 種類に分類する。その上で、それぞれの動詞の種類の回答の割合や、場面別、設問ごとの割合をみる。

また、JNS 、TNS、TJL へのインタビューの結果から、各場面における動詞選択の理由および判断基準を考察する。

第４章　日本語母語話者にみる日本語の行為の結果を表す表現の使用傾向

本章では、日本語の行為の結果を表す表現に関する先行研究を踏まえた上で、日本語母語話者（JNS）の自動詞と他動詞の可能形の使用実態を明らかにするため、調査結果の分析と考察を行う。

４.１　日本語の行為の結果を表す表現に関する先行研究

本節では、日本語の行為の結果を表す表現（自動詞と他動詞の可能形）に関する先行研究および日本語母語話者の使用傾向に関する先行研究を概観する。

４.１.１　自動詞と他動詞の可能形

これまで、可能表現や自動詞・他動詞に関して、さまざまな研究が行われてきた。本項では、実現可能場面で用いる行為の結果の表現、とりわけ、自動詞と他動詞の可能形の両方が使用できることに言及した研究、自動詞と他動詞の可能形の意味の違いや使い分けの区別に関する研究を概観する。

実現可能場面における行為の結果の表現をする際に、自動詞を他動詞の可能形に置き換えることができるという立場をとる研究には、井上（1976・1995）、森田（1981・1988）、ヤコブセン（1989）、Jacobsen（1991）、張（1992・1998）、庵ほか（2001）などがある。

森田（1981・1988）は、(9)～(11)の例文を挙げ、自動詞も他動詞の可能形のいずれも意志的な行為・行動を前提としているため、置き換えても表現事実に食い違いは生じないが、自動詞を使う場合は、意図的行為の結果を、他動詞の可能形の場合は意志的行為そのものを問題としていると述べている。つまり、(9)「シュートが決められない（意志的行為そのもの）。その結果シュートが決まらない（意図的行為の結果）」のである。

(9)　なかなかシュートが｛ 決まらない$_{自}$／決められない$_{他可}$ ｝。　（森田 1981：235）

(10)　荷台が高すぎて荷物が｛ 載らない$_{自}$／載せられない$_{他可}$ ｝。　（森田 1981：235）

(11)　腕が痛くて｛ 挙がらない$_{自}$／挙げられない$_{他可}$ ｝。　（森田 1981：235）

また、庵ほか（2001）も(12)(13)を挙げ、他動詞の可能文は、動作主がある能力を持っているか否かという状態を表す表現であり意志は問題とならないことから、動作主の意志を考慮に入れない自動詞文との間に類似性が見られるとし、自動詞文と他動詞の可能文は、似た意味を持っており、置き換えることができると述べている。

(12) A：ここに車を止めてはいけませんよ。
B：すみません。故障して｛ 動かない自／動かせない他可 ｝。（庵ほか 2001：147）

(13) このドアは重いなあ。よいしょ、よいしょ。ふう。やっと｛ 開(あ)いた自／開(あ)けられた他可 ｝。（庵ほか 2001：155）

しかし、文脈や場面により自動詞と他動詞の可能形の意味の違いや使い分けが区別されると論じる先行研究もある（石川 1991、本多 2007・2013、楠本 2014 など）。

石川（1991）では、対称的自他動詞において、人および動作の表現など人に注目する場合には他動詞の可能形が用いられ、その動作を受けた物の変化や結果などの物に注目する場合には自動詞が用いられると述べている。つまり、人を主語とした場合は、(14)のように他動詞の可能形が用いられるが、物に注目した場合には、(15)のように自動詞の表現が用いられるということである。

(14) 力がないから、私にはそのドアはあけられない他可。（石川 1991：78）

(15) そのドアは壊れているから、押しても引いてもあかない自よ。（石川 1991：78）

さらに、楠本（2014）は、自動詞文の意味的構成要素[28]を取り上げ、他動詞の可能文と対照し、事態実現への働きかけに注目した。(16)のような自動詞文においては「ドアが開かない」原因は、「鍵がかかっている」というようにドア自体の様態によるものである。つまり、結果状態の主体(S)の様態が結果状態の起因(CF)となっていると述べている。一方、(17)のような他動詞の可能文の場合、両手がいっぱいに荷物を持っていたり腕を怪我していたり手が使えない、または会議中だったり規則で入室禁止であったりしてドアを開けることができない[29]などで、動作主自身や動作主を取り巻く状況が「ドアが開けられない」原因と

[28] 楠本（2014）の有対自動詞可能構文における意味的構成要素は次の通りである。
Agent (A)：行為の動作主、Motive (M)：動作主の意図、Influential Move (IM)：動作主の意図・期待の実現への働きかけ、Causal Factor of Realization (CF)：結果状態成立の要因、Resultant Situation (RS)：結果状態（述部）、Subject (S)：結果状態の主体

[29] (17)に関して、前者の状況は内因可能、後者の状況は外因可能と呼ばれるものである（楠本 2014：107）。

なっている。即ち、動作主(A)と結果状態成立の要因(CF)との間に関係性が存在するとされている。また、(17)のような他動詞の可能文では、「手が使えない」ならば当然「ドアを開ける」ことができないので、動作主の意図・期待の実現への働きかけ(IM)は義務的には存在しないと論じている。それに対して、(16)のような自動詞文では IM の存在は必須となるとされている。

(16) いくら押しても、ドアが開かない自。

〈私〉〈ドアを開ける〉〈ドアを押す〉〈鍵がかかっている〉〈ドア〉〈開かない〉
A　M　IM　CF　[S + RS]

（楠本 2014：105）

(17) 両手がふさがっているので／今会議中なので、ドアが開けられない他可。

〈私〉〈ドアを開ける〉〈手が使えない／入室不可〉〈ドア〉〈開けられない〉
A　M　CF　[S + RS]

（楠本 2014：106）

以上のように、実現可能場面において行為の結果を表現する際に、自動詞と他動詞の可能形の両方が使えると述べている先行研究もあれば、視点や状況により自動詞と他動詞の可能形の使い分けが明確に区別されると述べている先行研究もあり、従来行われてきた考察はさまざまである。しかし、これらの研究では、日本語母語話者の使用実態を分析しているわけではなく、実際の使用場面において、自動詞と他動詞の可能形のどちらの表現がよく使用されているのかについては論じられていない。

4.1.2 日本語母語話者の使用傾向

自動詞、他動詞の可能形の表現の使い方に関する調査は数多くあるが、小林（1996）、楊（2007）、王（2012）、関（2012）、セーリム（2012・2013）など調査目的はいずれも日本語学習者の使用傾向と日本語母語話者との比較であり、日本語母語話者のみを対象としたものは管見の限り見当たらない。以下の表は各先行研究の調査概要と結果をまとめたものである[30]。

[30] 各先行研究の調査目的、調査協力者、調査方法、調査内容などに関しては、第２章を参照。

表４-１　日本語母語話者の使用に関する各先行研究の調査の例文と結果

先行研究	調査の例文	調査結果
小林（1996）	1.（鍵をなくした） 「困ったなあ、 1）ドアがあかない 2）ドアをあけない 3）ドアがあけられない」 4.（鍵を鍵穴に入れる） 「ああ、1）あけた 2）あいた 3）あけられた」	・日本語母語話者の回答は自動詞が一番多い。 ・実現不可能の場合はアク系、アケラレル系（自動詞、他動詞の可能形）のいずれも適切な表現である（問 1）。しかし、日本語母語話者全員が実現可能の場合にアク系（自動詞）を使用する（問 4）。 ・日本語では、行為の結果を表現する場合に、人為が加えられていることがわかっていても、自動詞が好まれる傾向がある。
楊（2007）	6. 最近引越ししたが、ドアが狭くてたんす○____。 7. 物を入れすぎて、かばんのチャック○____。	・日本語母語話者の回答は 92%が自動詞で、5%が可能動詞・助動詞類である。
王（2012）	3. この窓、なかなか____ね。多分錆びているかもしれないよね。 19. 両方とも可愛くて、どれを買うかはなかなか_____。	・動作性の低い文は、状態性がより強調され、日本語母語話者が無標可能表現（可能の意味を表す自動詞）を使用する（問 3：閉まらない）。 ・動作性の高い文は、日本語母語話者が可能表現（他動詞の可能形）を多く使用する（問 19：決められない）。
関（2012）	1. カギを持っていないので、____。 4. カギが壊れているので、_____。 A. ドアが開かない B. ドアが開けられない C. A と B は両方可能 D. A と B は両方不可	・原因が動作主にあり、ドアを開ける動作を実現できない場合は、日本語母語話者全員が「開けられない」（他動詞の可能形）と答えており、他動詞の可能形が自然な表現である（問 1）。 ・原因が主体のドア自体にある場合は、日本語母語話者全員が「ドアが開かない」（自動詞）と「ドアが開けられない」（他動詞の可能形）と答えており、どちらも自然な表現である（問 4）。
セーリム（2012b）（2013ab）	1. かばんは荷物がいっぱいで閉____ない。	・日本語母語話者の回答は、69.5%が自動詞で、30.5%が他動詞の可能形であり、自動詞が用いられる傾向が高い。

以上の先行研究より、日本語母語話者が自動詞を使用する傾向にあるが、行為の動作性の高さや行為の結果の原因が動作主にあるか否か等により他動詞の可能形を用いることもあるということが分かった。しかし、楊（2007）、王（2012）、関（2012）、セーリム（2012・2013）の調査では、可能の意味を持つ自動詞文（無標可能文）を中心に調査を行っているので、設問に結果可能文や属性可能文なども混在している。そのため、複数の意味解釈ができる場合があり、設問によって自動詞の回答が高かったり他動詞の可能形の回答が高かったりと、実際の使用傾向が明らかにされているとは言えない。小林（1996）の調査は、行為の結果の表現の使用に注目しているが、アク―アケルの一組の動詞しか取り扱われていないため、自動詞が使われる傾向にあるとは断言できない。

したがって、本研究では、実現可能場面における行為の結果を表す表現の使用に関して、使用傾向を見るに足りる動詞数、問題数、調査協力者を設定し、日本語母語話者を対象に調査を実施する。

4.2 JNS の調査結果の分析と考察

本節では、実現可能場面における自動詞と他動詞の可能形の使用傾向を分析し、動詞選択の理由を考察する。

4.2.1 JNS の実現可能場面全体にみる使用傾向

まず、実現可能場面全体における自動詞と他動詞の可能形の使い分けの傾向を見るために、JNS の回答を分析した。その結果が表４-２、図４-１である。この表と図は、各場面で JNS が回答した動詞部分を、自動詞と他動詞の可能形に分類し、全設問を合わせた各動詞の使用の割合を示したものである[31]。JNS 一人当たりの設問数が 20 であるため、JNS 50 人の回答件数は合計 1000 件となる。

全体 1000 件のうち、自動詞が 933 件（93.3%）、他動詞の可能形がわずか 67 件（6.7%）であった。自動詞の使用が他動詞の可能形を圧倒的に上回っていることが明らかになった。

[31] 今回の調査では、他動詞の可能形を回答した人のうち、ラ抜き言葉を書いた人も見られた。例えば、「開けられない→開けれない、閉められない→閉めれない、上げられない→上げれない、つけられない→つけれない、開けられた→開けれた、閉められた→閉めれた、上げられた→上げれた、つけられた→つけれた」。これらは、他動詞の可能形として数えることにした。また、場面 2「回んない」、場面 6「出てこない、出てきた」、場面 7「上がんない」の回答は自動詞として数えることにした。

表４-２　JNS の実現可能場面全体にみる回答数と割合

動詞の種類	回答件数	回答割合
自動詞	933	93.3%
他動詞の可能形	67	6.7%
合計	1,000	100.0%

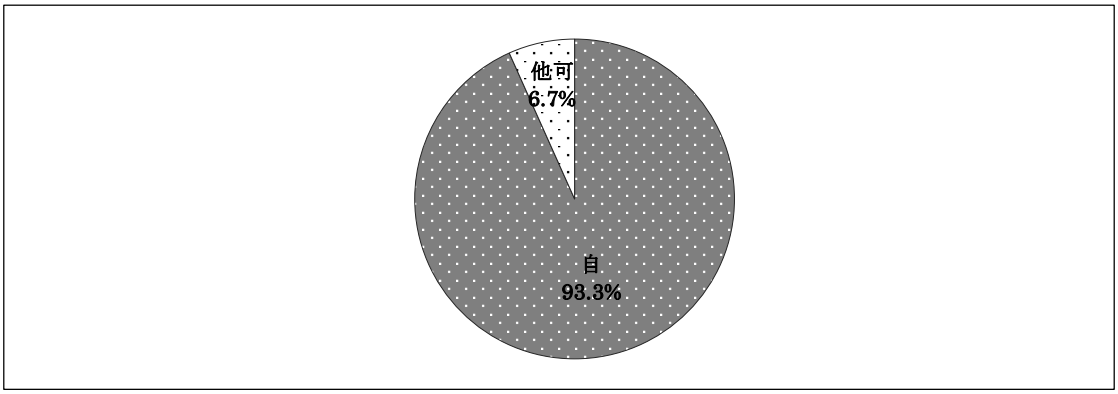


図４-１　JNS の実現可能場面全体にみる回答の割合

４.２.２ JNS の実現不可能と実現可能の場合にみる使用傾向

次に、実現不可能と実現可能の場合の表現を見ていきたい。実現不可能の場合、自動詞が 458 件（91.6%）、他動詞の可能形が 42 件（8.4%）であった。一方、実現可能の場合、自動詞が 475 件（95.0%）、他動詞の可能形が 25 件（5.0%）であった。（表４-３、図４-２）

４.２.１で見られた結果と同じように、実現不可能と実現可能の場合の双方において、自動詞の回答が高い傾向にある。また、他動詞の可能形の使用については、実現不可能の場合の使用率の方が実現可能の場合よりやや高いことが分かった。

表４-３　JNS の実現不可能と実現可能の場合にみる回答数と割合

動詞の種類	実現不可能		実現可能	
	回答件数	回答割合	回答件数	回答割合
自動詞	458	91.6%	475	95.0%
他動詞の可能形	42	8.4%	25	5.0%
合計	500	100.0%	500	100.0%

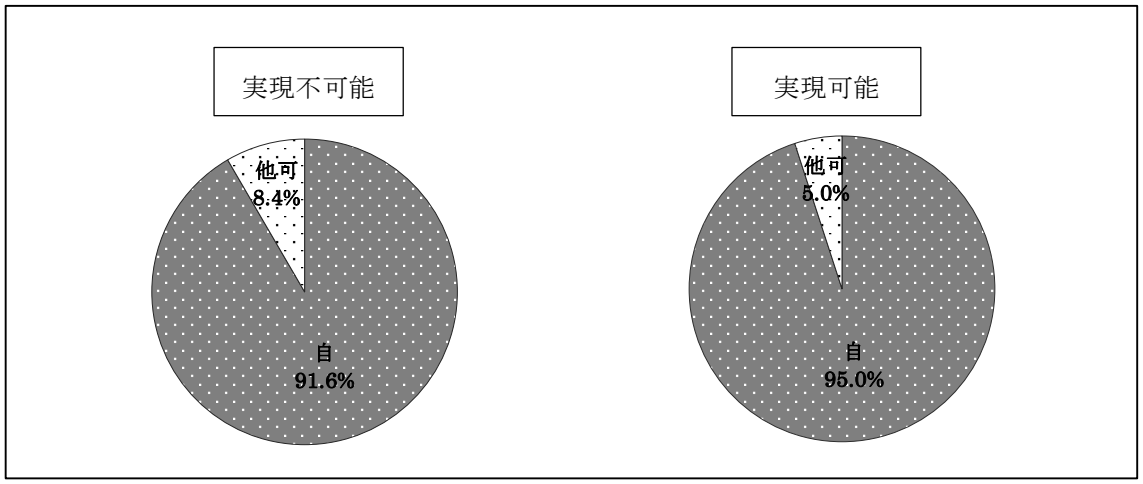


図４-２　JNS の実現不可能と実現可能の場合にみる回答の割合

４.２.３ JNS の場面別にみる使用傾向

次に、場面別の結果を分析する。分析結果は図４-３の通りであり、場面によって割合が若干違うことが分かった。場面 3 では、他動詞の可能形の回答が見られなかった。また、場面 1、場面 2、場面 5、場面 6、場面 7、場面 9、場面 10 では、他動詞の可能形の回答が 10 件（10%）以下と少なかった。

一方、場面 4、場面 8 における他動詞の可能形の使用は、他の場面と比べると、多く見られた。

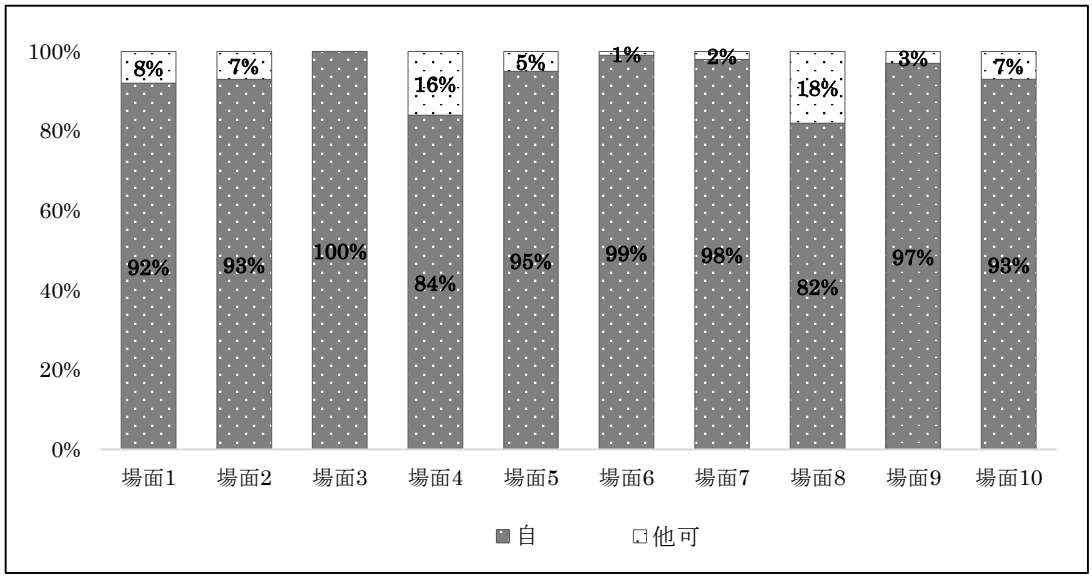


図４-３　JNS の場面別にみる回答の割合

さらに図４-４では、場面別の割合を実現不可能と実現可能の場合に分けている。場面 4、場面 8 の他動詞の可能形の使用率の高さに関して、図４-４から、実現不可能の場合に他動詞の可能形が多く使用されていることが分かった。

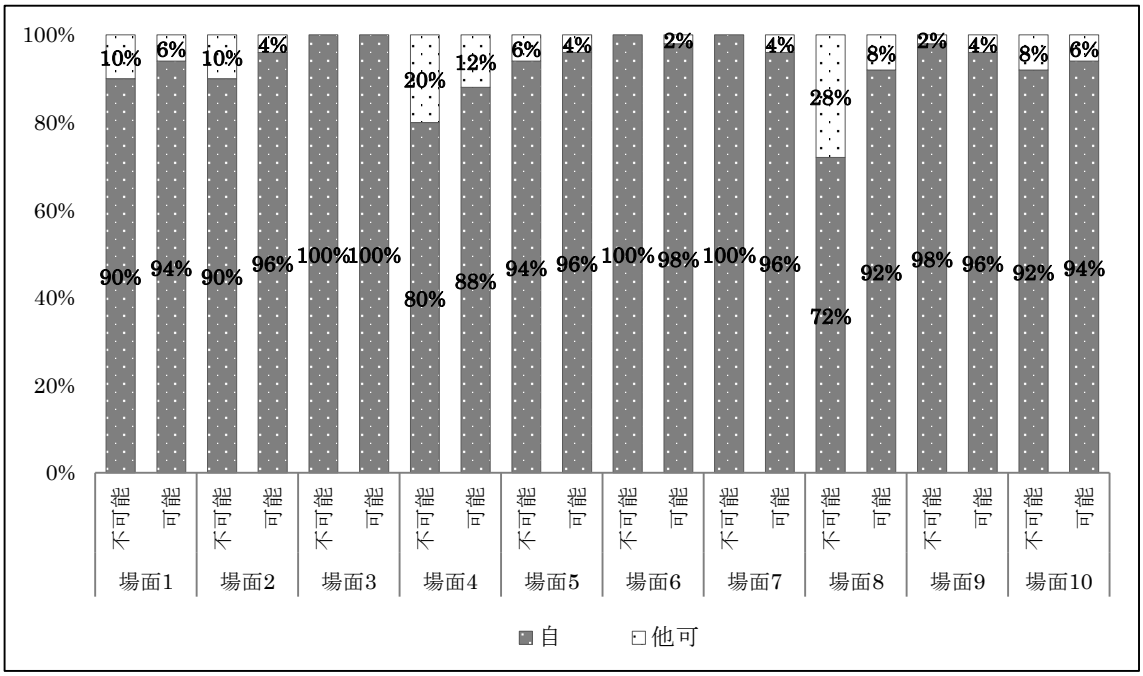


図４-４　JNS の実現不可能と実現可能の場合にみる回答の割合

4.2.4 JNS 別にみる使用傾向

本項では、各 JNS の動詞の使用についてさらに詳しく見るために、動詞の使用傾向、使用パターン、および使用人数を分析する。

まず、各 JNS の回答を見る（図４-５）。各 JNS の設問 20 問の結果を分析したところ、一人（JNS-50）を除き、JNS 全員が自動詞の方を多く使用していることが分かった。

(単位：件)

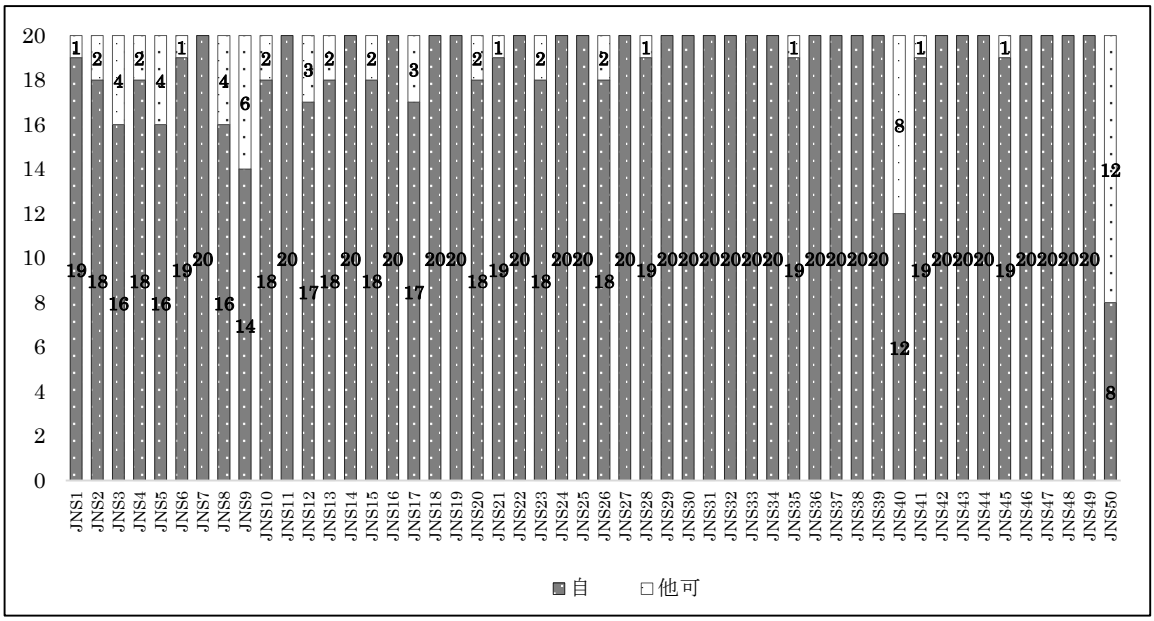


図４-５　JNS 別にみる動詞の回答数

次に各 JNS の自動詞と他動詞の可能形の表現の使用パターンを分類すると、表４-４のように、①「自動詞」と②「自動詞、他動詞の可能形」の 2 パターンに分けることができる。JNS 50 人のうち自動詞のみを回答したのは 27 人（54%）であり、自動詞と他動詞の可能形を回答したのは 23 人（46%）であった。全ての場面で自動詞のみを使用した JNS（パターン①）の方が多いものの、場面によって自動詞と他動詞の可能形を使い分ける JNS（パターン②）もいることが分かった。

表４-４　JNS の動詞の使用パターン

使用パターン	人数	割合
①　自動詞	27	54%
②　自動詞、他動詞の可能形	23	46%
合計	50	100%

また、JNS ごとに、自動詞と他動詞の可能形の使い分けをみると、表４-５に示す通り、全問自動詞を使用した JNS の割合が最も高く、全体の半分以上を占めている。自動詞より他動詞の可能形の方を多用する JNS もいたが、JNS の大半が他動詞の可能形を使用した設問数は 1、2 問程度であった。この結果からも、JNS は他動詞の可能形より自動詞をより多く使用する傾向にあると言える。

表４-５　自動詞と他動詞の可能形の使い分け別にみた JNS の人数と割合

自動詞	他動詞の可能形	人数	割合
20 問	0 問	27	54%
19 問	1 問	7	14%
18 問	2 問	8	16%
17 問	3 問	2	4%
16 問	4 問	3	6%
14 問	6 問	1	2%
12 問	8 問	1	2%
8 問	12 問	1	2%
合計		50	100%

4.2.5 JNS の動詞選択の理由

本調査の結果から動詞選択の理由についてインタビューで分かったことを考察する。JNS がそれぞれの動詞を用いた理由には、動詞の形態の違いや視点の置き方が関係しているようである。本項では、まず、動詞の形態的な原因を、続いて、日本語母語話者の視点の順に考察する。

1）動詞の形態の違い

他動詞の可能形を回答しなかった理由を JNS に聞いたところ、動詞の形態による原因があるということが分かった。「開ける、入れる、閉める、上げる、つける」（場面 1、場面 3、場面 5、場面 7、場面 9）のようなⅡグループ動詞（下一段活用の動詞）は、可能表現にする際に、助動詞「～られる」を用いる。助動詞「～られる」を用いた表現は長くて言いにくいため、他動詞の可能形をあまり使わないとのことである。また、今回の調査では、他動詞の可能形を回答した JNS のうち、ラ抜き言葉[32]を書いた人も多く見られた。例えば、開けられない→開けれない、閉められない→閉めれない、上げられない→上げれない、つけられない→つけれない、開けられた→開けれた、閉められた→閉めれた、上げられた→上げれた、つけられた→つけれた、である。とくに、「入れる」（場面 3）の可能表現「入れられない、入れられた」、ラ抜き言葉「入れれない、入れれた」は言いにくいこともあり、他動詞の可能形を使用した JNS は一人もいなかった。このことから、動詞の形態が他動詞の可能形をあまり使用しない理由の一つとなっていると考えられる。

一方、「消す、通す」などのようなⅠグループ動詞（五段活用の動詞）の場合、可能の言い方は助動詞「～られる」を用いずに「消せる」「外せる」と可能動詞を用いる[33]。そのため、Ⅱグループ動詞より他動詞の可能形の使用傾向がやや高い（場面 4 と場面 8）。ただ

---

[32] ラ抜き言葉とは、「上一段・下一段・カ変活用の動詞に可能の意の助動詞「られる」が付いたものから「ら」が脱落した語。「見られる」「食べられる」「来られる」に対する「見れる」「食べれる」「来れる」など。」（『広辞苑』2008：2929）である。

[33] Ⅱグループ動詞（下一段活用の動詞）の可能形は、母音語幹動詞+rare の形をとるのに対し（例：ake-rare-ru（開けられる）、shime-rare-ru （閉められる）、ire-rare-ru（入れられる））、Ⅰグループ動詞（五段活用の動詞）の可能形は、子音語幹動詞+e の形をとる（例：kes-e-ru （消せる）、tos-e-ru（通せる））。このように音韻的特徴を見ると、Ⅱグループの動詞と比べてⅠグループの動詞は可能形が発音しやすいと言える。両者の音韻的特徴の違いも他動詞の可能形の使用傾向に影響していると考えられる。なお、本調査では、Ⅰグループの動詞である「回す、出す、通す」の他動詞の可能形の使用がⅡグループの動詞とさほど変わらないという結果となったが、同じⅠグループの動詞でも使用傾向に差があるのはなぜかという問いは課題として残っている。

し、「回す、出す、通す」（場面 2、場面 6、場面 10）の他動詞の可能形の回答はⅡグループ動詞（～られる）とさほど変わらない。

2）日本語母語話者の視点

他動詞の可能形を回答しなかった理由として、発話時に、人と物のどちらに視点を置いているかということも関係しているようである。自動詞を回答した JNS は、その動作を受けた物の変化や結果など、物に注目している。つまり、単にその物の状態を表しているということである。一方、他動詞の可能形を回答した JNS は、人の力、努力、責任など（力が及ばない、努力が足りない、自分にも原因があるなど）の理由で、人およびその動作など、人に注目している。

例えば、場面 1「ジャムの蓋を開けようとしている」で、自動詞で「開かない」と答えた JNS は、「蓋が固い」「蓋が悪い」「蓋が開かないという現象を述べている」など蓋の状態を表すことに重点を置いていた。一方、他動詞の可能形で「開けられない」と回答した JNS は、「力が足りない」「開け方が悪い」「自分に責任がある」など、蓋を開ける人やその動作に注目して表現していることが分かった。また、場面 4「字を消そうとしている」では、自動詞で「消えた」と答えた JNS は「字が消えたという現象を述べている」「アルコールで字を消した結果、字が消えた」など、字の状態の変化に注目し、物に焦点をあてていたが、他動詞の可能形で答えた JNS は「努力した結果、やっと消すことができた。消せた」など、人の行為や努力で実現できたと捉え、人に注目して表現していた。

このように、一つの場面でも複数の捉え方ができるが、本調査ではどの場面においても自動詞の回答が多かったため、実現可能場面で行為の結果を表す際には物に視点が置かれることの方が一般的だと考えられる。

小林（1996）が指摘しているように、日本語では行為の結果を表現する場合には、人為が加えられていることがわかっていても、自動詞が好まれて使われる傾向がある。また、この結果は、まさに寺村（1976、1992）、池上（1981）、吉川（1995）などが指摘しているように日本語がナル言語であることを示している。

本章では、日本語母語話者にみる実現可能場面における行為の結果の表現（自動詞と他動詞の可能形）の使用傾向およびその理由が明らかになった。次章では、TNS が使用するタイ語の行為の結果を表す表現の特徴、使用傾向、使用理由などを調べ、JNS が使用する日本語の表現や使用傾向と対照する。

4.3 本章のまとめ

実現可能場面における JNS の動詞の使用実態に関する調査で明らかになった結果を、以下にまとめる。

・JNS の実現可能場面（実現不可能と実現可能の場合）10 場面、20 問の回答から、実現可能場面全体を見ても、場面別に見ても、実現したか否かに関わらず、自動詞の使用が他動詞の可能形より高い傾向にある。

・JNS 別に見た結果、50 人中 49 人（98%）が他動詞の可能形より自動詞をより多く使用している。

・JNS がそれぞれの動詞を選択した理由には、Ⅰグループ動詞（五段活用の動詞）とⅡグループ動詞（下一段活用の動詞）の可能形の形態の違いや、結果の状態や物の変化に注目するという日本語母語話者の視点の置き方の特徴が関係していると考えられる。

上述のように、日本語では実現可能場面における行為の結果を表す表現として自動詞が使用される傾向にあることが明らかになった。つまり、状態の変化に注目し、物に視点を置いて表現しているということである。

なお、本調査で得られた結果は、次章で TNS のタイ語の行為の結果を表す表現と対照し、第 6 章で TJL の使用との比較を行い、日本語教育へどう応用させていけばよいかを考えたい。

第５章　タイ語母語話者にみるタイ語の行為の結果を表す表現の使用傾向

本章では、タイ語の行為の結果を表す表現に関する先行研究を踏まえた上で、タイ語母語話者（TNS）の実現可能場面で用いる表現の使用実態を明らかにするため、調査結果の分析と考察を行う。また、第４章での JNS に対する調査の結果と対照し、両言語の表現の特徴や使用傾向などを明らかにする。

５.１　タイ語の行為の結果を表す表現に関する先行研究

本節では、タイ語の文法的な特徴について概観した後、タイ語の行為の結果を表す表現に関する先行研究を取り上げる。ここでは、日本語の行為の結果を表す表現と対照しながらタイ語の表現を概観しておく。

５.１.１　タイ語の文法的な特徴

タイ語は孤立語に属し、膠着語である日本語とは形態的にも異なると指摘されている。日本語と異なるタイ語の文法的特徴に関して、アリヤウィリヤナン（1989）、坂本（1996）、松井（1998）、三上（2002）、宮本（2003）、田中（2004）などを参照してまとめると、おおよそ次のようである[34]。

1）語順

タイ語の基本語順は「主語 ＋ 述語 ＋ 目的語 ＋ 補語」「主語 ＋ 動詞」である。また、状況、場面に応じて目的語が主題として文頭に置かれて強調されたり、周知の主語や目的語が省略されたりする。疑問文でも語順は変わらない。否定詞は否定される語の前に置くのが原則だが、意味関係によって前後に移動することがある。

(18) chǎn　thaan　khâaw
　　私　　食べる　　ご飯
　　私はご飯を食べる。

[34] タイ語の文法的特徴は、本研究対象である行為の結果を表す表現に関わるものだけを取り上げる。

(19) chǎn rɔ́ɔŋhaŷ

私　　泣く

私は泣いた。

(20) (chǎn)　maŷ　rian

（私）　　否定　勉強する

（私は）勉強しない。

2）**活用およびテンス**

タイ語の動詞には、英語の現在形、過去形、未来形のような時制（テンス）を示す語形変化はなく、日本語の動詞や形容詞の活用形（未然形、連体形、終止形）のような活用形もない。

また、文法範疇としてのテンスがなく、文脈（場面）や時間副詞などによって現在、過去の時制が決定される。

(21) chǎn <u>tham</u> kaanbaân

私　　やる　宿題

私は宿題をやる。

(22) <u>mûawaannîi</u> chǎn <u>tham</u> kaanbaân <u>lɛ́ɛw</u>

昨日　　私　　やる　　宿題　　完了

私は昨日宿題をやった。

(23) chǎn <u>kamlaŋ</u> <u>tham</u> kaanbaân

私　　現在　　やる　　宿題

私は宿題をやっている。

3）**動詞**

タイ語の動詞の分類において、他動詞と自動詞の区別を立てるかどうかは議論の分かれるところであるが、本研究では、行為の結果を表す表現に関して日本語の自動詞と他動詞と照らし合わせるために、対象の変化（運動・状態）に関わる意味を持つ動詞を取り上げて分類した坂本（1985）[35]を参考にし、①他動詞、②自動詞、③他動詞と自動詞の両方に用

[35] 坂本（1985）は、①他動詞、②自動詞、③他動詞と自動詞の両方に用いられるもの、④使役動詞の 4 つに分類しているが、本研究では、使役動詞に触れないため、①、②、③のみを取り上げることとする。

いられるものの 3 つに分類する。

① 他動詞は、SVO 文型において対象格を目的語にとる動詞（tòp 叩く、sày 入れる など）

(24) chǎn tòp yuŋ

私　叩く　蚊

私は蚊を叩いた。

② 自動詞は対象格を主語にとる動詞（taay 死ぬ、nɔɔn 寝る など）

(25) yuŋ taay

蚊　死ぬ

蚊は死んだ。

③ 他動詞と自動詞の両方に用いられるもの（pə̀ət 開ける、pìt 閉まる など）

(26) chǎn pə̀ət prà?tuu

私　開ける　ドア

私はドアを開けた。

(27) prà?tuu pə̀ət

ドア　開く

ドアが開いた。

5.1.2 タイ語の動詞述語の構造

タイ語における行為の結果を表す表現は日本語と同様に複数の表現が存在する。第 4 章で述べたように、日本語の行為の結果を表す表現には、「開いた」「開けられた」のように、「自動詞」と「他動詞の可能形」の二通りの表現がある。一方、タイ語では、行為の結果を表すのに、「動詞 $_1$（+名詞）+ 動詞 $_2$」のように二つの動詞を組み合わせる表現（動詞連続構文[36]）が用いられる[37]。動詞連続が用いられる場合、動詞 $_2$（後項動詞）は無意志

[36] タイ語の文法では「動詞連続構文」と呼ばれている。坂本（1989）、バンチョンマニー（1999）では、動詞連続構文とは、同一の文の中に複数の動詞または動詞+目的語の形の動詞句が、その動詞間の関係を示す標識なしに、連続して現れて、一つの複合的述語を形成しているというタイプの構文であると述べられている。動詞間の関係の解釈はその一連の動詞の意志性と二つの事態の生起の時間関係によって解釈される。特に、後項動詞が意志動詞であるかあるいは無意志動詞であるかによって解釈が異なるのである。後項動詞が無意志動詞であり、かつ二つの事態の生起が継続的である場合、後項動詞が前項動詞の結果であると解釈され、「結果構文」と解釈される。それ以外は狭義の動詞連続構文と解釈される。

動詞で、動詞 1（前項動詞）の行為の結果を表し、動詞 1はそれを成就するための先行動作を表すのが一般的であると言われる（坂本 1989）。

本研究では、日本語の行為の結果を表す表現（自動詞と他動詞の可能形）と対照するために、次のように、分析対象とする表現を「結果表現」と「可能表現」の二つに大別する。

1）結果補語

タイ語の行為の結果を表す結果表現[38]に関して、Wongsantiwanich 1983、坂本 1985、Thepkanjana 2000、高橋 2010 などでは、対応する意味を持つ自動詞と他動詞の形が同じか否かという観点から、①自他同形の「自他交替可能動詞」（他動詞文と自動詞文に使われる動詞が同じ形を持つ）と②自他異形の「自他交替不可能動詞」（他動詞文と自動詞文が異なる形を持つ）の 2 種類に大きく分けている[39]。

① 自他同形の動詞では、他動詞文でも自動詞文でも動作主の行為とその結果が含意されており、他動詞文では行為に、自動詞文では結果に焦点があるという点に違いがある。つまり、動作の達成を意味に含んでいるのである[40]。

(28) khǎw pə̀ət prà?tùu　　＜行為＞

彼　開ける　ドア

彼はドアを開けた。　（坂本 1985：185）

また、田中（2002）では、動詞連続構造のうち前項動詞（動詞 1）が目的語をとり、その目的語が後に続く後項動詞（動詞 2）の動作対象になる表現を構成することがあるとされている。後項動詞（動詞 2）の前に否定詞を用いて不可能や結果未達成の意味を表す（p.97）。

さらに、峰岸（2007）では、タイ語の動詞連続「動詞 1＋ 動詞 2」において、動詞 1が「する」類動詞、動詞 2が「なる」類動詞である場合、行為（動詞 1）が意図された結果、結果（動詞 2）が成就したことをあらわすと述べられている。この因果関係をを示す「するーなる」類の動詞の組み合わせは、「～して、～して」といった継起的動作を示す「するーする」類の組み合わせと並んで、タイ語では最も一般的な動詞連続構文である。また、動詞 1＋ mây ＋ 動詞 2のように、動詞連続の中に否定詞を挟むことで、行為（動詞 1）が意図されたが、結果（動詞 2）が成就しなかったことをあらわすことができる（p. 214）。

タイ語の動詞連続構文の構造の詳しくは、Harabutra（1977）を参照。

37 会話などで、状況、場面に応じて既知情報が分かる場合は動詞 1が省略される。

38 本研究の「結果表現」は Takahashi（2007）の「達成構文 accomplishment construction」、高橋（2010）の「因果動詞句連続構文（結果性表現）」に相当する。

39 ①自他同形と②自他異形の動詞の日タイ語対照の例は、Methapisit（2002）を参照。

40 なお、自・他両用動詞文は行為とその結果を含意するから、単独で動作の達成を意味することができるばかりでなく、以下のように結果の使役動作を表す補語をとることはできない（坂本 1985：185）。

*khǎw　pə̀ət　prà?tùu　pə̀ət

彼　開ける　ドア　開く

*彼がドアを開けたらドアが開いた。

(29) pràʔtùu pə̀ət　　＜結果＞

ドア　　開く

ドアは開いた。　　（坂本 1985：185）

②自他異形（音形を持つ、意味的に対応する他動詞と自動詞として挙げたもの）は、他動詞が行為を表し自動詞がその結果を表すという原因結果の因果関係に立つものである。例えば、(30)の khâa（殺す）は(31)の taay（死ぬ）の達成を含意しない。達成を表すには(32)の(30)khâa（殺す）＋(31)taay（死ぬ）ような文型「主語 ＋ 述語 ＋ 目的語 ＋ 補語」をとる必要がある。

(30) khǎw khâa khon　　＜行為＞

彼　　殺す　人

彼は人を殺した。（死んだかどうか不明）　　（坂本 1985：185）

(31) khon taay　　＜結果＞

人　　死ぬ

人は死んだ。

(32) khǎw khâa khon taay　　＜動作の達成＞

彼　　殺す　人　　死ぬ

彼は人を殺した。（死んだ）　　（坂本 1985：185）

坂本（1985）では、このように khâa（殺す）が補語 taay（死ぬ）を伴わないと動作の達成を表し得ないのは、他動詞が意味するものはあくまで目的語に対する働きかけの行為であって、その結果としての目的語の状態を意味しないからであると述べられている。したがって、日本語の「殺す」のように動作の達成を表し得る動詞とは同義ではないのである。

他方、自・他両用動詞 pə̀ət（開ける／開く）を述語とする文は、結果補語をとらなくても動作の達成を意味することができるが、動作の達成に焦点を当てる場合、(33)のように方向を表す動詞 ʔɔ̀ɔk（出る）を補語にとる[41]。さらに、タサニー・メーターピスィット氏（私信）によると、(34)のような方向動詞（ʔɔ̀ɔk など）がある例文は、動作主の恒常的属性（能

[41] 方向を表す動詞、pay（行く）maa（来る）khâw（入る）ʔɔ̀ɔk（出る）khûn（上がる）loŋ（下りる）は、他の動詞の補語として用いられると、物理的な方向以外に心理的抽象的方向を表す。このような特性を持つものを方向動詞と呼ぶ。

力)「ドアを開けられる」を描写するときによく使われる表現だと言われている(高橋2010)。また、例文(34)のʔɔ̀ɔk（出る）が否定された例文(35)は、「やってできる」という動作主の属性（そうした能力があること）を表す例文(34)と対照的に、「やってもできない」という動作主の属性（そうした能力がないこと）を表すと論じている。

(33) khǎw pə̀ət prà̀ʔtuu ʔɔ̀ɔk　　＜動作の達成＞

彼　開ける　ドア　出る（方向動詞）

彼はドアを開け放った。　（坂本 1985：190）

(34) maanii pə̀ət prà̀ʔtuu ʔɔ̀ɔk　　＜動作主の恒常的属性（能力）＞

マーニー　開ける　扉　出る

マーニーは扉を開けると扉が外の方向に動く

→マーニーは扉を開けらる。　（高橋 2010：117）

(35) maanii pə̀ət prà̀ʔtuu mây ʔɔ̀ɔk

マーニー　開ける　扉　否定　出る

マーニーは扉を開けると扉が外の方向に動かない。

→マーニーは扉を開けられない。　（高橋 2010：117）

要するに、(34)(35)のような例文は、結果表現の形式であるが、可能の意味を表すということである。しかし、「pə̀ət prà̀ʔtuu (mây) ʔɔ̀ɔk」のような結果表現は動作の結果、動作の達成、動作主の属性（能力）を表すため、このタイプは第４章で見てきた日本語の表現と対照した場合に、自動詞と他動詞の可能形どちらに相当するか、明確には判断できない。

続いて、行為の結果を表す可能表現にはどんな表現があるかを見てみたい。

2）可能補語

タイ語の行為の結果を表す可能表現[42]に関して、野津（1993）、釣部（1998）、田中（2002）、高橋・新里（2005）、高橋（2010）などでは、前述の方向を表す補語や結果を表す補助動

[42] タイ語の可能表現は、田中（1989・2004）、野津（1993）、釣部（1998）などでは可能を表す補語や補助動詞を dây, pen, wǎy の三種類に分けているが、その中では、dây が最も広い意味を持っており、行為の結果を表す表現の代表的な表現の一つであるため、本研究では、dây のみを取り上げることとする。なお、dây、pen、wǎy の三つの語の表すそれぞれの可能の意味の違いは次のようであることが知られている。

dây：身体、能力、条件、許可があるために可能である

pen：練習、習得によって可能である

wǎy：悪条件のもとにおいて、可能である。余力があるために可能である

詞の場合と同様、可能 daŷ[43]・不可能 maŷ daŷ が事態を表す表現として用いられている。とくに否定表現の場合は結果未達成を意味する。

野津（1993）は、(36)(37)の例文を挙げ、動詞連続構文の「動詞 $_1$ + 動詞 $_2$（結果）」型は文章の中では可能の意味を表し、動詞 $_1$ と動詞 $_2$ の間に否定詞を挟んで「動詞 $_1$ + maŷ + 動詞 $_2$（結果）」という形で不可能をとることができると述べている。

まず(36)は、maŷ daŷ（否定＋得る）という否定表現が用いられており、動詞 $_1$ の表す動作や事態の行為を行うこと自体が不可能という「主観的不可能」を表している。一方、(37)は maŷ ʔɔ̀ɔk（否定＋出る）という動詞連続によって不可能であることが表現されており、動詞 $_1$ を行ったうえでの自発的結果の実現性について言及したものであるため、部分的不可能」という解釈となる。したがって(37)は、話者の意向を除いた事実としての不成立、不可能を言うものであり、「客観的不可能」表現である。

(36) pə̀ət maŷ <u>daŷ</u>　＜状況、主体の能力、性状の欠如、主体の主観的判断による不可能＞

開ける　否定　得る（可能動詞）

開けられない。　（野津 1993：89）

(37) pə̀ət maŷ <u>ʔɔ̀ɔk</u>　＜事実として動詞 $_1$ 実行の客観的不可能を表す＞

開ける　否定　出る（方向動詞）

開けられない。　（野津 1993：89）

以上、タイ語の行為の結果を表す表現に関する先行研究を見てきた。実現可能場面において行為の結果を表現する際に、結果補語もしくは可能補語を使用できると述べている先行研究がある。しかしこれらの研究は、日本語との対照研究ではないため、結果補語と可能補語を日本語と対照した場合にどれが自動詞に相当するのか、どれが他動詞の可能形に相当するのかについて言及している文献は存在しない。日本語とタイ語とを照らし合わせて対応を明確にすることは課題とすべきことであるが、本研究では、物の変化の状態を表す結果補語を日本語の自動詞、人の能力や可能性、動作の達成を表す可能補語を日本語の

[43] 田中（2004）は、daŷ について、「daŷ は本来、本動詞の「得る」という意味から発展したもので、通常、動詞に後置されるが、前置されることも多く、その用法は多様をきわめる。daŷ は一般的な可能の状況をその背景に深く言及することなく、かつ主観を交えることなく、広範にあらわす特徴がある。」（p. 278）とされている。動詞として用いた場合には「得る」という意味を持つが、本研究では可能の意味を表す助動詞として用いた場合に注目して考察を進める。

他動詞の可能形に対応させることとする[44]。

また、これらの研究は、タイ語母語話者の使用実態を分析しているわけではなく、実際の使用場面において、結果補語と可能補語のどちらの表現がよく用いられているのかについて論じていない。

したがって、本調査では、タイ語母語話者がタイ語で実現可能場面での行為の結果を表現する際に、どのような表現を用いる傾向があるのか、日本語と対照した際にどういった違いが見られるかを調べるために、日本語の内容に合わせてタイ語版を作成し、タイ語母語話者の使用実態を調査することとする[45]。

5.2 TNS の調査結果の分析と考察

本節では、TNS による実現可能場面における結果補語と可能補語の使用傾向を分析し、なぜ結果補語、あるいは可能補語を選択したのか、その理由を考察する。

なお、本節では、結果補語を用いた表現を結果表現、可能補語を用いた表現を可能表現と呼ぶ。

5.2.1 TNS の実現可能場面全体にみる使用傾向

まず、実現可能場面全体における結果表現と可能表現の使い分けの傾向を見るために、TNS の回答を分析した。その結果が図 5-1 である。この図は、各場面で TNS が回答した動詞部分を、結果表現と可能表現に分類し、全設問を合わせた各動詞の使用の割合を示したものである。TNS 一人当たりの設問数が 20 であるため、TNS 50 人の回答件数は合計 1000 件となる。

全体 1000 件のうち、結果表現が 596 件（59.6%）、可能表現が 404 件（40.4%）であり、結果表現の使用が可能表現をやや上回っていることが明らかになった。

---

[44] この対応は、日本語とタイ語の対照研究を行っている研究者の意見を参考にしたものである。

[45] タイ語母語話者の調査目的、調査協力者、調査方法、調査内容などに関しては、第 3 章を参照。

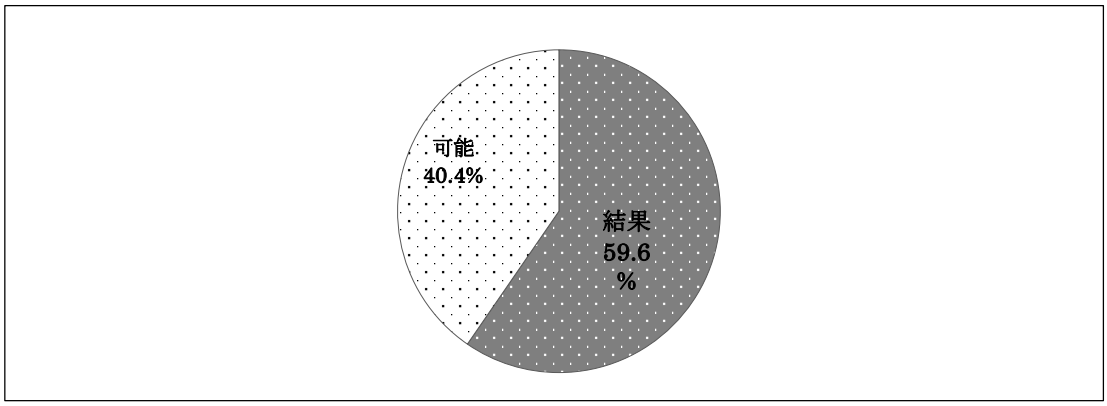


図５-１　TNS の実現可能場面全体にみる回答の割合

５.２.２ TNS の実現不可能と実現可能の場合にみる使用傾向

次に、実現不可能と実現可能の場合の表現を見ていきたい。

実現不可能の場合、結果表現が 337 件（67.4%）、可能表現が 163 件（32.6%）であった。一方、実現可能の場合、結果表現が 259 件（51.8%）、可能表現が 241 件（48.2%）であった。（図５-２）

場面と表現の使用の関係に関しては、５.２.１で見られた結果と同様の結果が得られたが、実現不可能の場合より実現可能の場合に可能表現が多く使用されているという結果は、日本語における可能表現の使用と逆の傾向を示している。

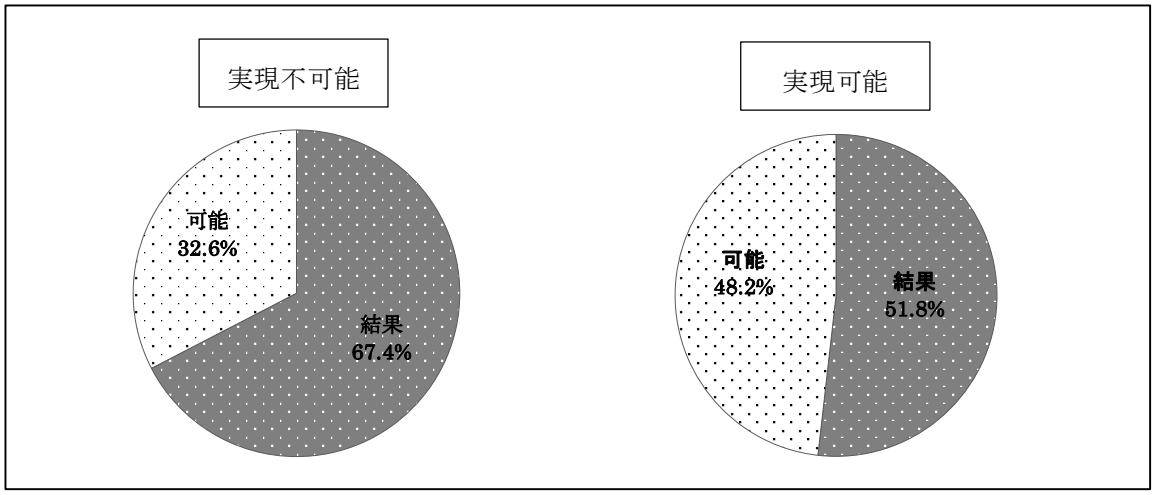


図５-２　TNS の実現不可能と実現可能の場合にみる回答の割合

5.2.3 TNS の場面別にみる使用傾向

次に、場面別の結果を分析する。分析結果は図５-３の通りであり、場面によって各表現の使用の割合にばらつきがあることが分かった。結果表現の回答が高い場面もあれば、低い場面もある。逆に、可能表現の回答も高い場面もあれば低い場面もあり、日本語と異なる傾向にある。

場面 1、4、6、8、9、10 は結果表現の回答が半分以上であったのに対し、場面 2、3、5 は結果表現の回答が少なく、可能表現の回答が多かった。場面 7 は結果表現と可能表現の使用が半々ぐらいであった。その中でも、結果表現の使用がとくに多かった場面（80%以上）は、場面 4、6、8、9 であり、可能表現の使用がとくに多かった場面（80%）は、場面 2、5 であった。

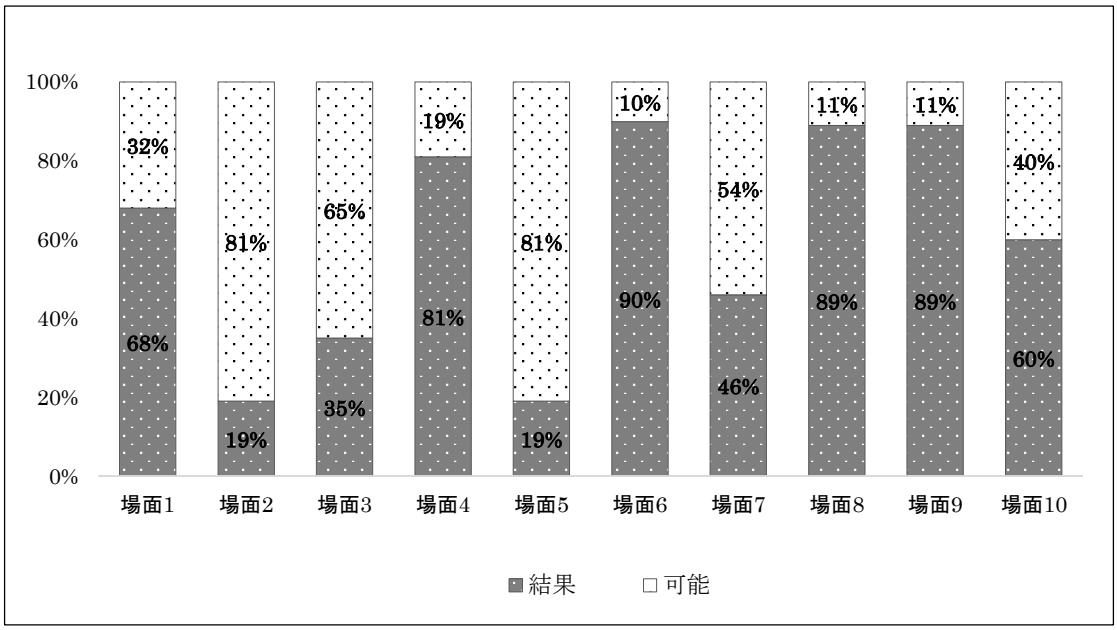


図５-３　TNS の場面別にみる回答の割合

さらに図５-４では、場面別の割合を実現不可能と実現可能の場合に分けている。どの場面においても、実現可能の場合に可能表現が多く使用されていることが分かった。また、どの場面も実現不可能の方が実現可能の場合より結果表現の回答が高い傾向にある。これはつまり、実現可能の場合の方が可能表現が多く使われる傾向にあることを示しているだろう。

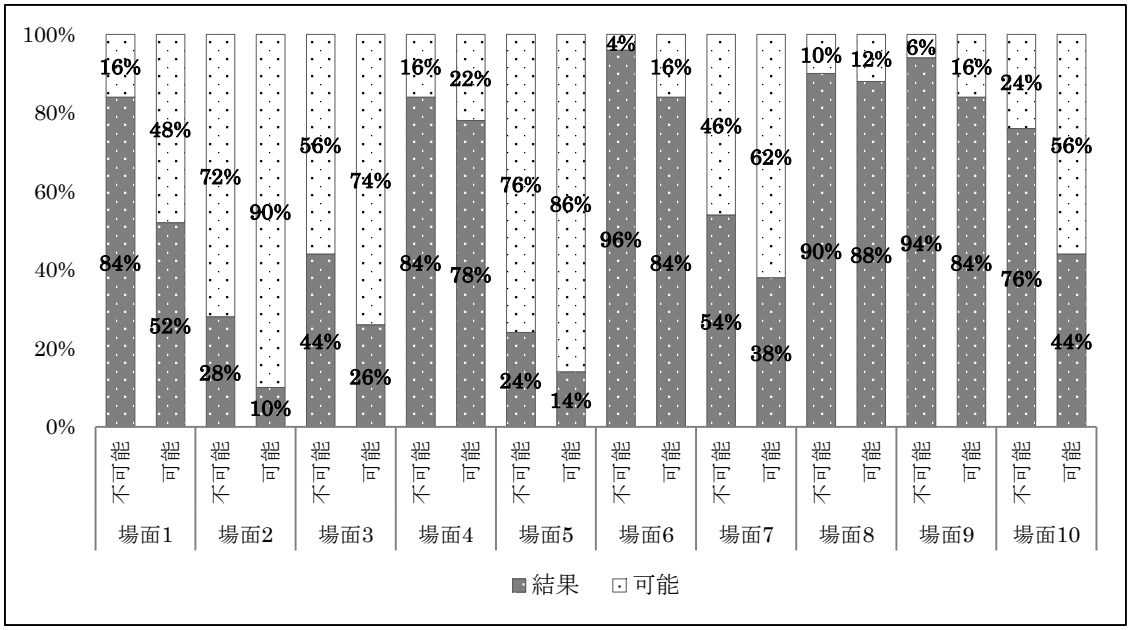


図５-４　TNS の実現不可能と実現可能の場合の回答の割合

表５-１から分かるように、場面 1、4、6、8 ではそれぞれ?ɔ̀ɔk（出る）、場面 2 は pay（行く）、場面 3、10 は khaŵ（入る）、場面 9 は tìt（つく）という結果補語がそれぞれ用いられており、用いられる結果補語は一種類に限られていた。一方、場面 5 は khaŵ（入る）と loŋ （下りる）、場面 7 は?ɔ̀ɔk （出る）、khŭn（上がる）、loŋ （下りる）、pay（行く）というように用いられる結果補語のバリエーションが他の場面より多かった。結果表現の補語は、行為や対象物の状態、移動の方向などによって決まってくるのだろう。

タイ語における行為の結果を表す表現は、日本語の表現とかなり異なることが分かる。前述の通り、行為を表す動作動詞 1（前項動詞）の後にその結果や可能を表す動詞 2（後項動詞）、つまり、結果補語が置かれることとなるが、このような「行為→結果（未）達成」という構造は非常に生産的で表現の幅が広い。ある行為の結果生じる方向は、人によって捉え方が異なるため、khaŵ（入る）、?ɔ̀ɔk （出る）、khŭn（上がる）、loŋ（下りる）、pay（行く）、maa（来る）など様々な表現が使われる[46]。

[46] 方向動詞ではそれぞれ次のような意味特徴がみられる（田中 1989・2004）。
?ɔ̀ɔk（出る）：ある動作が内部から外部に向かう
khaŵ（入る）：動作行為が積極的な方向へと進行し、またその結果、ある動作行為が完全に結果の達成をみる状態を表す。原理的には外部から内部に力関係が及ぶ
khŭn（上がる）：動作行為が下方から上方へ向かう
loŋ （下りる）：動作行為が上方から下方へ向かって進む、あるいは程度の減少といった変化を表す

一方、「行為→実現（不）可能」の構造は、可能か否かを示すので、可能補語 dây（得る）だけを動詞 1（前項動詞）の後に付ける。

このように、タイ語の行為の結果を表す表現は場面によってさまざまであり、いずれの場面においても結果を表す自動詞の使用が多い日本語とは異なることが分かった。

表５-１　TNS の場面別にみる結果補語および可能補語の回答数

（単位：件）

場面	行為	結果							可能		合計
		ʔɔ̀ɔk 出る	khâw 入る	tìt つく	khɯ̂n 上がる	loŋ 下りる	pay 行く	小計	dây 得る	小計	
1.	pə̀ət 開ける	68	0	0	0	0	0	68	32	32	100
2.	bìt 回す	0	0	0	0	0	19	19	81	81	100
3.	sày 入れる	0	35	0	0	0	0	35	65	65	100
4.	lóp 消す	81	0	0	0	0	0	81	19	19	100
5.	pìt 閉める	0	2	0	0	17	0	19	81	81	100
6.	bìip 出す	90	0	0	0	0	0	90	10	10	100
7.	dɯŋ 引く	4	0	0	33	7	2	46	54	54	100
8.	thɔ̀ɔt 外す	89	0	0	0	0	0	89	11	11	100
9.	cùt つける	0	0	89	0	0	0	89	11	11	100
10.	rɔ́ɔy 通す	0	60	0	0	0	0	60	40	40	100
合計		332	97	89	33	24	21	596	404	404	1,000

pay（行く）：空間における話者の視点から見た離反を表す

tìt（つく、くっつく）：ある行為の結果がそこに固定される

場面１　ジャムの蓋を開けようとしている

実現場面	結果表現	可能表現
実現不可能	pə̀ət　mǎy　ʔɔ̀ɔk 開ける　否定　出る 開かない	pə̀ət　mǎy　dǎy 開ける　否定　得る 開けられない
実現可能	pə̀ət　ʔɔ̀ɔk　lɛ́ɛw 開ける　出る　完了 開いた	pə̀ət　dǎy　lɛ́ɛw 開ける　得る　完了 開けられた

場面２　キーを回そうとしている

実現場面	結果表現	可能表現
実現不可能	bìt　mǎy　pay 回す　否定　行く 回らない	bìt　mǎy　dǎy 回す　否定　得る 回せない
実現可能	bìt　pay　lɛ́ɛw 回す　行く　完了 回った	bìt　dǎy　lɛ́ɛw 回す　得る　完了 回せた

場面３　コンタクトを入れようとしている

実現場面	結果表現	可能表現
実現不可能	sày　mǎy　khǎw 入れる　否定　入る 入らない	sày　mǎy　dǎy 入れる　否定　得る 入れられない
実現可能	sày　khǎw　lɛ́ɛw 入れる　入る　完了 入った	sày　dǎy　lɛ́ɛw 入れる　得る　完了 入れられた

場面４　字を消そうとしている

実現場面	結果表現	可能表現
実現不可能	lóp　mǎy　ʔɔ̀ɔk 消す　否定　出る 消えない	lóp　mǎy　dǎy 消す　否定　得る 消せない
実現可能	lóp　ʔɔ̀ɔk　lɛ́ɛw 消す　出る　完了 消えた	lóp　dǎy　lɛ́ɛw 消す　得る　完了 消せた

場面５　車の後ろの扉を閉めようとしている

実現場面	結果表現	可能表現
実現不可能	pìt　mây　loŋ / khâw 閉める　否定　下りる／入る 閉まらない	pìt　mây　dây 閉める　否定　得る 閉められない
実現可能	pìt　loŋ / khâw　lɛ́ɛw 閉める　下りる／入る　完了 閉まった	pìt　dây　lɛ́ɛw 閉める　得る　完了 閉められた

場面６　歯磨き粉を出そうとしている

実現場面	結果表現	可能表現
実現不可能	bìip　mây　ʔɔ̀ɔk 出す　否定　出る 出ない	bìip　mây　dây 出す　否定　得る 出せない
実現可能	bìip　ʔɔ̀ɔk　lɛ́ɛw 出す　出る　完了 出た	bìip　dây　lɛ́ɛw 出す　得る　完了 出せた

場面７　ブラインドを上げようとしている

実現場面	結果表現	可能表現
実現不可能	dɯŋ　mây　khɯ̂n / loŋ / ʔɔ̀ɔk / pay 引く　否定　上がる／下りる／出る／行く 上がらない	dɯŋ　mây　dây 引く　否定　得る 上げられない
実現可能	dɯŋ　khɯ̂n / loŋ / ʔɔ̀ɔk / pay lɛ́ɛw 引く　上がる／下りる／出る／行く　完了 上がった	dɯŋ　dây　lɛ́ɛw 引く　得る　完了 上げられた

場面８　指輪を外そうとしている

実現場面	結果表現	可能表現
実現不可能	thɔ̀ɔt　mây　ʔɔ̀ɔk 外す　否定　出る 外れない	thɔ̀ɔt　mây　dây 外す　否定　得る 外せない
実現可能	thɔ̀ɔt　ʔɔ̀ɔk　lɛ́ɛw 外す　出る　完了 外れた	thɔ̀ɔt　dây　lɛ́ɛw 外す　得る　完了 外せた

場面９　マッチをつけようとしている

実現場面	結果表現	可能表現
実現不可能	cùt　maŷ　tìt つける　否定　つく つかない	cùt　maŷ　daŷ つける　否定　得る つけられない
実現可能	cùt　tìt　léɛw つける　つく　完了 ついた	cùt　daŷ　léɛw つける　得る　完了 つけられた

場面１０　糸を通そうとしている

実現場面	結果表現	可能表現
実現不可能	rɔ́ɔy　maŷ　khaŵ 通す　否定　入る 通らない	rɔ́ɔy　maŷ　daŷ 通す　否定　得る 通せない
実現可能	rɔ́ɔy　khaŵ　léɛw 通す　入る　完了 通った	rɔ́ɔy　daŷ　léɛw 通す　得る　完了 通せた

5.2.4 TNS 別にみる使用傾向

続いて、各 TNS の表現の使用についてさらに詳しく見るために、表現の使用傾向を分析する。まず、各 TNS の回答を見る（図５-５）。各 TNS の設問 20 問の結果を分析したところ、TNS 全員が結果表現と可能表現を両方使用していることが分かった。

(単位：件)

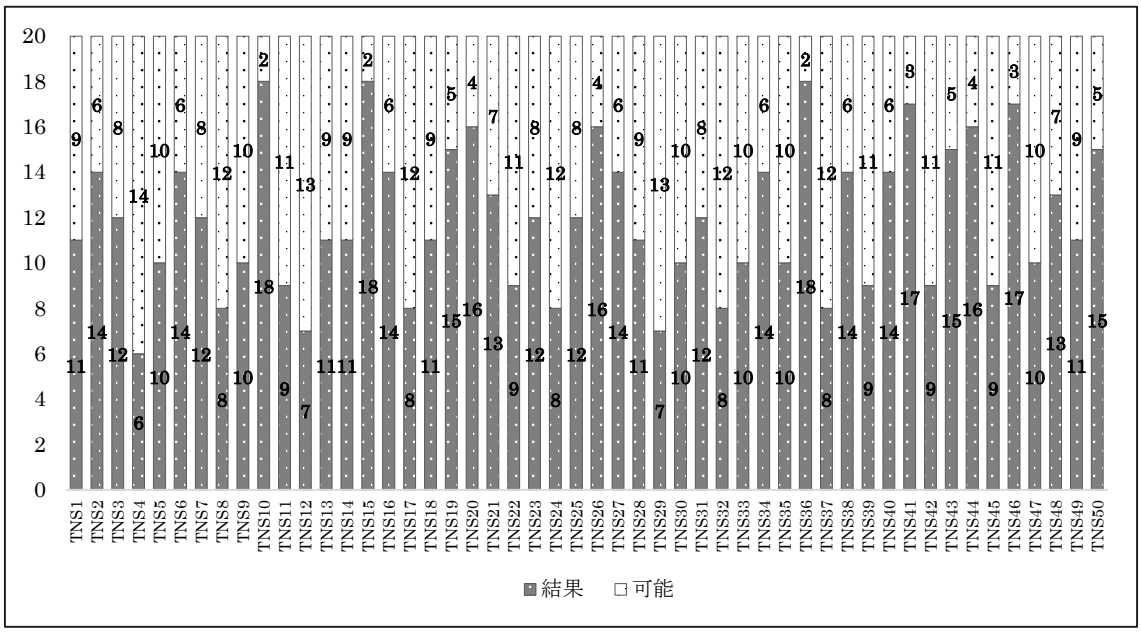


図５-５　TNS 別にみる動詞の回答数

また、TNS ごとに、結果表現と可能表現の使用パターンをみると、TNS は回答者によって差が大きいことが分かる。つまり、TNS によって結果表現を多く使用する人もいれば、可能表現を多く使用する人もいる。

5.2.5 TNS の動詞選択の理由

本調査の結果から、動詞選択の理由についてインタビューで分かったことを考察する。TNS がそれぞれの動詞を用いた理由は、以下の通りである。

1）定型表現

日常生活で使用頻度が高い動詞（lóp 消す、bìip 出す、thɔ̀ɔt 外す、cùt つける）に関して、これらの動詞を結果補語として用いた結果表現はタイ語母語話者にとって定型表現となっているため、場面 4、6、8、9 の回答が多く見られた。一方、可能表現で回答した TNS は、場面 2、5 のように、結果表現は普段用いない、特定の動詞には使わない、あるいは適切な

結果表現が思いつかないから、抽象的で広く使える可能補語 dây（得る）で対応した、と回答した。したがって、本調査で扱った場面および動詞に普段遭遇する頻度が高いか否かということも、表現の使用に影響すると考えられる。

2）タイ語母語話者の事態の捉え方

表現選択の理由の一つとして、TNS がそれぞれどのように事態を叙述しようと考えているかが挙げられる。行為の結果や物が変化した状態を具体的に表したい場合、結果補語（ʔɔ̀ɔk 出る、khâw 入る、pay 行く、khʉ̂n 上がる、loŋ 下りるなど）を用いた結果表現で表す。それに対し、人の能力、可能、その事態が実現したことを叙述したい場合、可能表現（dây 得る）を使用する。TNS それぞれが、どのように事態を叙述したいと思うかによって、使用する表現も変わってくるようである。

５.３ 日本語とタイ語の対照

以上、TNS の行為の結果を表す表現の使用傾向や選択理由を見てきたが、本節では、第４章で調査した JNS の結果と対照し、両言語の表現の特徴や使用傾向などについて考察する。考察したものは以下の表５-２にまとめる。

まず、日本語とタイ語の行為の結果の表現の特徴に関して、日本語は、自動詞（例：開く）と他動詞の可能形（例：開けられる）の二つの表現があり、行為の結果を表す際に、どちらも使用できる。一方、タイ語では、大きく分けて、結果表現と可能表現の二通りの表現があり、動詞連続構文「動詞 $_1$ + 動詞 $_2$」をとるため、行為を表す動詞 $_1$（前項動詞）と結果を表す動詞 $_2$（後項動詞）との組み合わせによって表される。具体的には、ʔɔ̀ɔk （出る）、 khâw（入る）、 pay（行く）maa（来る）、khʉ̂n（上がる）loŋ （下りる）などの結果補語や可能補語（dây 得る）である。

また、行為の結果を表す表現の使用傾向を見ると、JNS はどの場面でも自動詞を用いる傾向にあり、自動詞を用いるというパターンが確立している。それに対し、TNS は全体的に見れば結果表現を用いる傾向にあるが、場面別に見れば、場面や動詞 $_1$（前項動詞）により表現が異なっており、パターン化できない。これは、JNS が動作を受けた物の変化や結果に注目しているのに対し、TNS が話者の事態の捉え方や伝えたい内容の違いによって、表現を変えるからではないかと考えられる。

表５-２　実現可能場面での行為の結果を表す表現における日本語とタイ語の相違点

項目	日本語	タイ語
形式	・自動詞 ・他動詞の可能形	・結果表現 動詞$_1$（行為）＋ 動詞$_2$（結果） ・可能表現 動詞$_1$（行為）＋ 動詞$_2$（可能）
表現	・二つの表現	・複数の表現
使用傾向	・1 パターン（自動詞）	・複数のパターン
視点	・物の変化や結果	・物の変化か人の実現性 （場面や動詞$_1$、話者による）

日本語とタイ語の両言語の行為の結果を表す表現の使用の調査結果より、言語の特徴、話者の事態の捉え方、表現の表し方など、多様な面において、両言語間で大きく異なるということが明らかになった。

次章では、TJL の日本語の行為の結果を表す表現を見たい。また、母語であるタイ語が表現使用に影響を及ぼしているか、及ぼしている場合どのような影響があるかを見ていきたい。

5.4 本章のまとめ

本章では、行為の結果を表す表現について、日本語とタイ語の表現の特徴、両言語の使用傾向や使用理由の異同を明らかにした。両言語の違いを以下にまとめる。

・行為の結果を表す表現は、日本語では自動詞または他動詞の可能形という二通りの表現であるのに対し、タイ語は行為を表す前項動詞と結果や可能を表す補語となる後項動詞を組み合わせた動詞連続構文（動詞 $_1$+ 動詞 $_2$）を用いるため、複数の表現が可能となる。

・JNS は、実現可能場面全体を見ても、場面別に見ても、自動詞の使用が他動詞の可能形より顕著に高い傾向にある。他方、TNS は、実現可能場面全体を見ると、結果表現の使用が可能表現よりやや高い傾向にあるが、場面によっては結果表現の回答が高い場合もあれば低い場合もあるため、場面ごとに傾向が異なる。

・日本語とタイ語の表現の選択理由としては、両言語の事態の捉え方や視点の置き方が関係している。JNS の大半は動作を受けた物の変化や結果に注目しており、自動詞を使用するというパターンが確立している。それに対し、タイ語は行為を表す前項動詞の特徴とその特徴に合わせて使用する補語が表現選択に大きく関わるため、TNS の行為の結果を表す表現は JNS のようにパターン化できない。

上述のように、本章では、タイ語の行為の結果を表す表現を日本語と対照し、両言語の特徴や使用実態の違いを明らかにした。

本章で分析した結果は、次章でタイ語を母語とする日本語学習者の使用する表現を把握した上で、さらなる考察を行うこととする。

第６章 タイ語を母語とする日本語学習者の日本語の行為の結果を表す表現の使用傾向

本章では、タイ語を母語とする日本語学習者（TJL）を調査対象とし、実現可能場面における行為の結果を表す表現の使用実態を明らかにするために、先行研究を踏まえた上で調査結果の分析と考察を行う。

６.１ 日本語学習者の日本語の行為の結果を表す表現に関する先行研究

本節では、外国人日本語学習者の行為の結果を表す表現（自動詞と他動詞の可能形）に関する先行研究およびタイ語を母語とする日本語学習者の表現や誤用に関する先行研究を概観する。

６.１.１ 日本語学習者の使用傾向

これまで、日本語学習者の行為の結果を表す表現に関する調査の研究は、小林（1996）、楊（2007）、王（2012）、関（2012）などがある。各先行研究の調査概要[47]と結果を次頁の表にまとめる。

[47] 各先行研究の調査目的、調査協力者、調査方法、調査内容などに関しては、第２章を参照。

表６-１　日本語学習者の使用に関する各先行研究の調査の例文と結果

先行研究	調査の例文	調査結果
小林 （1996）	1.（鍵をなくした） 「困ったなあ、 1）ドアがあかない 2）ドアをあけない 3）ドアがあけられない」 4.（鍵を鍵穴に入れる） 「ああ、1）あけた 2）あいた 3）あけられた」	・日本語母語話者はアク系（自動詞）を使用する傾向が顕著であるのに対し、学習者はアク系（自動詞）をあまり使用しない。 ・動詞の活用能力の低い学習者はアケラレル系（他動詞の可能形、受身形）を避け、アケル系（他動詞）を使用する傾向が顕著である。 ・自他動詞の語彙知識が高く、動詞の活用が正確にできる能力がある学習者はアケラレル系（他動詞の可能形、受身形）の使用傾向が強い。
楊 （2007）	6. 最近引越ししたが、ドアが狭くてたんす○____。 7. 物を入れすぎて、かばんのチャック○____。	・日本語母語話者は自動詞を用いるのに対し、中国語母語話者、韓国語母語話者は可能表現を用いる。
王 （2012）	3. この窓、なかなか____ね。多分錆びているかもしれないよね。 19. 両方とも可愛くて、どれを買うかはなかなか_____。	・人間の介入や動作性の有無が中国語を母語とする日本語学習者の使用傾向に影響する。 ・動作性の低い文は、日本語母語話者が自動詞を使用するのに対し、学習者は可能表現を多用する（問 3：閉めることができない、閉められない）。 ・動作性の高い文は日本語母語話者も学習者も他動詞の可能形を多く使用する（問 19：決められない）。 ・日本語母語話者が自動詞を使用するのに対し、学習者は自動詞の可能形や自動詞と「コトガデキル」の併用など、「二重可能表現」を産出する傾向にある。
関 （2012）	1. カギを持っていないので、____。 4. カギが壊れているので、_____。 A. ドアが開かない B. ドアが開けられない C. A と B は両方可能 D. A と B は両方不可	・日本語母語話者のように理解している学習者は少ない。 ・学習者にとって自動詞を使う可能表現が難しい ・比較的、他動詞の可能形の使い方を正しく理解している学習者が多いが、過剰な使用が見られがちである。

1）小林（1996）「相対自動詞による結果・状態の表現」

小林（1996）は、自動詞・他動詞による結果・状態の日本語学習者の習得に関する研究として、600～700 時間以上の日本語学習歴がある外国人学習者 68 人[48]、日本語母語話者 15 人を対象に調査を実施している。調査結果を受け、小林は、日本語学習者にとって自動詞を用いて行為の結果を表現することが困難であるという指摘をしている。日本語母語話者は自動詞「アク系」の使用傾向が顕著に高く、他動詞「アケル系」の使用が皆無であったのに対して、学習者には自動詞「アク系」の使用があまり見られず、他動詞「アケル系」および「アケラレル系」の選択がかなり見られた。動詞の活用能力の低い学習者はアケラレル系を避け、代わりにアケル系を使用する傾向が非常に高い。一方、自他動詞に関する語彙知識が高く、動詞の活用が正確にできる能力がある学習者はアケラレル系を使用する傾向が強いという結果が見られた。

このような調査結果から、小林は行為の結果を表す表現の習得が困難な要因として、学習者の母語の表現形式と矛盾すること、また他の表現でもその事態は表現できることの二つを挙げている。

2）楊（2007）「可能の意味を持つ日本語自動詞の習得」

楊（2007）は、可能の意味を持つ自動詞の習得について、日本語母語話者および中国語母語話者、韓国語母語話者の上級日本語学習者それぞれ 20 人を対象に調査を行っている。調査の結果、日本語母語話者の 92%が自動詞を用いることが分かったが、中国語母語話者の 35%、韓国語母語話者の 40%が可能表現を用いており、可能表現を用いるという共通の誤用が見られた。

楊は、中国語母語話者の誤用の原因の一つとして母語の干渉を挙げている。中国語では、行為の結果を表す際に可能表現を用いるのが一般的である。また、主語が有情物の場合でも無情物の場合でも可能表現を用いるため、中国語母語話者は日本語で表現する際にも可能形を用いる傾向がある。一方､韓国語では、行為の結果を表す際、日本語と同じように自動詞を用いるにも関わらず、韓国語母語話者は日本語で可能表現を用いている。したがって、母語の干渉以外に隠れた動作主の意図を感じ､可能表現を用いたのかもしれないと述べている。

---

[48] 中国語話者 25 人、韓国語話者 20 人、スペイン語話者 5 人、英語話者 4 人、ポルトガル語話者 3 人、その他 11 人

3）王（2012）「日本語無標可能表現の習得」

王（2012）は、無標可能表現[49]（自動詞）の使用実態に関して、中国語を母語とする上級日本語学習者 139 人を対象とし、日本語母語話者 78 人と比較して調査を実施した。その結果、無標可能表現（自動詞）の使用傾向として、母語話者と学習者の間に大きな差があるということが分かった。人間の介入や動作性の有無が学習者の使用傾向に影響しており、人間が関与していない文に関しては、学習者も無標可能表現（自動詞）をより多く選択するが、母語話者と比較するとまだ少ないと言える。一方、人間の動作が関与している文に関しては、学習者が無標可能表現（自動詞）より「（ラ）レル形」「コトガデキル」による可能表現を好んでいる。また、動作性の高い文は、母語話者も学習者も「（ラ）レル形」を多く使用する傾向にある。一方、動作性の低い文は、状態性が強調されるため、母語話者は無標可能表現（自動詞）を使用する。しかし、学習者は「コトガデキル」を多用する傾向にあり、自動詞の可能形や自動詞と「コトガデキル」を併用する「二重可能表現」も多数産出すると述べている。

4）関（2012）「可能表現否定形の正用と誤用」

関（2012）は、中国語を母語とする日本語学習者[50]（73 人）が「開かない」のような自動詞否定形と「開けられない」のような他動詞否定形の使い分けをどのように理解しているのかを調査した結果、学習者が日本語母語話者（20 人）のように使えるか否かは日本語能力試験のレベルから判断できかねると述べている。また、日本語母語話者のように理解している学習者は少なく、自動詞を使う可能表現が難しい。他動詞の可能形の使い方を正しく理解している学習者は比較的多いが、過剰な使用が見られがちである。関は、他動詞の可能形の過剰な使用を引き起こす原因として「自動詞可能表現の概念を理解していない」「母語干渉」「全ての因果関係を表す複文の従属節の原因を自分自身に求める」および「原因は動作主に関わっていない」を挙げている。

以上、外国人日本語学習者の行為の結果を表す表現の使用に関する先行研究を見てきたが、先行研究のほとんどが中国語を母語とする学習者を対象にしたものであった。行為の

---

[49] 王（2012）において、「無標可能表現」とは、可能の意味を表す自動詞である。この定義は、張（1998）などを参考にしたもので、中国語では可能表現で表すものが、日本語では自動詞で表すため、標識を用いていないとう特徴から、このタイプの可能表現は無標識の可能表現とされている。

[50] 日本語能力試験 1 級取得者 1 人、2 級取得者 32 人、3 級が 1 人、取得していない人は 39 人である。

結果を表す際に、日本語母語話者は自動詞を使用するのに対し、学習者は、自動詞の可能形や他動詞の可能形などの可能表現を多用する傾向にあるということが分かった。また、誤用の要因としては、母語の影響、自動詞・他動詞の概念や用法や視点などがわからないといったことが挙げられている。

6.1.2 タイ語を母語とする日本語学習者の使用傾向

タイ語を母語とする日本語学習者を対象にした自動詞と他動詞の使用に関する研究は、管見の限りこれまで Chawengkijwanich（2008）、セーリム（2012ab・2013ab）でしか行われておらず、先行研究は少ないと言える。

Chawengkijwanich（2008）は、タイのタマサート大学教養学部日本語学科におけるタイ語母語話者である中上級日本語学習者が作った、自動詞と他動詞の誤用の例文を 250 文集めた。それぞれの文を分析し、誤用の要因として、自動詞と他動詞の混同による誤用（単語を覚えていない、概念や使い方が分からない、など）、可能の意味を持つ自動詞による誤用（日本語母語話者の物事の捉え方が分からない、タイ人にはわかりにくい、など）を挙げている。誤用の要因と例文を次頁の表にまとめる[51]。

[51] この表は筆者が Chawengkijwanich（2008）が述べたことを日本語に翻訳し、表にまとめたものである。

表６-２　タイ語を母語とする日本語学習者の自動詞・他動詞の誤用の要因と例文

誤用	誤用の要因および例文[52]
a. 自他の混同	・学習者は自他の単語の形態を覚えていない ・学習者は自他の概念や使い方がわからない 例：入学試験を合格したものの、母が病院に入れて（→入って）、お金を全部使ったので、勉強のために払うことができません。(p.87)
b. 助詞の混同	・学習者は自他を正しく選択できるが、助詞を正確に使用できない 例：消費者の購買力を（→が）減少する。（p.88）
c. 文型の制限	・学習者はその文型の制限用法を知らない 例：せいせきが良くなる（→を良くする）ために（→は）もっといっしょうけんめい勉強せざるを得ない。（p.89）
d. 視点	・学習者は事態を描写する視点がわからない（上級の学習者にも見られる問題） 例：落ちた（→落とした）財布を一緒に探してあげたらお礼を言われた。（p.90）
e. 特別な意味を持つ自他	・可能の意味を持つ自動詞、行為の結果を表す自動詞はタイ語を母語とする学習者にわかりにくい 例：このかばんは本を（→が）たくさん入れられる（→入る）。(p.91)
f. 「する」と「なる」の混同	・例：将来、水泳を習う（→教える）先生や、水泳家（→水泳選手）をしたい（→になりたい）とは思っていません。（p.92）

Chawengkijwanich（2008）はタイ語を母語とする初中級の日本語学習者（72 人）の自動詞と他動詞（6 組[53]）の習得について調査している。調査結果からは、必ずしも他動詞より自動詞の方が習得が難しいとは限らない、また、助詞や文の意味（文脈）を考えずに使い慣れている動詞を選択する傾向にあるのは初級の段階の学習者であり、レベルが上がるにつれてその傾向が低くなることが分かっている。

[52] 例文中における括弧内の日本語（→）は、Chawengkijwanich （2008）、学習者の例文を修正したものである。なお、「本を入れられる」も文法上誤りではないため、本研究では「入れられる」を誤用としては扱わない。

[53] Chawengkijwanich（2008）が調査で取り扱った動詞は「つく・つける」、「始まる・始める」、「変わる・変える」、「出る・出す」、「起こる・起こす」、「落ちる・落とす」の 6 組の有対動詞である。

さらに、ある動詞を使うのに慣れるか否かは、タイ語の影響が原因の一つとなっていると論じている。学習者が好まない動詞の大半はタイ語で一音節に訳すことができず、他の動詞を組み合わせて表現する必要がある。例えば、かばんから本を取り出すときに「（本を）出す」 ʔaw (naŋsǔu) ʔɔ̀ɔk maa と言う。したがって、タイ語を母語とする日本語学習者の自動詞と他動詞の習得について、どちらが難しいかは一概には言えないと指摘している。

また、セーリム（2012b・2013ab）では、Chawengkijwanich（2008）のタイ語を母語とする学習者に分かりにくい、可能の意味を持つ自動詞、行為の結果を表す自動詞などがあるという指摘と同じ問題を取り上げ、タイ語を母語とする日本語学習者による行為の結果を表す表現に注目し、「自動詞の可能形」の使用傾向と誤用の要因を明らかにするため、タイ語を母語とする中上級レベルの学習者 20 人を対象に、タイ語から日本語への翻訳テスト 10 問とフォローアップインタビューを行っている。その結果、行為の結果を表現する際、学習者には「他動詞の可能形」「自動詞」「自動詞の可能形」を用いた回答が見られ、各動詞を用いた回答率が 57%、21.5%、21.5%であった。同様のテストを実施した日本語母語話者 20 人の結果と比較すると、学習者は他動詞の可能形を母語話者の約二倍使用していることが明らかになった。その一方で、学習者の自動詞を用いた回答は日本語母語話者の三分の一にも満たず、その代わりに自動詞の可能形を用いた回答が同率で見られた。この結果から、従来の研究と同様に他動詞を使用する傾向が高いことが明らかになったが、それと同時に、学習者は自動詞を使用していないのではなく、自動詞の可能形が特徴的に見られたように、自動詞の使用に問題を抱えていることが明らかになった。自動詞を正しく用いることができている学習者の多くは、日本語母語話者との接触の中で、指摘や訂正された経験が基になっているが、自動詞の可能形の誤用の要因は、自動詞、他動詞と可能形に関連する以下の三つの問題が絡んでいることが指摘されている。

① タイ語で行為の結果を表現する場合は、必ず「意志動詞」と「可能を表す表現（可能動詞か結果動詞）」を一緒に用いるため、日本語でも同様に可能形を使用する。

② 日本語で行為の結果を表現する際、他動詞を選択する場合には可能形にするため、自動詞を選択した場合にも同様に可能形に活用してしまう。

③ 学習者は自動詞の使用条件に関する知識をあまり持っておらず、自動詞の可能形が誤用であるということを知らないため、自動詞の可能形を用いる。

以上の先行研究からタイ語を母語とする日本語学習者の自動詞・他動詞の使用に問題があり、母語の影響が誤用の要因の一つであるということが明らかになった。しかし、Chawengkijwanich（2008）では、学習者の自動詞・他動詞の全体的な使い方、セーリム（2012ab・2013ab）では、学習者の行為の結果を表す際の自動詞の可能形の誤用に注目するに留まっており、普段遭遇する実現可能場面における行為の結果を表す表現（自動詞と他動詞の可能形）の使用に関する研究はまだなされていない。そこで、次節では、タイ語を母語とする日本語学習者を対象に調査し、使用傾向や誤用などを見ていくこととする。

6.2 TJL の調査結果の正誤判定基準

次節の調査結果の分析に入る前に、本調査の調査協力者の回答の正誤基準を設けておく。

第４章で JNS を調査対象とした結果から分かるように、実現可能場面における行為の結果を表す表現に関しては、自動詞の使用が他動詞の可能形に比べて顕著に高く、自動詞と他動詞の可能形それぞれの使用割合には明確な違いがある。しかし、従来の研究（井上 1976・1995、森田 1981・1988、ヤコブセン 1989、Jacobsen1991、庵ほか 2001 など）からも分かるように、行為の結果を表す際に、自動詞も他動詞の可能形もどちらも用いることができ、自動詞を他動詞の可能形に置き換えることができるとされているため、文法的には間違いではない。したがって、本研究では、「自動詞」と「他動詞の可能形」の回答を正答とし、それ以外の回答は誤答であると判断する。

6.3 TJL の調査結果の分析と考察

本節では、TJL 全体と TJL 一人一人の結果を別々に分析し、実現可能場面における行為の結果の表現の使用傾向および動詞選択の理由を考察する。

6.3.1 TJL 全体の結果および JNS との比較

本項では、JNS と比較しながら、TJL 全体の結果をみる。なお、JNS の回答は第４章の調査結果を参照する。

1）TJL の実現可能場面全体にみる使用傾向

まず、TJLの実現可能場面全体における自動詞と他動詞の表現の使用傾向を見るために、回答を分析した。その結果が表６-３、図６-１である。この表と図は、各場面でTJLが回答した動詞部分を自動詞と他動詞に分類し、全設問を合わせた各動詞の使用の割合を示したものである。TJL一人当たりの設問数が20であるため、TJL50人の回答件数は合計1000件となる。

表６-３、図６-１で分かるように、TJLが使用した表現はJNSの回答より種類が多い。JNSの回答は自動詞と他動詞の可能形の2種類であるのに対して、TJLでは、自動詞と他動詞の可能形の正答以外に自動詞の可能形、自動詞のテイル形、他動詞、他動詞のテイル形、他動詞の受身形など様々な形式が見られた。

TJLの回答は全体1000件のうち、正答は709件（70.9%）、誤答は291件（29.1%）であった。正答の場合、自動詞を用いた回答が412件（41.2%）（正答の中に占める割合は58.1%）、他動詞の可能形を用いた回答が297件（29.7%）（正答の中に占める割合は41.9%）であった。JNSの自動詞を用いた回答が933件（93.3%）であるのに比べ、TJLは他動詞の可能形を多用しており、TJLの自動詞の使用が少ないことが分かった。

一方、誤答の中で顕著に見られるのは、他動詞と自動詞の可能形である。誤答291件（29.1%）のうち他動詞が169件（16.9%）と最も多く、続いて、自動詞の可能形が84件（8.4%）、自動詞のテイル形が16件（1.6%）、他動詞のテイル形が7件（0.7%）、他動詞の受身形が2件（0.2%）、活用（自動詞と他動詞の活用の間違いを合わせたもの）が13件（1.3%）であった。

この結果から明らかなように、実現可能場面全体における表現に関して、TJLの動詞の使用はJNSの使用とは異なり、自動詞の使用傾向が低く、他動詞の可能形の使用傾向が高い。

表６-３　TJL と JNS の実現可能場面全体にみる回答数と割合

正誤	動詞	種類	TJL		JNS	
			回答件数	回答割合	回答件数	回答割合
正	自	自	412	41.2%	933	93.3%
	他	他可	297	29.7%	67	6.7%
	小計		709	70.9%	1,000	100.0%
誤	自	自可	84	8.4%	0	0.0%
		自テイル	16	1.6%	0	0.0%
		活用	5	0.5%	0	0.0%
	他	他	169	16.9%	0	0.0%
		他テイル	7	0.7%	0	0.0%
		他受	2	0.2%	0	0.0%
		活用	8	0.8%	0	0.0%
	小計		291	29.1%	0	0.0%
合計			1,000	100.0%	1,000	100.0%

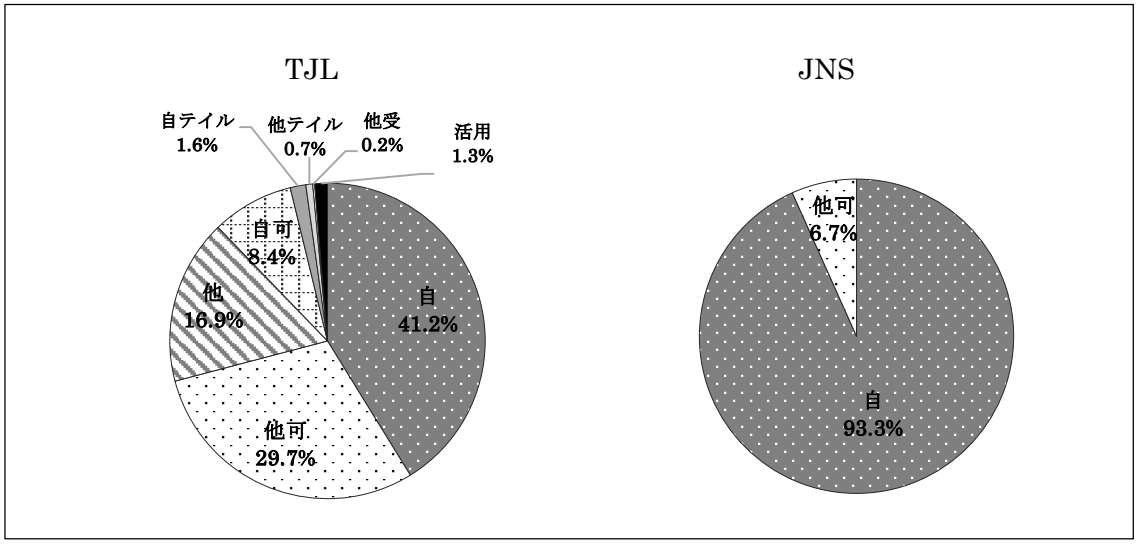


図６-１　TJL と JNS の実現可能場面全体にみる回答の割合

2）TJL の実現不可能と実現可能の場合にみる使用傾向

次に、実現不可能と実現可能の場合の表現に着目していきたい。TJL の回答は、表６-４に示す通り、全体 1000 件のうち、実現不可能の場合、正答は 366 件（73.2%）、誤答は 134 件（26.8%）であり、実現可能の場合、正答は 343 件（68.6%）、誤答は 157 件（31.4%）であった（表６-４、図６-２）。

表６-４　TJL と JNS の実現不可能と実現可能の場合にみる回答数と割合

正誤	動詞	種類	TJL				JNS			
			実現不可能		実現可能		実現不可能		実現可能	
			回答件数	回答割合	回答件数	回答割合	回答件数	回答割合	回答件数	回答割合
正	自	自	144	28.8%	268	53.6%	458	91.6%	475	95.0%
	他	他可	222	44.4%	75	15.0%	42	8.4%	25	5.0%
	小計		366	73.2%	343	68.6%	500	100.0%	500	100.0%
誤	自	自可	52	10.4%	32	6.4%	0	0.0%	0	0.0%
		自テイル	16	3.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		活用	4	0.8%	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%
	他	他	47	9.4%	122	24.4%	0	0.0%	0	0.0%
		他テイル	7	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		他受	2	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		活用	6	1.2%	2	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
	小計		134	26.8%	157	31.4%	0	0.0%	0	0.0%
合計			500	100.0%	500	100.0%	500	100.0%	500	100.0%

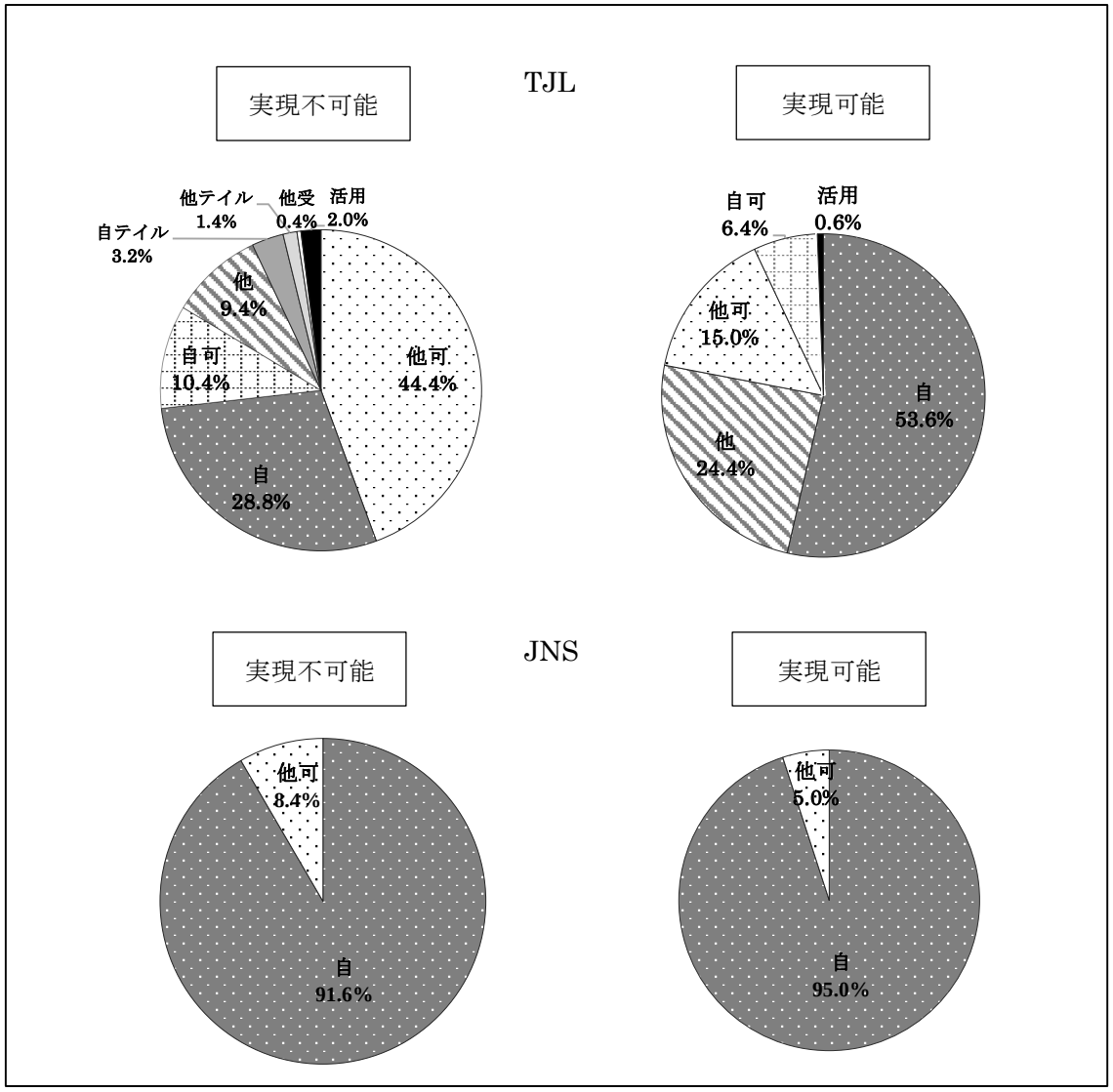


図６-２　TJL と JNS の実現不可能と実現可能の場合にみる回答の割合

実現不可能の場合の正答は、自動詞を用いた回答が 144 件（28.8%）、他動詞の可能形を用いた回答が 222 件（44.4%）であるのに対し、実現可能の場合の正答は、自動詞を用いた回答が 268 件（53.6%）、他動詞の可能形を用いた回答が 75 件（15.0%）であり、実現不可能と実現可能の場合では、自動詞と他動詞の可能形を使用する割合が逆転する。このことから、実現不可能の場合では実現可能の場合より他動詞の可能形が多く使用される一方で、実現可能の場合では実現不可能の場合より自動詞の使用が明らかに多いということが分かった。

誤答の場合は、実現不可能の場合の方が実現可能の場合より表現が多種であるが、実現不可能と実現可能の場合の両方において他動詞と自動詞の可能形を用いている割合が高い。

その中でも特徴的なのは、実現可能の場合において他動詞を用いている回答が極端に高く、正答である他動詞の可能形の回答率よりもかなり高いことである。

この結果から、TJL にみる実現不可能と実現可能の場合の回答は、どちらの場合も自動詞の回答率が顕著に高い傾向にある JNS と異なり、場合によって、自動詞の回答率と他動詞の可能形の回答率の傾向が一致せず、むしろ逆転することが分かった。

3）TJL の場面別にみる使用傾向

次に、場面別に自動詞と他動詞の現れた回答数を見てみる。TJL の回答は、表６-５、図６-３に示す通り、各場面の回答 100 件のうち、正答はそれぞれ 59 件～80 件であり、自動詞の使用が多い場面もあれば他動詞の可能形の使用が多い場面もある。

誤答は、自動詞の可能形の使用は場面によって異なり、使用が多い場面もあれば、自動詞の可能形がほとんど見られない場面もある。しかしながら、他動詞の使用は、どの場面においてもほぼ同じである。

以上のことから、どの場面でも自動詞の使用が他動詞の可能形より高いJNSとは異なり、TJLの使用は場面によって表現の仕方が異なることが明らかになった。

表６-５　TJL の場面別にみる回答数

（単位：件）

場面	内容	正			誤								合計
		自	他	小計	自			他				小計	
		自	他可		自可	自テイル	活用	他	他テイル	他受	活用		
1	瓶の蓋を開けようとしている	36	38	74	3	3	0	20	0	0	0	26	100
2	キーを回そうとしている	33	31	64	14	2	2	17	0	0	1	36	100
3	コンタクトを入れようとしている	43	16	59	27	0	2	12	0	0	0	41	100
4	字を消そうとしている	30	48	78	2	1	0	17	1	0	1	22	100
5	後ろの扉を閉めようとしている	39	34	73	3	1	0	21	1	1	0	27	100
6	歯磨き粉を出そうとしている	66	8	74	7	4	0	14	1	0	0	26	100
7	ブラインドを上げようとしている	39	28	67	8	1	0	23	1	0	0	33	100
8	指輪を外そうとしている	29	45	74	4	0	0	18	1	0	3	26	100
9	火をつけようとしている	57	23	80	0	4	0	14	1	1	0	20	100
10	糸を通そうとしている	40	26	66	16	0	1	13	1	0	3	34	100
合計		412	297	709	84	16	5	169	7	2	8	291	1,000

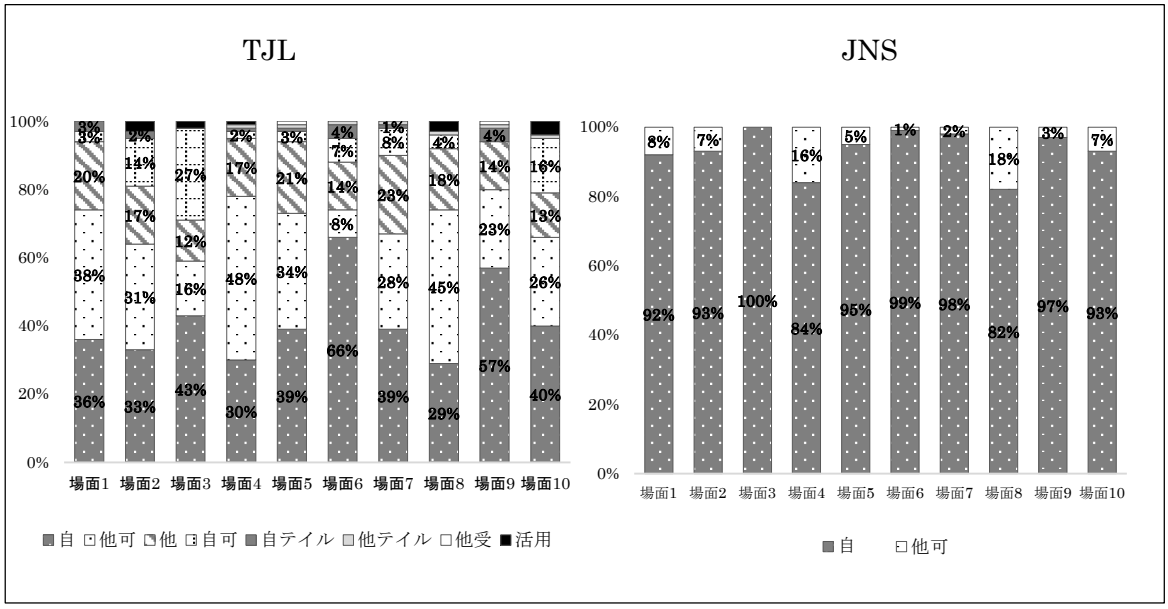


図６-３　TJL と JNS の場面別にみる回答の割合

さらに図６-４では、場面別の使用を実現不可能と実現可能の場合に分けている。

正答については、どの場面においても、TJL の自動詞の使用は実現可能の場合の方が実現不可能の場合より多い傾向にあり、反対に、他動詞の可能形の使用は実現不可能の場合の方が実現可能の場合より多いということが分かった。

一方、誤答の場合、どの場面においても、自動詞の可能形の使用は実現不可能の場合の方が実現可能の場合より多い傾向にあり、反対に、他動詞の使用は実現可能の場合の方が実現不可能の場合より多い傾向にある。

言い換えると、場面別に見たTJLの使用に関して、他動詞の可能形と自動詞の可能形の使用は、実現不可能の場合の方が高い傾向にある一方、自動詞と他動詞の使用は実現可能の場合の方が高い傾向にあるということである。この結果から、TJLが実現不可能の場合の方が他動詞か自動詞かに関わらず「できない」ことを「可能形」で表現する傾向にあることが明らかになった。一方、実現可能の場合の方が可能形に変えずに使用する傾向にあることがTJLの特徴的な表現ではないかと考えられる。

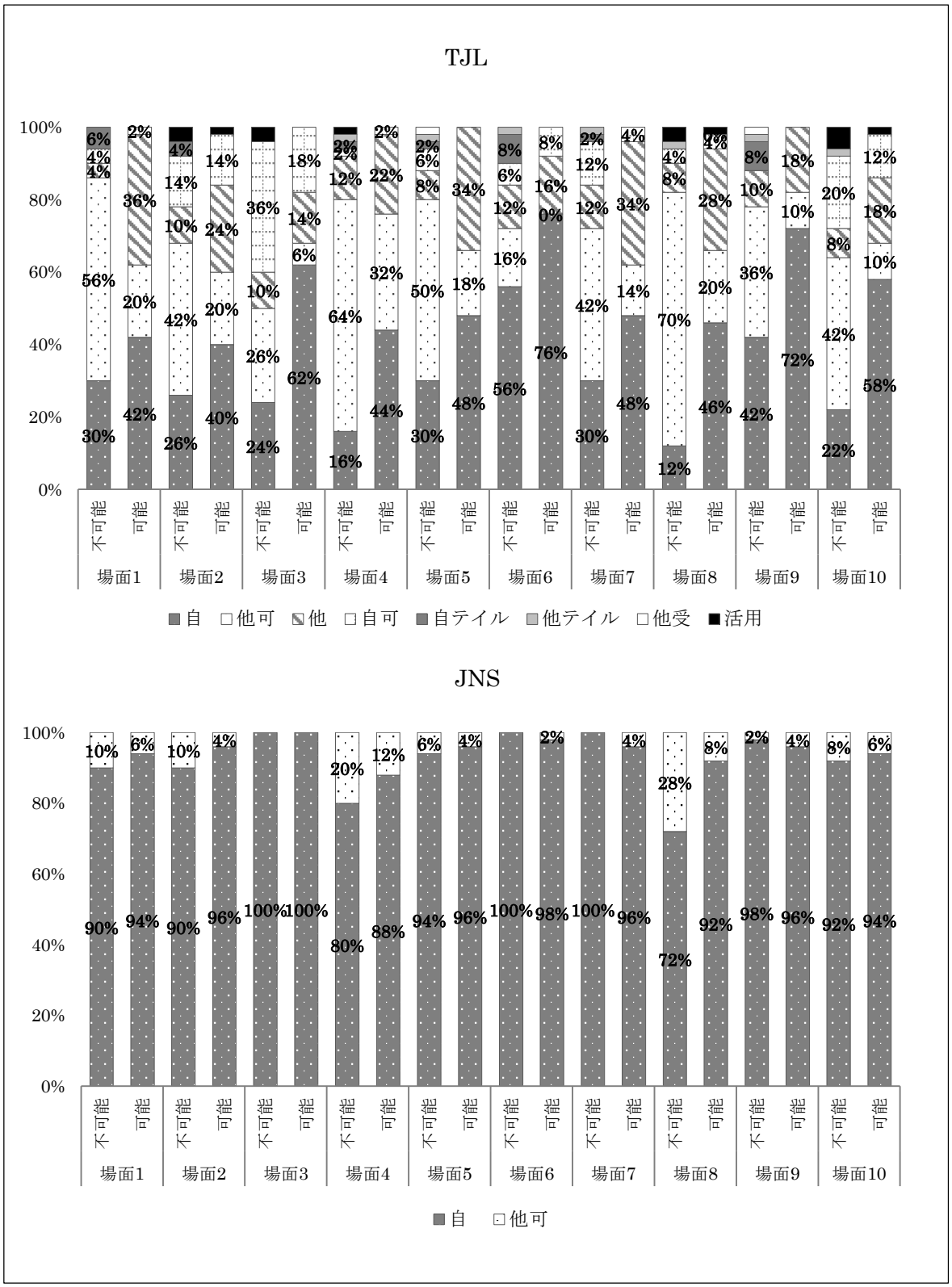


図６-４　TJL と JNS の実現不可能と実現可能の場合にみる回答の割合

6.3.2 TJL の既習者と未習者の結果

テスト調査の後、TJL 全員にフォローアップインタビューを行った結果、実現可能場面における行為の結果を表す表現を日本語の授業で明示的な形で教わった TJL と明示的な形で教わっていない TJL の双方がいるということが判明したため、両者を分けて分析する必要があると考えた。したがって、本節では、実現可能場面における行為の結果を表す表現を教わったグループ 8 人（以下、既習者）と教わっていないグループ 42 人（以下、未習者）の二つに分け[54]、各グループの結果を分析し、考察する。

1）TJL の既習者と未習者の実現可能場面全体にみる使用傾向

まず、TJLの既習者と未習者の実現可能場面全体における自動詞と他動詞の表現の使用の傾向を見るために、TJLの既習者と未習者の回答を分けて集計した。分析した結果は表 6-6、図 6-5 の通りである。なお、既習者と未習者の人数には差があるため、回答割合を見ていくこととする。

正答率は既習者が93.8%で、未習者が66.5%であり、既習者の方が未習者より正答率がかなり高いということが分かった。また、正答のうち、既習者が自動詞を用いて回答したのは80.6%と、他動詞の可能形の回答率より圧倒的に高いのに対し、未習者は自動詞を用いた回答率と他動詞の可能形を用いた回答率がほぼ同じぐらいである。

次に誤答を見る。誤答に関しては、未習者が使用した表現は既習者の回答より種類が多い。既習者の誤答は、自動詞の可能形と他動詞、二種類であるのに対して、未習者には、自動詞の可能形、他動詞以外に自動詞のテイル形、他動詞のテイル形、他動詞の受身形、活用の間違いなど様々な形式が見られた。

この結果から明らかなように、既習者は未習者に比べて、自動詞を多用しており、JNS の使用と似た傾向にある。それに対し、未習者の動詞の使用は、既習者より自動詞の使用が少なく、他動詞の可能形の使用が多い。教師から明示的な形で教わっているか否かで使用傾向が変わることから、学習環境による効果があることも考えられる。ただし、既習者にも未習者にも誤答が見られることは事実であり、TJLにとって日本語で行為の結果を適切

[54] TJL は全員日本語の授業で自動詞と他動詞について学習しているが、本調査で扱う実現可能場面における行為の結果を表す表現に関しては、教育機関あるいは受講した授業によって教えるところと教えないところがある。
本章で分けたグループのうち、日本語の授業の中で実現可能場面における行為の結果を表す表現を明示的な形で学習し、且つそれを覚えている TJL を既習者とし、日本語の授業の中で教師から明示的な形で教わっていない、あるいは教師から教わったが覚えていない TJL を未習者と定義する。

な表現で表すことが難しいということを示している。

表６-６　TJL の既習者と未習者の実現可能場面全体にみる回答数と割合

正誤	動詞	種類	既習者		未習者	
			回答件数	回答割合	回答件数	回答割合
正	自	自	129	80.6%	283	33.7%
	他	他可	21	13.1%	276	32.9%
	小計		150	93.8%	559	66.5%
誤	自	自可	5	3.1%	79	9.4%
		自テイル	0	0.0%	16	1.9%
		活用	0	0.0%	5	0.6%
	他	他	5	3.1%	164	19.5%
		他テイル	0	0.0%	7	0.8%
		他受	0	0.0%	2	0.2%
		活用	0	0.0%	8	1.0%
	小計		10	6.3%	281	33.5%
合計			160	100.0%	840	100.0%

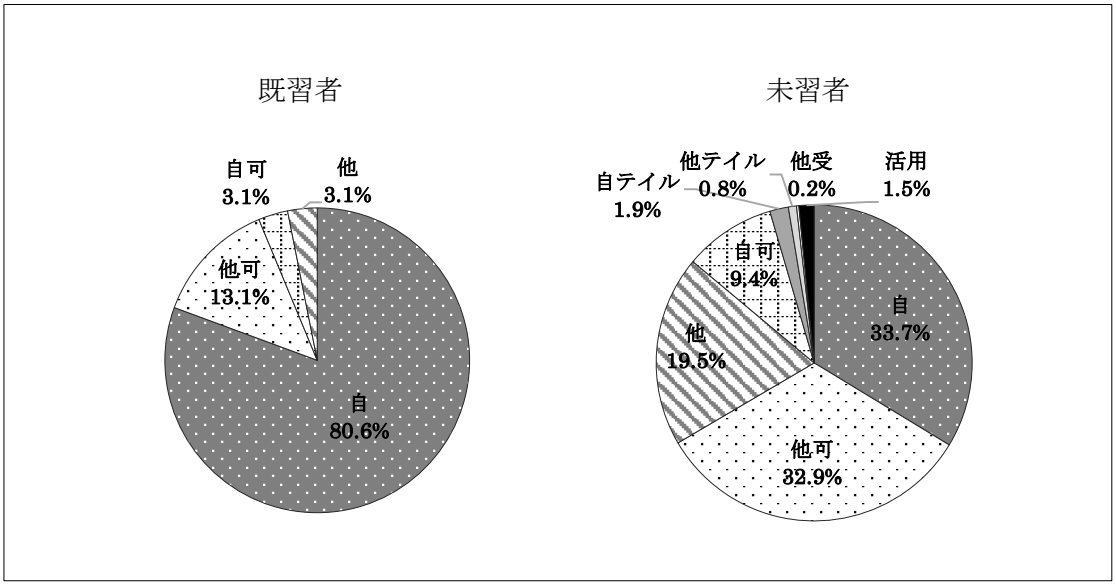


図６-５　TJL の既習者と未習者の実現可能場面全体にみる回答の割合

2）TJL の既習者と未習者の実現不可能と実現可能の場合にみる使用傾向

次に、既習者と未習者の実現不可能と実現可能の場合の表現に着目して、既習者と未習者の回答を見ていきたい。その結果が表６-７と図６-６である。

正答の場合、既習者は、実現不可能の場合と実現可能の場合のどちらも正答率が93.8%であるのに対し、未習者は、実現不可能の場合の正答率が69.3%で、実現可能の場合の正答率が63.8%であった。未習者は既習者と比べて正答率が低い。

正答の詳細を見ると、先にも述べた通り、既習者は、JNS の使用と似ており、実現不可能と実現可能の場合の双方において、自動詞の回答率が明らかに高いことが分かった（76.3%、85.0%）。それに対し、未習者は、既習者と異なり、実現不可能の場合、他動詞の可能形を用いた回答が 49.5%と最も高く、自動詞がわずか 19.8%である一方、実現可能の場合は、自動詞を用いた回答が 47.6%と最も高い。つまり、未習者では、実現不可能の場合と実現可能の場合において自動詞、他動詞の可能形を使用する割合が逆転するのである。

誤答の場合、既習者にも未習者にも同じ傾向が見られ、実現不可能の場合は、各グループの中で自動詞の可能形の回答率が最も高く（既習者 5.0%、未習者 11.4%）、実現可能の場合は、他動詞の回答率が最も高い（既習者 5.0%、未習者 28.1%）ということが分かった。

このことから、何らかの要因により、既習者も未習者も誤用である自動詞の可能形の使用が実現不可能の場合で多く、他動詞の使用が実現可能の場合で多く見られる傾向にあることが分かった。これは、両グループに見られる特徴的な表現の仕方だと言える。

表６-７　TJL の既習者と未習者の実現不可能と実現可能の場合にみる回答数と割合

正誤	動詞	種類	既習者				未習者			
			実現不可能		実現可能		実現不可能		実現可能	
			回答件数	回答割合	回答件数	回答割合	回答件数	回答割合	回答件数	回答割合
正	自	自	61	76.3%	68	85.0%	83	19.8%	200	47.6%
	他	他可	14	17.5%	7	8.8%	208	49.5%	68	16.2%
	小計		75	93.8%	75	93.8%	291	69.3%	268	63.8%
誤	自	自可	4	5.0%	1	1.3%	48	11.4%	31	7.4%
		自テイル	0	0.0%	0	0.0%	16	3.8%	0	0.0%
		活用	0	0.0%	0	0.0%	4	1.0%	1	0.2%
	他	他	1	1.3%	4	5.0%	46	11.0%	118	28.1%
		他テイル	0	0.0%	0	0.0%	7	1.7%	0	0.0%
		他受	0	0.0%	0	0.0%	2	0.5%	0	0.0%
		活用	0	0.0%	0	0.0%	6	1.4%	2	0.5%
	小計		5	6.3%	5	6.3%	129	30.7%	152	36.2%
合計			80	100.0%	80	100.0%	420	100.0%	420	100.0%

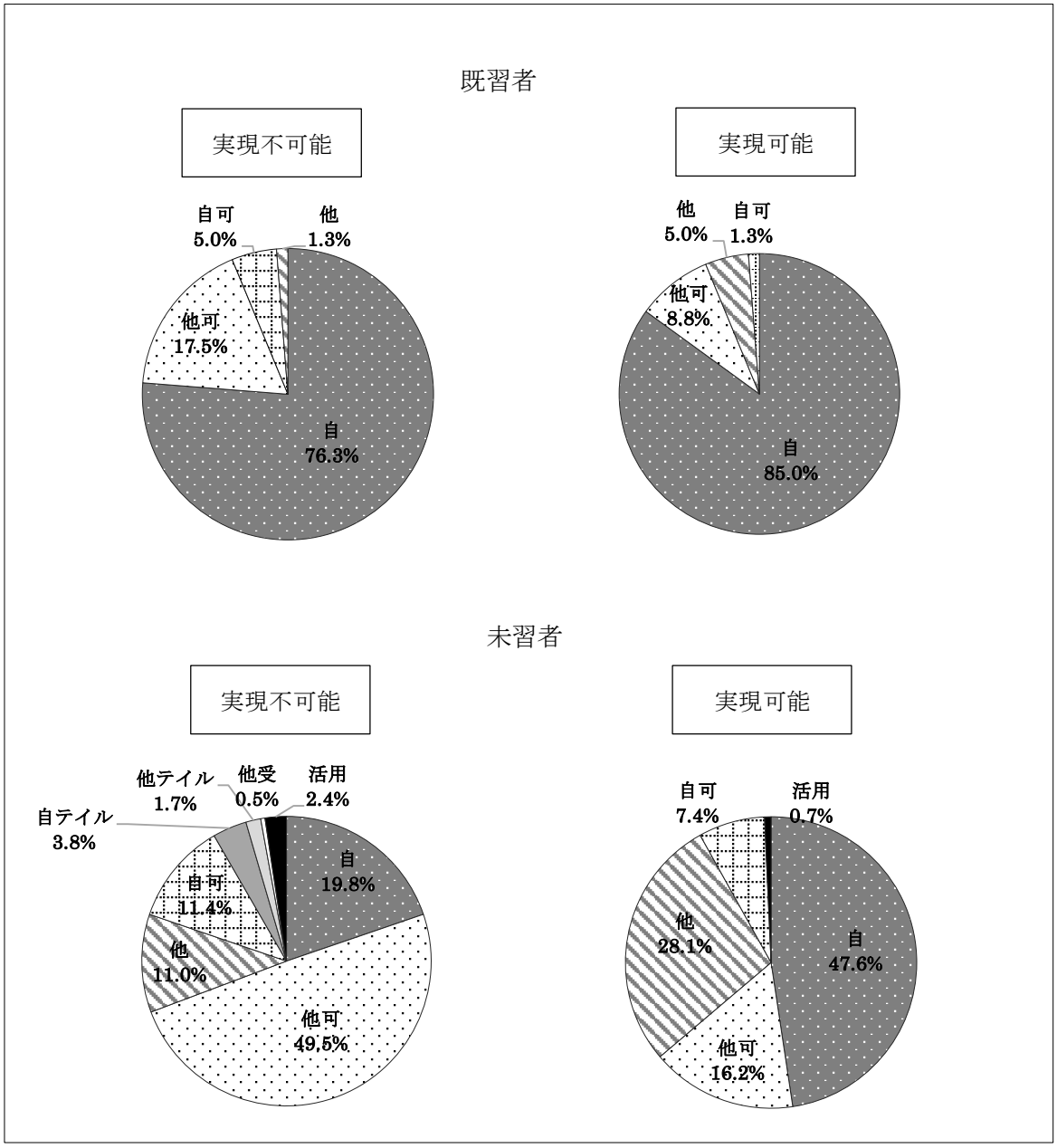


図６-６　TJL の既習者と未習者の実現不可能と実現可能の場合にみる回答の割合

3）TJL の既習者と未習者の場面別にみる使用傾向

続いて、既習者と未習者の自動詞と他動詞の使用に関して、場面別に見ていく。

既習者の回答は、図６-7 に示す通り、場面によって若干異なるが、いずれの場面においても自動詞の回答率が高い傾向にある。ただし、場面 4 と場面 8 では、他動詞の可能形の使用が他の場面と比べて高く見られた。とくにその傾向が見られたのは実現不可能の場合である。

また、既習者で誤答が見られたのは、以下の図６-7 の通り、場面 2、場面 3、場面 7、場面 9、場面 10 であり、その中でとくに、場面 3 の実現不可能の場合における自動詞の可能形の誤答が目立っている。

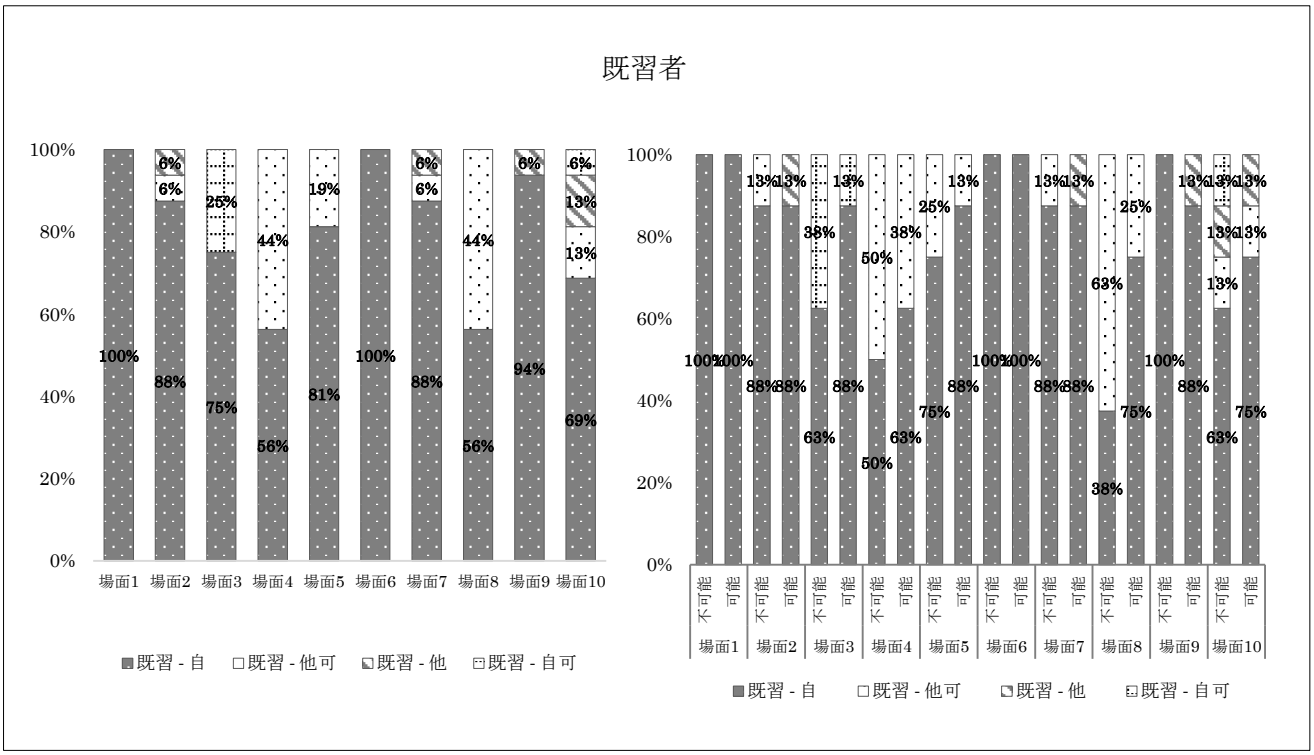


図６-７　TJL の既習者の場面別にみる回答の割合

一方、未習者の回答は、自動詞の使用が多い場面もあれば他動詞の可能形の使用が多い場面もある。自動詞の回答が高い傾向にあるのは、場面 3、場面 6、場面 9 であり、とくに実現可能の場合である。一方、他動詞の可能形の回答が高い傾向にあるのは、場面 1、場面 4、場面 8 であり、とくに実現不可能の場合である（図６-８）。

また、未習者に見られる自動詞の可能形を用いた誤答は、場面 2、場面 3、場面 10 に多く見られる。また、他動詞はどの場面でも多く使用されている。

これらの結果は、既習者は実現可能場面における行為の結果を表す表現を明示的な形で学習したことにより、JNS と同じ観点で事態を捉えているのに対し、未習者はさまざまな観点で事態をとらえており、それが多様な言語表現の選択につながっていることを示していると言えるだろう。

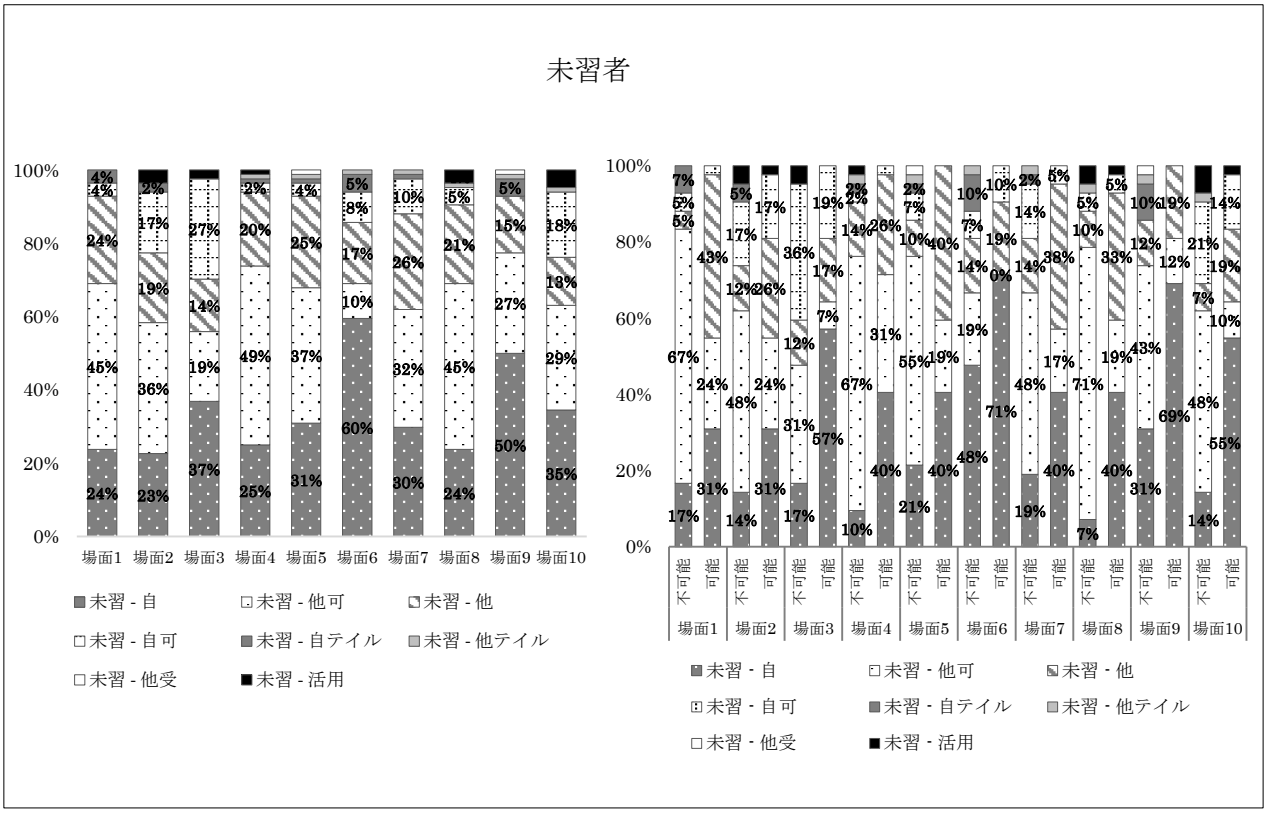


図６-８　TJL の未習者の場面別にみる回答の割合

6.3.3 TJL 別にみる使用傾向

本節では、各 TJL の動詞の使用についてさらに詳しく見るために、動詞の使用傾向、使用パターン、および使用人数を分析する。

1）TJL 別にみる動詞の使用

まず、各 TJL の回答をみる。以下の図６-９は、TJL を既習者と未習者に分けて各 TJL の回答を示したものである。

(単位：件)

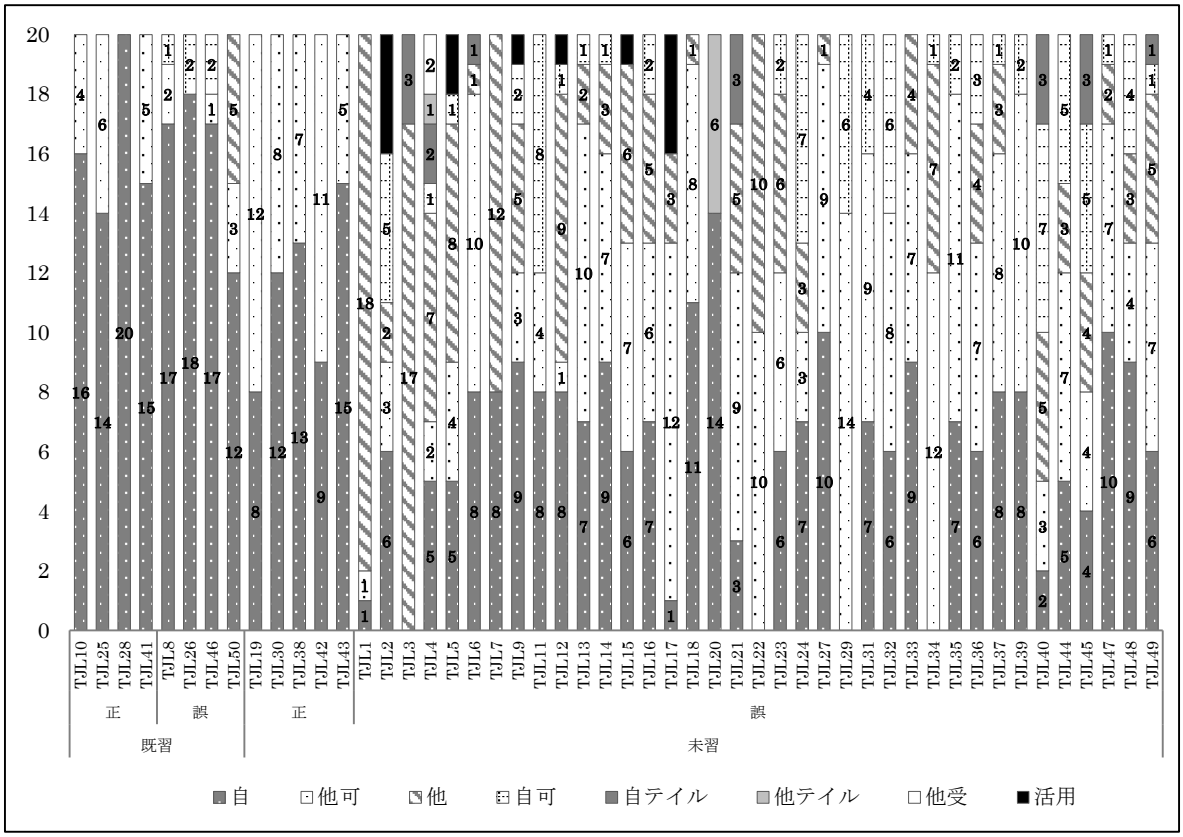


図６-９　TJL 別にみる動詞の回答数

まず、既習者である TJL-8、10、25、26、28、41、46、50 の結果については自動詞の使用がかなり高い傾向にあるということが分かる。TJL-28 はすべて自動詞を用いて回答しており、TJL-10、25、41 も他動詞の可能形が若干含まれているものの、大半を自動詞で回答している。しかしながら、残りの 4 人（TJL-8、26、46、50）には誤答が見られた。TJL-8、26、46 は自動詞の可能形を使用しており、また TJL-50 では他の既習者と比べて自動詞の使用がやや低く、他動詞の回答が目立っている。

次に未習者の回答を見ていく。未習者42人のうち、すべて自動詞を用いて回答したTJLはいなかったが、表現の使用に誤答が見られず、自動詞と他動詞の可能形で回答したのは、TJL-19、30、38、42、43の5人だけである。それ以外の未習者37人には、不適切な回答が見られた。

以上の結果をまとめると、TJL 50人中、行為の結果を表す表現を全ての場面で正確に使用できたのはわずか9人（18%）であり、残りの41人（82%）には誤答が見られたことになる。TJLの大半が誤用を犯す傾向にあることが分かった。

2）TJL 別にみる動詞の使用パターン

次に、各 TJL それぞれがどのように動詞（自動詞と他動詞）を使い分けているかに注目して設問 20 問の結果を分析した。その結果、TJL 50 人の動詞の使い分けには、大きく 15 パターンがあることが明らかになった（表６-８）。

パターン①とパターン②は、自動詞か他動詞の可能形を用いて回答した正答で誤答が見られないパターンであり、9 人、パターン③～パターン⑭は、自動詞か他動詞の可能形以外他の表現も使用する正用と誤用の混用が見られるパターンであり、40 人、パターン⑮は、自動詞も他動詞の可能形も使用せず、他の表現を用いて回答した全て誤用のパターンであり 1 人であった。TJL の大半は動詞の使用に正用と誤用とが混在しており、回答人数が 14 人と最も多かったパターン⑪では、自動詞、他動詞の可能形、他動詞、自動詞の可能形が使用されている。

JNS と比べると、TJL は多様な表現を使用していることが分かる。JNS の動詞の使用は①自動詞と②自動詞、他動詞の可能形の 2 パターンのみであり、①自動詞は 27 人にものぼる。しかし TJL のうち、パターン①で回答したのは一人だけであり、前述のとおり、多くの TJL が正用と誤用どちらも含むさまざまな表現で回答している。このことからも、JNS と TJL の使用は大きく異なることが明らかである。

表６-８　TJL の既習者と未習者の動詞の使用パターンおよび JNS との比較

正誤	動詞	使用パターン[55]	既習者		未習者		TJL 合計		JNS 合計	
			人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
正	自	① 自	1	2%	0	0%	1	2%	27	54%
	自他	② 自、他可	3	6%	5	10%	8	16%	23	46%
正誤	自	③ 自、自可	1	2%	0	0%	1	2%	0	0%
	他	④ 他可、他	0	0%	1	2%	1	2%	0	0%
	自他	⑤ 自、他	0	0%	1	2%	1	2%	0	0%
		⑥ 自、他テイル	0	0%	1	2%	1	2%	0	0%
		⑦ 自可、他可	0	0%	1	2%	1	2%	0	0%
		⑧ 自、他可、他	1	2%	6	12%	7	14%	0	0%
		⑨ 自、他可、自可	2	4%	5	10%	7	14%	0	0%
		⑩ 他可、他、自可	0	0%	1	2%	1	2%	0	0%
		⑪ 自、他可、他、自可	0	0%	14	28%	14	28%	0	0%
		⑫ 自、他可、他、自テイル	0	0%	2	4%	2	4%	0	0%
		⑬ 自、他可、他、自可、自テイル	0	0%	3	6%	3	6%	0	0%
		⑭ 自、他可、他、自可、自テイル、他テイル、他受	0	0%	1	2%	1	2%	0	0%
誤		⑮ 他、自テイル	0	0%	1	2%	1	2%	0	0%
合計			8	16%	42	84%	50	100%	50	100%

[55] この TJL のパターンは実現可能場面における表現の仕方を見るためのものである。したがって、自動詞と他動詞の活用の間違いは入れないことにする。

3）TJL が使用した動詞別の使用人数

続いて、TJL が使用したそれぞれの動詞の使用人数（延べ人数）を見る。

まず、表６-９を見たい。使用人数が多い順に動詞を並べると、自動詞が 46 人（92%）、他動詞の可能形が 45 人（90%）、他動詞が 31 人（62%）、自動詞の可能形が 28 人（56%）、自動詞のテイル形が 7 人（14%）、他動詞のテイル形が 2 人（4%）、他動詞の受身形が 1 人（2%）である。

第４章で示したとおり、JNS で自動詞を回答したのが 100%であったのに対し、他動詞の可能形の回答は 46%である。正しい表現を使用した TJL を JNS と比べると、他動詞の可能形の回答は 90%以上にものぼっている。他動詞の可能形が文法的に間違いでないにせよ、JNS で他動詞の可能形の使用が半分にも満たないところをみると、TJL のほとんどが他動詞の可能形を使用してしまうことは注目すべき点であろう。

また、正用回答（自動詞と他動詞の可能形）が一つでも見られる TJL は 90%以上にのぼるが、正しい表現のみを使用できているわけではなく、誤用回答（他動詞、自動詞の可能形など）も見られる。

表６-９　TJL の既習者と未習者の動詞の使用人数と割合および JNS との比較

正誤	動詞	種類	既習者（8 人）		未習者（42 人）		TJL 合計（50 人）		JNS 合計（50 人）	
			人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
正	自	自	8	100.0%	38	90.5%	46	92.0%	50	100.0%
	他	他可	6	75.0%	39	92.9%	45	90.0%	23	46.0%
誤	自	自可	3	37.5%	25	59.5%	28	56.0%	0	0.0%
		自テイル	0	0.0%	7	16.7%	7	14.0%	0	0.0%
		活用	0	0.0%	2	4.8%	2	4.0%	0	0.0%
	他	他	1	12.5%	30	71.4%	31	62.0%	0	0.0%
		他テイル	0	0.0%	2	4.8%	2	4.0%	0	0.0%
		他受	0	0.0%	1	2.4%	1	2.0%	0	0.0%
		活用	0	0.0%	5	11.9%	5	10.0%	0	0.0%

６.３.４ TJL の動詞選択の理由

本調査では、フォローアップインタビューも行った。本節では、TJL 全体の動詞選択の理由についてフォローアップインタビューで分かったことを考察する。

1）正用回答（自動詞と他動詞の可能形）の選択理由

まず、正しく適切な回答である自動詞と他動詞の可能形の使用理由を見ていく。表６-１０に示すとおり、TJL が自動詞と他動詞の可能形を用いる理由は、視点の置き方、母語であるタイ語の影響、TJL 自身の経験（学習経験や日本語母語話者との接触経験など）の大きく３つに分けられる。順に詳しく見ていこう。

一つ目の理由は視点の置き方である。視点の置き方は、自動詞と他動詞の使い分けの主な判断基準と言えるものであり、インタビューの結果からも、TJL が物と人のどちらに視点を置いているかが分かった。

自動詞を回答した TJL は、実現可能場面で行った動作の結果や物の性質・状態、原因である事物などの物に注目するのに対し、他動詞の可能形を回答した TJL は、人の能力やテクニック、また、努力や責任（力が及ばない、努力が足りない、自分にも原因があるなど）の理由で、人およびその動作に注目して考えるようである。

したがって、先に見た実現不可能の場合、他動詞の可能形の使用が最も多かったのは、TJL、とりわけ未習者が人に視点を置く傾向があることが主な原因だと考えられる。一方、実現可能の場合は実現不可能の場合とは逆で、物に視点を置く傾向にあるため、自動詞の使用が最も多かったのだと考えられる。TJL の視点については、第４章で述べている通り、実現不可能と実現可能の場合のどちらにおいても、物に注目する JNS とは異なることが分かっている。さらに、TJL だけに見られる回答（自動詞・他動詞の可能形以外の回答）の特徴として、実現不可能と実現可能の場合の両方において、他動詞と自動詞の可能形の回答が多いことが挙げられる。その中でも特筆すべきことは、実現可能の場合において他動詞を用いている回答が極端に多いことである。このことから、TJL が何らかの要因により他動詞を多用する問題を抱えていることもうかがえる。

自動詞と他動詞の可能形を使い分ける二つ目の理由は、TJL の母語であるタイ語の影響である。前章で述べたとおり、タイ語には実現可能場面で用いられる形式として結果を表す結果補語（khaŵ 入る、ʔɔ̀ɔk 出る など）と可能や能力を表す可能補語（daŷ 得る）がある。結果補語を日本語に対応させようとする TJL は自動詞を、可能補語を日本語に対応さ

せようとする TJL は他動詞の可能形を使用する傾向がある。このことから、母語であるタイ語の影響が、実現可能場面で行為の結果を表す際の適切な表現使用につながる場合があることが明らかになった。

三つ目の理由は、TJL 自身の経験による原因である。自動詞を回答した TJL の理由として、日本語の授業で「実現可能場面で行為の結果を表す際に、日本語で自動詞を使うことを教わった」「水が出ない、水が出た、電気がつかない、電気がついたといったフレーズなどを教わった」「日本語母語話者との接触経験やテレビで見聞きした日本語を覚えている」などが挙げられた。それに対し、他動詞の可能形を回答した TJL からは、自動詞を回答した TJL に見られたような理由が挙がらなかった。このような TJL の日本語母語話者との接触経験からも、日本語母語話者が行為の結果を表す際に自動詞を好んで使うことが裏付けられるのではないだろうか。

表６-１０ TJL 全体にみる自動詞と他動詞の可能形の選択理由

選択理由	自動詞	他動詞の可能形
視点	・動作の結果 ・物の性質 ・物の状態 ・物に原因がある ・人が働きかけていない（自然） ・人には原因がない ・人の能力や力は関係ない	・人の動作 ・人の能力 ・人の力 ・人のテクニック ・人の努力 ・人の責任（人に原因がある） ・人に助けを求める ・物は意志をもって動くことはない ・自動詞は自然現象を表す
母語	・結果を表す動詞（結果補語） （khaŵ 入る、ʔɔ̀ɔk 出る など）	・可能や能力を表す動詞 （可能補語）（daŷ 得る）
経験	・日本語授業での学習 （規則、丸暗記など） ・日本人との接触 ・テレビ等で見聞きした ・他の場面を想像して使う（応用） （荷物が入らない、入った） ・他動詞の可能形は長く、言いにくい ・他動詞の可能形を聞いたことがない ・可能形を使ったことがない ・可能形の活用に自信がない など	・自動詞が使えるかわからない ・自動詞を使ったことがない

2）誤用回答（自動詞の可能形と他動詞）の選択理由

続いて、誤用回答の使用理由を見てみよう。ここでは、誤用の中でも回答が多い自動詞の可能形と他動詞について述べる。

まず、誤用の中で回答数が多い自動詞の可能形と他動詞の回答の理由を分析すると、インタビューの回答結果から 1）正用回答の場合と同様に、視点の置き方、母語であるタイ語の影響、TJL 自身の経験の三つに大別されることが分かった。選択理由は表６-１１の通りである。

表６-１１ TJL 全体にみる自動詞の可能形と他動詞の選択理由

選択理由	自動詞の可能形	他動詞
視点	・動作の結果 ・物の性質 ・物の状態 ・物に原因がある ＊能力 ＊可能	・人の動作、行動 ＊能力と関係ない ＊助けを求めていない （可能形は助けを求める） ＊可能形の活用は面倒 ＊可能形の活用に自信がない ・自動詞は自然現象を表す
母語	＊自動詞 ＋ 結果補語 （mŭn maŷ pay 等） ＊自動詞 ＋ 可能補語 （mŭn maŷ daŷ、mŭn daŷ 等）	＊意志動詞 （pə̀ət léɛw）
経験	＊日本人との接触 ＊テレビ等で見聞きした ＊他の場面を想像して使う （*荷物が入(はい)れない） など	＊日本人との接触 ＊テレビ等で見聞きした （*出さない、通さない） ＊可能形にしなくても通じる ＊可能形にするか迷う

自動詞の可能形を回答した TJL は、JNS と同様に物に視点を置くが、能力や可能があると捉えることで、可能形に活用させると答えた。TJL が能力や可能性があると捉える理由として、文化の差が考えられる。従来の研究（出口 1982、小林 1996 など）でも、行為の結果を表す際、日本語が物に視点を置いて自動詞を好む言語であるのに対し、他の多くの言語は、能力や可能性に注目する文化であるため可能表現を使う傾向にあると論じられている。

さらに、タイ語を日本語に置き換えて自動詞の可能形にしたと答えた TJL もいた。タイ語では、行為の結果を表す際に、場合によって、自動詞（自・他両用動詞）に結果補語か可能補語を後続させて表現する。例えば、mŭn mây pay（回る＋否定＋行く→回れない自可）、mŭn mây dây（回る＋否定＋得る→回れない自可）などである。また、セーリム（2013a）は、タイ語は有情物と非情物の双方に可能形が使用できるため、主体が物である場合でも、タイ語母語話者は自動詞を可能形に活用させて誤った表現（例「この病気は治れる」）を使用してしまうと考察している。

また、TJL 自身の経験で判断したという理由も挙げられた。例えば、自動詞の可能形の回答数が最も多い場面 3 では、「コンタクトが入らない」と表現しなければならないのに、日本人が使っていたのを聞いたことがあるなどの理由で、「入（はい）れない」と答えた TJL がいた。これは、他の場面や他の動詞との聞き間違いや、「入る」（自動詞）ということだけを覚えていて、自身で作り上げた規則の中で恣意的に活用して、誤用に至ったものと思われる。

TJL にみる自動詞の可能形の誤用は、本調査だけではなく、セーリム（2012ab、2013ab）でも現れた。したがって、TJL が自動詞の可能形を使用する傾向にあることは注意すべきことである。

一方、他動詞を回答した TJL は、人に視点を置いている点に関しては他動詞の可能形を回答した TJL と変わらないものの、動詞が可能形である必要はないと考えているので、可能形に活用させずに他動詞を用いている。例えば、回答が最も多い場面 1 の瓶の蓋を開けようとした場面では、「開けた」ことは可能の「開けられた」に通じるので、可能形を付けなかったとのことである。すなわち、他動詞を回答した TJL は、能力や力の有無に関わらず、人が行為を行えばその行為は実現可能になると捉えているようである。

また、TJL の母語であるタイ語の影響から来る理由もあった。第 5 章で述べたように、タイ語では、行為の結果を表す際に、前項動詞である意志動詞に結果補語（khâa taay（殺

す＋死ぬ）など）か可能補語（pə̀ət daŷ（開ける＋得る）など）を後続させる。しかし、最近ゆれがあり、タイ語母語話者の中には意志動詞のみで表現する若者もいる。例えば、本来 pə̀ət daŷ léɛw と可能補語 daŷ を使うところを、pə̀ət léɛw（開ける＋完了→開けた$_{他}$）というように意志動詞のみで表現するのである。このようなタイ語の使用が、日本語の他動詞を可能形にせずに使用することに繋がっていると考えられる。

また、自動詞の可能形と同じように、日本人が使っていたのを聞いたことがあるなどの理由で答えた TJL がいる。これは、他の場面や他の動詞との聞き間違い、可能形の脱落により誤用に至ったものと思われる。

このような不適切な表現を使用した TJL は、実現可能場面で行為の結果を表すとき、自動詞を可能形にすると非文法的になることや、人あるいは人の行為に注目するなら他動詞を可能形にしなければならないことなどの知識をあまり持っていないのだろう。そのため、自ら作り上げた規則や正しくない経験に基づき、動詞選択を誤ったのではないかと推測できる。また、タイ語の規則を日本語に対応させて動詞を選択しても、それが誤用となる場合もあることが明らかになった。したがって、実現可能場面で行為の結果を表す際に、正用（自動詞と他動詞の可能形）と誤用（他動詞、自動詞の可能形など）を混同しないように、日本語をタイ語に対応させて考えるときには注意が必要である。

3）誤用回答（自動詞のテイル形、他動詞のテイル形、他動詞の受身形）の選択理由

自動詞のテイル形、他動詞のテイル形、他動詞の受身形の選択理由に関してインタビューで分かった内容をまとめる。

先述したように、視点の置き方は、自動詞と他動詞の使い分けの主な判断基準である。自動詞のテイル形を回答した TJL は物に、他動詞のテイル形と他動詞の受身形と答えた TJL は人に視点をおいていることが分かる。

テイル形を回答した TJL は、まだ達成していない、まだできていない、その状態がまだ変化していないというように事態を捉えたと回答している。本研究の調査結果でもテイル形は実現不可能の場合だけに現れている。また、特定の動詞を「～ていない」の形で覚えている TJL もいる。例えば、場面 1「蓋が開かない」、場面 9「火がつかない」を「ドアが開いていない」「電気がついていない」から置き換えて、自動詞のテイル形を使ったということである。日本語の授業でテイルを導入する際、場合によっては、教師の指導や練習方法が学習者の習得にマイナスに影響する可能性があることも考えられる。

受身形を回答したTJLは、今回の調査では一人だけで、具体的な理由が挙がらなかった。このTJLが実現不可能場面で回答した「閉められない」と「つけられない」の二つの動詞から考えると、このTJLは、事態の捉え方が異なるため、もしくは、Ⅱグループ動詞（下一段活用の動詞）の受身形と可能形の活用は形が同じ「～られる」であるため、受身形を回答したと考えられる。あるいは、受身形および可能形との混同であることも考えられる。

本調査では、自動詞のテイル形、他動詞のテイル形、他動詞の受身形を回答したTJLが、自動詞の可能形、他動詞ほど多くはなかったが、日本語の様々な文法項目（可能形、受身形、テイル形など）を混同しており、場面に合った使い分けが正しくできていないことが分かった。

4）誤用回答（活用の間違い）の選択理由

本研究では、自動詞と他動詞の使用、動詞の使い分けを中心に考察するため、活用の間違いに関する詳しい分析は対象外とする。

6.4 TJLの行為の結果を表す表現のテストの正用誤用に関わる要因

TJLの行為の結果を表す表現使用の分析結果を踏まえ、TJLのテストの正用誤用には、学習環境要因、学習者要因など様々な要因[56]が絡んでいるということが分かった。

各TJLの調査結果より、JNSと比べて、TJLの既習者の方が未習者より日本語母語話者と似た傾向で自動詞を使用することが明らかになった。また、自動詞と他動詞の選択理由について既習者と未習者にインタビューで質問したところ、既習者に関しては、実現可能場面における行為の結果を表す表現を教師から明示的な形で教わったため、「自動詞を使う」「日本人は行為の結果や物の状態などに注目するので、自動詞で表現する」「自動詞も他動詞の可能形もどちらも使えるが、自動詞の方が自然」などと答えた人が大半であった。

一方、未習者は行為の結果を表す表現を教師から明示的な形で教わっていないため、自動詞と他動詞の選択に迷いが見られ、自分が知っている自動詞と他動詞の基本的な用法や独自の規則で判断したということが分かった。母語の影響でタイ語をそのまま日本語に置き換えること（母語干渉）、日本語の授業で教わった自動詞と他動詞に関するわ

[56] 本節における「学習環境要因」「学習者要因」は、林（1998）、林ほか（2006）の用語に従う。

ずかな知識のみを用いて様々な場面に対応しようとすること（過剰般化）、授業外の日常生活での経験を活かして自動詞と他動詞を使用することなど、様々なストラテジーを用いている。また、実現可能場面の事態描写、状況の捉え方、視点の置き方などもそれぞれ異なることが分かった。

以上のことから、既習者は実現可能場面における行為の結果を表す表現を明示的な形で教わったことで JNS と同じ観点で事態を捉えているのに対し、未習者は様々な観点で事態を捉えており、それが多様な言語表現の選択につながったものと考えられる。

さらに、教室内の指導内容に関して既習者と未習者ではどのような違いがあるのかを探るためにインタビューしたところ、どちらも教師が自動詞と他動詞の基本的な内容（語彙、助詞、用法など）を教室内で教えたと答えていた。しかし、既習者と未習者では、教師が自動詞と他動詞についてどれだけ時間をかけて、熱心に教えたかに差があることが分かった。既習者の場合、教師は、先に述べたような自動詞と他動詞に関する基本的な内容を教えるだけでなく、教師自身が用意した補足資料や練習プリントの使用、実際の日本語使用に近い場面を想定して場面に合う適切な表現の使い分けを教えるなど、自動詞と他動詞の使用が定着するような学習内容を指導の中に盛り込み、教室内の活動が充実していたことが分かった。これらの学習内容が、本調査結果で既習者が回答した内容に反映していると考えられる。それに対し、未習者では、教師は基本的な指導内容を学習者に教えるにとどまり、特別に自動詞と他動詞の使用場面を取り上げて教室内で練習をさせたりするなど、教材の内容の範囲を超えて、自動詞と他動詞に関する内容を詳しく教えることはしていないことが分かった。

以上のことから、実現可能場面における行為の結果を表す表現（自動詞と他動詞）の教室内での指導の重要性が明らかになり、教師が重要な役割を担っていることが改めて確認できた。言語が違えば、物事や事態の捉え方も異なるので、ある物事について日本語で言及するときの事態の捉え方を的確に理解することが重要である。したがって、実用的な内容で明示的に指導すべきであると考える。

6.5 本章のまとめ

本章では、TJL に文完成テスト及びフォローアップインタビューを行い、実現可能場面における行為の結果を表す表現の使用に関して調査を行った。調査結果を分析した上でJNSと比較し、TJL の特徴をまとめたものは以下の通りである。

・TJL 50 人のうち、行為の結果を表す表現を教わったのは 8 人（既習者）、教わっていないのは 42 人（未習者）であり、既習者の人数は未習者に比べて圧倒的に少ない。

・既習者の表現の使用は JNS と近似しており、自動詞の使用が 80.6%と高い。それに対し、未習者は自動詞と他動詞の可能形の使用がそれぞれ 33.7%、32.9%と、ほぼ同じ傾向を示している。また、自動詞、他動詞の可能形以外、他動詞、自動詞の可能形、自動詞のテイル形、他動詞のテイル形、他動詞の受身形などの様々な形式が未習者に見られる。

・実現不可能と可能の場面を分けてみると、既習者は JNS の使用と似ており、どちらの場面も、自動詞の回答が高い傾向にある。一方、未習者は実現不可能の場面では他動詞の可能形、実現可能場面では自動詞の回答が多く、実現不可能場面と実現可能場面での使用傾向が両場面で逆転している。

・TJL の表現の選択理由は、①物と人のどちらの視点をおくか、②母語の影響、③TJL 自身の経験（学習経験や日本語母語話者との接触経験など）の三つに大別できる。

・TJL の正用・誤用の回答に影響する主な要因として、学習環境や学習内容が大きく関わる。実際の日本語使用の場面に関連づけて自動詞と他動詞の概念の指導を受けた既習者は、日本語母語話者と似た傾向で行為の結果を表す表現を選択できる。

第７章 教材や指導方法に関する問題および提案

本章では、タイ語を母語とする日本語学習者に対し、日本語教育現場で実現可能場面における行為の結果を表す表現をどのように指導すればよいのか、指導方法や改善点などを提案するために、行為の結果を表す表現の文法上の注意事項、および教材や指導方法に関する問題点を把握する必要があると考える。

７.１ 行為の結果を表す表現の特徴および指導のポイント

本節では実現可能場面における行為の結果を表す表現の指導にあたり、自動詞・他動詞および可能形に関して、TJL に対し必要となる文法知識や指導ポイントをまとめる。なお、ここでは、本調査で実施したインタビュー結果も参考にする。

７.１.１ 自動詞と他動詞の基本的な概念

日本語の動詞には、他動詞の存在しない自動詞（無対自動詞）（例：走る、寝る）、自動詞の存在しない他動詞（無対他動詞）（例：書く、食べる）、自動詞と他動詞がペアになっているもの（有対動詞）（例：消える - 消す）、一つの動詞で自動詞・他動詞両方を兼ねているもの（例：開(ひら)く）の 4 種類存在するが、タイ語を母語とする日本語学習者には有対動詞が難しいと言われている（Chawengkijwanich 2008 など）。最も難しいと感じる動詞の種類を TJL に聞いたところ、やはり対になっている自動詞・他動詞（有対動詞）の語彙が挙がった。日本語の自動詞・他動詞は、「あく・あける」のように音や表現が近似しており、混乱しやすい。そのため、自動詞・他動詞を区別するルールを覚えるのが大きな負担となる。

また、自動詞・他動詞（有対動詞）の用法には様々な用法があるため[57]、多くの TJL、とりわけ未習者は、いつ他動詞を使い、いつ自動詞を使うかが分からず自動詞・他動詞の使用に自信がないと答えた。また、自動詞・他動詞の基本的な使い方（助詞や視点の置き方など）は教わったものの、適切な使い方が分からず、実際の場面で応用できないと答えた TJL もいた。

日本語の自動詞・他動詞の使用が TJL にとって困難なのは、タイ語では、日本語ほど自

[57] 自動詞・他動詞の用法に関しては市川（2005ab）などを参照。

動詞・他動詞の概念を意識しない上に、格助詞がない言語であるからだと考えられる。そのため、日本語の自動詞と他動詞は TJL の混乱を招きやすいのだろう。市川 2005b、小林 2001、中石 2002、横田 2011 などでも、学習者の母語では他動詞・自動詞の形態の区別がない場合が多い。例えば、(38)(39)のように、英語とタイ語はそれぞれ「open」「pòət」という一つの動詞で自動詞にも他動詞にもなる。

(38) He opens the door.

khǎw pòət praʔtuu （彼 開ける ドア）

彼がドアを開ける。

(39) The door opens.

praʔtuu pòət （ドア 開く）

ドアが開く。

よって、TJL には、まず、自動詞と他動詞の違いや概念を理解させる必要がある。

7.1.2 可能表現の概念

可能表現は実現可能場面における言語表現に深く関わる表現の一つである。インタビューによると、TJL は日本語の可能表現の概念（使い方や意味）はタイ語の可能表現（daây など）に似ており、自動詞・他動詞ほど難しくないと答えた。

しかし、本調査では、動詞を可能形にするか否か悩んでいた TJL が少なからずいたことがインタビューで分かっている。可能形を用いずに回答した TJL は、「開けた」は可能形の「開けられた」と同じ意味だと捉え、可能形を用いる必要がないと考えたようである。このように、TJL には可能形の脱落や非用が多いのである。行為者が相手からのアドバイスで再度行為を試みた結果、行為が実現した場合、日本語で他動詞を用いるには動詞を可能形にする必要がある。それに対し、タイ語の場合は、可能表現は適切な表現として用いられるものの、実現可能場面だと明確に分かる場合であれば、必ずしも可能表現を用いる必要がない。これは、ゆれが生じていることにより、可能補語である daây（得る）を用いずに行為が実現したことを表すタイ語の言語現象（pòət daây lɛ́ɛw（開ける＋得る＋完了）→ pòət lɛ́ɛw（開ける＋完了））に因ると考えられる。また、両言語間の動詞の意志性・意図

性の性質の違いも関係しているのかもしれない[58]。

一方、実現不可能の場合の自動詞の回答では、自動詞を使うべきところを自動詞の可能形にした誤用も見られた。例えば、自動詞「入らない」を可能形「入(はい)れない」にするなどがそれに当たり、こうした間違いを犯す TJL は少なくない。自動詞の可能形の誤用には、様々な要因があるが、先行研究での指摘が多い誤用の要因は、日本語の自動詞が可能の意味合いを含むこと[59]と母語の影響[60]による要因の二つであると言われている[61]。本調査でもこの二つの要因が関わっていると思われる結果が表れており、自動詞の可能形は、行為の結果を表す際に、陥りやすい誤用であると言える。このように、可能形は原則として意志動詞に限られるが、原則をつい見落として誤りを犯す学習者が多いため[62]、可能形の脱落と過剰使用には注意を払うべきである。

7.1.3 行為の結果を表す自動詞と他動詞の可能形および事態の捉え方の概念

実現可能場面における行為の結果を表す際、日本語では自動詞か他動詞の可能形のいずれかを使用する。一方、タイ語は日本語と異なり、自動詞・他動詞ではなく、二つの動詞の組み合わせで表現する。自動詞と他動詞の可能形の選択は TJL にとって難しい。インタビューにおいても、TJL は自動詞と他動詞のどちらかを選択し、さらに動詞を可能形にするかを決定するのに迷っていたと答えている。

また、実現可能場面の事態の捉え方については、日本語では物に注目するが、タイ語では、本動詞と補助動詞（補語）を組み合わせた定型表現（例：cùt fay tìt（つける 火 つく））が存在するため、事態の捉え方が人か物かによって自動詞か他動詞の可能形を選択しているだけでなく、決まった表現も考慮した上で、表現を選択する。また両言語間で表現が異なるのと同時に、物と人のどちらに視点を置くかという事態の捉え方にも違いが見

---

58 タイ語と日本語の動詞の意志性の対照研究に関しては、バンチョンマニー（1995）などを参照。

59 目標言語である日本語の構造や表現そのものが困難であることによる誤り（言語内の誤り：intralingual error）である。学習者の母語とは無関係に現れる誤り、つまり異なる母語を持つ学習者間に共通に現れる誤用のことである（市川 2001、小柳 2004 等）。

60 学習者の母語からの影響つまり負の転移による誤り（言語間の誤り：interlingual error）である。つまり、日本語と母語の相違点を把握しない限り、誤りを犯す可能性が高いと考えられる（市川 2001、小柳 2004 等）。

61 日本語学習者の自動詞の可能形の誤用に関する研究は、張 1998、渋谷 1998、望月 2009、楠本 2009、市川 2010、セーリム 2013a などを参照。

62 可能形が意志動詞に限られる原則に気づかず、誤りを犯す学習者が多いと考察している研究として、姫野（2001）を参照。

られる[63]。したがって、学習者がある事態を日本語で表現する際には、適切な表現を覚えるだけでなく、表現を選択する過程で必要となる事態の捉え方を的確に理解することが重要である。

TJL にとって、自動詞と他動詞のどちらを選択したらいいのか、可能形にするべきか否か、そして自動詞と他動詞の可能形はどう違うのか、ということを適切に判断するのは難しい。さらに、両言語間で事態の捉え方が異なることも、表現の選択を困難にする。そのため、実現可能場面における行為の結果を日本語で表現する際、TJL の多くは混乱してしまう。本調査の JNS の結果からも分かるように、実現可能場面において、場面 1「開いた」のように、人為が加わっていても自動詞を用いる場合もあれば、場面 4「消えた／消せた」のように自動詞と他動詞の可能形の双方が自然に感じられる場合もある。そのため、動詞の選択基準がつかみにくいのである。実現可能場面における表現選択は重要な指導ポイントとして扱うべきであり、今後、こうした学習者にとって困難な点を日本語教育の問題に反映させていくことが課題となるだろう。

7.2 教材における行為の結果を表す表現

TJL が実現可能場面において行為の結果を表す際に選択する表現は、TJL 自身が学習の際に使用した教科書や教材の影響も大きいはずである。本節では、日本語教科書における自動詞・他動詞、可能形および行為の結果を表す表現の扱いを分析・考察し、教材の問題点や改善点を探る[64]。

教科書および教材に関しては、本調査で行ったインタビューで TJL より情報を得た。どんな教材を使って自動詞・他動詞、可能形および行為の結果を表す表現を学習したかをインタビューしたところ、タイでは日本語教育を実施している学校によって教材が異なることが分かった。日本で出版された教科書を利用している学校や、自作教材を利用している

---

[63] これまでの先行研究（守屋 1994、小林 1996 など）では、日本語学習者にとって行為の結果を表す表現が困難な原因として、人為が加わっているのにも関らず、自動詞で表現する場合であることが挙げられている。また、小林（1996）は、習得の立場から考え、（1）文化的好まない、母語の表現形式と矛盾する、（2）他の表現でもその事態は表現できる、という 2 点が、日本語学習者の自動詞による行為の結果の表現に対する学習動機を低くし、ますます習得を困難にしていると論じている。

[64] 本節での「問題点」は、どのような説明が不十分であるかを把握することを重視する。今回の問題点は、具体例の一つとして取り上げるものであり、教科書や教材の改訂を迫ることを意図するものではない。

学校もある。さらに、TJL が挙げた初級・中級の授業の時に使用していた教科書や教材も様々である。

これらのインタビュー結果から、本節では初級と中級の教科書および教材を分けて分析することにする。そして、自動詞・他動詞、可能形および行為の結果を表す表現に関してどのような項目を学習しているのかを分析する。

7.2.1 初級の教材における内容

TJL が初級の授業の時に使用していた日本語の教科書や教材として挙げた総合教科書 5 冊[65]、および各教科書に関する情報は以下の通りである。なお、調査対象の教科書に付属の文法解説書および教師用手引書がある場合は加えて調査対象とした。

表 7-1　TJL の使用した初級の教科書に関する情報

	教科書[66]	初版年[67]	著者・発行所	対象
1	日本語初歩	1985	国際交流基金	一般
	日本語初歩 日本語文法解説　タイ語版	1995	ステープ・ノームサワット	
2	初級日本語	1994	東京外国語大学	留学生
	初級日本語れんしゅう	1994	東京外国語大学	
	初級日本語文法解説 英語版	2001	東京外国語大学	
3	みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ 本冊	1998	スリーエーネットワーク	一般
	みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ 文法解説. タイ語版	2000	スリーエーネットワーク	
	みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ 教え方の手引き	2000	スリーエーネットワーク	
4	日本語よろしく 1-6	1999	泰日経済技術振興協会	一般
5	日本語あきこと友だち 1-6	2004	国際交流基金 バンコク日本文化センター	高校生

65 この 5 冊の教科書は、タイの日本語教育における日本語教育機関などでよく使用されている教材として挙がっている教科書である。詳しくは「国際交流基金：日本語教育国・地域別情報（タイ）」の WEB サイト、ปราณี และคนอื่น ๆ (2544)［プラニー他（2001）］を参照。

66 2 の『初級日本語』、3 の『みんなの日本語』は改訂版が出ているが、タイにおける教育現場の状況や TJL によると、タイでは旧版が使われているため、本調査は旧版を取り扱う。なお、調査項目（可能形と自動詞、行為の結果の状態の表現など）に関する旧版と新版を確認したが、違いが見られなかった。

67 「初版年」とは第 1 巻の初版年を指す。

表７-２　各教科書での導入の順序と例文

	教科書	～ことができる	可能形	自動詞・他動詞
1	日本語初歩	23 課		18 課
		・私は泳ぐことができます。(p.188) ・私は自転車に乗ることができます。(p.188)	・私は泳げます。(p.188) ・ここに車が止められます。(p.188) ・おふろに入れます。(p.190) ・たばこはすえますが、おさけは飲めません。(p.194) ・朝早くおきられませんでした。(p.193)	・まどがしまる。／まどをしめる。(p.145) ・まどがしまっています。／まどがしめてあります。(p.146)
2	初級日本語	16 課		17 課
		・アリさんはさしみを食べることができますか。(p.135) ・りゅう学生はこのりょうに入ることができます。(p.135)	・アリさんはさしみが食べられますか。(p.135) ・りゅう学生はこのりょうに入れます。(p.135) ・このにもつは軽いから、一人で運べます。(p.138) ・この作文は短いから、十分ぐらいでなおせるでしょう。(p.138) ・わたしはけさ五時におきられませんでした。(p.135)	・マナ：食器のはこはトランクに入れました。このいすも入れますか。 小林：それは大きいから、入らないでしょう。(p.143) ・この戸は古いから、開きません。(れんしゅう p.202) ・男の人がタクシーを止めました。／タクシーが止まりました。(p.146)
3	みんなの日本語	18 課	27 課	29 課
		・ミラーさんは漢字を読むことができます。(p.146) ・ここで切符をかうことができます。(p.148)	・わたしは日本語が少し話せます。(p.10) ・約束がありますから、きょうは飲みに行けません。(p.13) ・ここに車が止められます。(p.13) ・ひらがなはかけますが、かんじはかけません。(p.12) ・きのうはよく寝られましたか。(p.16)	・窓が閉まっています。(p.26) ・ドアがあいています。(p.28) ・くるまがとまっています。(p.28) ・このふくろはやぶれています。(p.28)
4	日本語よろしく	4 巻 2 課	5 巻 4 課	4 巻 6 課
		・ラリターさんは英語ができます。(p.28) ・アリヤーさんはテストをすることができます。(p.29)	・ラリターさんはかんじが読めます。(p.59) ・このはこは重いですから、一人でもてません。(p.61) ・すしは食べられますが、さしみは食べられません。(p.61) ・しけんがむずかしくて出来ませんでした。(p.68)	・ドアをあける。→ ドアがあけてあります。(p.100) ・ドアがあく。→ ドアがあいています。(p.100) ・お金を入れる。→ お金が入れてあります。(p.100) ・お金が入る。→ お金が入っています。(p.100)
5	あきこと友だち	10 課	18 課	-
		・上の兄はピアノをひくことができます。(p.150)	・からい物が食べられます。(p.33)	

７.１で述べた表現の特徴や困難点に合わせて、自動詞・他動詞、可能表現、行為の結果を表す表現をそれぞれ項目に分けて順に考察する。

1）自動詞・他動詞に関する内容

自動詞・他動詞に関しては、まず、有対自動詞・他動詞における指導内容から見ていきたい。表７-２で挙げた総合教材５冊の中で、自動詞・他動詞がペアとなって取り上げられているもの、自動詞と他動詞を単独で提示し、自動詞文・他動詞文として捉えているものがある。自動詞は「ガ」、他動詞は「ヲ」というように助詞の違いを提示しているのは、1『日本語初歩』（18 課）、2『初級日本語』（17 課）、4『日本語よろしく』（4 巻 6 課）である。一方、3『みんなの日本語』は、巻末に自動詞と他動詞をセットにした表がついているものの、自動詞と他動詞の対（ペア）が同課に出ておらず、別々の課で提出されている（29 課、30 課）。また、5『日本語あきこと友だち』はタイ語を母語とする日本語学習者の高校生を対象とした教科書であり、「自動詞・他動詞」だけを文法項目として取り上げた課はない。

以上、総合教材の特徴をそれぞれ挙げたが、初級の段階では自動詞と他動詞の語彙や意味、助詞を中心に導入し、自動詞と他動詞を対比させて教える教科書が多いということが分かった。

一方、自動詞と他動詞が別々の課にある『みんなの日本語』や『日本語あきこと友だち』を用いて教えるとなった場合、学習者が自動詞・他動詞にどのように触れるか、重要な項目として学習者にも重視させられるかは、教師の指導次第になる。つまり、教師が本教材以外に補足資料を用意し、指導内容を工夫したりしなければならないのである。そうなると教えずに済ます教師も出てきてしまう。

一方で、自動詞と他動詞の対立をあえて文法項目として立てていない『日本語あきこと友だち』[68]に好評価を与える意見もある。今枝（2003）では、『日本語あきことと友だち』の執筆に関わったタイ人の執筆委員が「機械の操作という場面の中で自然に練習できるよ

[68] 『日本語あきこと友だち』はタイ語を母語とする日本語学習者の高校生を対象とした教科書であり、タイ語には、自動詞と他動詞という対応関係はなく、「自動詞・他動詞」だけを文法項目として取り上げて説明しても混乱をまねく可能性があることから、それぞれの動詞が使用される場面で覚えるようシラバスが組まれている。例えば 26 課では、「機械の使い方が説明できるようになる」という学習目標のために「ボタンをおすと、おゆが出ます」という文を学習する。文法説明や練習で扱っているのは「～と、～」という文のパターンで導入されている。

うになっており、自分が学習者のときにこの項目にとても苦労したこともあり、この課での出し方はとても気に入っている」と評価したことが書かれている。

タイ語には自動詞・他動詞の概念がなく、タイ語母語話者自身もさほど意識しない。そのため教師が明示的に指導しないと、「出る」「出す」のような自動詞・他動詞のペア、基本的な使い方などが身につかないままになってしまい、このまま中級に上がればコミュニケーション上で誤用を犯す可能性も大いにある。自動詞と他動詞の基本的な概念を学習者に教えることは重要なのである。

なお、各教科書における自動詞・他動詞に関する導入内容を参考として以下に示す。

表７-３　各教科書における自動詞・他動詞に関する指導内容

	教科書	導入される文法項目	助詞の使用に関する説明
1	日本語初歩	・自動詞・他動詞のペア ・～ている ・～てある	○
	日本語初歩 日本語文法解説　タイ語版		
2	初級日本語	・自動詞・他動詞のペア ・～ている	○
	初級日本語れんしゅう		
	初級日本語文法解説 英語版		
3	みんなの日本語 初級本冊	・～ている	○
	みんなの日本語 初級文法解説 タイ語版		
	みんなの日本語 初級 教え方の手引き		
4	日本語よろしく	・自動詞・他動詞のペア ・～ている ・～てある	○
5	日本語あきこと友だち		

※　○＝説明や注意事項がある
　　×＝説明や注意事項がない

2）可能表現に関する内容

可能形が導入される課は、5 冊中全ての教科書に見られた。まず、各教科書における可能形に関する指導内容をまとめた以下の表 7-4 を見たい。

表 7-4　各教科書における可能形に関する指導内容

	教科書	活用	助詞	使用条件	例外の動詞
1	日本語初歩			×	
	日本語初歩 文法解説 タイ語版	○	○	△	・「聞こえる」、「見える」は可能動詞と同じように状態を表すので、助詞「が」を使う。（23 課 p.167）
2	初級日本語			×	
	初級日本語れんしゅう			×	
	初級日本語文法解説 英語版	○	○	×	
3	みんなの日本語 初級 本冊	○		×	
	みんなの日本語 初級 文法解説. タイ語版	○	○	△	・「わかる」は可能の意味がある状態を表す動詞なので、「わかれる」にできない。（27 課 p.14） ・「見る」、「聞く」は意志性があるので、「見られる」、「聞ける」にできるが、「見える」、「聞こえる」 は意志性がない。（27 課 p.14）
	みんなの日本語 初級教え方の手引き	○	○	△	・「見える」「聞こえる」と「見られる」「聞ける」の違い（27 課）
4	日本語よろしく	○	○	△	・「わかる」には可能の意味が含まれているので、可能形にできない。(5 巻 4 課 p.66) ・「見える」「聞こえる」（5 巻 4 課 p.67）
5	日本語あきこと友だち	○	○	×	

※【活用】 ○ ＝ 動詞を可能形にする時の活用の規則に関する説明がある
【助詞】 ○ ＝ 可能形を用いた場合の助詞の変化（ヲ→ガ）に関する説明がある
【使用条件】× ＝ 可能表現における主体の有情性や動詞の意志性などに関する説明がない
△ ＝ 可能形にすることができない動詞の例は挙げられているが、規則や条件の説明がない

表 7-4 から分かるように、いずれの教科書にも動詞を可能形にする時の活用の規則と可能形を用いた場合の助詞の変化（ヲ→ガ）に関する説明が載っている。ただし、可能形にできる動詞が意志動詞（例：書く、食べる、消す）に限られることは、どの教科書にも記載されていない[69]。

[69] 長友（1997ab）は、可能形の導入に関して、初級の段階では可能形の定着に重点を置いた文型練習が取り入れられるのみであり、中級・上級になっても可能形をとる動詞ととらない動詞に気づかずに、誤用してしまう学習者が少なくないと述べている。

さらに、可能表現における主体の有情性[70]や動詞の意志性など、使用条件に関する説明は、どの教科書にも見られなかった。ただし、使用の制限として、可能形にすることができない動詞に関する説明は 3 冊の教科書 1『日本語初歩』（23 課）、3『みんなの日本語』（27 課）、4『日本語よろしく』（5 巻 4 課）で見られた。この説明で例外として取り上げられている動詞は、主に「見える」、「聞こえる」、「わかる」であり、これらが可能形にできない理由として、「可能動詞と同じように状態を表すから」、「可能・能力の意味を表すから」、「意志性がないから」と書かれていた。このような説明によって、可能形にできないのはこの 3 つの動詞だけだと思い込む可能性があること、この説明では他の動詞に応用できないことが、TJL の自動詞の可能形の誤用につながっている[71]と考えられる。即ち、どの教科書においても可能形の使用条件が記載されていないため、学習者は自動詞の可能形が誤用であると認識するまでには至らない。楠本（2009）の指摘と同様に、教師が意識的に導入しなければ、学習者は気付くことも教えられることもなく終わってしまう。そのため、教師が有対自動詞は可能形にできないことや自動詞の可能形が非文法的となることも合わせて提示する必要があると言えるだろう。

また、各教科書において可能表現の意味的な分類[72]を見ると、5 冊の教科書のどの教科書も潜在可能の文型が中心に扱われている。しかし、実現可能の文型として取り入れているのは、2『初級日本語』（16 課）の 1 冊だけである。1『日本語初歩』（23 課）、3『みんなの日本語』（27 課）、4『日本語よろしく』（5 巻 4 課）では、文型として取り上げられていないが、実現可能の例文が載っている。しかしこれら 4 冊に対して、5『日本語あきこと友だち』は、可能形の課には実現可能の例文がない。

このことから、初級の教科書では、実現可能の文型や例文があまり重視されていないということが分かった[73]。TJL が実現可能場面では他動詞の可能形がふさわしい表現であることを意識できなかったことも、他動詞の回答につながった一つの原因なのではないだろ

---

[70] 日本語教育における日本語の可能形の導入で、主語が「有情物」か「非情物」かという要素を考える重要性について論じている研究として、封（2005・2007）、セーリム（2013a）などが挙げられる。

[71] 「自動詞の可能形」の誤用の要因（初級日本語教科書による要因）に関する研究は、セーリム（2013c）を参照。

[72] 渋谷（1993）では、日本語の可能表現は、「動作の実現（非実現）を含意しない『潜在系（potential）の可能』」と「動作の実現（非実現）を含意する『実現系（actual）の可能』」に分類されている。本研究では、それぞれ「潜在可能」「実現可能」と呼ぶ。以下が潜在可能、実現可能の例である。

・僕にはたとえ三日かけてもレポートなんか書けない。＜潜在可能＞（渋谷 1993：14）

・三日かかってようやくレポートが書けた。＜実現可能＞（渋谷 1993：14）

[73] 日本語の初級教科書の実現可能の取り扱いに関しては、村上（2015）を参照。

うか。村上（2015）でも指摘されているように、実現可能場面では、無標の動詞との使い分けが明確である文を提示することによって、自分の意志ではなく動作が実現しなかった、実現したということを示すことができる。しかし、実現可能場面の設定が重要だからと言って、常に指導内容に入れるべきというわけではない。実現可能場面における可能表現の過剰練習をすることで、有対の自動詞文も行為の結果を表す表現であることを忘れることになりかねない。

可能表現は、自動詞・他動詞と異なり、タイ語にも存在する表現である。そのため、タイ語母語話者は自動詞・他動詞ほど、可能表現に注意を払わない可能性がある。教師は、可能表現についても、日本語とタイ語両言語の使用条件の異同を把握しておくべきであろう。

3）行為の結果を表す自動詞と他動詞の可能形および事態の捉え方に関する内容

初級の日本語教科書では、自動詞と他動詞のペアや意味の違い、助詞の使用などを中心に導入する教科書が多いということを見てきたが、どのような時に自動詞を使い、どのような時に他動詞を使用するのか、どんな表現が日本語らしいのか、実際の場面に応じた自動詞と他動詞の使い分けに関する説明をする初級教科書は少ない[74]。行為の結果を表す表現の例文を取り上げた教科書は 2『初級日本語』のみで、以下の会話の中で導入されている[75]。この教科書は、実際起こりうる場面の中で自動詞と他動詞を教えられるようになっている点で、優れていると言えるだろう。

マナ：食器のはこはトランクに入れました。このいすも入れますか。
小林：それは大きいから、入らないでしょう。

『初級日本語』17 課 p.143 [76]

[74] 白川（2002）は、学習者が自動詞・他動詞を習っても、その知識が形態的な対応関係や格助詞の違いに留まっていては、場面に適合した文が作れないとして、「どういう場合に使うのか」ということを教える必要性を論じている。このことからも、場面に応じた使い分けの指導の重要性がうかがえる。

[75] 調査対象の 2 の『初級日本語（新装版）』は、挿絵がないが、『初級日本語（新装改訂版）下』では、挿絵があるので、事態の捉え方や視点がわかりやすくなっている。

[76] 調査対象の例文は 2 の『初級日本語（新装版）』からであるが、『初級日本語（新装改訂版）下』では、17 課 p.16 となる。

さらに、『初級日本語』の文型練習帳である『初級日本語れんしゅう』では、以下のような行為の結果の表現の練習が用意されている。

・火をつける（つく）→ 火をつけてみましたが、つきませんでした。
・肉をやく（やける）→ 肉をやいてみましたが、やけませんでした。

『初級日本語れんしゅう』17 課 p.208

a: そのにんぎょうをはこに入れてください。
b: はい。あ、だめですね…。入りませんよ。
a: じゃ、あのはこはどうですか。入りますか。
b: そうですね…。　あ、入りましたよ。
a: どうもありがとう。

『初級日本語れんしゅう』17 課 p.210 [77]

本節の結果から、初級の日本語教科書は、自動詞・他動詞の語彙や意味、文法の説明のみにとどまっており、どんな場面でどう使うか、自動詞・他動詞の適切な使い分けをわかりやすく解説する教科書がまだ少ないと言えるだろう。日本語とタイ語では、日本語母語話者とタイ語母語話者の事態の捉え方や視点の置き方が異なるため、学習者に自動詞・他動詞の概念を理解、意識するように働き掛けることは非常に重要なことであると考える。とはいえ、こうした内容に対応する初級の教科書や教材は多くないことは事実である。

[77] 調査対象の例文は 2 の『初級日本語れんしゅう（新装版）』からであるが、『初級日本語（新装改訂版）下』では、17 課 p.25, 26 となる。

7.2.2 中級の教材における内容

本調査のインタビューからTJLが中級以降の授業で使用していた日本語の教材は、教師の自作のハンドアウトやいくつかの教科書や教材を部分的に参考にして作ったプリントが大半を占めており、教材があまり市販されていないということが分かった。しかし、可能表現に関してはTJLが所属しているどの教育機関でも、教師が特別に取り上げて教えるということはなかったようである。このことから、タイ語を母語とする日本語学習者にとって可能表現が難しい項目ではないと判断されている可能性もあると考えられる。

一方、自動詞と他動詞（行為の結果を表す表現を含む）に関しては、初級で学習した内容を復習し、他の表現との比較や、表現による視点の置き方の違いなど、より深い内容を学習したTJLもいれば、学習しなかったTJLもいることが分かった。本項では、行為の結果を表す表現の指導を提案するために、TJLのうち既習者が挙げた教材を例として２つ紹介したい[78]。

1）日本語母語話者教師による中級授業での教材

今回取り上げた教材は、大阪大学日本語日本文化教育センターの「豊かな表現のための動詞」の授業[79]で多国籍の日本語学習者向けに行われた日本語中級文法の授業のプリントである。このプリントは、より豊かな表現力を身につけるために、自動詞・他動詞の用法を主に学習し、どんなルールがあるのか一緒に考えながら、日常的に効果的に使えるように練習するため、授業で使われたものである。『日本語文法演習 自動詞・他動詞、使役、受身―ボイス―』[80]などを参考に作成された独自のハンドアウトで、授業の際に学習者に配布していた。

プリントの内容は、自動詞・他動詞のペアの語彙の復習、自動詞・他動詞の使い方（視点、注目）、自動詞・他動詞の基本概念に関するもので、ある場面において、自動詞と他動詞の可能形どちらの方が適切な表現なのか、間違いや不自然な表現は何なのかを気づかせるような練習をするというものである。以下はTJLより提供してもらったプリントの一

---

[78] ここで挙げている２つの教材は、TJLの既習者が理解できた、あるいは印象に残った教材やプリントであるが、この教材やプリントを使ったからと言って誰もが理解できるとは限らない。個人差や教師の指導の仕方、説明などによって効果は変わると考えられる。

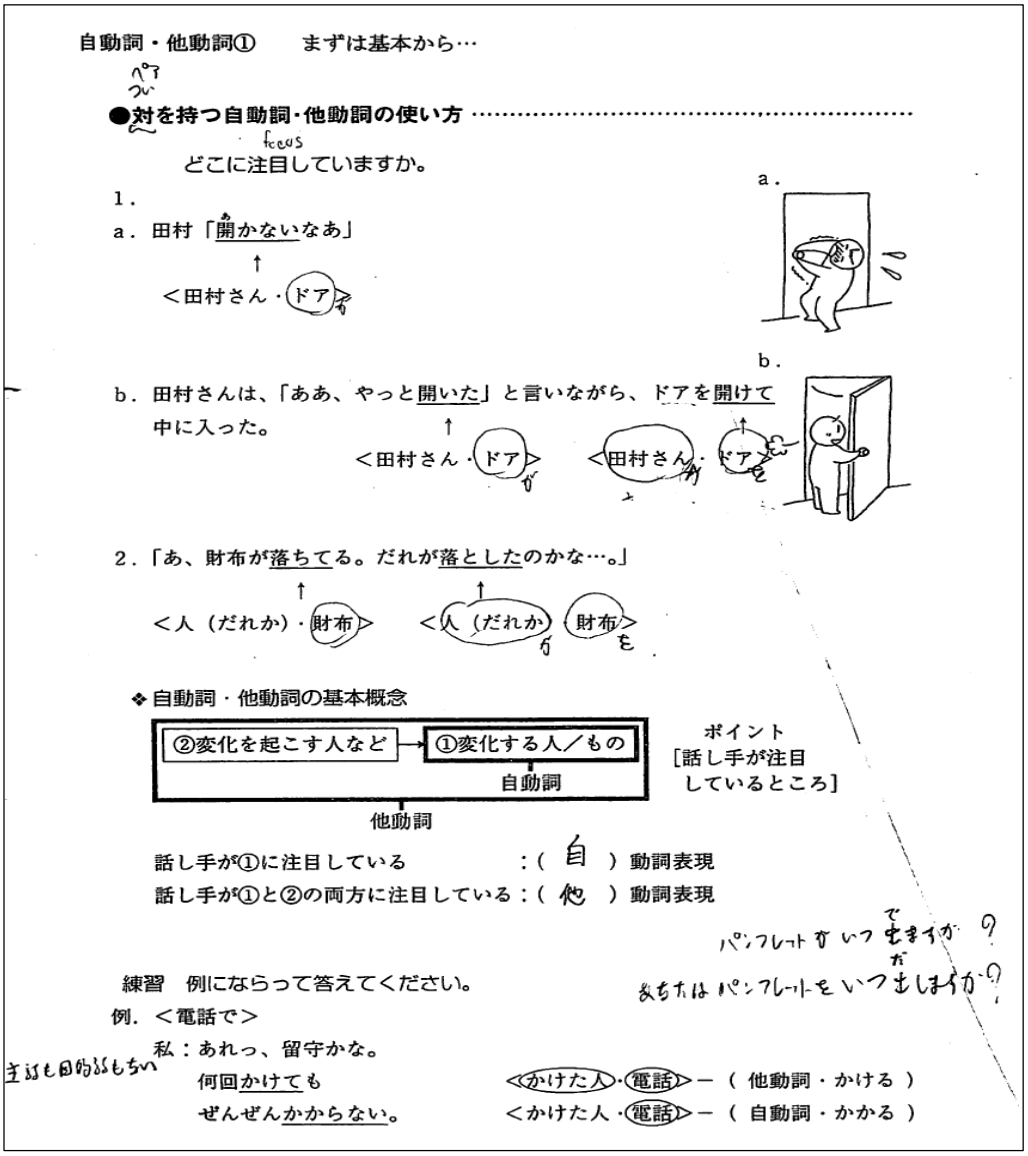
[79] この授業は、週１回90分　春学期に15回行われる。

[80] 安藤節子・小川誉子美（2001）『日本語文法演習 自動詞・他動詞、使役、受身―ボイス―』スリーエーネットワーク

部である。

【自動詞・他動詞の使い方、基本概念に関するプリントの例】

このプリントは､自動詞･他動詞の使い方や基本概念を説明するためのプリントである。まず自動詞・他動詞の使い方では、話者が表現する際にどこに注目するかについて書かれており、話者が「①変化する人／もの」に注目している場合は自動詞表現、話者が「①変化する人／もの」と「②変化を起こす人など」の両方に注目している場合、他動詞表現を使うと説明している。また、短い例文やイラスト、自動詞・他動詞の基本概念を表した図を用いて分かりやすく解説している。イラストや図を用いているため、学習者にも分かりやすく、ポイントをおさえたプリントとして評価できる。



自動詞・他動詞①　　まずは基本から…

●対を持つ自動詞･他動詞の使い方 ……

どこに注目していますか。

1．

a．田村「開かないなあ」

＜田村さん・ドア＞

a．

b．田村さんは、「ああ、やっと開いた」と言いながら、ドアを開けて中に入った。

＜田村さん・ドア＞　＜田村さん・ドア＞

b．

2．「あ、財布が落ちてる。だれが落としたのかな…。」

＜人（だれか）・財布＞　＜人（だれか）・財布＞

❖自動詞・他動詞の基本概念

②変化を起こす人など → ①変化する人／もの

自動詞

他動詞

ポイント
［話し手が注目しているところ］

話し手が①に注目している　：（ 自 ）動詞表現

話し手が①と②の両方に注目している：（ 他 ）動詞表現

パンフレットがいつ出ますか？

あなたはパンフレットをいつ出しますか？

練習　例にならって答えてください。

例．＜電話で＞

私：あれっ、留守かな。

主語も目的語もちい

何回かけても　＜かけた人・電話＞－（ 他動詞・かける ）

ぜんぜんかからない。　＜かけた人・電話＞－（ 自動詞・かかる ）

【自動詞・他動詞の適切な表現に関するプリントの例】

このプリントは、自動詞と他動詞の可能形の違いを解説するプリントである。自動詞・他動詞の使い方と基本概念を前述のプリントで理解させた上で、このプリントで「どちらが自然？」と学習者に問いをなげかけている。学習者に改めて考えさせることで、その場面に適切な動詞の使い分けへの理解を深めさせるのである。また、日常生活の中で遭遇するような例文をヒントとして与え、自動詞を埋める練習も設けている。例文が短く簡潔で、また箇条書きであること、枠や下線を用いて強調していることが、分かりやすさにつながっている。

自動詞・他動詞⑤

ちょっと整理しよう。。。

＊ 一つの動詞で自動詞・他動詞になるものがある（心がはずむ／お小遣いをはずむ）

＊ 人／生物 ＋ が ＋ 自分の体の一部／もの ＋ を ＋ 他動詞

＊ 「後悔」「失敗・残念」の気持ちを表すための 他動詞

どちらが自然？

・ 重いドアですね、なかなか閉められませんね。

・ 重いドアですね、なかなか閉まりませんね。

自動詞の中には、主語の状態や性質を表すものがある

すぐ／よく／なかなか など ＋ 自動詞

1．このコップは強化ガラスだから、落としても（割れ ）ない。

2．安いPCはすぐ（壊れる ）。

3．荷物が多すぎて、かばんに（入ら ）ない。

4．トランペットは、素人が吹いてもなかなか音が（出 ）ない。

5．アルミニウムは熱で簡単に（曲がる ）。

6．しっかりのりをつけたから、このポスター、ぜんぜん（はがれ ）ないね。

7．油と水は（混ざら ）ない。

8．このナイフはとてもよく（切れる ）から、気をつけて。

【自動詞・他動詞の練習プリントの例】

このプリントは、話者が責任を感じているか否かという観点でみた場合と話者が行為の結果や変化に注目しているという観点でみた場合の二通りの場面に分けて練習問題を提示しているプリントである。問題文は、一文の問題だけではなく会話文となっている問題もあるため、場面が想像しやすくなっている。

自動詞・他動詞②

Ⅰ　責任を感じている？感じていない？　　「私（誰か）が！」という感じがある？

★・すみません。お借りしたカメラ、（壊れちゃった・壊しちゃった）ようなんです。

・皆さん、一休みしましょう。（お茶が入りました・お茶を入れました）から。

1．来月の国際会議の準備、（進んで・進めて）ますか。

2．この本、（汚れて・汚して）しまったんです。すみません。

3．子ども：「お母さん、このおもちゃ（壊れ・壊し）ちゃった～。階段の上から（落ち・落とし）ちゃったの～。」

母親：「それは、（落ち・落とし）たんじゃなくて、（落ち・落とし）たんでしょう？

4．<お見合いをしたBにAが聞く>

A：どうだった？今度のお見合い！

B：うん。（決まった・決めた）よ。

Ⅱ　行為の結果や変化に注目している時。。。　　「誰が」と言う必要がない時。。。

・元気そうね。（風邪、治った・風邪、治した）みたいで、よかったね。

・<受付で>

すみません、来年度の案内書はいつごろ（出ますか・出しますか）。

1．文科省から、留学制度の見直しについて（通達が出る・通達を出す）そうだ。

2．A：ライさんの家のパーティー、どうだった？

B：すごい量の（料理が出た・料理を出した）よ。あんなに（料理が出る・料理を出す）のは、ライさん、の準備が大変だっただろうな。

3．（法律がしばしば変わる・法律をしばしば変える）と、何が正しいのかわからなくなる。

4．駅前の書店には、ようやく待望の（新刊が並んだ・新刊を並べた）。今朝、店の前を通った時、店の人が（並んで・並べて）いるのが見えた。

5．（試験の予定が変わった・試験の予定を変えた）ので、確認しておいてください。

6．学生：あ、（授業が始まる・授業を始める）よ。席に着かないと…」

先生：はーい、（始まります・始めます）。座って、座って！

★7．（トンネルがつながった・トンネルをつないだ）ので、向こう側との行き来が楽になった。

8．「（アルコールが入って・アルコールを入れて）いるから、電車で帰るよ。」

「じゃあ、車は置いていくんですね。」

【自動詞・他動詞の振り返り練習プリントの例】

このプリントは、これまでの学習内容を振り返るための練習のプリントである。基本項目と場面別の使い分けを理解させた上で、動詞の使い分けと場面に応じた使い分けの問いが混ざった練習問題を課している。また、学習者に不自然な箇所を直させる問題も設けるなど、学習者の応用力を伸ばすことも視野に入れている。

＜自動詞・他動詞＞　振り返り練習！ ①

1）

①すみません。借りた服、（汚れちゃった・汚しちゃった）ようなんです。

②皆さん、一休みしましょう。コーヒー（が入りました・を入れました）から。

③　A：きのう、新しい仕事の面接だったんでしょう？どうだった？

　　B：うん。（決まった・決めた）よ。来週からその会社で働くんだ。

④元気そうね。風邪、（治った・治した）みたいで、よかったね。

⑤本屋さんで、今週の新しいマンガ（が並んだ・を並べた）。今朝、店の前を通った時、店の人が（並んで・並べて）いるのが見えた。

⑥道（がつながった・をつないだ）ので、向こう側との行き来が楽になった。

⑦お酒（が入って・を入れて）いるから、車はここに置いて、電車で帰るよ。

⑧知識（が増えそう・を増やそう）としても、なかなか（増えません・増やしません）。

⑨A：窓、（開いても・開けても）いいですか。

　　B：ええ。でも、その窓、実は（壊れてて・壊してて）、なかなか（開かない・開けない）んです。

⑩いいニュースを聞くと、心（が・を）はずみます。

⑪彼、結婚（が・を）迫ってきた。どうしよう！私まだ結婚したくないよぉ！

⑫この山登りには危険（が・を）伴います。プロの登山家（が・を）伴って、一緒に登ってください。

⑬目（がつり上がって・をつり上げて）抗議する。

⑭いやなニュースを続けて聞いた後、気持ちを変えるためにいい音楽を聴いて耳（が・を）洗う。

⑮さいふ（がなくなった・をなくした）が、すぐ見つかった。でも、翌日またさいふ（がなくなった・をなくした）。私はバカバカバカ！

⑯このいす、古いけど、なかなか（壊れない・壊さない）ね。

⑰このナイフ、古いから、全然（切れない・切らない）ね。

⑱私は頭痛に苦しめられた　＝　私は頭痛に（苦しんだ・苦しめた）

⑲こっそり帰ろうと思ったのに、私は先生に（つかまった　　）

⑳地図を（広めて・広げて）、場所を確かめよう。

㉑2015年夏、1303教室でユニークな仲間たちと一緒に勉強した思い出が心に（浮かぶ・浮く）。

復習

2）＿＿＿に助詞を入れ、（　　）の中を完成させてください。

① A：この前なくした辞書は（見つかりました　）か？

B：ええ、ゴックちゃん＿が＿（見つけ　）てくれました。

② A：駅前に（建った　）ビル、1階にスターバックスが入るらしいよ。

B：ふーん、なんか最近スターバックスだらけだね。

③ 客：この靴の２４センチのは、ありますか。

店員：申しわけございません。ただいま切らしております。

客：そうですかー。いつ（入りますか　）か？

店員：１週間ほどかかりますが・・

④ A：いよいよ来週から試験だね。どう？準備（進んでる　）？

B：ううん・・・全然（進んで　）ない。（進め　）たいんだけど、勉強し始めるとすぐ寝ちゃうんだ。

⑤ A：あの・・お借りした電子辞書なんだけど。

B：え、どうしたの？

A：あの、実は（落として　）……それから（動かない　）。

B：え～～～～～～～～～！買ったばかりだったのにぃ～～～～

3）次の文に不自然なところがあったら直してください。

1．＜郵便局で＞

この荷物、オーストラリアに送りたいんですが、いつ届けますか。

2．メイちゃんの家へ遊びに行ったら、大人気のアイスキャンディー「ガリガリくん」を出して、食べたことがなかったら、めっちゃうれしかったです。

3．先週、新しく作ったスーパーに行ったら、結構お客さんを入れていました。

安かったのでたくさん買いすぎて、私のエコバッグに全部入れませんでした。

4．彼女に「さようなら」と言われて、ショックで肩が落ちて、ぼーっとしていて、家に着くと、カギがない。どこかに落ちたんだ。もう何も考えられない。頭が働かないよ。

プリントの提供者であるTJLによると、教師は使用したプリントに沿って、実際に日常生活で使えそうな様々な場面を取り上げて、分かりやすいジェスチャーを交えながら、自動詞と他動詞の意味合いの違いをわかりやすく説明していたということである。そのTJLはこの授業を受ける前に、自動詞と他動詞が苦手であったが、この授業を受講したことによって自動詞と他動詞の概念を興味深く学ぶことができ、また印象に残る授業であったため、自動詞と他動詞に対する意識が変わったそうである。

2）タイ語母語話者教師による中級授業での教材

今回取り上げた教材は、タイのチェンマイ大学人文学部日本語学科でタイ語を母語とする日本語学習者向けに行われた日本語中級文法の授業で使用された教材である。この教材は、初級の文法を復習し、中級の文法を取り入れるために、教師自身（Walaiporn Kanjanakaroon氏）の経験や様々な教材を参考に作られているようである。

教材の内容は、タイ語で解説が書かれており、最初は対となっている自動詞・他動詞の意味や基本的な概念（意志性、助詞など）のおさらい、自動詞・他動詞の形態の分類、自動詞・他動詞の使い方、自動詞・他動詞文の構造や文型（～テアル、～テイルなど）、自動詞と他動詞の可能形（行為の結果）、自動詞・他動詞と受身、自動詞・他動詞と使役に関する内容である。以下はTJLより提供してもらったプリントの一部である。

【行為の結果を表す表現に関する教材の例】

このプリントには、行為の結果を表す表現（自動詞、他動詞、および他動詞の可能形）の使い分けに関する解説が載っている。文法的な説明が詳細になされており、自動詞と他動詞の用法に対する理解が深まると考えられる。

以下に、タイ語のプリントと、筆者による日本語訳を載せる。

ดังที่ได้กล่าวไปข้างต้นว่าประโยคอกรรมกริยาจะไม่ปรากฏผู้กระทำกริยา ซึ่งสาเหตุที่ไม่ปรากฏนั้นมี 2 เหตุผลดังนี้

1. เหตุการณ์หรือเรื่องราวเป็นสิ่งที่เกิดขึ้นตามปรากฏการณ์ธรรมชาติหรือเกิดขึ้นเองโดยอัตโนมัติ จึงไม่ปรากฏผู้กระทำกริยา ดังตัวอย่างประโยคต่อไปนี้

1. しばらく見ないうちに背が伸びたね。(ไม่ได้เห็นสักพักตัวสูงขึ้นนะ)

2. (開店を待っている人が) おっ、開いた。("คนที่กำลังรอร้านเปิด" โอ้ว เปิดแล้ว)

ดังตัวอย่างข้างต้นอกรรมกริยานอกจากใช้แสดงการรับรู้ในสภาพที่เป็นผลลัพธ์ของการเปลี่ยนแปลงใดๆ ที่เกิดขึ้นแล้ว ยังใช้แสดงสภาพที่ยังไม่เกิดการเปลี่ยนแปลงใดๆ ดังตัวอย่างที่ 3 ต่อไปนี้

3. 電気、なかなかつかないなあ。おっ、やっとついた。

(ไฟฟ้า ยังไม่ติดเลยน้า... โอ้ว ในที่สุดก็ติดแล้ว)

ในตัวอย่างที่ 3 「つかない」 แสดงสภาพที่ยังไม่เกิดการเปลี่ยนแปลง และ 「ついた」 แสดงสภาพที่เป็นผลลัพธ์ของการเปลี่ยนแปลง

และกรณีเป็นการแสดงกำหนดการหรือระเบียบที่กำหนดไว้แล้ว ก็จะใช้อกรรมกริยาแสดงโดยที่ไม่ปรากฏผู้กระทำกริยา ดังตัวอย่าง

4. 銀行は３時に閉まります。(ธนาคารจะปิดตอน3โมง)

5. (本屋で) すみません、『言語学』という雑誌は何日に出ますか。

(〔ที่ร้านหนังสือ〕 ขอโทษค่ะ นิตยสารที่ชื่อ "ภาษาศาสตร์"จะออกวันที่เท่าไรคะ)

สภาพที่เกิดขึ้นเองโดยธรรมชาตินั้น บางกรณีจะมีสาเหตุที่ทำให้เกิดการเปลี่ยนแปลง เช่น ลม ฝนหรือพายุ เป็นต้น ซึ่งกรณีนี้บางครั้งจะใช้คำช่วย 「で」 แสดงสาเหตุนั้น ดังตัวอย่าง

6. 風で窓が開いた。 (เพราะลมหน้าต่างจึงเปิด)

7. ガラスが割れたような音が聞こえた。 (ได้ยินเสียงเหมือนกับกระจกแตก)

2. เหตุการณ์หรือเรื่องราวนั้นมีผู้กระทำกริยาแต่ไม่ได้นำมาเป็นประเด็นสำคัญ ดังตัวอย่าง

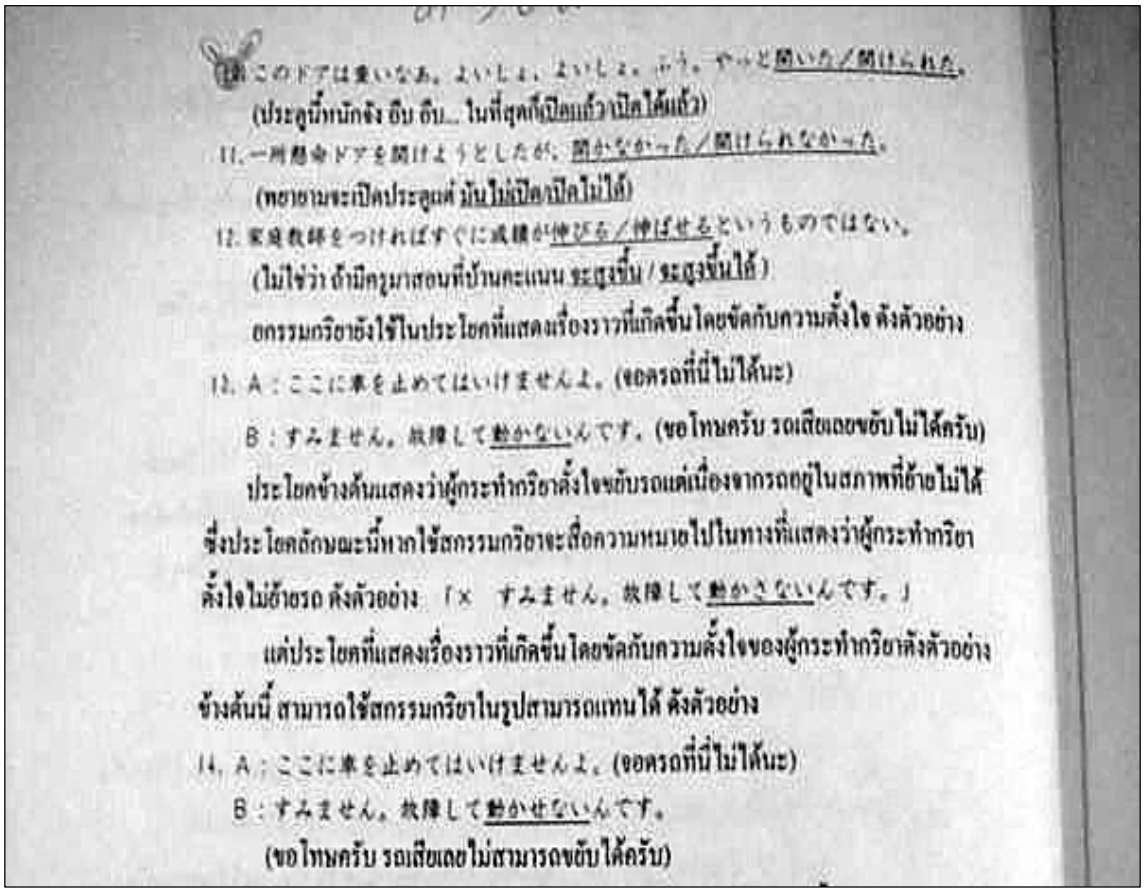
8. 駅前に大きなマンションが建った。(แมนชั่นใหญ่ตั้งอยู่หน้าสถานีรถไฟ)

9. 先日のコンビニ強盗が捕まったんだって。

(เขาว่าการโจรกรรมร้านสะดวกซื้อเมื่อวันก่อนจับได้แล้วหล่ะ)

ในตัวอย่างที่ 8 และ 9 จะต้องมีผู้ทำให้เกิดเหตุการณ์ขึ้นคือ "สร้างแมนชั่น" หรือ "จับขโมย" แต่ผลลัพธ์ของประโยคเน้นที่สภาพที่เกิดขึ้นโดยไม่ได้เน้นประเด็นไปที่การกระทำกริยา จึงใช้ได้แต่อกรรมกริยาเท่านั้น แต่หากประโยคใดมีการปรากฏของผู้กระทำกริยา ซึ่งสภาพที่เกิดขึ้นหลังกระทำกริยาเน้นเป็นผลจากการกระทำนั้นๆ ด้วย ก็จะสามารถใช้สกรรมกริยาในรูปสามารถได้ด้วย ดังตัวอย่างที่10,11และ12 ต่อไปนี้

『日本語中級 1』5 課 p.91



10. このドアは重いなあ。よいしょ、よいしょ。おっ。やっと開いた／開けられた。
(ประตูนี้หนักจัง อึบ อึบ... ในที่สุดก็เปิดแล้ว/เปิดได้แล้ว)
11. 一所懸命ドアを開けようとしたが、開かなかった／開けられなかった。
(พยายามจะเปิดประตูแต่ มันไม่เปิด/เปิดไม่ได้)
12. 家庭教師をつければすぐに成績が伸びる／伸ばせるというものではない。
(ไม่ใช่ว่า ถ้ามีครูมาสอนที่บ้านคะแนน จะสูงขึ้น / จะสูงขึ้นได้)
อกรรมกริยายังใช้ในประโยคที่แสดงเรื่องราวที่เกิดขึ้นโดยขัดกับความตั้งใจ ดังตัวอย่าง
13. A：ここに車を止めてはいけませんよ。(จอดรถที่นี่ไม่ได้นะ)
B：すみません。故障して動かないんです。(ขอโทษครับ รถเสียเลยขับไม่ได้ครับ)
ประโยคข้างต้นแสดงว่าผู้กระทำกริยาตั้งใจขับรถแต่เนื่องจากรถอยู่ในสภาพที่ย้ายไม่ได้ ซึ่งประโยคลักษณะนี้หากใช้สกรรมกริยาจะสื่อความหมายไปในทางที่แสดงว่าผู้กระทำกริยาตั้งใจไม่ย้ายรถ ดังตัวอย่าง 「× すみません。故障して動かさないんです。」
แต่ประโยคที่แสดงเรื่องราวที่เกิดขึ้นโดยขัดกับความตั้งใจของผู้กระทำกริยาดังตัวอย่างข้างต้นนี้ สามารถใช้สกรรมกริยาในรูปสามารถแทนได้ ดังตัวอย่าง
14. A：ここに車を止めてはいけませんよ。(จอดรถที่นี่ไม่ได้นะ)
B：すみません。故障して動かせないんです。
(ขอโทษครับ รถเสียเลยไม่สามารถขับได้ครับ)

『日本語中級 1』5 課 p.92

【日本語訳】

『日本語中級 1』5 課 p.91

自動詞文で動作主が表されないのは、次の二つの理由によるものである。

1．出来事が自然現象や自動的に起こるものであり動作主が存在しない。例えば、

(1) しばらく見ないうちに背が伸びたね。

(2) （開店を待っている人が）おっ、開いた。

上記の例のように、自動詞は変化の結果の状態に用いられる以外にも、(3)のように変化が起こっていない場合にも用いることができる。

(3) 電気、なかなかつかないなあ。おっ、やっとついた。

(3)の「ついた」は変化の結果の状態を表すのに対し「つかない」は発話時において変化が見られない。

また、スケジュールや予定としてすでに決まっていることに対しても、自動詞が用いられる。例えば、

(4) 銀行は 3 時に閉まります。

(5) （本屋で）すみません、『言語学』という雑誌は何日に出ますか。

自然現象の場合、変化の原因である「風」「雨」「台風」等はデ格などで表すことができる。例えば、

(6) 風で窓が開いた。

(7) ガラスが割れたような音が聞こえた。

２．出来事に動作主が存在するが動作主の意志（意図）が問題とならない。例えば、

(8) 駅前に大きなマンションが建った。

(9) 先日のコンビニ強盗が捕まったんだって。

(8)(9)はいずれも「（マンションを）建てる」や「（強盗を）捕まえる」という行為を行う動作主が存在する。このような場合でも動作の過程ではなく結果に重点を置いた表現として自動詞を用いる。

ただし、例(10) (11) (12)のように行為者が行為をした、あるいは行為した結果に注目している場合は他動詞の可能形も使用できる。

『日本語中級 1』5 課 p.92

(10) このドアは重いなあ。よいしょ、よいしょ。ふう。やっと 開いた／開けられた。

(11) 一生懸命ドアを開けようとしたが、開かなかった／開けられなかった。

(12) 家庭教師をつければすぐに成績が伸びる／伸ばせるというものではない。

意志に反して出来事が起きる場合にも自動詞が用いられる。例えば、

(13) A：ここに車を止めてはいけませんよ。

B：すみません。故障して動かないんです。

ただし、(13)で他動詞を用いると「意志的にそのような行為を行わない」という意味になり表現の意図が異なってくる。「× すみません。故障して動かさないんです。」

しかし、(13)のように意志に反して出来事が起きる場合には、他動詞の（不）可能の形で置き換えることもできる。例えば、

(14) A：ここに車を止めてはいけませんよ。

B：すみません。故障して動かせないんです。

プリントの提供者である TJL によると、行為の結果を表す表現に関しては、教材に掲載されている例文以外にも、教師は、同じような場面を数多く取り上げて、自動詞文の使い方や自動詞と他動詞の意味合いの違いをタイ語で説明していたという。そのため、この TJL

は、実現可能場面のような場面で、行為の結果を表す際に自動詞文を使用することをよく覚えているそうである。

ここまで、中級の教科書を見てきたが、教師の中でも、日本語母語話者による教材とタイ語母語話者による教材はかなり違うことが分かった。日本語母語話者の教師は、媒介語を使わずに、教材にわかりやすい説明や挿絵を加えて説明するなどの工夫を用いて、学習者に理解させようとしている。一方、タイ語母語話者の教師は、媒介語が使用できるので、教材を用いる際には挿絵を加えず、母語で言葉による説明をしているようである。教師が母語話者であろうと非母語話者であろうと、学習者に指導内容を理解させることは可能である。ただし、学習者の理解を深めるためには、説明の仕方や見せ方に工夫をこらし、数多くの場面を取り上げることも欠かすことのできないポイントだと言えるだろう。

7.3 行為の結果を表す表現の指導に関する問題と日本語教育への提案

本節では、従来の研究および本研究の分析結果を踏まえた上で、行為の結果を表す表現（自動詞と他動詞の可能形）の指導に関する問題を提示し、日本語教育現場での指導時期や指導内容、指導方法について提案を行いたい[81]。

7.3.1 指導時期

行為の結果を表す表現（自動詞と他動詞の可能形）は、タイ語を母語とする日本語学習者にとって複雑且つ難しい項目だと言われているが、複雑で難しいからといって指導がなされないままでいることには問題があるだろう。７.１、７.２で日タイ両言語の表現上の特徴、そして学習者が使用する教科書や教材を見てきたが、いずれの観点から見ても、教師による指導の重要性は高いと言える。そこで本節では、行為の結果を表す表現を導入するのに適切な時期を検討していきたい。

TJLのインタビューから分かるように、行為の結果を表す表現を教わっていないTJL（未習者）は少なからずいた。一方、既習者は中級の時に学習しているため、既習者と未習者で実現可能場面における行為の結果を表す表現の使用傾向に差が見られた。

[81] 本研究では、Norris & Ortega（2000）での指摘に沿って、教室での第二言語習得には、暗示的指導より明示的指導の方がより効果的であるという結論を導き出すに至った。そのため、教室環境における導入が極めて重要であるという考えに基づき提案を行う。

本調査の既習者の結果からも明らかなように、行為の結果を表す表現の指導は学習者にとって有益なものとなる。行為の結果を表す表現を指導内容として初級学習者の授業に取り入れるのは学習者にとって大きな負担となるかもしれない。学習者の理解が深まりやすくなるためにも、中級になってから自動詞・他動詞の使い分け、日本語での事態の捉え方などを指導に取り入れるのが良いだろう。

7.3.2 指導内容

TJL が行為の結果を表す表現を学習していない理由として、本章での考察からも分かるように、教師が取り扱う教科書や教師用指導書が挙げられるだろう。行為の結果を表す表現が項目として教科書に挙げられていなければ、教師が学習者に指導しないままになる可能性は十分にあり、教師自身も重要な指導内容だと認識しないかもしれない。まずは、教師用指導書の中に説明を豊富に取り入れるべきであろう。現在使われている教科書の多くは行為の結果を表す表現を一つの指導項目として扱っていないが、今後、改良していくことが望まれる。

また、教師は行為の結果を表す表現を指導内容として扱うことを難しいと捉えがちだが、本調査の結果を見てみると、実際日本語母語話者が使用する表現の多くは自動詞である。日本語母語話者が自動詞を使用する傾向にあることをおさえておき、学習者のレベルやニーズを考慮して、実現可能場面では自動詞を使うように指導するのも良いのではないだろうか。

また、教材は、教師自身が作成しなければならないという現状がある。とはいえ、中級文法の参考書や研究は豊富にあるので、適宜参考にしながら教材を作成すると効果的であろう。教材に載せる内容については、具体的な状況設定が不十分であるため、さまざまな場面を取り上げながら説明を加えるべきである。さらにタイ語母語話者である教師が指導にあたる際には、日タイ両言語間の共通点と相違点、また両言語間の異同を踏まえて学習者が陥りやすい点を注意すべきである[82]。

[82] 第二言語習得の観点から学習者の誤用を見ている白畑ほか（2010）は、第二言語学習者にとってインプットは重要であり、インプットを学習者にどういう形で（どのような例をどの程度の頻度で）与えれば効果的な学習が起こるかという研究は、今後、教育の役に立つ可能性が大きいと述べている。

7.3.3 指導方法

自動詞・他動詞はもとより、行為の結果を表す表現は、教師にとっても教えることが難しく、学習者にとっても理解に苦しむ内容だという先入観がある。そのため、教師はなかなか意識を向けようとせず、学習者も学習動機が低いままとなってしまう。より良い指導・学習となるためにも、教師と学習者が相互に意識を高められるような環境を作ることが重要である。まずは、教師自身が、日タイそれぞれの表現に関する知識を深めなければいけない。そして、その知識をどのように活かせばよいか、各表現の意味合いの違いだけでなく、日常生活で遭遇する場面からでも適切な表現をイメージできるようにするにはどうしたらいいかを検討し、教材に反映させる。そうすることで、学習者側も、分かりやすく、且つ身近な場面を意識しながら学習することができるので、学習意欲も高まると思われる。適切な場面で適切な表現が使用できることは、日本語母語話者とのコミュニケーションにも役立ち、不適切な表現使用から生じる誤解もなくなるであろう。

7.4 本章のまとめ

本研究における各調査の分析の結果から、日本語教育現場でタイ語を母語とする日本語学習者に対して、行為の結果を表す表現を指導する際の文法上の注意事項、教材の問題点、およびあるべき指導方法を以下にまとめる。

・文法上の注意事項として、タイ語は日本語ほど自動詞・他動詞の概念を意識しないこと、日本語の可能表現（可能形や可能の意味合いを含む自動詞など）とは使い方が違うこと、行為の結果の表し方や事態の捉え方が異なることが挙げられる。
したがって、学習者に日本語の自動詞・他動詞の概念を理解させ、可能形の脱落や過剰使用に注意を払いながら、どのような表現を選択すればよいか、どう違うかを指導することが重要である。

・タイでよく使われている教科書や教材における自動詞・他動詞の導入の課は、自動詞と他動詞の語彙や意味、助詞だけを重視することが多く、実際の場面に応じた自動詞と他動詞の使い分けに関する解説がなされている教科書や教材はほとんど見られない。
また、可能形が導入される課では、動詞の活用の規則を中心に導入し、主体の有情性や意志性などの使用条件に関する説明や行為の結果を表す表現（実現可能文）に関する説明がどの教科書にも見られない。そのため、教師は学習者の理解を促し、自動詞と他動詞の概念を意識するように働きかけるために、本教材以外に補足資料を用意し、指導内容を工夫すべきである。

・日本語教育現場では、まず教師自身が行為の結果を表す表現が重要な指導項目だと認識し、タイ語と日本語の両言語間の異同を踏まえた上で、実際の日本語使用に即した場面を取り上げながら説明し、学習者が十分理解できるように指導することが重要である。

第８章 おわりに

本章では、まず、本研究で行った調査、分析、考察の結果について総括し、続いて、その分析・考察の結果を踏まえて本研究の限界と今後の課題を記す。

８.１ 本研究のまとめ

本研究では、日常生活で頻繁に遭遇すると思われる実現可能場面を設定し、行為の結果を表す表現に関して、日本母語話者（JNS、50 人）が用いる日本語、タイ語母語話者（TNS、50 人）が用いるタイ語、そしてタイ語を母語とする日本語学習者（TJL、50 人）が用いる日本語の使用実態を文完成テスト（実現不可能と実現可能の場合、各 10 場面、全 20 問）により調査した。また、各調査で調査協力者が使用した表現の選択理由などを調査するためにフォローアップインタビューを実施した。

また、得られた調査結果を、日本語教育現場での実現可能場面における行為の結果を表す表現の指導に活かすために、タイ語を母語とする日本語学習者に対する指導方法や現状に対する改善点などを提案した。その結果を以下にまとめる。

1）日本語母語話者にみる日本語の行為の結果を表す表現

JNS には、日本語で行為の結果を表現する際に、自動詞（開かない―開いた など）、他動詞の可能形（開けられない―開けられた など）を用いた回答の二通りの表現が見られた。実現可能場面全体を見ても、場面別に見ても、実現したか否かに関わらず、自動詞の使用が 80%以上と他動詞の可能形より高い傾向にある。また、JNS 別に見た結果、50 人中 49 人（98%）が他動詞の可能形より自動詞をより多く使用している。それぞれの動詞を選択した理由には、Ⅰグループ動詞（五段活用の動詞）とⅡグループ動詞（下一段活用の動詞）の可能形の形態の違いや、結果の状態や物の変化に注目するという日本語母語話者の視点の置き方の特徴が関係していると考えられる。

これらの結果から、実現可能場面における行為の結果を表す際に、JNS は行為を受けた結果の状態や物の変化に注目しており、日本語では実現可能場面における行為の結果を表す表現として自動詞が使用される傾向にあることが明らかになった。

2）タイ語母語話者にみるタイ語の行為の結果を表す表現

タイ語で行為の結果を表現する際には、行為を表す前項動詞（動詞 $_1$）と結果や可能を表す結果補語（ʔɔ̀ɔk 出る、khaŵ 入る など）、可能補語（daŷ 得る）などの後項動詞（動詞 $_2$）を組み合わせた動詞連続構文（動詞 $_1$ + 動詞 $_2$）を用いるため、TNS には、複数の表現による回答が見られた。

行為を表す動詞に後続する結果の状態を表す結果補語を用いた表現を結果表現とし、可能を表す可能補語を用いた表現を可能表現とし、この二通りの表現に分けてタイ語の使用実態を見た。その結果、実現可能場面全体を見ると、結果表現の使用（59.6%）が可能表現（40.4%）よりやや高い傾向にあるが、場面によっては結果表現の回答が高い場合もあれば低い場合もあるため、場面別で傾向が異なることが分かった。

また、TNS 別に見た結果、TNS によって結果表現を多く使用する人もいれば、可能表現を多く使用する人もいるため、TNS 間で表現使用に差があると言える。それぞれの動詞を選択した理由には、行為を表す前項動詞の違い、場面の事態の捉え方や視点の置き方が関係している。

これらの結果から、実現可能場面における行為の結果を表す際に、TNS は行為の結果や物が変化した状態を具体的に表したい場合、結果補語といった結果表現で表す。それに対し、人の能力、可能、その事態が実現したことを叙述したい場合、可能表現を使用する。このように、TNS それぞれが、どのように事態を叙述したいと思うかによって、使用する表現も変わってくることが明らかになった。

3）日本語とタイ語の行為の結果を表す表現の対照

JNS と TNS の両者の実現可能場面における行為の結果を表す表現の使用傾向や使用理由を見たところ、両言語それぞれの表現の特徴や使用傾向、使用理由などが異なるということが明らかになった。

JNS はどの場面においても動作を受けた物の変化や結果などに注目しており、自動詞を使用するというパターンが確立している。それに対し、TNS は、TNS 自身がその動詞や場面に普段遭遇する頻度が高いか否か、または、どのように事態を叙述したいと思うかが表現の使用に影響する。そのため、場面および TNS によって使用傾向が異なっており、実現可能場面における行為の結果を表す表現を日本語のようにパターン化できない。

4）タイ語を母語とする日本語学習者にみる日本語の行為の結果を表す表現

TJL のうち、日本語の授業で行為の結果を表す表現を教わったのは 8 人（既習者）、教わっていないのは 42 人（未習者）であり、既習者の人数は未習者に比べて圧倒的に少ない。

実現可能場面全体の回答を見ると、既習者の表現の使用は JNS と近似しており、自動詞の使用が 80.6%と高い。それに対し、未習者は自動詞と他動詞の可能形の使用がそれぞれ 33.7%、32.9%と、ほぼ同じ傾向を示している。また、自動詞、他動詞の可能形以外、他動詞、自動詞の可能形、自動詞のテイル形、他動詞のテイル形、他動詞の受身形などの様々な形式が未習者に見られる。とりわけ、誤用の中で他動詞および自動詞の可能形の誤用が他の形式より多い。また、TJL に対して行ったフォローアップインタビューの結果より、TJL が使用する表現の選択理由は、物と人どちらに視点を置くかということ、母語の影響、TJL 自身の経験（学習経験や日本語母語話者との接触経験など）の三つが大きく関係していることが分かった。

さらに、場面別、TJL 別に見ると、既習者の回答は場面や TJL によって若干差異はあるものの、いずれの場面においても自動詞の回答が多かった。一方、未習者の場合、自動詞の使用が多い場面もあれば他動詞の可能形の使用が多い場面もあり、多様な表現を使用している。

これらの結果から、既習者は実現可能場面における行為の結果を表す表現を明示的な形で学習したことにより、JNS と同じ観点で事態を捉えているのに対し、未習者は TNS と同じく、さまざまな観点で事態を捉えており、それが多様な言語表現の選択につながったものと考えられる。

つまり、TJL の正用・誤用の回答に影響する主な要因として、学習環境や学習内容が大きく関わるということが明らかになった。実際の日本語使用の場面に関連づけて自動詞と他動詞の概念の指導を受けた既習者は、行為の結果を表す際に、日本語母語話者が用いる表現と同じような表現を選択できるのである。

5）日本語教育現場への提案

日本語教育現場でタイ語を母語とする日本語学習者に対して、行為の結果を表す表現を指導する際の文法上の注意事項として、タイ語は日本語ほど自動詞・他動詞の概念を意識しないこと、日本語の可能表現（可能形や可能の意味合いを含む自動詞など）とは使い方

が違うこと、行為の結果の表し方や事態の捉え方が異なることが挙げられる。したがって、学習者に日本語の自動詞・他動詞の概念を理解させ、可能形の脱落や過剰使用に注意を払いながら、どのような表現を選択すればよいか、どう違うかを指導することが重要である。

しかし、タイでよく使われている教科書や教材に載っている自動詞・他動詞の導入の課は、自動詞と他動詞の語彙や意味、助詞だけを重視することが多く、実際の場面に応じた自動詞と他動詞の使い分けに関する解説がなされていないことが多い。また、可能形が導入される課では、動詞の活用の規則を中心に導入し、主体の有情性や意志性などの使用条件に関する説明や行為の結果を表す表現（実現可能文）に関する説明がどの教科書にも見られない。そのため、教師は学習者の理解を促し、自動詞と他動詞の概念を意識するように働きかけるために、本教材以外に補足資料を用意し、指導内容を工夫すべきである。

したがって、日本語教育現場では、まず教師自身が行為の結果を表す表現が重要な指導項目だと認識する必要がある。その上で、タイ語と日本語の両言語間の異同を踏まえ、実際の日本語使用に即した場面を取り上げながら説明し、学習者が十分理解できるように指導することが重要である。

本研究により、行為の結果を表す表現は教育現場では見落とされがちな表現であり、自動詞・他動詞とその可能形（自動詞と他動詞の可能形の使い分け）の注意事項などが指導されていないことが分かった。学習者が不適切な表現を使用したり、誤用を犯したりすることには、これまでの指導の在り方が要因の一つとなっていると考えられる。日本語教育の現場では、学習者に明示的に教える必要性が認められるだろう。

8.2 本研究の限界と今後の課題

本研究では、TJL の実現可能場面における行為の結果を表す表現の使用傾向や問題点が明らかになった。また、TJL の誤用の要因は、母語の影響の他、現在日本語教育現場で用いられている教材や指導法などにもあることが可能性として指摘できる。

本研究の目的は、TJL の行為の結果を表す表現の使用実態を見るものであった。したがって、TJL は中上級レベルの学習者に絞っている。また、さまざまな教育機関で学んだ学習者の使用実態を見るために調査協力者の学んだ教育機関を限定していないため、本研究における調査では既習者と未習者の人数に大きな差が生じることとなった。得られた結果により、TJL の使用実態や誤用が明確になったものの、既習者と未習者の人数、学習者の環

境にそれぞれ差異があるため、今回の結果を一般化できるとは言いがたい。

言語の面からも本研究の問題点を挙げたい。まず、本研究では日本語とタイ語それぞれに見られる表現を紹介したものの、各表現の特徴の記述にとどまり、詳細な文法的考察は行わなかった。本研究は行為の結果を表す表現の使用傾向を見ることに重きを置いているため、今回、文法面での詳細な分析は省いたが、今後はさまざまな表現を互いに比較することでより詳しく見ていきたい。もう一点、自動詞・他動詞についてである。今回の研究対象であった実現可能場面における行為の結果を表す表現だけではなく、今後は場面を限らずに、自動詞・他動詞がそれぞれどう使われているか、両者の使い分けにはどういった特徴があるのかを観察し、日本語教育へのさらなる応用へと視野を広げることを考えたい。

学習者数や学習環境の面で、国内外を問わず、多様な地域の学習者を比較することで、世界の日本語教育の状況を把握することが可能となる。本研究には数々の課題が残っているが、本研究は日本語教育における行為の結果を表す表現の学習・指導に貢献を資する一つの研究として、タイ語を母語とする日本語学習者への日本語教育に活かすことを主な目的として行った。

本論文が今後の日本語研究と日本語教育研究の発展に資することを切に願うものである。

謝辞

本研究に際して、指導教員の筒井佐代先生をはじめ、副指導教員の鈴木睦先生、宮本マラシー先生、並びに真嶋順子先生をはじめ、日本語・日本文化専攻の先生方から、終始適切な助言、丁寧なご指導を賜りました。先生方のおかげで、私は論文のみならず、多くの学問を身につけることが出来ました。心より感謝申し上げます。

調査にあたっては、本研究の趣旨を御理解いただき、快く御協力いただいた調査協力者の皆様に、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

そして、チューターの久保田育美氏にはひとかたならぬお世話になり、心より感謝いたします。また、調査で使用したテスト用紙の挿絵を描いてくださった修了生のセンティアン・ラッタナセリーウォン氏にも感謝申し上げます。

また、同窓生の皆さん、大学院生の方々など研究室のメンバーには常に刺激的な議論を頂き、精神的にも支えられました。とくに、同じく博士論文を執筆する仲間であるナムサイ・タンティスック氏には、忙しい中、論文執筆の際に力になっていただきました。ありがとうございました。

最後に、本研究に携わった皆様のご協力の御陰で、一篇の論文として形にすることができました。心より深く御礼申し上げます。

2015 年 12 月 21 日

パンニー・セーリム

参考文献

アリヤウィリヤナン，ワラパン（1989）「タイ語の語順」『語順研究』4 号 亜細亜大学言語・文化研究 pp. 3-21

安藤節子・小川誉子美（2001）『日本語文法演習 自動詞・他動詞、使役、受身―ボイス―』スリーエーネットワーク

庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2001）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク

池上嘉彦（1981）『「する」と「なる」の言語学―言語と文化のタイポロジーへの試論―』大修館書店

石川守（1991）「自動詞と他動詞の用法について―「人の視点」と「物の視点」に関して―」『語学研究』第 64 号 拓殖大学 pp. 35-80

井島正博（1991）「ヴォイスのカテゴリーと文構造のレベル」『日本語のヴォイスと他動性』（仁田義雄編）くろしお出版 pp. 149-189

市川保子（2001）「日本語の誤用研究」『日本語教育通信』第 40 号 国際交流基金 pp. 14-15

市川保子（2005a）「「他動詞・自動詞」（1）」『日本語教育通信』第 52 号 国際交流基金 pp. 16-17

市川保子（2005b）『初級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク

市川保子編（2010）『日本語誤用辞典―外国人学習者の誤用から学ぶ 日本語の意味用法と指導のポイント―』スリーエーネットワーク

井上和子（1976）『変形文法と日本語（下）』大修館書店

井上和子（1995）「変形文法と日本語（下）」『動詞の自他』（須賀一好・早津恵美子編）日本語研究資料集 第 1 期 第 8 巻 ひつじ書房 pp. 82-107

今枝亜紀（2003）「あきこと友だち」『世界の日本語教育の現場から（国際交流基金日本語専門家レポート）』国際交流基金

尾上圭介（1998a）「文法を考える 5 出来文（1）」『日本語学』 第 17 巻 第 7 号 明治書院 pp. 76-83

尾上圭介（1998b）「文法を考える 6 出来文（2）」『日本語学』 第 17 巻 第 10 号 明治書院 pp. 90-97

王恰韓（2012）「中国人学習者における日本語無標可能表現の習得に関する研究―この役

はあの新人俳優にはつとまらない―」『日本語研究』32 号 首都大学東京大学院人文科学研究科 pp. 1-14
奥田靖雄（1986）「現実・可能・必然（上）」『ことばの科学 1』（言語学研究会編）むぎ書房 pp. 181-212
奥津敬一郎（1995）「自動化・他動化および両極化転形―自・他動詞の対応―」『動詞の自他』(須賀一好・早津恵美子編) 日本語研究資料集 第 1 期 第 8 巻 ひつじ書房 pp. 57-81
関承（2012）「中国語を母語とする日本語学習者における可能表現否定形の正用と誤用について―「開かない」と「開けられない」を例に―」『北研学刊』第 8 号 広島大学北京研究センター 白帝社 pp. 91-100
楠本徹也（2009）「無標可能表現に関する一考察」『東京外国語大学論集』第 79 号 東京外国語大学 pp. 65-85
楠本徹也（2014）「有対自動詞可能構文における意味的組成関係―他動詞有標可能構文との比較において―」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』40 号 東京外国語大学留学生日本語教育センター pp. 103 -111
倉品さやか (2010a)『日本語単語スピードマスター BASIC1800』（日本語能力試験 N4・N5）ジェイ・リサーチ出版
倉品さやか（2010b）『日本語単語スピードマスター STANDARAD2400』（日本語能力試験 N3）ジェイ・リサーチ出版
国際交流基金・日本国際教育支援協会（2002）『日本語能力試験出題基準（改定版）』凡人社
小林典子・直井恵理子（1996）「相対自・他動詞の習得は可能か―スペイン語話者の場合―」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』11 号 筑波大学留学生センター pp. 83-98
小林典子（1996）「相対自動詞による結果・状態の表現―日本語学習者の習得状況―」『文藝言語研究 言語篇』第 29 巻 筑波大学文藝・言語学系 pp. 41-56
小林典子（2001）「文法の習得とカリキュラム」『日本語学習者の文法習得』大修館書店 pp. 159-176
小柳かおる（2004）『日本語教師のための新しい言語習得概論』スリーエーネットワーク
坂本比奈子（1985）「タイ語の動詞の下位分類について」『アジア・アフリカ言語文化研

究』第 30 号 東京外国語大学 pp. 177-192
坂本比奈子（1996）『タイ語文法』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
坂本恭章（1989）『タイ語入門』大学書林
渋谷勝己（1993）「日本語可能表現の諸相と発展」『大阪大学文学部紀要』第 33 巻 第 1 分冊 大阪大学刊 pp. i-262
渋谷勝己（1998）「中間言語における可能表現の諸相」『阪大日本語研究』第 10 号 大阪大学 pp. 67-81
白川博之（2002）「記述的研究と日本語教育―「語学的研究」の必要性と可能性―」『日本語文法』2 巻 2 号 日本語文法学会 pp. 62-80
白畑知彦・若林茂則・村野井仁（2010）『詳説 第二言語習得研究―理論から研究法まで―』研究社
新村出編（2008）『広辞苑（第六版）』岩波書店
須賀一好（1995）「自他違い―自動詞と目的語、そして自他の分類―」『動詞の自他』（須賀一好・早津恵美子編）日本語研究資料集 第 1 期 第 8 巻 ひつじ書房 pp. 122-136
セーリム, パンニー（2012a）「有対自動詞の可能表現の誤用に関する一考察―タイ語母語話者の日本語学習者を対象として―」『日本研究論集』第 5 号 チュラーロンコーン大学・大阪大学 pp. 34-53
セーリム, パンニー（2012b）「タイ語を母語とする日本語学習者の「自動詞の可能形」の誤用に関する一考察―行為の結果の状態の表現を中心に―」『日本語・日本文化研究』第 22 号 大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻 pp. 185-198
セーリム, パンニー（2013a）「タイ語を母語とする日本語学習者の「自動詞の可能形」の誤用に関する研究」大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻 修士論文
セーリム, パンニー（2013b）「タイ語を母語とする日本語学習者の「自動詞の可能形」の誤用の要因」『社会言語科学会 第 32 回大会発表論文集』社会言語科学会 pp. 140-143
セーリム, パンニー（2013c）「「自動詞の可能形」の誤用の要因に関する考察―初級日本語教科書の分析から―」『日本語・日本文化研究』第 23 号 大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻 pp. 118-128
高橋清子・新里瑠美子（2005）「日本語とタイ語の出現動詞の文法化」『日本認知言語学会論文集』第 5 巻 日本認知言語学会 pp. 197-207

高橋清子（2010）「タイ語における他動性と使役性」『自動詞・他動詞の対照』（西光義弘・パルデシ, プラシャント編）シリーズ言語対照〈外から見る日本語〉第 4 巻 くろしお出版 pp. 211-234

田中寛（1989）「タイ語の可能表現について」『言語と文化』 第 2 号 文教大学言語文化研究所 pp. 71-107

田中寛（2002）「対照言語学的手法・視点にもとづく、日本語とタイ語の基本語彙・語法に関する比較研究」平成 10 年度（1998 年度）～平成 12 年度（2000 年度）文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）（2）研究成果報告書

田中寛（2004）『統語構造を中心とした日本語とタイ語の対照研究』ひつじ書房

俵幸嗣（2013）「微笑の国「タイ」における日本留学事情と日本語教育」『留学交流』10 月号 Vo.31 独立行政法人日本学生支援機構 pp. 1-58

張威（1992）「「可能表現の本質」考―無標の可能表現へのアプローチ―」『中京大学教養論叢』第 32 巻 第 4 号（通巻 97 号）（1991 年度）中京大学学術研究会 pp. 237(1351)-259(1373)

張威（1998）『結果可能表現の研究―日本語・中国語対照研究の立場から―』くろしお出版

張麟声（2001）『日本語教育のための誤用分析―中国語話者の母語干渉 20 例―』スリーエーネットワーク

釣部陽子（1998）「タイ語の動詞補語構文における可能表現」大阪外国語大学地域文化学科東南アジア・オセアニア地域文化専攻 卒業論文

出口厚実 （1982）「スペイン語―再帰形式をめぐって―」『講座日本語学 10 外国語との対照 1』明治書院 pp. 305-318

寺村秀夫（1976）「「ナル」表現と「スル」表現―日英「態」表現の比較―」『日本語と日本語教育―文字・表現篇―』（国語シリーズ別冊 4）国立国語研究所 pp. 49-68

寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版

寺村秀夫（1992）『寺村秀夫論文集Ⅱ―言語学・日本語教育編―』くろしお出版

中石ゆうこ（2002）「有対自動詞と有対他動詞の用法とその指導について―初級日本語教科書の分析の結果から―」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第二部（文化教育開発関連領域）第 51 号 広島大学大学院教育学研究科 pp. 385-392

中石ゆうこ（2005）「対のある自動詞・他動詞の第二言語習得研究―「つく - つける」、

「きまる - きめる」、「かわる - かえる」の使用状況をもとに―」『日本語教育』124 号 日本語教育学会 pp. 23-32

長友文子（1997a）「可能形の規則による動詞の分類―日本語教育から見た可能表現の研究（一）―」『和歌山大学教育学部紀要―人文学科―』第 47 集 和歌山大学教育学部 pp. 1-8

長友文子（1997b）「可能形における自動詞と他動詞―日本語教育から見た可能表現の研究（二）―」『和歌山大学教育学部紀要―人文学科―』第 47 集 和歌山大学教育学部 pp. 9-16

西尾寅弥（1982）「自動詞と他動詞―対応するものとしないもの―」『日本語教育』 47 号 日本語教育学会 pp. 57-68

野田尚史・迫田久美子・渋谷勝己・小林典子（2001）『日本語学習者の文法習得』大修館書店

野津初美（1993）「タイ語動詞 2 語連用文における考察」『南方文化』 第 20 輯 天理南方文化研究会 pp. 80-87

林さと子（1998）「第二言語学習／習得と個別性要因」林さと子他『第二言語としての日本語学習および英語学習の個別性要因に関する基礎的研究』平成 8～9 年度科学研究費補助金研究成果報告書 pp. 7-13

林さと子他（2006）『第二言語学習と個別性―ことばを学ぶ一人ひとりを理解する―』春風社

早津恵美子（1989）「有対他動詞と無対他動詞の違いについて―意味的な特徴を中心に―」『言語研究』第 95 号 日本言語学会

早津恵美子（1995）「有対他動詞と無対他動詞の違いについて―意味的な特徴を中心に―」『動詞の自他』（須賀一好・早津恵美子編）日本語研究資料集 第 1 期 第 8 巻 ひつじ書房 pp. 179-197

バンチョンマニー, ブッサバー（1999）「動詞の意志性について―タイ語・日本語の対照研究をめざして―」東京外国語大学大学院 地域文化研究科 地域文化専攻 博士論文

姫野昌子（2001）「日本語教育における文法の指導―可能表現を例として―」『日本語学』第 20 巻 第 3 号 3 月号 明治書院 pp. 53-60

封小芹（2005）「可能の意味を含む有対自動詞の産出的能力の習得―中国語を母語とする学習者を対象にした調査に基づいて―」『ことばの科学』第 18 号 名古屋大学言語

文化研究会 pp. 143-162
封小芹（2007）「可能の意味を含む有対自動詞の受容能力の習得について―中国人日本語学習者の場合―」『ククロス：国際コミュニケーション論集』第 4 号 名古屋大学国際開発研究科国際コミュニケーション専攻 pp. 49-63
本多啓（2007）「他者にとっての環境の意味の知覚についての覚書」『神戸外大論叢』58 巻 6 号 神戸市外国語大学研究会 pp. 31-47
本多啓（2013）『知覚と行為の認知言語学―「私」は自分の外にある―』開拓社
松井嘉和（1998）「日本語とタイ語」『新しい日本語研究を学ぶ人のために』世界思想社 pp. 10-56
三上直光（2002）『タイ語の基礎』白水社
峰岸真琴（2007）「独立語の他動詞性と随意性―タイ語を例に―」『他動性の通言語的研究』（角田三枝・佐々木冠・塩谷亨編）くろしお出版 pp. 205-216
宮本マラシー（2003）『タイ語表現法』大阪外国語大学
村上佳恵（2015）「日本語の教科書の実現可能の取り扱いについて―初級の教科書の調査より―」『学習院女子大学紀要』第 17 号 学習院女子大学 pp. 147-162
望月圭子（2009）「中国語を母語とする上級日本語学習者によるヴォイスの誤用分析―中国語との対照から―」『東京外国語大学論集』第 78 号 東京外国語大学 pp. 85-106
森田良行（1981）『日本語の発想』冬樹社
森田良行（1988）『日本語の類意表現』創拓社
守屋三千代（1994）「日本語の自動詞･他動詞の選択条件―習得状況の分析を参考に―」『講座日本語教育』第 29 分冊 早稲田大学日本語教育センター pp. 151-165
ヤコブセン，ウェスリー・M（1989）「他動性とプロトタイプ論」『日本語学の新展開』（久野暲・柴田方良編）くろしお出版 pp. 213-248
楊彩虹（2007）「可能の意味を持つ日本語自動詞の習得―中国語話者と韓国語話者を比較して―」『言語と文化』創刊号 京都外国語大学大学院外国語学研究科 pp. 51-71
横田隆志（2011）「「自動詞」・「他動詞」の教材作成についての一考察」『北陸大学紀要』第 35 号 北陸大学 pp. 1-12
吉川千鶴子（1995）『日英比較 動詞の文法―発想の違いから見た日本語と英語の構造―』くろしお出版
林青樺（2007）「現代日本語における実現可能文の意味機能―無標の動詞文との対比を通

して―」『日本語の研究』第 3 巻 2 号 日本語学会編 pp. 31-45

Chawengkijwanich, Somkiat (2008) ปัญหาในการเรียนรู้อกรรมกริยาและสกรรมกริยาของผู้เรียนภาษาญี่ปุ่นชาวไทย (Problems on Acquisition of Japanese Transitive and Intransitive Verbs by Thai Students of Japanese). *Journal of Liberal Arts*, Vol. 8, No. 1, Faculty of Liberal Arts, Thammasat University, pp. 79-108

Harabutra, Cha-on (1977) การศึกษาความสัมพันธ์ของคำกริยา 2 คำที่เรียงกันในประโยคภาษาไทย (A study of two-verb concatenation in Thai sentences). *Master's thesis*, Chulalongkorn University

Jacobsen, Wesley M. (1991) *The Transitive Structure of Events in Japanese*. Kurosio Publishers

Methapisit, Tasanee (2002) สกรรมกริยาที่มีคู่กับสกรรมกริยาที่ไม่มีคู่ในภาษาญี่ปุ่น (Transitive Verbs With Counterpart and Transitive Verbs With No Counterpart in Japanese). *Journal of Liberal Arts*, Vol. 3, No. 1, Faculty of Liberal Arts, Thammasat University, pp. 147-166

Norris, John M. & Ortega, Lourdes (2000) Effectiveness of L2 instruction: A research synthesis and quantitative meta-analysis. *Language Learning*, Vol. 50, pp. 417-528

Takahashi, Kiyoko (2007) Accomplishment constructions in Thai: Diverse cause-effect relationships. In Shoichi Iwasaki, Andrew Simpson, Karen Adams & Paul Sidwell (eds.) *Papers from the 13th Meeting of the Southeast Asian Linguistics Society 2003*, pp. 263-277. Canberra: Pacific Linguistics.

Thepkanjana, Kingkarn (2000) Lexical causatives in Thai. In Ad Foolen & Frederike Van Der Leek (eds.) *Constructions in Cognitive Linguistics*, pp. 259-281 Amsterdam: John Benjamins

Wongsantiwanich, Wipa (1983) คำกริยาการีตในภาษาไทย (Causative Verbs in Thai). *Unpublished Master's thesis*, Chulalongkorn University

ปราณี จงสุจริตธรรม, ผกาทิพย์ สกุลครู, สุชาดา สัตยพงศ์ (2544) "การศึกษาภาษาญี่ปุ่นขั้นพื้นฐานในประเทศไทย" ศูนย์ภาษามูลนิธิญี่ปุ่น กรุงเทพฯ ［プラニー・ジョンスジャッリタム、パガーティップ・サグンクル、スチャダー・サッタヤポン（2001）「タイにおける基礎日本語教育の研究」国際交流基金バンコク日本文化センター］

＜教科書・解説書＞

『初級日本語（新装版）』（1994）東京外国語大学留学生日本語教育センター 凡人社
『初級日本語文法解説［英語版］』（2001）東京外国語大学留学生日本語教育センター 凡人社
『初級日本語れんしゅう（新装版）』（1994）東京外国語大学留学生日本語教育センター 凡人社
『初級日本語上・下』（2010）東京外国語大学留学生日本語教育センター 凡人社
『日本語あきこと友だち 1-6』（2004）国際交流基金バンコク日本文化センター 紀伊國屋書店（タイランド）
『日本語初歩』（1985）国際交流基金日本語国際センター 凡人社
『日本語初歩 日本語文法解説 タイ語版』（1995）ステープ・ノームサワット
『日本語中級 1』（2013）チェンマイ大学人文学部日本語学科
『日本語よろしく 1-6』（2001）泰日経済技術振興協会
『みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ 本冊』（1998）スリーエーネットワーク
『みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ 翻訳 文法解説タイ語版』（2000）スリーエーネットワーク
『みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ 教え方の手引き』（2000）スリーエーネットワーク

＜参考 URL＞

国際交流基金「日本語教育 国・地域別情報（タイ）」2014 年度
https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2014/thailand.html
日本語能力試験（JLPT）
http://www.jlpt.jp/index.html
（最終アクセス 2015 年 12 月 21 日）

付録資料

付録１ テスト用紙（JNS 用）

日本語の表現に関するアンケートご協力のお願い

この度は、調査にご協力いただき、誠にありがとうございます。

このアンケートは、日本語教育に活かすために、みなさんが普段どのような表現を使っているのかを調査するものです。

ここに記載していただく個人情報は、研究目的以外には使用しません。また、論文などにデータを公開する場合、個人が特定できる情報を掲載することはありません。

ご協力よろしくお願いいたします。

大阪大学大学院 言語文化研究科 博士後期課程 パンニー・セーリム

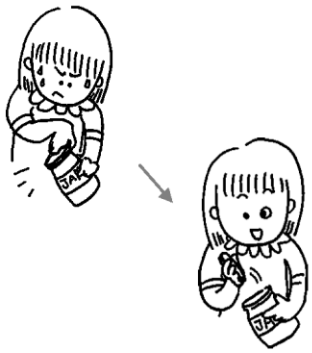
【氏名】＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　【年齢】＿＿＿歳　【性別】 男 ・ 女

【出身地】＿＿＿＿＿＿都・道・府・県　【職業】＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

次の動詞をよく使う形にしてください。変える必要がない場合は、×を入れてください。
複数回答が考えられる場合は、最も自然だと感じるものを書き込んでください。

【場面１】田中さんは、ジャムの瓶の蓋を開けようとしています。

田中：ウッ！
木村：どうしたの？
田中：ジャムの蓋、開（あ）＿＿＿＿＿＿ない。
木村：蓋に輪ゴムをはめてみたら？
田中：そうだね。やってみる。
・・・・・・・・
木村：どう？
田中：あ、開（あ）＿＿＿＿＿＿た。ありがとう。



1/4

【場面２】田中さんは、車のエンジンをかけるために、キーを回そうとしています。

田中：あれ？

木村：どうしたの？

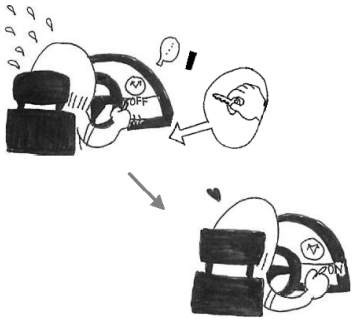
田中：キー、回（まわ）＿＿＿＿＿＿ない。

木村：キーをさしたままハンドルを左右に動かしてみたら？

・・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、回（まわ）＿＿＿＿＿＿た。ありがとう。



【場面３】田中さんは、コンタクトレンズを作ったばかりで、今、初めて入れようとしています。

田中：あー　もう！

木村：どうしたの？

田中：コンタクト、入＿＿＿＿＿＿ない。

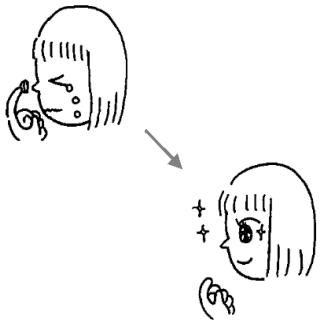
木村：もっと目を大きく開けてみたら？

・・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、入＿＿＿＿＿＿た。

木村：よかったね。



【場面４】田中さんは、ホワイトボードに油性マジックで字を書いてしまいました。今、字を消そうとしています。

田中：やばい！

木村：どうしたの？

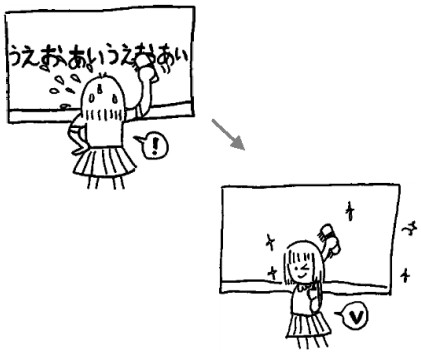
田中：字、消＿＿＿＿＿＿ない。どうしよう。

木村：まあ、落ち着いて。アルコールで拭いてみたら？

・・・・（木村さんは田中さんにアルコールを渡す）・・・・

木村：どう？

田中：あ、消＿＿＿＿＿＿た。ありがとう。



2/4

【場面５】田中さんは、車に自転車を積み込んで、後ろのドアを閉めようとしています。

田中：あれ？

木村：どうしたの？

田中：ドア、閉（し）＿＿＿＿＿＿ない。

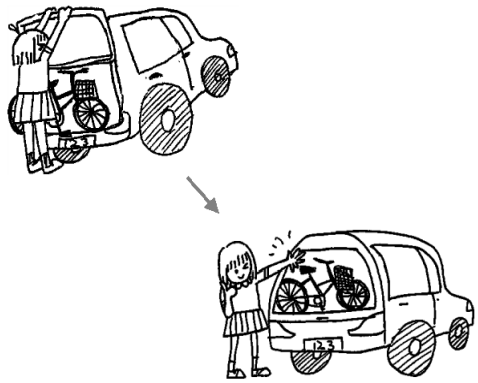
木村：自転車を斜めにして、入れてみたら？

田中：そうだね。

・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、閉（し）＿＿＿＿＿＿た。ありがとう。



【場面６】田中さんは、残り少ない歯磨き粉を出そうとしています。

田中：ウッ！

木村：どうしたの？

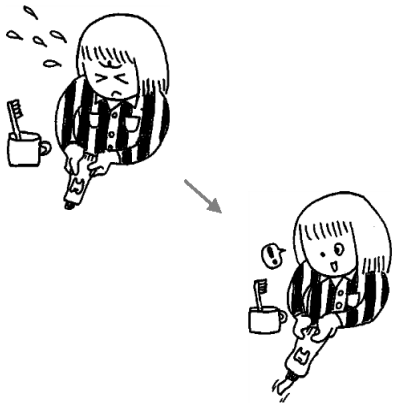
田中：歯磨き粉、出＿＿＿＿＿＿ない。

木村：フタをして、何回か振ってみたら？

・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、出＿＿＿＿＿＿た。ありがとう。



【場面７】田中さんは、ブラインドを上げようとしています。

田中：あれ？

木村：どうしたの？

田中：ブラインド、上（あ）＿＿＿＿＿＿ない。

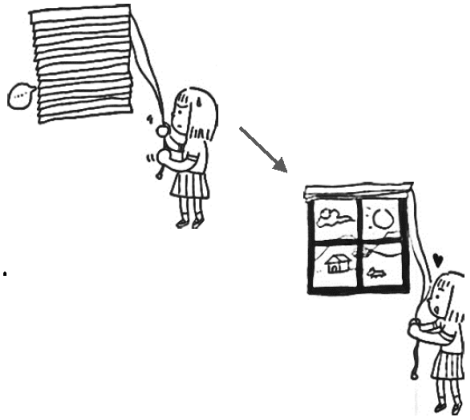
木村：ひもが絡まっているよ。

田中：本当だ。

・・・・（田中さんは絡まったひもを外す）・・・・

木村：どう？

田中：あ、上（あ）＿＿＿＿＿＿た。



【場面８】田中さんは、指輪を外そうとしています。

田中：あー　もう！

木村：どうしたの？

田中：指輪、外（はず）＿＿＿＿＿＿＿ない。

木村：石鹸をつけてみたら？

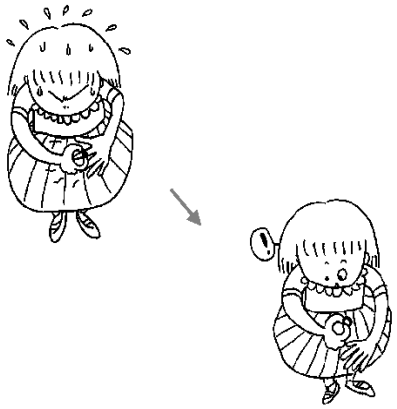
田中：そうだね。

・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、外（はず）＿＿＿＿＿＿＿た。

木村：よかったね。



【場面９】田中さんは、マッチに火をつけようとしています。

田中：あー　もう！

木村：どうしたの？

田中：マッチ、つ＿＿＿＿＿＿＿ない。

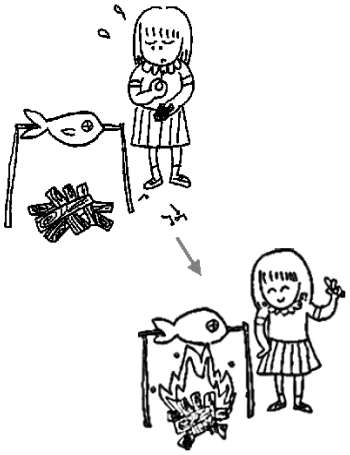
木村：マッチが湿っているのかもね。新しいのを使ってみたら？

田中：そうだね。使ってみる。

・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、つ＿＿＿＿＿＿＿た。



【場面 10】田中さんは、服を縫うために、針に糸を通そうとしています。

田中：あー もう！

木村：どうしたの？

田中：糸、通（とお）＿＿＿＿＿＿＿ないの。たぶん糸が太すぎるのかも。

木村：じゃ、私の糸を使ってみる？今持ってくるよ。

田中：え、いいの？ありがとう。

・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、通（とお）＿＿＿＿＿＿＿た。ありがとう。

ご協力ありがとうございました

4/4

付録２ テスト用紙（TNS 用）

แบบสอบถามเกี่ยวกับการใช้รูปคำในภาษาไทย

ขอขอบพระคุณเป็นอย่างยิ่งที่ท่านกรุณาสละเวลาร่วมตอบแบบสอบถามชุดนี้
แบบสอบถามชุดนี้จัดทำขึ้นเพื่อศึกษาการใช้รูปคำกริยาที่คนไทยนิยมใช้ และนำไปใช้ให้เกิดประโยชน์ต่อการเรียนการสอนภาษาญี่ปุ่น ดิฉันขอรับรองว่าจะนำข้อมูลที่ได้ไปใช้ในเชิงวิชาการเท่านั้น และจะไม่เปิดเผยข้อมูลส่วนตัวที่บ่งชี้ได้ว่าเป็นท่าน

นางสาวพรรณี แซ่ลิ้ม
นักศึกษาปริญญาเอก
คณะภาษาและวัฒนธรรม มหาวิทยาลัยโอซากา

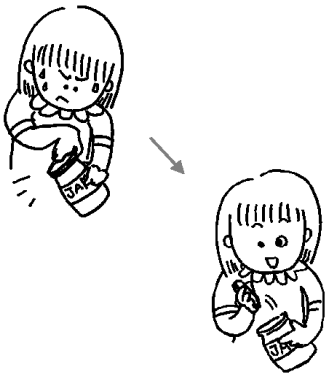
กรุณากรอกข้อมูลของท่านลงในช่องว่างและใส่เครื่องหมายกากบาทลงในช่อง [ ]

1. เพศ [ ] ชาย [ ] หญิง
2. อายุ _____ปี
3. ภูมิลำเนา จังหวัด _____
4. อาชีพ_____

กรุณาเติมคำลงในช่องว่างให้ได้ใจความที่สมบูรณ์ หรือใส่เครื่องหมายกากบาท (x) กรณีที่ท่านเห็นว่าไม่จำเป็นต้องเติมตัวอักษรใด ๆ หากท่านคิดว่าสามารถตอบได้มากกว่าหนึ่งคำตอบขึ้นไป กรุณาเลือกเขียนคำตอบที่ท่านรู้สึกว่าเป็นธรรมชาติมากที่สุด

สถานการณ์ที่ 1 เอกำลังเปิดขวดแยมอยู่

เอ : โอ้ย
บี : เป็นไร
เอ : เปิดไม่ _____อะ
บี : ลองใช้หนังยางรัดฝาดูสิ
เอ : จริงด้วย เดี๋ยวลองดู
////////////////
บี : เป็นไง
เอ : เปิด _____แล้ว ขอบใจ



1/4

สถานการณ์ที่ 2 เอเสียบกุญแจและกำลังบิดกุญแจเพื่อสตาร์ทรถ

เอ : เฮ้ย

บี : เป็นไร

เอ : บิดไม่ _____ อะ

บี : เสียบกุญแจเอาไว้อย่างนั้น แล้วลองขยับพวงมาลัยดูสิ

/////////////////

บี : เป็นไง

เอ : บิด _____ แล้ว ขอบใจ

สถานการณ์ที่ 3 เอกำลังใส่คอนแทคเลนส์ที่เพิ่งซื้อมาเป็นครั้งแรก

เอ : โอ้ย

บี : เป็นไร

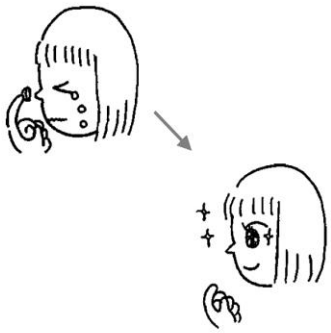
เอ : ใส่ไม่ _____ อะ

บี : ลองเบิ่งตาให้กว้าง ๆ แล้วใส่ดูสิ

/////////////////

บี : เป็นไง

เอ : ใส่ _____ แล้ว



สถานการณ์ที่ 4 เอกำลังลบไวท์บอร์ดที่เผลอใช้ปากกาเคมีเขียน

เอ : แย่แล้ว

บี : เป็นไร

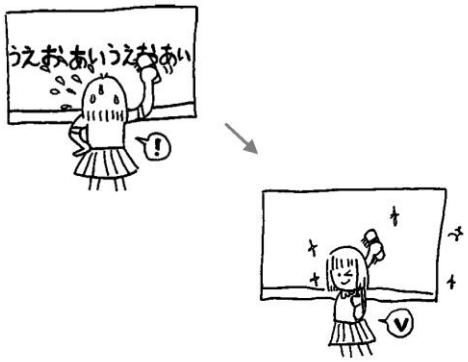
เอ : ลบไม่ _____ อะ ทำยังไงดี

บี : ใจเย็น ๆ ลองใช้แอลกอฮอล์ลบดูสิ

//// (บียื่นแอลกอฮอล์ให้เอ) ////

บี : เป็นไง

เอ : ลบ _____ แล้ว ขอบใจ



<u>สถานการณ์ที่ 5</u> เอขนจักรยานใส่ในรถ และกำลังปิดประตูท้ายรถ

เอ : อ้าว

บี : เป็นไร

เอ : <u>ปิดไม่ _____</u>อะ

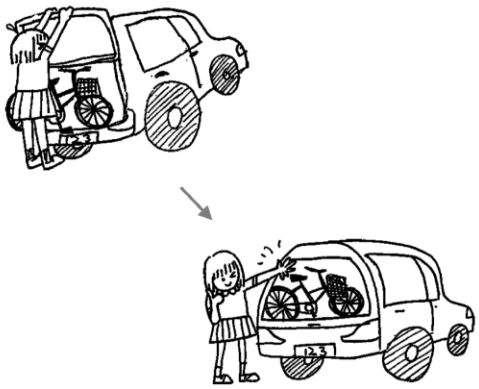
บี : ลองใส่แบบเอียง ๆ ดูสิ

เอ : เออ จริงด้วย

/////////////////

บี : เป็นไง

เอ : <u>ปิด _____ แล้ว</u> ขอบใจ



<u>สถานการณ์ที่ 6</u> เอกำลังพยายามบีบยาสีฟันจากหลอดที่ใช้ใกล้จะหมดแล้ว

เอ : โอ้ย

บี : เป็นไร

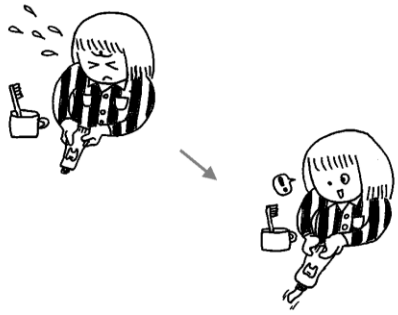
เอ : <u>บีบไม่ _____</u>อะ

บี : ปิดฝาแล้วลองสะบัด ๆ หลอดดูสิ

/////////////////

บี : เป็นไง

เอ : <u>บีบ _____ แล้ว</u> ขอบใจ



<u>สถานการณ์ที่ 7</u> เอกำลังเปิดมู่ลี่

เอ : เฮ้ย

บี : เป็นไร

เอ : <u>ดึงไม่ _____</u>อะ

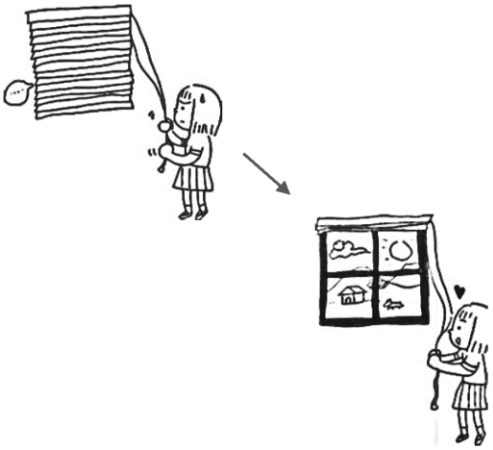
บี : เชือกมันพันกันอยู่นี่นา

เอ : เออ จริงด้วย

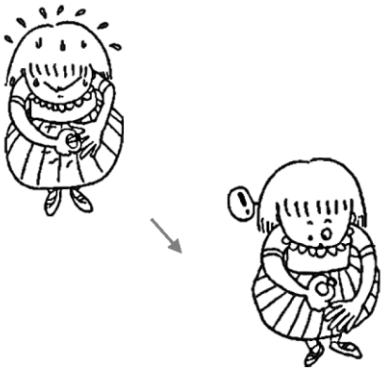
//// (เอแก้เชือกที่พันกันอยู่) ////

บี : เป็นไง

เอ : <u>ดึง _____ แล้ว</u>



สถานการณ์ที่ 8 เอกำลังถอดแหวนที่ใส่อยู่



เอ : โอ้ย

บี : เป็นไร

เอ : ถอดไม่ _____ อะ

บี : ลองใช้สบู่ถูดูสิ

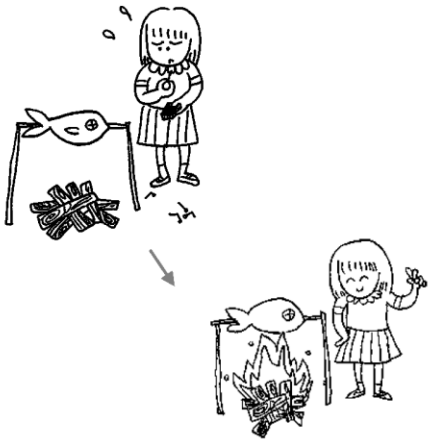
เอ : เออ จริงด้วย

////////////////

บี : เป็นไง

เอ : ถอด _____ แล้ว

สถานการณ์ที่ 9 เอกำลังจุดไม้ขีด



เอ : โอ้ย

บี : เป็นไร

เอ : จุดไม่ _____ อะ

บี : ไม้ขีดมันอาจจะชื้น ลองใช้อันใหม่ดูสิ

เอ : เออ จริงด้วย

////////////////

บี : เป็นไง

เอ : จุด _____ แล้ว

สถานการณ์ที่ 10 เอกำลังร้อยด้ายใส่ในรูเข็ม

เอ : โอ้ย

บี : เป็นไร

เอ : ร้อยไม่ _____ อะ สงสัยด้ายจะเส้นใหญ่ไป

บี : งั้น ลองใช้ด้ายของเรามั้ย เดี๋ยวเอามาให้

เอ : ขอบใจ

////////////////

บี : เป็นไง

เอ : ร้อย _____ แล้ว ขอบใจ

ขอบพระคุณในความร่วมมือ

4/4

付録 3 テスト用紙（TJL 用）

แบบทดสอบเกี่ยวกับความรู้ภาษาญี่ปุ่น

คำชี้แจง แบบทดสอบชุดนี้จัดทำขึ้นเพื่อศึกษาแนวโน้มการใช้สำนวนภาษาญี่ปุ่นของผู้เรียนภาษาญี่ปุ่นที่ใช้ภาษาไทยเป็นภาษาแม่ ข้อมูลที่ได้จากแบบทดสอบนี้จะนำไปใช้ในเชิงวิชาการเท่านั้น และจะไม่มีการเปิดเผยข้อมูลส่วนตัวของท่าน หรือข้อมูลที่สามารถบ่งชี้ได้ว่าเป็นตัวท่าน

พรรณี แซ่ลิ้ม นักศึกษาปริญญาเอก คณะภาษาและวัฒนธรรม มหาวิทยาลัยโอซากา

ส่วนที่ 1 ข้อมูลทั่วไป

กรุณาใส่เครื่องหมาย ◯ หรือตัวเลขลงในช่อง [ ] และเติมข้อความในช่องว่างที่ตรงกับข้อมูลของท่านมากที่สุด

1. ชื่อ_____ สกุล_____ ชื่อเล่น_____

2. เพศ [ ] ชาย [ ] หญิง

3. อายุ _____ปี

4. คุณเคยเรียนภาษาญี่ปุ่นที่สถาบันใดบ้าง ตั้งแต่เมื่อไร ถึงเมื่อไร เป็นระยะเวลานานเท่าใด

(ก) ชื่อสถาบัน_____ ตั้งแต่ _____ถึง _____ ระยะเวลา _____

(ข) ชื่อสถาบัน_____ ตั้งแต่ _____ถึง _____ ระยะเวลา _____

(ค) ชื่อสถาบัน_____ ตั้งแต่ _____ถึง _____ ระยะเวลา _____

(ง) ชื่อสถาบัน_____ ตั้งแต่ _____ถึง _____ ระยะเวลา _____

5. (สำหรับผู้ที่มีประสบการณ์การทำงาน) คุณเคยทำงานที่ใช้ภาษาญี่ปุ่นประเภทใดบ้าง ตั้งแต่เมื่อไร ถึงเมื่อไร

(ก) ประเภทงาน_____ ตั้งแต่ _____ถึง _____ ระยะเวลา _____

(ข) ประเภทงาน_____ ตั้งแต่ _____ถึง _____ ระยะเวลา _____

(ค) ประเภทงาน_____ ตั้งแต่ _____ถึง _____ ระยะเวลา _____

6. คุณเคยอาศัยอยู่ประเทศญี่ปุ่นตั้งแต่เมื่อไร ถึงเมื่อไร โดยมีวัตถุประสงค์เพื่ออะไร

(ก) ครั้งที่ 1 วัตถุประสงค์เพื่อ_____ ตั้งแต่ _____ถึง _____ ระยะเวลา _____

(ข) ครั้งที่ 2 วัตถุประสงค์เพื่อ_____ ตั้งแต่ _____ถึง _____ ระยะเวลา _____

(ค) ครั้งที่ 3 วัตถุประสงค์เพื่อ_____ ตั้งแต่ _____ถึง _____ ระยะเวลา _____

7. คุณเคยสอบวัดระดับความสามารถทางภาษาญี่ปุ่น (JLPT) หรือไม่

[ ] เคย สอบได้ระดับ_____ ปี _____ [ ] ไม่เคย

1/5

ส่วนที่ 2 แบบทดสอบภาษาญี่ปุ่น

กรุณาเลือกคำศัพท์ต่อไปนี้ เติมในช่องว่างที่กำหนดให้ได้ใจความที่สมบูรณ์ หรือใส่เครื่องหมายกากบาท (X) กรณีที่ท่านเห็นว่าไม่จำเป็นต้องเติมตัวอักษรใด ๆ หากท่านคิดว่าสามารถตอบได้มากกว่าหนึ่งคำตอบขึ้นไป กรุณาเลือกเขียนคำตอบที่ท่านรู้สึกว่าเป็นธรรมชาติมากที่สุด

1.	蓋(ふた)を 開(あ)ける	蓋(ふた)が 開(あ)く
2.	キーを 回(まわ)す	キーが 回(まわ)る
3.	コンタクトを 入(い)れる	コンタクトが 入(はい)る
4.	字(じ)を 消(け)す	字(じ)が 消(き)える
5.	ドアを 閉(し)める	ドアが 閉(し)まる
6.	歯磨(はみが)き粉(こ)を 出(だ)す	歯磨(はみが)き粉(こ)が 出(で)る
7.	ブラインドを 上(あ)げる	ブラインドが 上(あ)がる
8.	指輪(ゆびわ)を 外(はず)す	指輪(ゆびわ)が 外(はず)れる
9.	マッチを つける	マッチが つく
10.	糸(いと)を 通(とお)す	糸(いと)が 通(とお)る

สถานการณ์ที่ 1 ทะนะกะกำลังเปิดขวดแยมอยู่

田中 : ウッ！

木村 : どうしたの？

田中 : ジャムの蓋(ふた)、開(あ)＿＿＿＿＿＿ない。

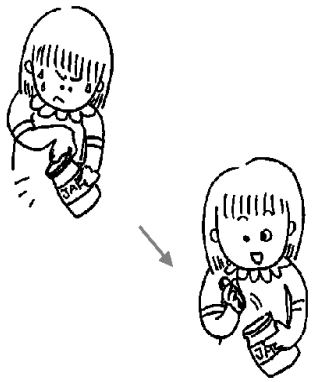
木村 : 蓋に輪ゴムをはめてみたら？ลองใช้หนังยางรัดฝาดูสิ

田中 : そうだね。やってみる。

・・・・・・・・

木村 : どう？

田中 : あ、開(あ)＿＿＿＿＿＿た。ありがとう。



2/5

สถานการณ์ที่ 2 ทะนะกะเสียบกุญแจและกำลังบิดกุญแจเพื่อสตาร์ทรถ

田中：あれ？

木村：どうしたの？

田中：キー、回（まわ）　　ない。

木村：キーをさしたままハンドルを左右に動かしてみたら？

เสียบกุญแจเอาไว้อย่างนั้น แล้วลองขยับพวงมาลัยดูสิ

・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、回（まわ）　　た。ありがとう。

สถานการณ์ที่ 3 ทะนะกะกำลังใส่คอนแทคเลนส์ที่เพิ่งซื้อมาเป็นครั้งแรก

田中：あー　もう！

木村：どうしたの？

田中：コンタクト、入　　ない。

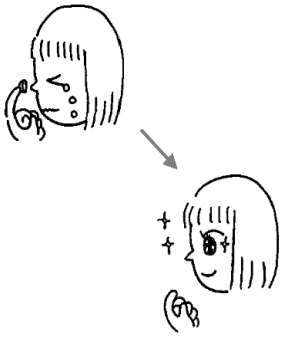
木村：もっと目を大きく開けてみたら？ลองเบิ่งตาให้กว้าง ๆ แล้วใส่ดูสิ

・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、入　　た。

木村：よかったね。



สถานการณ์ที่ 4 ทะนะกะกำลังลบไวท์บอร์ดที่เผลอใช้ปากกาเคมีเขียน

田中：やばい！

木村：どうしたの？

田中：字、消　　ない。どうしよう。

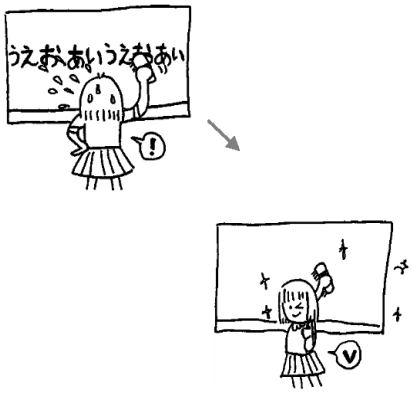
木村：まあ、落ち着いて。アルコールで拭いてみたら？

ใจเย็น ๆ ลองใช้แอลกอฮอล์ลบดูสิ

・・・・(คิมุระยื่นแอลกอฮอล์ให้ทะนะกะ)・・・・

木村：どう？

田中：あ、消　　た。ありがとう。



สถานการณ์ที่ 5 ทะนะกะขนจักรยานใส่ในรถ และกำลังปิดประตูท้ายรถ

田中：あれ？

木村：どうしたの？

田中：ドア、閉(し)＿＿＿＿＿＿ない。

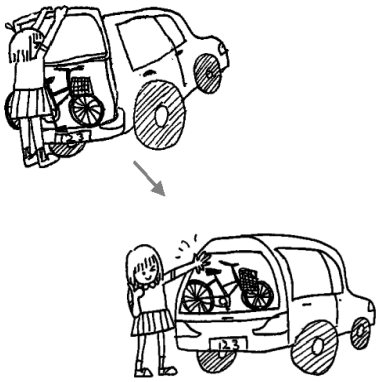
木村：自転車を斜(なな)めにして、入れてみたら？ลองใส่แบบเอียง ๆ ดูสิ

田中：そうだね。

・・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、閉(し)＿＿＿＿＿＿た。ありがとう。



สถานการณ์ที่ 6 ทะนะกะกำลังบีบยาสีฟันจากหลอดที่ใช้ใกล้จะหมดแล้ว

田中：ウッ！

木村：どうしたの？

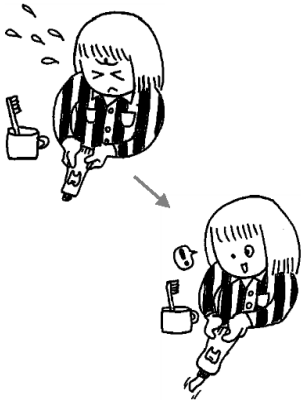
田中：歯磨(はみが)き粉(こ)、出＿＿＿＿＿＿ない。

木村：フタをして、何回か振ってみたら？ปิดฝาแล้วลองสะบัด ๆ หลอดดูสิ

・・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、出＿＿＿＿＿＿た。ありがとう。



สถานการณ์ที่ 7 ทะนะกะกำลังเปิดมู่ลี่

田中：あれ？

木村：どうしたの？

田中：ブラインド、上(あ)＿＿＿＿＿＿ない。

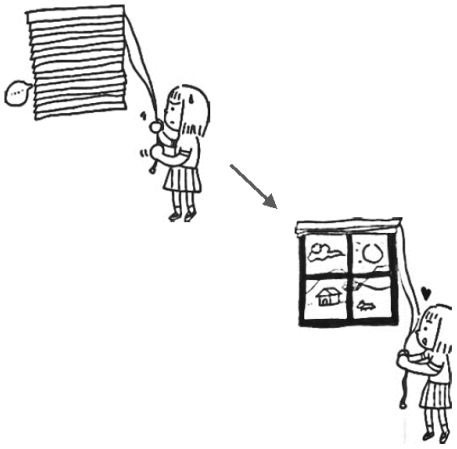
木村：ひもが絡まっているよ。เชือกมันพันกันอยู่นี่นา

田中：本当だ。

・・・・(ทะนะกะแก้เชือกที่พันกันอยู่)・・・・

木村：どう？

田中：あ、上(あ)＿＿＿＿＿＿た。



สถานการณ์ที่ 8 ทะนะกะกำลังถอดแหวนที่ใส่อยู่

田中：あー　もう！

木村：どうしたの？

田中：指輪(ゆびわ)、外(はず)＿＿＿＿＿＿ない。

木村：石鹸をつけてみたら？ ลองใช้สบู่ถูดูสิ

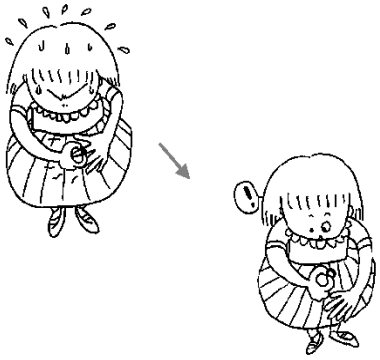
田中：そうだね。

・・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、外(はず)＿＿＿＿＿＿た。

木村：よかったね。



สถานการณ์ที่ 9 ทะนะกะกำลังจุดไม้ขีด

田中：あー　もう！

木村：どうしたの？

田中：マッチ、つ＿＿＿＿＿＿ない。

木村：マッチが湿っているのかもね。新しいのを使ってみたら？

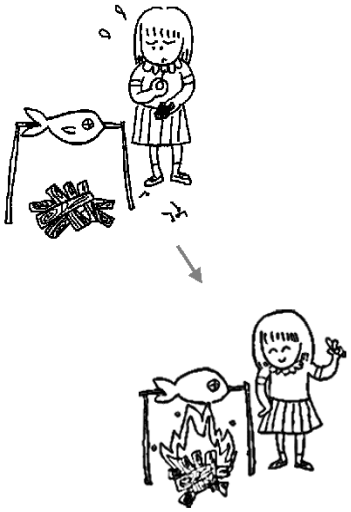
ไม้ขีดมันอาจจะชื้น ลองใช้อันใหม่ดูสิ

田中：そうだね。使ってみる。

・・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、つ＿＿＿＿＿＿た。



สถานการณ์ที่ 10 ทะนะกะกำลังร้อยด้ายใส่ในรูเข็ม

田中：あー もう！

木村：どうしたの？

田中：糸(いと)、通(とお)＿＿＿＿＿＿ないの。たぶん糸が太すぎるのかも。

木村：じゃ、私の糸を使ってみる？今持ってくるよ。

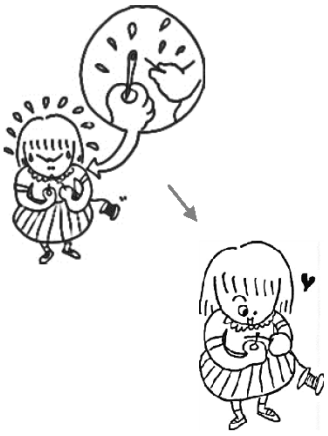
งั้น ลองใช้ด้ายของเรามั้ย เดี๋ยวเอามาให้

田中：え、いいの？ありがとう。

・・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、通(とお)＿＿＿＿＿＿た。ありがとう。



ขอบพระคุณในความร่วมมือ

5/5

テスト用紙（TJL 用）（日本語訳）

日本語の知識に関するテスト

これは、タイ語を母語とする日本語学習者の日本語の表現の使用傾向を調査するためのテストです。ここに記載していただく個人情報は、研究目的以外には使用しません。また、論文などにデータを公開する場合、個人が特定できる情報を掲載することはありません

大阪大学大学院 言語文化研究科 博士後期課程　パンニー・セーリム

パートⅠ　回答者に関する質問

括弧内には該当するものに○印を、下線部には必要事項を記入してください。

１．氏名：（名）＿＿＿＿＿＿＿＿（姓）＿＿＿＿＿＿＿＿（ニックネーム）＿＿＿＿

２．性別：（　　）男　　（　　）女

３．年齢：＿＿＿歳

４．今までどこで日本語を勉強しましたか。どのくらいの期間、勉強しましたか。

（イ）教育機関名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　学習期間：＿＿＿＿から＿＿＿＿まで

（ロ）教育機関名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　学習期間：＿＿＿＿から＿＿＿＿まで

（ハ）教育機関名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　学習期間：＿＿＿＿から＿＿＿＿まで

（二）教育機関名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　学習期間：＿＿＿＿から＿＿＿＿まで

５．（職歴のある方のみ）日本語を使って、どんな仕事をどのくらいの期間、しましたか。

（イ）職業：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　就労期間：＿＿＿＿から＿＿＿＿まで

（ロ）職業：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　就労期間：＿＿＿＿から＿＿＿＿まで

（ハ）職業：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　就労期間：＿＿＿＿から＿＿＿＿まで

６．日本に住んだことがありますか。何のために、どのくらいの期間、住んでいましたか。

（一回目）滞在目的：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　滞在期間：＿＿＿＿から＿＿＿＿まで

（二回目）滞在目的：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　滞在期間：＿＿＿＿から＿＿＿＿まで

（三回目）滞在目的：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　滞在期間：＿＿＿＿から＿＿＿＿まで

７．日本語能力試験を受けたことがありますか。取得した最高のレベル／級は何ですか。

（　　）有 →　取得：N＿＿＿／＿＿＿級　＿＿＿年　　（　　）無

1/5

パートⅡ　日本語のテスト

次のリストから動詞を選び、適切な形に直して、文を完成させてください。変える必要がない場合は、×を入れてください。複数回答が考えられる場合は、最も自然だと感じるものを書き込んでください。

1.	蓋を 開ける	蓋が 開く
2.	キーを 回す	キーが 回る
3.	コンタクトを 入れる	コンタクトが 入る
4.	字を 消す	字が 消える
5.	ドアを 閉める	ドアが 閉まる
6.	歯磨き粉を 出す	歯磨き粉が 出る
7.	ブラインドを 上げる	ブラインドが 上がる
8.	指輪を 外す	指輪が 外れる
9.	マッチを つける	マッチが つく
10.	糸を 通す	糸が 通る

【場面１】田中さんは、ジャムの瓶の蓋を開けようとしています。

田中：ウッ！

木村：どうしたの？

田中：ジャムの蓋、開＿＿＿＿＿＿ない。

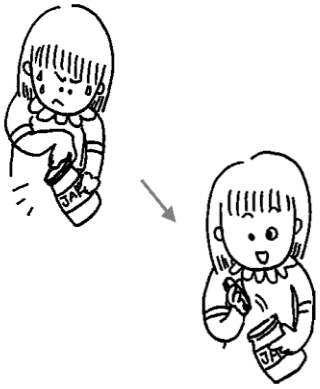
木村：蓋に輪ゴムをはめてみたら？

田中：そうだね。やってみる。

・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、開＿＿＿＿＿＿た。ありがとう。



2/5

【場面２】田中さんは、車のエンジンをかけるために、キーを回そうとしています。

田中：あれ？

木村：どうしたの？

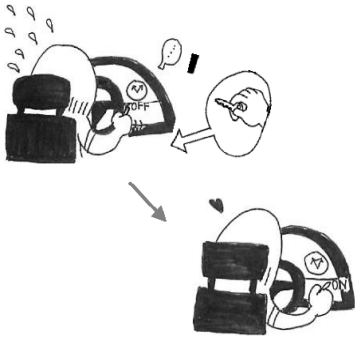
田中：キー、回（まわ）＿＿＿＿＿＿ない。

木村：キーをさしたままハンドルを左右に動かしてみたら？

・・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、回（まわ）＿＿＿＿＿＿た。ありがとう。



【場面３】田中さんは、コンタクトレンズを作ったばかりで、今、初めて入れようとしています。

田中：あー　もう！

木村：どうしたの？

田中：コンタクト、入＿＿＿＿＿＿ない。

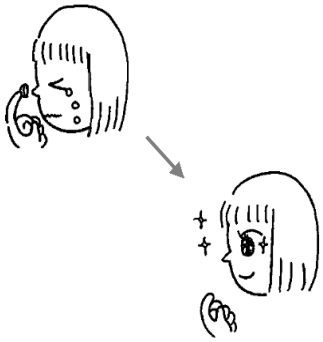
木村：もっと目を大きく開けてみたら？

・・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、入＿＿＿＿＿＿た。

木村：よかったね。



【場面４】田中さんは、ホワイトボードに油性マジックで字を書いてしまいました。今、字を消そうとしています。

田中：やばい！

木村：どうしたの？

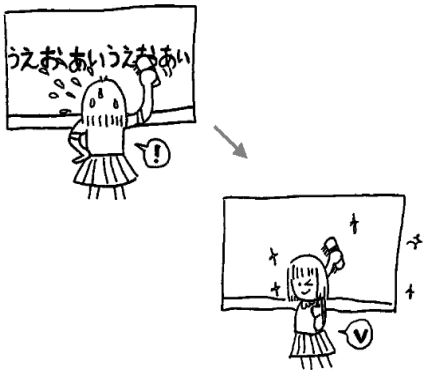
田中：字、消＿＿＿＿＿＿ない。どうしよう。

木村：まあ、落ち着いて。アルコールで拭いてみたら？

・・・・（木村さんは田中さんにアルコールを渡す）・・・・

木村：どう？

田中：あ、消＿＿＿＿＿＿た。ありがとう。



【場面５】田中さんは、車に自転車を積み込んで、後ろのドアを閉めようとしています。

田中：あれ？

木村：どうしたの？

田中：ドア、閉（し）＿＿＿＿＿＿ない。

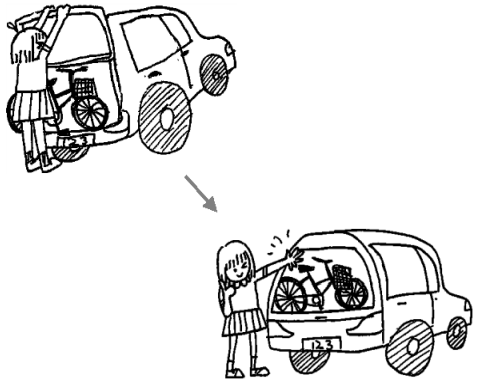
木村：自転車を斜めにして、入れてみたら？

田中：そうだね。

・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、閉（し）＿＿＿＿＿＿た。ありがとう。



【場面６】田中さんは、残り少ない歯磨き粉を出そうとしています。

田中：ウッ！

木村：どうしたの？

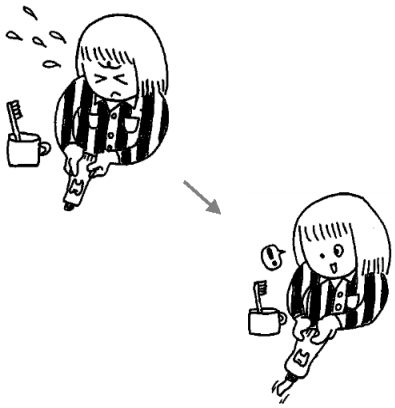
田中：歯磨き粉、出＿＿＿＿＿＿ない。

木村：フタをして、何回か振ってみたら？

・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、出＿＿＿＿＿＿た。ありがとう。



【場面７】田中さんは、ブラインドを上げようとしています。

田中：あれ？

木村：どうしたの？

田中：ブラインド、上（あ）＿＿＿＿＿＿ない。

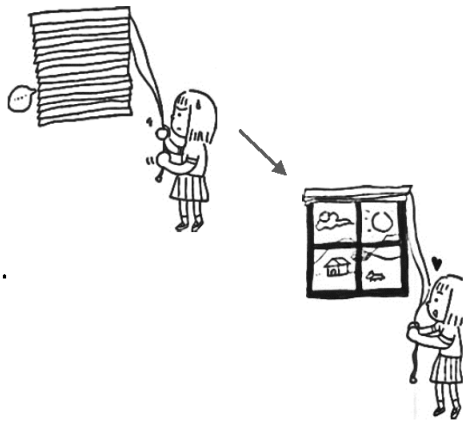
木村：ひもが絡まっているよ。

田中：本当だ。

・・・・（田中さんは絡まったひもを外す）・・・・

木村：どう？

田中：あ、上（あ）＿＿＿＿＿＿た。



【場面８】田中さんは、指輪を外そうとしています。

田中：あー　もう！

木村：どうしたの？

田中：指輪、外（はず）＿＿＿＿＿＿ない。

木村：石鹸をつけてみたら？

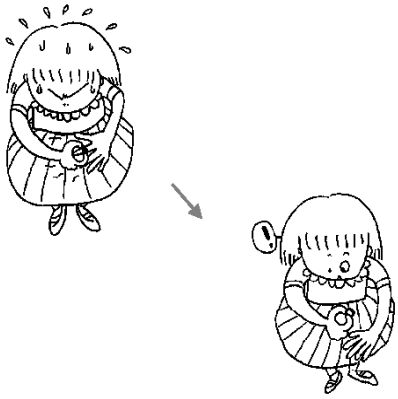
田中：そうだね。

・・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、外（はず）＿＿＿＿＿＿た。

木村：よかったね。



【場面９】田中さんは、マッチに火をつけようとしています。

田中：あー　もう！

木村：どうしたの？

田中：マッチ、つ＿＿＿＿＿＿ない。

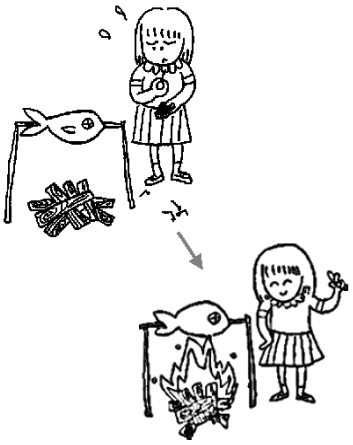
木村：マッチが湿っているのかもね。新しいのを使ってみたら？

田中：そうだね。使ってみる。

・・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、つ＿＿＿＿＿＿た。



【場面 10】田中さんは、服を縫うために、針に糸を通そうとしています。

田中：あー もう！

木村：どうしたの？

田中：糸、通（とお）＿＿＿＿＿＿ないの。たぶん糸が太すぎるのかも。

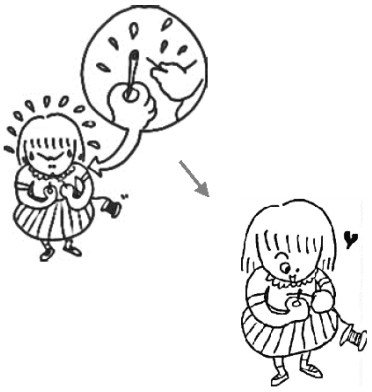
木村：じゃ、私の糸を使ってみる？今持ってくるよ。

田中：え、いいの？ありがとう。

・・・・・・・・・

木村：どう？

田中：あ、通（とお）＿＿＿＿＿＿た。ありがとう。



ご協力ありがとうございました

5/5

付録４ JNS の回答（動詞）

場面	内容	問	JNS-1	JNS-2	JNS-3	JNS-4	JNS-5	JNS-6	JNS-7	JNS-8	JNS-9	JNS-10
場面1	瓶の 蓋を 開けようとしている	問1	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開けれない 他可	開かない 自
		問2	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開けれた 他可	開いた 自
場面2	キーを 回そうとしている	問3	回らない 自	回らない 自	回せない 他可	回らない 自	回らない 自	回せない 他可	回らない 自	回らない 自	回らない 自	回らない 自
		問4	回った 自	回った 自	回せた 他可	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自
場面3	コンタクトを 入れようとしている	問5	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自
		問6	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自
場面4	字を 消そうとしている	問7	消えない 自	消えない 自	消せない 他可	消せない 他可	消せない 他可	消えない 自	消えない 自	消せない 他可	消えない 自	消えない 自
		問8	消えた 自	消えた 自	消せた 他可	消せた 他可	消せた 他可	消えた 自	消えた 自	消せた 他可	消えた 自	消えた 自
場面5	後ろのドアを 閉めようとしている	問9	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自
		問10	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉めれた 他可	閉まった 自
場面6	歯磨き 粉を 出そうとしている	問11	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出てこない 自	出ない 自	出ない 自	出てこない 自	出ない 自	出てこない 自	出ない 自
		問12	出た 自	出た 自	出た 自	出てきた 自	出た 自	出た 自	出てきた 自	出た 自	出てきた 自	出た 自
場面7	ブラインドを 上げようとしている	問13	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自
		問14	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上げれた 他可	上がった 自
場面8	指輪を 外そうとしている	問15	外せない 他可	外れない 自	外れない 自	外れない 自	外せない 他可	外れない 自	外れない 自	外せない 他可	外せない 他可	外せない 他可
		問16	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外せた 他可	外せた 他可	外せた 他可
場面9	火をつけようとしている	問17	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自
		問18	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自
場面10	糸を 通そうとしている	問19	通らない 自	通せない 他可	通んない 自	通らない 自	通せない 他可	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自
		問20	通った 自	通せた 他可	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自
	自動詞（件）		19	18	16	18	16	19	20	16	14	18
	他動詞の 可能形（件）		1	2	4	2	4	1	0	4	6	2

場面	内容	問	JNS-11	JNS-12	JNS-13	JNS-14	JNS-15	JNS-16	JNS-17	JNS-18	JNS-19	JNS-20
場面1	瓶の蓋を開けようとしている	問1	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開けられない 他可	開かない 自	開けられない 他可	開かない 自	開かない 自	開けれない 他可
		問2	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開けれた 他可
場面2	キーを回そうとしている	問3	回らない 自	回らない 自	回らない 自	回らない 自	回らない 自	回らない 自	回らない 自	回らない 自	回らない 自	回らない 自
		問4	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自
場面3	コンタクトを入れようとしている	問5	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自
		問6	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自
場面4	字を消そうとしている	問7	消えない 自	消えない 自	消せない 他可	消えない 自	消えない 自	消えない 自	消せない 他可	消えない 自	消えない 自	消えない 自
		問8	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自
場面5	後ろのドアを閉めようとしている	問9	閉まらない 自	閉められない 他可	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自
		問10	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自
場面6	歯磨き粉を出そうとしている	問11	出ない 自	出てこない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自
		問12	出た 自	出てきた 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自
場面7	ブラインドを上げようとしている	問13	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自
		問14	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自
場面8	指輪を外そうとしている	問15	外れない 自	外せない 他可	外せない 他可	外れない 自	外せない 他可	外れない 自	外せない 他可	外れない 自	外れない 自	外れない 自
		問16	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自
場面9	火をつけようとしている	問17	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自
		問18	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自
場面10	糸を通そうとしている	問19	通らない 自	通せない 他可	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自
		問20	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自
	自動詞（件）		20	17	18	20	18	20	17	20	20	18
	他動詞の可能形（件）		0	3	2	0	2	0	3	0	0	2

場面	内容	問	JNS-21	JNS-22	JNS-23	JNS-24	JNS-25	JNS-26	JNS-27	JNS-28	JNS-29	JNS-30
場面1	瓶の 蓋を 開けようとしている	問1	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自
		問2	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自
場面2	キーを 回そうとしている	問3	回らない 自	回らない 自	回らない 自	回らない 自	回らない 自	回らない 自	回んない 自	回らない 自	回らない 自	回らない 自
		問4	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自
場面3	コンタクトを 入れようとしている	問5	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入んない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自
		問6	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自
場面4	字を 消そうとしている	問7	消えない 自	消えない 自	消せない 他可	消えない 自	消えない 自	消えない 自	消えない 自	消せない 他可	消えない 自	消えない 自
		問8	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自
場面5	後ろのドアを 閉めようとしている	問9	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まんない 自	閉まらない 自	閉まんない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自
		問10	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自
場面6	歯磨き 粉を 出そうとしている	問11	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自
		問12	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自
場面7	ブラインドを 上げようとしている	問13	上がらない 自	上がらない 自	上がんない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自
		問14	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自
場面8	指輪を 外そうとしている	問15	外せない 他可	外れない 自	外せない 他可	外れない 自	外れない 自	外れない 自	外れない 自	外れない 自	外れない 自	外れない 自
		問16	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自
場面9	火をつけようとしている	問17	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つけれない 他可	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自
		問18	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	つけれた 他可	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自
場面10	糸を 通そうとしている	問19	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自
		問20	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自
	自動詞（件）		19	20	18	20	20	18	20	19	20	20
	他動詞の可能形（件）		1	0	2	0	0	2	0	1	0	0

場面	内容	問	JNS-31	JNS-32	JNS-33	JNS-34	JNS-35	JNS-36	JNS-37	JNS-38	JNS-39	JNS-40
場面1	瓶の 蓋を 開けようとしている	問1	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開けられない 他可
		問2	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開けられた 他可
場面2	キーを 回そうとしている	問3	回らない 自	回らない 自	回らない 自	回らない 自	回せない 他可	回らない 自	回らない 自	回らない 自	回らない 自	回らない 自
		問4	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自
場面3	コンタクトを 入れようとしている	問5	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自
		問6	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自
場面4	字を 消そうとしている	問7	消えない 自	消えない 自	消えない 自	消えない 自	消えない 自	消えない 自	消えない 自	消えない 自	消えない 自	消せない 他可
		問8	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消せた 他可
場面5	後ろのドアを 閉めようとしている	問9	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉められない 他可
		問10	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自
場面6	歯磨き 粉を 出そうとしている	問11	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出てこない 自	出ない 自
		問12	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自
場面7	ブラインドを 上げようとしている	問13	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自
		問14	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自
場面8	指輪を 外そうとしている	問15	外れない 自	外れない 自	外れない 自	外れない 自	外れない 自	外れない 自	外れない 自	外れない 自	外れない 自	外せない 他可
		問16	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外せた 他可
場面9	火をつけようとしている	問17	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自
		問18	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自
場面10	糸を 通そうとしている	問19	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自
		問20	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通せた 他可
	自動詞（件）		20	20	20	20	19	20	20	20	20	12
	他動詞の 可能形（件）		0	0	0	0	1	0	0	0	0	8

場面	内容	問	JNS-41	JNS-42	JNS-43	JNS-44	JNS-45	JNS-46	JNS-47	JNS-48	JNS-49	JNS-50
場面1	瓶の 蓋を 開けようとしている	問1	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自	開かない 自
		問2	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自
場面2	キーを 回そうとしている	問3	回らない 自	回らない 自	回らない 自	回らない 自	回せない 他可	回らない 自	回らない 自	回らない 自	回らない 自	回せない 他可
		問4	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回せた 他可
場面3	コンタクトを 入れようとしている	問5	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自	入らない 自
		問6	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自	入った 自
場面4	字を 消そうとしている	問7	消えない 自	消えない 自	消えない 自	消えない 自	消えない 自	消えない 自	消えない 自	消えない 自	消えない 自	消せない 他可
		問8	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消せた 他可
場面5	後ろのドアを 閉めようとしている	問9	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉まらない 自	閉められない 他可
		問10	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉めれた 他可
場面6	歯磨き 粉を 出そうとしている	問11	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出てこない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自
		問12	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出てきた 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出せた 他可
場面7	ブラインドを 上げようとしている	問13	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自
		問14	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上げられた 他可
場面8	指輪を 外そうとしている	問15	外せない 他可	外れない 自	外れない 自	外れない 自	外れない 自	外れない 自	外れない 自	外れない 自	外れない 自	外せない 他可
		問16	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自
場面9	火をつけようとしている	問17	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自
		問18	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	つけられた 他可
場面10	糸を 通そうとしている	問19	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通らない 自	通せない 他可
		問20	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通せた 他可
	自動詞（件）		19	20	20	20	19	20	20	20	20	8
	他動詞の 可能形（件）		1	0	0	0	1	0	0	0	0	12

付録 5 TNS の回答（動詞）

場面	内容	問	TNS-1	TNS-2	TNS-3	TNS-4	TNS-5	TNS-6	TNS-7	TNS-8	TNS-9	TNS-10
場面1	瓶の 蓋を 開けようとしている	問1	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
		問2	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能
場面2	キーを 回そうとしている	問3	dây 可能	pay 結果	pay 結果	dây 可能	pay 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	pay 結果
		問4	dây 可能	pay 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能
場面3	コンタクトを 入れようとしている	問5	dây 可能	dây 可能	khâw 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	khâw 結果
		問6	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	khâw 結果
場面4	字を 消そうとしている	問7	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
		問8	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
場面5	後ろのドアを 閉めようとしている	問9	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	khâw 結果
		問10	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	khâw 結果
場面6	歯磨き 粉を 出そうとしている	問11	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
		問12	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
場面7	ブラインドを 上げようとしている	問13	loŋ 結果	khɯ̂n 結果	dây 可能	loŋ 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	khɯ̂n 結果	dây 可能	khɯ̂n 結果
		問14	dây 可能	khɯ̂n 結果	dây 可能	loŋ 結果	khɯ̂n 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	khɯ̂n 結果	dây 可能	khɯ̂n 結果
場面8	指輪を 外そうとしている	問15	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
		問16	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
場面9	火をつけようとしている	問17	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	dây 可能	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果
		問18	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	dây 可能	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果
場面10	糸を 通そうとしている	問19	khâw 結果	dây 可能	khâw 結果	khâw 結果	dây 可能	khâw 結果	khâw 結果	dây 可能	dây 可能	khâw 結果
		問20	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	khâw 結果	khâw 結果	dây 可能	dây 可能	khâw 結果
		結果（件）	11	14	12	6	10	14	12	8	10	18
		可能（件）	9	6	8	14	10	6	8	12	10	2

場面	内容	問	TNS-11	TNS-12	TNS-13	TNS-14	TNS-15	TNS-16	TNS-17	TNS-18	TNS-19	TNS-20
場面1	瓶の蓋を開けようとしている	問1	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
		問2	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果
場面2	キーを回そうとしている	問3	dây 可能	dây 可能	pay 結果	dây 可能	pay 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能	pay 結果	pay 結果
		問4	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	pay 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	pay 結果
場面3	コンタクトを入れようとしている	問5	khâw 結果	dây 可能	khâw 結果	khâw 結果	khâw 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能	khâw 結果	khâw 結果
		問6	dây 可能	dây 可能	dây 可能	khâw 結果	khâw 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能	khâw 結果	dây 可能
場面4	字を消そうとしている	問7	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
		問8	dây 可能	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
場面5	後ろのドアを閉めようとしている	問9	dây 可能	dây 可能	loŋ 結果	dây 可能	loŋ 結果	loŋ 結果	loŋ 結果	dây 可能	loŋ 結果	dây 可能
		問10	dây 可能	dây 可能	loŋ 結果	dây 可能	loŋ 結果	loŋ 結果	dây 可能	dây 可能	loŋ 結果	dây 可能
場面6	歯磨き粉を出そうとしている	問11	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
		問12	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果
場面7	ブラインドを上げようとしている	問13	loŋ 結果	dây 可能	khɯ̂n 結果	dây 可能	dây 可能	loŋ 結果	khɯ̂n 結果	dây 可能	khɯ̂n 結果	khɯ̂n 結果
		問14	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	loŋ 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能	khɯ̂n 結果
場面8	指輪を外そうとしている	問15	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
		問16	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
場面9	火をつけようとしている	問17	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果
		問18	tìt 結果	dây 可能	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	dây 可能	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果
場面10	糸を通そうとしている	問19	khâw 結果	khâw 結果	khâw 結果	khâw 結果	khâw 結果	dây 可能	khâw 結果	khâw 結果	khâw 結果	khâw 結果
		問20	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	khâw 結果	dây 可能	dây 可能	khâw 結果	dây 可能	dây 可能
		結果（件）	9	7	11	11	18	14	8	11	15	16
		可能（件）	11	13	9	9	2	6	12	9	5	4

場面	内容	問	TNS-21	TNS-22	TNS-23	TNS-24	TNS-25	TNS-26	TNS-27	TNS-28	TNS-29	TNS-30
場面1	瓶の 蓋を 開けようとしている	問1	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果
		問2	dây 可能	dây 可能	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果
場面2	キーを 回そうとしている	問3	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	pay 結果	pay 結果	dây 可能	pay 結果	dây 可能
		問4	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能
場面3	コンタクトを 入れようとしている	問5	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	khâw 結果	khâw 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能
		問6	dây 可能	dây 可能	dây 可能	khâw 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能
場面4	字を 消そうとしている	問7	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果
		問8	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果
場面5	後ろのドアを 閉めようとしている	問9	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	loŋ 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能
		問10	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	loŋ 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能
場面6	歯磨き 粉を 出そうとしている	問11	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
		問12	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
場面7	ブラインドを 上げようとしている	問13	khɯ̂n 結果	khɯ̂n 結果	pay 結果	dây 可能	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能
		問14	khɯ̂n 結果	dây 可能	pay 結果	dây 可能	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能
場面8	指輪を 外そうとしている	問15	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
		問16	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
場面9	火をつけようとしている	問17	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果
		問18	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果
場面10	糸を 通そうとしている	問19	khâw 結果	khâw 結果	khâw 結果	dây 可能	khâw 結果	khâw 結果	khâw 結果	khâw 結果	dây 可能	dây 可能
		問20	khâw 結果	dây 可能	khâw 結果	dây 可能	khâw 結果	khâw 結果	khâw 結果	khâw 結果	dây 可能	dây 可能
		結果（件）	13	9	12	8	12	16	14	11	7	10
		可能（件）	7	11	8	12	8	4	6	9	13	10

場面	内容	問	TNS-31	TNS-32	TNS-33	TNS-34	TNS-35	TNS-36	TNS-37	TNS-38	TNS-39	TNS-40
場面1	瓶の蓋を開けようとしている	問1	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
		問2	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果
場面2	キーを回そうとしている	問3	pay 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	pay 結果
		問4	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	pay 結果
場面3	コンタクトを入れようとしている	問5	khâw 結果	dây 可能	dây 可能	khâw 結果	dây 可能	khâw 結果	dây 可能	khâw 結果	dây 可能	dây 可能
		問6	dây 可能	dây 可能	dây 可能	khâw 結果	dây 可能	khâw 結果	dây 可能	khâw 結果	khâw 結果	dây 可能
場面4	字を消そうとしている	問7	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
		問8	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果
場面5	後ろのドアを閉めようとしている	問9	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	loŋ 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能
		問10	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	loŋ 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能
場面6	歯磨き粉を出そうとしている	問11	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
		問12	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
場面7	ブラインドを上げようとしている	問13	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	khɯ̂n 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能
		問14	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	khɯ̂n 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能
場面8	指輪を外そうとしている	問15	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
		問16	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
場面9	火をつけようとしている	問17	tìt 結果	dây 可能	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果
		問18	tìt 結果	dây 可能	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	dây 可能	tìt 結果
場面10	糸を通そうとしている	問19	dây 可能	dây 可能	khâw 結果	khâw 結果	dây 可能	khâw 結果	dây 可能	khâw 結果	khâw 結果	khâw 結果
		問20	dây 可能	dây 可能	khâw 結果	khâw 結果	dây 可能	khâw 結果	dây 可能	khâw 結果	dây 可能	khâw 結果
		結果（件）	12	8	10	14	10	18	8	14	9	14
		可能（件）	8	12	10	6	10	2	12	6	11	6

場面	内容	問	TNS-41	TNS-42	TNS-43	TNS-44	TNS-45	TNS-46	TNS-47	TNS-48	TNS-49	TNS-50
場面1	瓶の蓋を開けようとしている	問1	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
		問2	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
場面2	キーを回そうとしている	問3	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	pay 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能
		問4	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	pay 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能
場面3	コンタクトを入れようとしている	問5	khâw 結果	dây 可能	khâw 結果	khâw 結果	khâw 結果	khâw 結果	dây 可能	khâw 結果	khâw 結果	khâw 結果
		問6	khâw 結果	khâw 結果	dây 可能	khâw 結果	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	khâw 結果
場面4	字を消そうとしている	問7	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能
		問8	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
場面5	後ろのドアを閉めようとしている	問9	loŋ 結果	dây 可能	dây 可能	loŋ 結果	loŋ 結果	dây 可能	dây 可能	loŋ 結果	dây 可能	dây 可能
		問10	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能	dây 可能
場面6	歯磨き粉を出そうとしている	問11	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
		問12	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果
場面7	ブラインドを上げようとしている	問13	khɯ̂n 結果	khɯ̂n 結果	khɯ̂n 結果	khɯ̂n 結果	loŋ 結果	khɯ̂n 結果	khɯ̂n 結果	khɯ̂n 結果	khɯ̂n 結果	khɯ̂n 結果
		問14	khɯ̂n 結果	dây 可能	khɯ̂n 結果	khɯ̂n 結果	dây 可能	khɯ̂n 結果	khɯ̂n 結果	khɯ̂n 結果	dây 可能	khɯ̂n 結果
場面8	指輪を外そうとしている	問15	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果
		問16	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	dây 可能	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果	ʔɔ̀ɔk 結果
場面9	火をつけようとしている	問17	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	tìt 結果	dây 可能	tìt 結果	tìt 結果
		問18	tìt 結果	dây 可能	tìt 結果	tìt 結果	dây 可能	tìt 結果	tìt 結果	dây 可能	tìt 結果	tìt 結果
場面10	糸を通そうとしている	問19	khâw 結果	khâw 結果	khâw 結果	khâw 結果	khâw 結果	khâw 結果	khâw 結果	khâw 結果	khâw 結果	khâw 結果
		問20	khâw 結果	dây 可能	khâw 結果	khâw 結果	dây 可能	khâw 結果	khâw 結果	dây 可能	dây 可能	khâw 結果
		結果（件）	17	9	15	16	9	17	10	13	11	15
		可能（件）	3	11	5	4	11	3	10	7	9	5

付録 6 TJL の回答（動詞）

場面	内容	問	TJL·1	TJL·2	TJL·3	TJL·4	TJL·5	TJL·6	TJL·7	TJL·8	TJL·9	TJL·10
場面1	瓶の蓋を開けようとしている	問1	開けない 他	開けられない 他可	開いてない 自テイル	開いてない 自テイル	開けられない 他可	開けれない 他可	開かない 自	開かない 自	開けられない 他可	開かない 自
		問2	開けた 他	開けられた 他可	開けた 他	開けた 他	開いた 自	開いた 自	開けた 他	開いた 自	開けた 他	開いた 自
場面2	キーを回そうとしている	問3	回さない 他	回られない 自活用	回さない 他	回さない 他	回れない 自可	回せない 他可	回さない 他	回らない 自	回らない 自	回らない 自
		問4	回した 他	回られた 自活用	回した 他	回った 自	回した 他	回った 自	回した 他	回った 自	回れた 自可	回った 自
場面3	コンタクトを入れようとしている	問5	入れられない 他可	入れられない 自活用	入れない 他	入らない 自	入られない 自活用	入れられない 他可	入れない 他	入れない 自可	入らない 自	入らない 自
		問6	入った 自	入った 自	入れた 他	入れた 他	入れた 他	入った 自	入った 自	入った 自	入れた 他	入った 自
場面4	字を消そうとしている	問7	消さない 他	消えられない 自可	消さない 他	消えてない 自テイル	消せない 他可	消せない 他可	消さない 他	消えない 自	消さない 他	消せない 他可
		問8	消した 他	消えられた 自可	消した 他	消えた 自	消えた 自	消せた 他可	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消えた 自
場面5	後ろのドアを閉めようとしている	問9	閉めない 他	閉められない 他可	閉まってない 自テイル	閉められない 他受	閉められない 他可	閉められない 他可	閉めない 他	閉められない 他可	閉められない 他可	閉まらない 自
		問10	閉めた 他	閉めた 他	閉めた 他	閉めた 他	閉めた 他	閉めた 他	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自
場面6	歯磨き粉を出そうとしている	問11	出さない 他	出てこない 自	出さない 他	出してない 他テイル	出さない 他	出てない 自テイル	出ない 自	出ない 自	出さない 他	出ない 自
		問12	出した 他	出た 自	出した 他	出られた 自可	出た 自	出た 自	出した 他	出た 自	出た 自	出た 自
場面7	ブラインドを上げようとしている	問13	上げない 他	上がれない 自可	上げない 他	上げない 他	上げない 他	上げられない 他可	上げない 他	上がらない 自	上げられない 他可	上げられない 他可
		問14	上げた 他	上げた 他	上げた 他	上げられた 他可	上げた 他	上がった 自	上げた 他	上がった 自	上がった 自	上がった 自
場面8	指輪を外そうとしている	問15	外さない 他	外れられない 自可	外さない 他	外れない 自	外せない 他可	外せない 他可	外さない 他	外せない 他可	外られない 他活用	外せない 他可
		問16	外した 他	外れられた 自可	外した 他	外した 他	外した 他	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外せた 他可
場面9	火をつけようとしている	問17	つけない 他	つかない 自	ついてない 自テイル	つけられない 他受	つけない 他	つけられない 他可	つけない 他	つかない 自	つけない 他	つかない 自
		問18	つけた 他	ついた 自	つけた 他	つけた 他	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自
場面10	糸を通そうとしている	問19	通さない 他	通られない 自活用	通さない 他	通せない 他可	通しない 他活用	通せない 他可	通らない 自	通らない 自	通れない 自可	通らない 自
		問20	通した 他	通った 自	通した 他	通った 自	通った 自	通った 自	通した 他	通った 自	通った 自	通った 自
自	自動詞（自）（件）		1	6	0	5	5	8	8	17	9	16
	自動詞の可能形（自可）（件）		0	5	0	1	1	0	0	1	2	0
	自動詞のテイル形（自テイル）（件）		0	0	3	2	0	1	0	0	0	0
	自動詞の誤活用（自活用）（件）		0	4	0	0	1	0	0	0	0	0
他	他動詞（他）（件）		18	2	17	7	8	1	12	0	5	0
	他動詞の可能形（他可）（件）		1	3	0	2	4	10	0	2	3	4
	他動詞の受身形（他受）（件）		0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	他動詞のテイル形（他テイル）（件）		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	他動詞の誤活用（他活用）（件）		0	0	0	0	1	0	0	0	1	0

場面	内容	問	TJL·11	TJL·12	TJL·13	TJL·14	TJL·15	TJL·16	TJL·17	TJL·18	TJL·19	TJL·20
場面1	瓶の蓋を開けようとしている	問1	開かない 自	開けられない 他可	開けられない 他可	開かない 自	開けられない 他可	開けられない 他可	開けられない 他可	開けられない 他可	開けられない 他可	開かない 自
		問2	開いた 自	開けた 他	開いた 自	開けた 他	開けた 他	開けた 他	開けられた 他可	開けた 他	開けられた 他可	開いた 自
場面2	キーを回そうとしている	問3	回れない 自可	回せられない 他活用	回せない 他可	回せない 他可	回らない 自	回らない 自	回さない 他	回せない 他可	回せない 他可	回らない 自
		問4	回れた 自可	回れた 自可	回せた 他可	回った 自	回した 他	回った 自	回した 他	回せた 他可	回せた 他可	回った 自
場面3	コンタクトを入れようとしている	問5	入れない 自可	入れない 他	入れない 他	入れられない 他可	入らない 自	入れない 自可	入れられない 他可	入れられない 他可	入れられない 他可	入らない 自
		問6	入れた 自可	入った 自	入れた 自可	入った 自	入った 自	入った 自	入れられた 他可	入った 自	入った 自	入った 自
場面4	字を消そうとしている	問7	消せない 他可	消さない 他	消せない 他可	消せない 他可	消しない 他活用	消せない 他可	消すことができない 他可	消せない 他可	消せない 他可	消してない 他テイル
		問8	消せた 他可	消えた 自	消せた 他可	消えた 自	消せた 他可	消した 他	消すことができた 他可	消えた 自	消えた 自	消えた 自
場面5	後ろのドアを閉めようとしている	問9	閉まらない 自	閉めない 他	閉められない 他可	閉められない 他可	閉めない 他	閉められない 他可	閉められない 他可	閉められない 他可	閉められない 他可	閉めてない 他テイル
		問10	閉まった 自	閉まった 自	閉めた 他	閉まった 自	閉めた 他	閉めた 他	閉められた 他可	閉められた 他可	閉められた 他可	閉まった 自
場面6	歯磨き粉を出そうとしている	問11	出ない 自	出さない 他	出ない 自	出さない 他	出ない 自	出られない 自可	出ない 自	出ない 自	出せない 他可	出てこない 自
		問12	出た 自	出た 自	出た 自	出られた 自可	出した 他	出た 自	出した 他	出た 自	出た 自	出た 自
場面7	ブラインドを上げようとしている	問13	上がれない 自可	上げない 他	上げられない 他可	上げられない 他可	上がらない 自	上げられない 他可	上げられない 他可	上がらない 自	上げられない 他可	上げていない 他テイル
		問14	上がれた 自可	上がった 自	上がった 自	上げた 他	上がった 自	上げた 他	上げられた 他可	上がった 自	上げられた 他可	上がった 自
場面8	指輪を外そうとしている	問15	外せない 他可	外さない 他	外せない 他可	外せない 他可	外せない 他可	外せない 他可	外されない 他活用	外せない 他可	外せない 他可	外していない 他テイル
		問16	外せた 他可	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外した 他	外れた 自	外された 他活用	外れた 自	外れた 自	外れた 自
場面9	火をつけようとしている	問17	つかない 自	つけない 他	つけられない 他可	つけられない 他可	つけられない 他可	つかない 自	つけられない 他可	つかない 自	つかない 自	つけてない 他テイル
		問18	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	つけられた 他可	ついた 自	つけられた 他可	ついた 自	ついた 自	ついた 自
場面10	糸を通そうとしている	問19	通れない 自可	通さない 他	通せない 他可	通らない 自	通せない 他可	通せない 他可	通されない 他活用	通らない 自	通らない 自	通していない 他テイル
		問20	通れた 自可	通った 自	通った 自	通った 自	通せた 他可	通した 他	通された 他活用	通った 自	通った 自	通った 自
自	自動詞(自)	(件)	8	8	7	9	6	7	1	11	8	14
	自動詞の可能形(自可)	(件)	8	1	1	1	0	2	0	0	0	0
	自動詞のテイル形(自テイル)	(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自動詞の誤活用(自活用)	(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他	他動詞(他)	(件)	0	9	2	3	6	5	3	1	0	0
	他動詞の可能形(他可)	(件)	4	1	10	7	7	6	12	8	12	0
	他動詞の受身形(他受)	(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	他動詞のテイル形(他テイル)	(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	他動詞の誤活用(他活用)	(件)	0	1	0	0	1	0	4	0	0	0

場面	内容	問	TJL-21	TJL-22	TJL-23	TJL-24	TJL-25	TJL-26	TJL-27	TJL-28	TJL-29	TJL-30
場面1	瓶の蓋を開けようとしている	問1	開けられない 他可	開けられない 他可	開けられない 他可	開けない 自可	開かない 自	開かない 自	開けられない 他可	開かない 自	開けられない 他可	開けられない 他可
		問2	開けられた 他可	開けた 他	開けた 他	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開けられた 他可	開いた 自
場面2	キーを回そうとしている	問3	回ってない 自テイル	回せない 他可	回らない 自	回れない 自可	回らない 自	回らない 自	回せない 他可	回らない 自	回れない 自可	回せない 他可
		問4	回せた 他可	回した 他	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回った 自	回れた 自可	回せた 他可
場面3	コンタクトを入れようとしている	問5	入れられない 他可	入れられない 他可	入れない 自可	入れない 自可	入らない 自	入れない 自可	入れられない 他可	入らない 自	入れない 自可	入らない 自
		問6	入った 自	入れた 他	入った 自	入った 自	入った 自	入れた 自可	入った 自	入った 自	入れた 自可	入った 自
場面4	字を消そうとしている	問7	消せない 他可	消せない 他可	消せない 他可	消せない 他可	消せない 他可	消えない 自	消せない 他可	消えない 自	消せない 他可	消せない 他可
		問8	消した 他	消した 他	消した 他	消した 他	消せた 他可	消えた 自	消した 他	消えた 自	消せた 他可	消せた 他可
場面5	後ろのドアを閉めようとしている	問9	閉められない 他可	閉められない 他可	閉められない 他可	閉まれない 自可	閉まらない 自	閉まらない 自	閉められない 他可	閉まらない 自	閉められない 他可	閉まらない 自
		問10	閉めた 他	閉めた 他	閉めた 他	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉められた 他可	閉まった 自	閉められた 他可	閉まった 自
場面6	歯磨き粉を出そうとしている	問11	出てない 自テイル	出せない 他可	出られない 自可	出られない 自可	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出せない 他可	出ない 自
		問12	出した 他	出した 他	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出られた 自可	出た 自
場面7	ブラインドを上げようとしている	問13	上がってない 自テイル	上げられない 他可	上げられない 他可	上がれない 自可	上がらない 自	上がらない 自	上げられない 他可	上がらない 自	上げられない 他可	上げられない 他可
		問14	上げた 他	上げた 他	上げた 他	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上げられた 他可	上がった 自
場面8	指輪を外そうとしている	問15	外せない 他可	外せない 他可	外せない 他可	外せない 他可	外せない 他可	外れない 自	外せない 他可	外れない 自	外せない 他可	外れない 自
		問16	外れた 自	外した 他	外した 他	外した 他	外せた 他可	外れた 自	外れた 自	外れた 自	外せた 他可	外れた 自
場面9	火をつけようとしている	問17	つけられない 他可	つけられない 他可	つかない 自	つけられない 他可	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つけられない 他可	つけられない 他可
		問18	つけた 他	つけた 他	ついた 自	つけた 他	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	つけられた 他可	つけられた 他可
場面10	糸を通そうとしている	問19	通せない 他可	通せない 他可	通せない 他可	通れない 自可	通せない 他可	通らない 自	通せない 他可	通らない 自	通せない 他可	通らない 自
		問20	通った 自	通した 他	通した 他	通った 自	通せた 他可	通った 自	通った 自	通った 自	通れた 自可	通った 自
自	自動詞(自)	(件)	3	0	6	7	14	18	10	20	0	12
	自動詞の可能形(自可)	(件)	0	0	2	7	0	2	0	0	6	0
	自動詞のテイル形(自テイル)	(件)	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自動詞の誤活用(自活用)	(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他	他動詞(他)	(件)	5	10	6	3	0	0	1	0	0	0
	他動詞の可能形(他可)	(件)	9	10	6	3	6	0	9	0	14	8
	他動詞の受身形(他受)	(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	他動詞のテイル形(他テイル)	(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	他動詞の誤活用(他活用)	(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

場面	内容	問	TJL-31	TJL-32	TJL-33	TJL-34	TJL-35	TJL-36	TJL-37	TJL-38	TJL-39	TJL-40
場面1	瓶の蓋を開けようとしている	問1	開けられない 他可	開けられない 他可	開けない 他	開けられない 他可	開かない 自	開けられない 他可	開けられない 他可	開けれない 他可	開けれない 他可	開いてない 自テイル
		問2	開けられた 他可	開けられた 他可	開けた 他	開けた 他	開けられた 他可	開けられた 他可	開けた 他	開いた 自	開けれた 他可	開けた 他
場面2	キーを回そうとしている	問3	回せない 他可	回れない 自可	回せない 他可	回せない 他可	回せない 他可	回せない 他可	回せない 他可	回らない 自	回せない 他可	回せない 他可
		問4	回れた 自可	回れた 自可	回せた 他可	回した 他	回せた 他可	回せた 他可	回せた 他可	回った 自	回った 自	回した 他
場面3	コンタクトを入れようとしている	問5	入れない 自可	入れられない 他可	入れない 他	入れられない 他可	入れない 自可	入れない 自可	入れない 自可	入らない 自	入れない 自可	入れない 自可
		問6	入れた 自可	入れられた 他可	入った 自	入れた 他	入れた 自可	入った 自	入った 自	入った 自	入れた 自可	入れた 他
場面4	字を消そうとしている	問7	消えない 自	消せない 他可	消さない 他	消せない 他可	消えない 自	消せない 他可	消せない 他可	消えない 自	消せない 他可	消せない 他可
		問8	消えた 自	消せた 他可	消えた 自	消した 他	消せた 他可	消せた 他可	消えた 自	消えた 自	消えた 自	消せた 他可
場面5	後ろのドアを閉めようとしている	問9	閉められない 他可	閉まらない 自	閉めれない 他可	閉まれない 自可	閉まらない 自	閉まらない 自	閉められない 他可	閉まらない 自	閉めれない 他可	閉まれない 自可
		問10	閉められた 他可	閉まった 自	閉まった 自	閉めた 他	閉められた 他可	閉まった 自	閉めた 他	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自
場面6	歯磨き粉を出そうとしている	問11	出ない 自	出ない 自	出せない 他可	出せない 他可	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出せない 他可	出てない 自テイル
		問12	出た 自	出た 自	出た 自	出した 他	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出られた 自可
場面7	ブラインドを上げようとしている	問13	上げられない 他可	上がれない 自可	上げれない 他可	上げられない 他可	上がらない 自	上がれない 自可	上がらない 自	上がらない 自	上げれない 他可	上がれない 自可
		問14	上げられた 他可	上がれた 自可	上がった 自	上げられた 他可	上げられた 他可	上げた 他	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上げた 他
場面8	指輪を外そうとしている	問15	外れない 自	外せない 他可	外せない 他可	外せない 他可	外せない 他可	外せない 他可	外せない 他可	外せない 他可	外せない 他可	外れられない 自可
		問16	外れた 自	外せた 他可	外せた 他可	外せた 他可	外せた 他可	外した 他	外した 他	外せた 他可	外れた 自	外れられた 自可
場面9	火をつけようとしている	問17	つけられない 他可	つかない 自	つかない 自	つけられない 他可	つけられない 他可	つかない 自	つけられない 他可	つけれない 他可	つけれない 他可	ついてない 自テイル
		問18	ついた 自	ついた 自	ついた 自	つけた 他	ついた 自	つけた 他	ついた 自	つけれた 他可	ついた 自	ついた 自
場面10	糸を通そうとしている	問19	通せない 他可	通れない 自可	通らない 自	通せない 他可	通せない 他可	通れない 自可	通せない 他可	通せない 他可	通せない 他可	通れない 自可
		問20	通れた 自可	通れた 自可	通った 自	通せた 他可	通せた 他可	通した 他	通った 自	通せた 他可	通った 自	通した 他
自	自動詞(自)　(件)		7	6	9	0	7	6	8	13	8	2
	自動詞の可能形(自可)　(件)		4	6	0	1	2	3	1	0	2	7
	自動詞のテイル形(自テイル)　(件)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	自動詞の誤活用(自活用)　(件)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他	他動詞(他)　(件)		0	0	4	7	0	4	3	0	0	5
	他動詞の可能形(他可)　(件)		9	8	7	12	11	7	8	7	10	3
	他動詞の受身形(他受)　(件)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	他動詞のテイル形(他テイル)　(件)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	他動詞の誤活用(他活用)　(件)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

場面	内容	問	TJL-41	TJL-42	TJL-43	TJL-44	TJL-45	TJL-46	TJL-47	TJL-48	TJL-49	TJL-50
場面1	瓶の蓋を開けようとしている	問1	開かない 自	開かない 自	開けられない 他可	開けない 自可	開けられない 他可	開かない 自	開けられない 他可	開かない 自	開けられない 他可	開かない 自
		問2	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開けた 自可	開けた 他	開いた 自	開いた 自	開いた 自	開けた 他	開いた 自
場面2	キーを回そうとしている	問3	回らない 自	回せない 他可	回せない 他可	回れない 自可	回ってない 自テイル	回らない 自	回せない 他可	回れない 自可	回せない 他可	回せない 他可
		問4	回った 自	回せた 他可	回った 自	回った 自	回ることができた 自可	回った 自	回った 自	回した 他	回した 他	回した 他
場面3	コンタクトを入れようとしている	問5	入らない 自	入れられない 他可	入らない 自	入れない 自可	入れない 自可	入れない 自可	入れない 自可	入れられない 他可	入れない 自可	入らない 自
		問6	入った 自	入れられた 他可	入った 自	入った 自	入ることができた 自可	入った 自	入った 自	入れた 自可	入った 自	入った 自
場面4	字を消そうとしている	問7	消せない 他可	消せない 他可	消せない 他可	消せない 他可	消せない 他可	消せない 他可	消せない 他可	消せない 他可	消えない 自	消えない 自
		問8	消せた 他可	消せた 他可	消えた 自	消せた 他可	消した 他	消えた 自	消した 他	消えた 自	消えた 自	消せた 他可
場面5	後ろのドアを閉めようとしている	問9	閉めれない 他可	閉められない 他可	閉まらない 自	閉められない 他可	閉まらない 自	閉まらない 自	閉められない 他可	閉まらない 自	閉められない 他可	閉まらない 自
		問10	閉めれた 他可	閉められた 他可	閉まった 自	閉めた 他	閉まった 自	閉まった 自	閉まった 自	閉めた 他	閉めた 他	閉まった 自
場面6	歯磨き粉を出そうとしている	問11	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出せない 他可	出てない 自テイル	出ない 自	出ない 自	出ない 自	出せない 他可	出ない 自
		問12	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自	出た 自
場面7	ブラインドを上げようとしている	問13	上がらない 自	上がらない 自	上がらない 自	上げれない 他可	上げられない 他可	上がらない 自	上げられない 他可	上がらない 自	上げられない 他可	上がらない 自
		問14	上がった 自	上がった 自	上がった 自	上げた 他	上げた 他	上がった 自	上がった 自	上げた 他	上げた 他	上げた 他
場面8	指輪を外そうとしている	問15	外せない 他可	外せない 他可	外せない 他可	外せない 他可	外せない 他可	外れない 自	外せない 他可	外せない 他可	外せない 他可	外せない 他可
		問16	外れた 自	外せた 他可	外れた 自	外した 他	外した 他	外れた 自	外した 他	外れた 自	外した 他	外れた 自
場面9	火をつけようとしている	問17	つかない 自	つかない 自	つかない 自	つけられない 他可	ついてない 自テイル	つかない 自	つかない 自	つけられない 他可	ついてない 自テイル	つかない 自
		問18	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	ついた 自	つけた 他
場面10	糸を通そうとしている	問19	通らない 自	通せない 他可	通せない 他可	通れない 自可	通ることができない 自可	通れない 自可	通せない 他可	通れない 自可	通せない 他可	通さない 他
		問20	通った 自	通った 自	通った 自	通った 自	通ることができた 自可	通った 自	通った 自	通れた 自可	通った 自	通した 他
自	自動詞(自)	(件)	15	9	15	5	4	17	10	9	6	12
	自動詞の可能形(自可)	(件)	0	0	0	5	5	2	1	4	1	0
	自動詞のテイル形(自テイル)	(件)	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0
	自動詞の誤活用(自活用)	(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他	他動詞(他)	(件)	0	0	0	3	4	0	2	3	5	5
	他動詞の可能形(他可)	(件)	5	11	5	7	4	1	7	4	7	3
	他動詞の受身形(他受)	(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	他動詞のテイル形(他テイル)	(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	他動詞の誤活用(他活用)	(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0